

---

久喜市

---

# 北 2 丁 目 陣 屋 跡

---

首都圏氾濫区域堤防強化対策における  
埋蔵文化財発掘調査報告

2021

国土交通省 関東地方整備局  
公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



1 遺物包含層出土 菊丸瓦



2 流路跡出土 納め太刀

## 序

埼玉県北部の県境を流れ下る利根川は、日本の河川の長男として「坂東太郎」の異名を持つ大河です。流域に育まれた肥沃で広大な大地には、1,280万人にもおよぶ人々が生活を営んでいます。

利根川は万葉集の東歌に「刀祢河泊」と詠まれるなど、いにしえから畏怖と親愛の想いが籠められてきました。その滔々たる流れは交通路として、また農業・生活・工業用水の源として、限りない恩恵をもたらしています。その一方、過去にはたびたび恐ろしい水害も引き起こしてきました。国土交通省ではこうした災害を未然に防ぐため、様々な対策を講じています。首都圏の安全性を確保するために実施される、氾濫区域の堤防強化対策事業もその一環です。

この事業地に含まれる加須・羽生・久喜地区には、周知の埋蔵文化財包蔵地が多数存在しています。今回、発掘調査を行った久喜市の北2丁目陣屋跡もその一つです。発掘調査は堤防強化対策事業に伴う事前調査で、国土交通省関東地方整備局の委託を受け、当事業団が実施しました。

江戸時代に日光道中の宿場であり、商人や職人の住まいが立ち並んでいた栗橋宿は、利根川を船で越える房川の渡しに関所が置かれた交通の要衝として栄えていました。今回の調査では、陣屋を思わせるような遺構は発見されませんでした。栗橋宿の町屋から神社境内へ続く池沼の跡や、自然の流路跡が姿を現しました。そこからは陶磁器や木製品など、江戸時代の人々が使用した多量の道具類が見つかりました。なかでも、伊勢原市の日本遺産として知られる「大山詣り」に関わる木製の納め太刀や、絵馬といった信仰遺物の発見は特筆されます。

本書は、これらの発掘調査結果をまとめたものです。埋蔵文化財の保護及び普及啓発の資料として、また学術研究の基礎資料として、多くの方々に御活用いただければ幸いです。

最後に、本書の刊行にあたり、発掘調査の諸調整に御尽力を賜りました埼玉県教育局市町村支援部文化資源課をはじめ、国土交通省関東地方整備局、久喜市教育委員会、地元関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

令和3年3月

公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団  
理事長 藤田 栄二

## 例言

- 1 本書は久喜市に所在する北2丁目陣屋跡（第2次）の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡名と代表地番、発掘調査届に対する指示通知は、以下のとおりである。  
北2丁目陣屋跡（№86-009）  
久喜市栗橋北2丁目3409-2他  
令和元年4月23日付け教文資第2-8号
- 3 発掘調査は、首都圏氾濫区域堤防強化対策事業に伴う埋蔵文化財記録保存のための事前調査である。埼玉県教育局市町村支援部文化資源課が調整し、国土交通省関東地方整備局利根川上流事務所の委託を受け、公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
- 4 各事業の委託事業名は、下記のとおりである。発掘調査事業（平成31年度 木器基礎整理を含む）  
「首都圏氾濫区域堤防強化対策（加須・久喜地区）における平成31年度埋蔵文化財発掘調査」（北2丁目陣屋跡第2次調査）  
整理・報告書作成事業（令和2年度）  
「首都圏氾濫区域堤防強化対策における令和2年度埋蔵文化財発掘調査（整理）」
- 5 発掘調査・整理報告書作成事業はI-3に示した組織により実施した。  
発掘調査は、平成31年4月1日から令和元年12月31日まで実施し、鋤持和夫、鈴木知怜が担当した。  
出土品のうち、木製品の水洗・選別などを主体とした基礎整理作業は、令和元年10月1日より翌年1月31日まで行い、12月31日までを栗岡潤、その後を大谷徹が担当した。  
整理・報告書作成事業は、令和2年7月1日から令和3年3月31日まで実施し、鋤持が担当した。
- 6 発掘調査における基準点測量は、株式会社ソレイユに委託した。
- 7 発掘調査における空中写真は、中央航業株式会社に委託した。
- 8 発掘調査における自然科学分析は、株式会社バリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。整理作業における自然科学分析は、株式会社パレオ・ラボに委託した。
- 9 発掘調査における写真撮影は各担当者が行い、出土遺物の写真撮影は鋤持が、文字資料の赤外線写真撮影は大谷が行った。巻頭図版用の遺物撮影は小川忠博氏に委託した。
- 10 文字資料の釈読と釈文作成については、久喜市教育委員会の協力を得た。
- 11 出土品の整理・図版作成は鋤持が行い、陶磁器・瓦・石製品については水村雄功、木製品については矢部暁、金属製品については瀧瀬芳之・井上真帆の協力を得た。
- 12 本書の執筆はI-1を埼玉県教育局市町村支援部文化資源課、その他を鋤持が行った。
- 13 本書の編集は鋤持が行った。
- 14 本書にかかる諸資料は令和3年4月以降、埼玉県教育委員会が管理・保管する。
- 15 発掘調査や本書の作成にあたり、下記の関係機関及び方々から御教示・御協力を賜った。記して感謝いたします（敬称略五十音順）。  
伊勢原市教育委員会 久喜市教育委員会  
栗原史郎 竹内俊吾 富本久美子  
葉山貴史 堀内謙一 横山晋一

## 凡 例

- 1 遺跡全体におけるX・Yの数値は、世界測地系、国家標準平面直角座標第IX系（原点北緯36° 00′ 00″、東経139° 50′ 00″）に基づく座標値を示す。また、各挿図に記した方位は全て座標北を指す。

A 5 - G 3 グリッド杭の座標は X = 15840.000m Y = -118800.000m、北緯36° 08′ 33.7029″ 東経139° 42′ 04.7578″ である。
- 2 調査に際して使用したグリッド名称は、事業地内の全体を覆うように設定した。座標値 X = 16000.000m、Y = -12300.000m を北西の原点 (A 1 - A 1 グリッド) とし、100×100m のグリッドを設定し、さらにその中を10×10m の小グリッドに細分した。
- 3 グリッドの名称は、北西原点を基点に北から南にアルファベット (A・B・C…)、西から東に数字 (1・2・3…) を付し、アルファベットと数字を組み合わせた。同様に小グリッドは各グリッドの北西隅を基点に、北から南に A ~ J、西から東に 1 ~ 10 とし、グリッド内を100に区分した。これらを合わせた呼称は、ハイフォン (—) をはさみ、グリッドを左に、小グリッドを右に表記した。(グリッド) - (グリッド)
- 4 本書の本文・挿図・表・写真図版に記した遺構の略号は、以下のとおりである。

S B…建物跡 S D…流路跡 S E…井戸跡  
S G…池跡 S K…土壌 S A…杭用
- 5 本書における挿図は、一部の例外を除き以下の縮尺を原則とした。

全測図 1/200 土層図 1/30  
遺物分布図 1/200・1/100・1/60・1/50  
遺物実測図・拓影図 1/2・1/3・1/4・1/6
- 6 遺構断面図に表記した水準数値は、全て海拔標高 (単位m) を表す。
- 7 遺物観察表の表記方法は以下のとおりである。
  - ・遺物計測値は陶磁器、土器等をcm、銭貨をmm、重さをg単位とした。
  - ・土器計測値の ( ) は復元推定値、[ ] は現存値を示す。
  - ・瓦の計測値は「長さ」に瓦当面からの長さ、「幅」に全幅、「厚さ」に平瓦部厚さ、「高さ」に接地面からの高さ、「径」に瓦当径を記載した。
  - ・陶磁器の輪高台状のつまみを有する蓋は、つまみを口径、受口を底径として計測した。
  - ・胎土は特徴的な鉱物等を記号で示した。

A : 雲母 B : 片岩 C : 角閃石 D : 長石  
E : 石英 F : 軽石 G : 砂粒子 H : 赤色粒子 I : 白色粒子 J : 針状物質 K : 黒色粒子 L : その他 M : チャート
  - ・焼成は良好・普通・不良の3段階に分けた。
  - ・残存率は器形に対する大まかな遺存程度を%で示した。
  - ・備考には出土位置、煤の付着、推定生産地、文様の特徴等を記した。
- 8 遺物実測図の網かけは漆、被熱の範囲を表す。網かけの濃度によって区分し図中に例示した。

赤漆20% 茶漆30% 黒漆35% 炭化50%  
漆器については観察表に示した。
- 9 本書に掲載した地形図類は国土地理院発行の1/50000地形図、久喜市発行の1/2500都市計画図を編集のうえ、使用した。
- 10 文中の引用文献等は、(著者 発行年) の順で表記し、参考文献とともに巻末に掲載した。

# 目次

巻頭図版

序

例言

凡例

目次

I 発掘調査の概要	1	2 第二面の遺構と遺物	137
1 発掘調査に至る経過	1	(1) 流路跡	137
2 発掘調査・報告書作成の経過	2	V 自然科学分析	151
(1) 発掘調査	2	1 流路跡堆積物の自然科学分析	151
(2) 整理・報告書の作成	2	(1) はじめに	151
3 発掘調査・報告書作成の組織	3	(2) 試料	151
II 遺跡の立地と環境	4	(3) 分析方法	151
1 地理的環境	4	(4) 結果	154
2 歴史的環境	6	(5) まとめ	162
III 遺跡の概要	14	2 流路跡出土木製品(納め太刀)の 樹種同定	167
IV 遺構と遺物	19	VI 調査のまとめ	168
1 第一面の遺構と遺物	19	写真図版	
(1) 遺物包含層	19		

## 挿図目次

第1図	埼玉県の地形	4	第36図	遺物包含層出土磁器 (18)	51
第2図	栗橋宿跡周辺の地形	5	第37図	遺物包含層出土磁器 (19)	52
第3図	周辺の遺跡	8	第38図	遺物包含層出土磁器 (20)	53
第4図	遺跡位置図	15	第39図	遺物包含層出土磁器 (21)	54
第5図	鳥居臺座・石碑略測図	18	第40図	遺物包含層出土磁器 (22)	55
第6図	第一面全体図	21	第41図	遺物包含層出土磁器 (23)	56
第7図	第一面土層図 (1)	22	第42図	遺物包含層出土磁器 (24)	57
第8図	第一面土層図 (2)	23	第43図	遺物包含層出土磁器 (25)	58
第9図	遺物包含層遺物分布図 (全体)	24	第44図	遺物包含層出土磁器 (26)	59
第10図	遺物包含層遺物分布図 1 - (1)	25	第45図	遺物包含層出土陶器 (1)	69
第11図	遺物包含層遺物分布図 1 - (2)	26	第46図	遺物包含層出土陶器 (2)	70
第12図	遺物包含層遺物分布図 1 - (3)	27	第47図	遺物包含層出土陶器 (3)	71
第13図	遺物包含層遺物分布図 2 - (1)	28	第48図	遺物包含層出土陶器 (4)	72
第14図	遺物包含層遺物分布図 2 - (2)	29	第49図	遺物包含層出土陶器 (5)	73
第15図	遺物包含層遺物分布図 2 - (3)	30	第50図	遺物包含層出土陶器 (6)	74
第16図	遺物包含層遺物出土状態図 (1)	31	第51図	遺物包含層出土陶器 (7)	75
第17図	遺物包含層遺物出土状態図 (2)	32	第52図	遺物包含層出土陶器 (8)	76
第18図	遺物包含層遺物出土状態図 (3)	33	第53図	遺物包含層出土陶器 (9)	77
第19図	遺物包含層出土磁器 (1)	34	第54図	遺物包含層出土陶器 (10)	78
第20図	遺物包含層出土磁器 (2)	35	第55図	遺物包含層出土陶器 (11)	79
第21図	遺物包含層出土磁器 (3)	36	第56図	遺物包含層出土陶器 (12)	80
第22図	遺物包含層出土磁器 (4)	37	第57図	遺物包含層出土陶器 (13)	81
第23図	遺物包含層出土磁器 (5)	38	第58図	遺物包含層出土土器	88
第24図	遺物包含層出土磁器 (6)	39	第59図	遺物包含層出土小型器種	89
第25図	遺物包含層出土磁器 (7)	40	第60図	遺物包含層出土ミニチュア	90
第26図	遺物包含層出土磁器 (8)	41	第61図	遺物包含層出土玩具・人形 (1)	92
第27図	遺物包含層出土磁器 (9)	42	第62図	遺物包含層出土玩具・人形 (2)	93
第28図	遺物包含層出土磁器 (10)	43	第63図	遺物包含層出土瓦 (1)	97
第29図	遺物包含層出土磁器 (11)	44	第64図	遺物包含層出土瓦 (2)	98
第30図	遺物包含層出土磁器 (12)	45	第65図	遺物包含層出土瓦 (3)・ 流路跡出土瓦	99
第31図	遺物包含層出土磁器 (13)	46	第66図	遺物包含層出土木製品 (1)	101
第32図	遺物包含層出土磁器 (14)	47	第67図	遺物包含層出土木製品 (2)	102
第33図	遺物包含層出土磁器 (15)	48	第68図	遺物包含層出土木製品 (3)	103
第34図	遺物包含層出土磁器 (16)	49	第69図	遺物包含層出土木製品 (4)	104
第35図	遺物包含層出土磁器 (17)	50			

第70図	遺物包含層出土木製品 (5) ……	105	第92図	第二面全体図 ……	139
第71図	遺物包含層出土木製品 (6) ……	106	第93図	第二面土層図 ……	140
第72図	遺物包含層出土木製品 (7) ……	107	第94図	流路跡遺物分布図 ……	141
第73図	遺物包含層出土木製品 (8) ……	108	第95図	流路跡出土磁器 ……	142
第74図	遺物包含層出土木製品 (9) ……	109	第96図	流路跡出土陶器 ……	143
第75図	遺物包含層出土木製品 (10) ……	110	第97図	流路跡出土土器 ……	144
第76図	遺物包含層出土木製品 (11) ……	111	第98図	流路跡出土木製品 (1) ……	146
第77図	遺物包含層出土木製品 (12) ……	112	第99図	流路跡出土木製品 (2) ……	147
第78図	遺物包含層出土木製品 (13) ……	113	第100図	流路跡出土木製品 (3) ……	148
第79図	遺物包含層出土金属製品 (1) ……	118	第101図	流路跡出土金属製品 ……	149
第80図	遺物包含層出土金属製品 (2) ……	119	第102図	流路跡出土銭貨 ……	149
第81図	遺物包含層出土金属製品 (3) ……	120	第103図	試料採取断面略図 ……	151
第82図	遺物包含層出土金属製品 (4) ……	121	第104図	テフラ・砂分の状況 ……	155
第83図	遺物包含層出土金属製品 (5) ……	122	第105図	珪藻化石 ……	157
第84図	遺物包含層出土金属製品 (6) ……	123	第106図	花粉化石 ……	158
第85図	遺物包含層出土銭貨 (1) ……	128	第107図	試料採取断面の花粉化石群集の 層位分布 ……	159
第86図	遺物包含層出土銭貨 (2) ……	129	第108図	試料採取断面の種実遺体群集 ……	159
第87図	遺物包含層出土石製品 (1) ……	131	第109図	種実遺体 ……	161
第88図	遺物包含層出土石製品 (2) ……	132	第110図	暦年校正結果 ……	162
第89図	遺物包含層出土石製品 (3) ……	133	第111図	木材の光学顕微鏡写真 ……	167
第90図	遺物包含層出土石製品 (4) ……	134	第112図	栗橋宿町並 (部分) 復元図 ……	173
第91図	遺物包含層出土硝子・骨製品 ……	136			

## 表目次

第1表	周辺の遺跡一覧 ……	9	第13表	遺物包含層出土硝子・骨製品観察表 ……	136
第2表	遺物包含層出土磁器観察表 ……	60	第14表	流路跡出土磁器観察表 ……	145
第3表	遺物包含層出土陶器観察表 ……	81	第15表	流路跡出土陶器観察表 ……	145
第4表	遺物包含層出土土器観察表 ……	88	第16表	流路跡出土土器観察表 ……	145
第5表	遺物包含層出土小型器種観察表 ……	89	第17表	流路跡出土木製品観察表 ……	146
第6表	遺物包含層出土ミニチュア観察表 ……	91	第18表	流路跡出土金属製品観察表 ……	150
第7表	遺物包含層出土玩具・人形観察表 ……	94	第19表	流路跡出土銭貨観察表 ……	150
第8表	遺物包含層・流路跡出土瓦観察表 ……	100	第20表	文字資料積文表 ……	150
第9表	遺物包含層出土木製品観察表 ……	114	第21表	試料採取断面のテフラ分析結果 ……	154
第10表	遺物包含層出土金属製品観察表 ……	123	第22表	試料採取断面の珪藻分析結果 ……	156
第11表	遺物包含層出土銭貨観察表 ……	129	第23表	試料採取断面の花粉分析結果 ……	157
第12表	遺物包含層出土石製品観察表 ……	134	第24表	試料採取断面の微細物洗い出し ……	



## 写真図版

巻頭図版1	遺物包含層出土菊丸瓦	3~13	遺物包含層出土陶器
巻頭図版2	流路跡出土納め太刀	図版11	1~12 遺物包含層出土陶器
図版1	1 調査区遠景(西から)	図版12	1~9 遺物包含層出土陶器
	2 調査区全景(合成)	図版13	1~7 遺物包含層出土陶器
図版2	1 第一面全景(南から)		8~11 遺物包含層出土土器
	2 第一面全景(西から)	図版14	1~23 遺物包含層出土磁器(文字)
図版3	1 1・2区遺物出土状況(1)	図版15	1~25 遺物包含層出土磁器(文字)
	2 1・2区遺物出土状況(2)	図版16	1~12 遺物包含層出土磁器(文字)
	3 1・2区遺物出土状況(3)		13~20 遺物包含層出土陶器(文字)
	4 1・2区遺物出土状況(4)	図版17	1~19 遺物包含層出土陶器(文字)
	5 1・2区遺物出土状況(5)		20・21 遺物包含層出土土器(文字)
	6 4・5区遺物出土状況	図版18	1・2 遺物包含層出土小型器種
	7 5区遺物出土状況		3~10 遺物包含層出土ミニチュア
	8 10区遺物出土状況		11・12 遺物包含層出土玩具・人形
図版4	1 第二面全景(南から)	図版19	1~8 遺物包含層出土玩具・人形
	2 第二面全景(西から)	図版20	1~10 遺物包含層出土瓦
図版5	1 流路跡遺物出土状況(1)		11~18 遺物包含層出土木製品
	2 流路跡遺物出土状況(2)	図版21	1~18 遺物包含層出土木製品
	3 流路跡遺物出土状況(3)	図版22	1~18 遺物包含層出土木製品
	4 流路跡遺物出土状況(4)	図版23	1~5 遺物包含層出土金属製品
	5 鳥居薬座1(1)	図版24	1~10 遺物包含層出土石製品
	6 鳥居薬座1(2)		11 遺物包含層出土硝子製品
	7 鳥居薬座2		12 遺物包含層出土骨製品
	8 石碑	図版25	1 流路跡出土遺物(集合)
図版6	1~12 遺物包含層出土磁器		2・3 流路跡出土磁器
図版7	1~10 遺物包含層出土磁器		4~6 流路跡出土陶器
図版8	1~13 遺物包含層出土磁器		7・8 流路跡出土土器
図版9	1~13 遺物包含層出土磁器		9 流路跡出土木製品
図版10	1・2 遺物包含層出土磁器	図版26	1~16 文字資料(赤外線写真)

# I 発掘調査の概要

## 1 発掘調査に至る経過

国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所では「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画【大臣管理区間】」に基づき、首都圏氾濫区域堤防強化対策事業として、利根川右岸の堤防を拡幅し、強化する事業を進めている。

埼玉県教育局市町村支援部文化資源課では、国が実施するこうした公共開発事業に係る埋蔵文化財の保護について、従前より関係機関と事前協議を重ね、調整を図ってきたところである。

首都圏氾濫区域堤防強化対策事業に係る埋蔵文化財の所在及び取扱いについては、利根川上流河川事務所長から平成17年1月20日付け利上沿第18号で、埼玉県教育委員会教育長あて、埋蔵文化財の所在及びその取扱いについて照会がなされた。

事業予定区域については埼玉県指定旧跡や周知の埋蔵文化財包蔵地が所在すること、埋蔵文化財の詳細な状況等を把握するための確認調査を実施する必要がある旨を、平成17年3月17日付け教生文第1780号で回答した。

当該箇所については、近世絵図等から栗橋宿の一部であることが明らかとなっており、「北2丁目陣屋跡」(No.86-009)として周知の埋蔵文化財包蔵地に登録されていた。事業の進捗に伴い、遺構の状況等を把握するために平成29年10月2日に試掘調査を実施した。その結果、覆土内に曲物等の木製品や木屑を含んだ近世の土坑や陶磁器等の近世の遺物包蔵層が検出されたため、発掘調査

を要する区域として回答した。

上記のとおり、埋蔵文化財の所在が明確になったことから、平成29年10月13日付け教生文第1423-1号で、計画上やむを得ず埋蔵文化財の現状を変更する場合、記録保存のための発掘調査が必要であることを回答した。協議を重ねたが、現状保存が困難であることから記録保存の措置を講ずることとなった。

調査に際し、発掘調査実施機関である公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団と、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所、生涯学習文化財課(当時)の三者で、工事日程、調査計画、調査期間などについて定期的に会議を開催し、各種の調整を行った。

文化財保護法第94条第1項の規定に基づく国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所長からの通知に対する、同条第4項の規定による埼玉県教育委員会教育長からの勧告は下記のとおりである。

平成24年2月9日付け教生文第4-1337号

平成26年2月27日付け教文資第4-1633号

文化財保護法第92条第1項の規定に基づく公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長からの発掘調査届に対する埼玉県教育委員会教育長からの指示通知は以下のとおりである。

令和元年4月23日付け教文資第2-8号

(埼玉県教育局市町村支援部文化資源課)

## 2 発掘調査・報告書作成の経過

### (1) 発掘調査

北2丁目陣屋跡の調査は首都圏氾濫区域堤防強化対策工事に先立ち、平成31年度に実施した。調査面積は600㎡である。

調査は平成31年4月1日から令和2年1月31日まで実施した。

事前準備として4月1日から現況調査、関係諸機関との打ち合わせ、器材等の点検・準備、重機や事務所等に係る諸手続きを行った後、5月7日に調査区に防塵ネット、発掘調査事務所用地に囲柵をそれぞれ設置、9日に事務所、13日に動力線の設置を行った。

重機による表土除去作業は5月10日から6月17日に実施し、5月24日からは補助員により、第一面の遺構検出作業を開始した。同日には遺構測量用の基準点測量、及びグリッド杭打設作業委託を実施した。

遺構確認作業の結果、栗橋宿跡や本陣跡に見られたような建物跡や杭列、土壌などの遺構は検出されず、緩斜面に形成された広範な遺物包含層の存在を認めるに至った。包含層は掘削・精査を行い、遺物を検出の後、順次断面図、平面図、写真撮影等の記録作成作業を行った。

9月27日に空中写真撮影を実施した後、30日から人力による掘り下げを行い、第二面の検出作業に着手した。

遺構確認作業の結果、中央部に南北に走る流路跡を検出した。順次、精査、遺構断面図、平面図、写真撮影等の記録作成作業を行った。

12月3日に高所作業車による第二面全体の写真撮影を実施し、6日に補助員作業を終了した。先立つ5日には自然科学分析委託を行い、流路跡の堆積土を主体に、テフラの検出同定、珪藻分析等の資料採取を実施した。

その後、遺物・記録類・器材の撤収、発掘調査

事務所・動力線・防塵ネットの撤去を行い、現地調査を終了した。12月25日に発見届（幸手警察署宛）と保管証（埼玉県教育委員会宛）を提出し、調査を終了した。

木器類を中心とした基礎整理作業は、令和元年10月1日より12月12日までを現地で、翌2年1月31日までを事業団本部で実施した。

### (2) 整理・報告書の作成

整理報告書の作成作業は、令和2年7月1日から令和3年3月31日まで実施した。

作業は出土遺物の水洗・注記から着手し、順次、接合・復元作業を開始した。復元を終えた遺物は実測、トレース、採拓を経て、パソコンで印刷用の挿図を作成した。実測には磁気式3次元位置計測装置、正射投影画像撮影機を活用した。版組が終了した遺物については図版用の遺物写真を撮影し、遺物写真図版を作成した。

同時に、発掘調査で記録した遺構の断面図と平面図を照合するなど、修正を加えた第二原因図を作成した。第二原因図は仮版組を行ったうえで、スキャナでパソコンに取り込み、画像編集ソフトを用いてトレースした。土層説明等を組み込んで印刷用の挿図版下データを作成した。

自然科学分析は木、製品の樹種同定を委託した。口絵写真は、特徴的な遺物を対象に令和2年11月に写真撮影を委託した。

原稿執筆は遺構・遺物のデータ、自然科学分析結果等を基に行った。また、遺構・遺物の挿図と写真図版等を組み合わせて、報告書の割付・編集を行った。入稿後、3回の校正を経て、令和3年3月23日に埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第468集『北2丁目陣屋跡』（本書）として刊行した。

図面や写真などの記録類や遺物は、令和3年3月に分類整理のうえ、埼玉県文化財収蔵施設の収蔵庫へ仮収納した。

### 3 発掘調査・報告書作成の組織

平成31年度（発掘調査）

---

理 事 長 藤 田 栄 二

常務理事兼総務部長 高 津 導

#### 総務部

総 務 部 副 部 長 山 本 靖

総 務 課 長 新 井 了 悟

#### 調査部

調 査 部 長 黒 坂 禎 二

調 査 部 副 部 長 吉 田 稔

主幹兼調査第一課長 栗 岡 潤

主幹兼調査第二課長 大 谷 徹

主任専門員 劔 持 和 夫

主 事 鈴 木 知 怜

令和2年度（整理・報告書作成）

---

理 事 長 藤 田 栄 二

常務理事兼総務部長 福 沢 景

#### 総務部

総 務 部 副 部 長 山 本 靖

総 務 課 長 鈴 木 裕 一

#### 調査部

調 査 部 長 吉 田 稔

調査部副部長兼整理第一課長 上 野 真由美

主任専門員 劔 持 和 夫

## II 遺跡の立地と環境

### 1 地理的環境

北2丁目陣屋跡は、JR宇都宮線と東武日光線の栗橋駅から北東へ約1km、埼玉県久喜市栗橋北2丁目3409-2他に所在する。

現在の久喜市は平成二十二年（2010）に久喜市、栗橋町、菖蒲町、鷺宮町の1市3町が合併して誕生した新市である。旧制でいうと、北2丁目陣屋跡の所在地は北葛飾郡栗橋町となる。

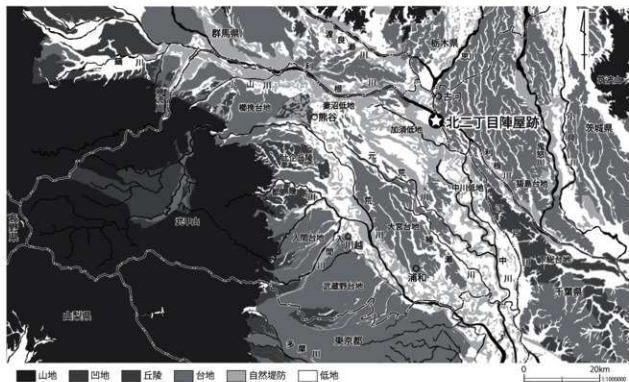
旧栗橋町は埼玉県の北東端に位置し、県境をなす利根川の東岸は茨城県古河市、および猿島郡五霞町である。昔日は日光道中（街道）の宿駅として栄え、利根川の流れを利用した舟運も盛んであった。今日では地区内に上掲2路線の鉄道をはじめ、国道4号、同125号、県道3号さいたま栗橋線、同12号川越栗橋線などの幹線道が縦横に走り、広域運輸の要所となっている。この交通網を活かし、近年においては都心部通勤のためのベッドタウン、また物流基地や工業地として新たな発展を遂げつ

つある。

反面、周辺の地形は概ね平坦であり、郊外には自然堤防に沿って延びる帯状の屋敷林と、それを囲む水田の広がる景観も残されている。北2丁目陣屋跡はこの低平な中川低地の奥部、東流する利根川の河畔に立地している。

中川低地は縄文時代前期に奥東京湾だった部分が、後の海退に伴って形成された沖積低地である。南北に長大で、ともにローム台地（洪積層）である西側の大宮・館林台地、東側の猿島・下総台地を分けている。栗橋地区周辺では沖積層の厚さは30～40mにも達し、縄文海進時に棲息していた貝類の殻を含む、軟弱な泥層の広がりが確認されている（栗橋町教育委員会2008）。

弥生時代から古墳時代になると、北部の加須地域で地殻変動（関東造盆地運動）による地盤沈降が発現し、次第に低地（加須低地）の形成を見る



第1図 埼玉県の地形

ようになる。沈降運動の進行とともに、熊谷から南方の川越方面へ流下していた利根川は、やがて東方の加須（低地）方面へ大きく流向を転ずる。結果、大宮・館林大地は南北に分断され、沿川部は埋没して漸次低地化していく。

この現象は古墳の調査でも確認されており、行田市の真名板高山古墳（堀口1992）や羽生市の小松1号墳（矢口・瀧瀬1996）などは、地表下3m程に埋没した状態であった。

奈良時代から平安時代になると、加須低地（中川低地）では河川の氾濫が広域化し、関東造盆地運動に伴う地盤沈降と相俟って、利根川や渡良瀬川など、大河水が集中して流れ下る大規模な河成平野が形成されていく。北2丁目陣屋跡の所在する栗橋地区では、表層約20mが河川堆積による沖積層となっている。

両河をはじめ、会の川、合の川、北川辺蛇行流路、島川、浅間川、大落古利根川、庄内古川の自然流下は加須低地に多くの砂礫を供給し、諸河川の両岸に自然堤防や後背湿地を発達させた。また、浅間川と会の川が大落古利根川に合流する久喜市栗橋町高柳には、大河の証しである河畔砂丘が形成された（埼玉県1993b）。

こうした低地部に対する人為的な改変は、戦国時代末頃まで余りなかったようである。ところが、徳川家康が関東を領有するようになると、「利根川東遷」と呼び慣わされる、利根川流路の改修工事が急速に進められることとなる。主たる目的については諸説あるものの、居城のある江戸を水害から守るための治水、近郊の新田開発を推進するための利水、それぞれが企図されていたことは疑いなかろう。



第2図 栗橋宿跡周辺の地形

東遷事業は流路そのものを新たに開削し、それまでの自然流下の道筋を締め切るなど、非常に大掛かりな工事であった。事業の進捗とともに、栗橋地区は北西側の古利根川（後に廃川）、東側の利根川（渡良瀬川・権現堂川）、南西側の中川（島川）で画され、各堤防が連接して「輪中」の地となっていく。江戸時代には島中川辺領（しまじゅうかわべりょう）と称され、北西の向川辺領、古河川辺領、東の閑宮藩領とともに、利根川に沿った輪中地帯を形作った。

とはいえ、栗橋宿は低い自然堤防上に立地すること、河川に取り囲まれた町であること、人工的な流路変更で河川が不安定だったことなどから、大規模な改修や築堤工事を重ねてもなお、洪水の害や排水の難からは逃れきれなかった。

堤防上に構えられた日光道中栗橋関所も元禄三年（1690）、同八年、宝永元年（1704）、寛保二年（1742）の四度、利根川の氾濫で流失している。

洪水の被害は現代にまで及び、昭和二十二年

（1947）のカスリーン台風では、加須市大利根地区において利根川の堤防が決壊し、栗橋地区も一面湖沼化するほどの災害に見舞われた。

利根川改修は江戸時代初期に本格化したのが、決して完遂された訳ではなく、400年以上を経た今日にあっても、それは国土交通省の「首都圏氾濫区域堤防強化対策事業」に継承されているのである。

北2丁目陣屋跡を含む日光道中栗橋宿は、その成立以前に渡良瀬川が形成した北西-南東方向の長さ約300m、幅120m程の自然堤防上に立地している。土質はシルト質、あるいは砂質である。遺跡付近の標高は11~12mを測り、南側の後背湿地に営まれる水田との比高差は約1mである。

明治十年（1877）頃の町や村の様子を記録した『武蔵國郡村誌』栗橋宿の項には、地味として「色赤真土に少しく砂を混す質美にして稲梁菘菜に宜しく桑茶に適せず水利不便にして時々水旱に苦しむ」とある（埼玉県1955）。作物に挙げる梁は粟、菘は豆のことである。

## 2 歴史的環境

北2丁目陣屋跡をはじめ、隣接する栗橋宿跡、栗橋宿本陣跡、栗橋宿西本陣跡、栗橋関所番士屋敷跡を含む旧栗橋町周辺の歴史的環境については、既に刊行された栗橋宿跡関連の調査報告書で繰り返し述べられている。そこで、本書では近世の日光道中栗橋宿、栗橋関所、北2丁目陣屋跡第2次調査区が所在する八坂神社（牛頭天王社）を中心に見ていくこととする。

以下では、幕府学問所地理局による文政六年（1823）の踏査記録をまとめた『新編武蔵風土記稿』（雄山閣1963）、同じく道中奉行所により天保十四年（1843）に改定調査、報告された『日光道中宿村大概帳』（引用は久喜市教育委員会2013aより）、および前出の『武蔵國郡村誌』の記事を多く引くので、それぞれ『風土記稿』『大概帳』『郡村誌』と略記する。

### （1）栗橋宿の成り立ちと日光道中

今日の栗橋に人々が集住して生活をともにし、活発な経済活動を営むようになるのは、家康の江戸入府からおよそ30年を経てからのことである。それまでの栗橋といえば、現在の茨城県五霞町の元栗橋（第3図C）を指した。しかし元和七年（1621）、利根川改修の際に権現堂川が氾濫し、元栗橋は大洪水に襲われたため、村落自体を今の栗橋へ移したと伝えられている。

栗橋宿の成立について『風土記稿』は、

栗橋宿は、江戸より十四里の行程なり、慶長年中下総國栗橋村の民池田鴨之助、並木五郎平と云もの願ひ、伊奈備前守忠次の指揮によりて開墾せしが、民家次第に増加しつひに宿並をなせり、故に下総國の方を元栗橋村と云ひ、當所を新栗橋と云、正保の國圖には上

川邊新田と記し、傍に栗橋町ともにと細書し、別に又新栗橋町の名をも載せたり、後一村となりしは當所次第に繁昌し、いつしか上川邊新田の名を失ひ、其地を概して今の名となりしにや、一略一

と記している。

また、『郡村誌』は「開墾家」池田鴨平の記事中で次のように述べている。

一前略一 慶長十九年鴨之助村民並木五郎平と謀り当所を開墾し竟に一村落をなし栗橋に對して新栗橋と号す元和八年將軍家日光社參の時本陣役を勤む(是より世々本陣となる)

一略一

池田鴨平は『風土記稿』に見える鴨之助の後裔で、『郡村誌』当時の池田家当主である。

二つの地誌によれば、栗橋宿は慶長十九年(1614)、五霞町元栗橋の地に住居していた池田鴨之助、並木五郎平(五郎兵衛)を中心とする人々が移り住み、開拓して興した町ということになる。

両書に示された移転年代に対し、『久喜市栗橋町史 通史編上』(久喜市教育委員会2015)は、明確にはできないとしながらも、「寛永元年(1624)には、関所が改めて設置されており、江戸と秋田を度々往返し、栗橋を通った秋田佐竹家家臣の『梅津政景日記』によれば、元和八年(1622)までの記述には「栗橋」とのみあるが、寛永三年には、「今栗橋」と「本栗橋」と区別されて記述されるようになる」ことを以て、移転が行なわれたのは元和後半から寛永初年の間と考定している。

栗橋宿を通る日光道中は、江戸日本橋を起点とする五街道の一つで、日本橋から終点の下野国日光坊中まで20宿、36里11町(約142.6km)の道程であった。初め奥州道中として日光へ至った道は、徳川歴代將軍が家康を祀る東照宮への參詣道として重要視されるようになる。そして事実上、日光が目的地となったことから日光道中となり、宇都宮から先の東北方面が奥州道中になったものと考

えられている(久喜市教育委員会2015)。

日光道中の道筋が確立する以前、奥州へ向かう街道は一般に鎌倉街道中道と呼ばれ、鎌倉幕府にとって軍事上重要な官道であった。中道は幸手において元栗橋へ向かう東回りの道と、鷲宮から北川辺を経由して古河へ達する西回りの道とに分岐していた。後者は自然堤防上の高まりを縫って北上する道で、江戸時代には旧栗橋町高柳で東へ折れ、古利根川に沿って栗橋宿へ至る新道として整備された。この道は日光御廻道と呼ばれ、將軍の日光社參に際し、本道の日光道中が洪水などで通行不能となった場合の迂回路とされた。

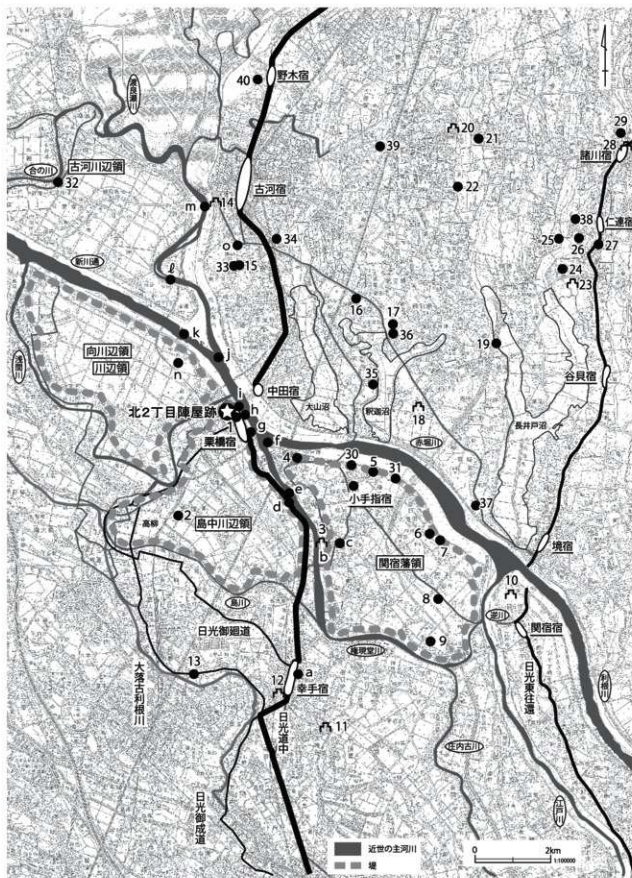
栗橋宿は江戸日本橋から、千住宿一草加宿一越ヶ谷宿一粕壁宿一杉戸宿一幸手宿を経た、日光道中第7番目の宿駅である。路程は江戸から14里15町(約56.6km)、幸手宿から2里3町(約8.2km)、次の中田宿まで18町(約2km)、古河宿まで1里20町(約6.1km)であった(久喜市教育委員会文化財保護課2020)。

利根川対岸の中田宿とは渡船で繋がれ、両宿は合宿で1宿と数えられていた。合宿とは、二つの宿で伝馬(各宿に規定の人馬を常備させ、幕府公用の貨物人員を次の宿へ継送する制度)を月の半分交替で勤めることをいう。

江戸時代の初期に「日光道中」の名称は確立していなかったともいわれるが、いずれにせよ、その宿駅として栗橋宿は成立したのである。街道の整備が先か、町の開拓が先か明らかでないものの、『風土記稿』に関東代官頭「伊奈備前守忠次の指揮によりて開墾せし」とあるので、おそらく両事業は個別単独ではなく、密接な関連の下、計画的かつ複合的に実施されたに違いない。

なお、池田家はその廃止まで代々栗橋宿本陣を勤めた家柄で、今般の堤防強化対策事業に伴う転居まで、本陣の跡地にお住まいになられていた。並木家も江戸時代を通じ、同じく上町で旅籠屋(萬屋?)を営んだ栗橋宿の名家である。





第3図 周辺の遺跡

第1表 周辺の遺跡一覧(第3図)

No.	遺跡名	No.	遺跡名	記号	遺跡名
1	栗橋宿本陣跡・栗橋宿跡	21	本田山遺跡	a	田宮町
2	佐間小草原遺跡	22	藤王遺跡	b	道橋
3	栗橋城址	23	東の門西の門城址	c	元栗橋
4	宿北・宿東遺跡	24	北山田北久保遺跡	d	一里塚
5	釈迦新田遺跡	25	御願遺跡	e	勘平の渡し
6	同所新田遺跡	26	大膳屋敷跡	f	川妻の渡し
7	新田遺跡	27	関根委族屋敷跡	g	下河岸跡
8	桜井前遺跡	28	諸川西門城址	h	栗橋河岸
9	瀬沼遺跡	29	本田遺跡	i	房川の渡し
10	関宿城址	30	上原遺跡	j	本郷渡し
11	天神島城址	31	殿山塚	k	中渡し
12	幸手城址	32	倚井陣屋遺跡	l	鈴木の渡し
13	渡辺氏屋敷跡	33	城地遺跡	m	古河の渡し
14	古河城址	34	石行保遺跡	n	旗井小学校
15	酒果館跡	35	羽黒遺跡	o	徳政院
16	磯部館跡	36	釈迦才伝遺跡		
17	香取東遺跡	37	清水遺跡		
18	水海城址	38	新屋敷遺跡		
19	向坪B遺跡	39	大塚遺跡		
20	円満寺城址(小堀城址)	40	野木宿遺跡		

## (2) 栗橋関所

町の移転と同じ頃、栗橋宿から利根川対岸の中田宿への渡河点には、新たに関所が置かれた。これを「栗橋関所」と通称するが、正式には「房川渡(ぼうせんのわたし)中田御関所」、乃至は「中田御関所」という。

『風土記稿』には、

関所 利根川堤上あり、其置れし年代詳ならず、見張番所を構へて往來の旅人を改む、是を房川渡中田御関所と唱ふ、往來改の條目を記せし高札を建、往古のことを傳へず、関所番人四人あり、是は寛永元年今の加藤木工兵衛、足立十右衛門、富田定右衛門、嶋田源次郎の先祖御抱となり、世々在任してこれを勤む、此内後年外御関所より來りし者も有と云、

とあり、関所は寛永元年(1624)に開設され、4名の番士がその任に当たっていると記す。

当初の番士は富田茂左衛門、新井喜平次、佐々木長左衛門、森又左衛門であったといわれる。後

に幾度かの交替があり、寛政十二年(1800)以降は『風土記稿』が挙げる加藤、足立、富田、嶋田(島田)の4家に固定する。

関所と番士は関東代官頭伊奈氏の支配下にあったが、寛保三年(1743)に伊奈忠尊が失脚した後には、栗橋宿周辺を支配する代官が所管するようになった(久喜市教育委員会2015)。

番士は代官所の手代に次ぐ下級武家の身分で、基本的には世襲であった。切米・扶持は足立家のみが前任地(水戸街道の金町松戸関所)から引き継ぐ20俵4人扶持、他の3家は20俵2人扶持であった。因みにいえば、江戸町奉行所同心は30俵2人扶持である。

関所、即ち番士の主たる任務は、女性や負傷者、不審者の通行を厳しく取り締まることにあった。関所の勤務は原則2名ずつの当番制で、明け六つ時から夕七つ時まで関所に詰めた。夜間は番士1名と宿民から雇用された下番1名が宿直した。参勤交代の大名家など、多人数の通行がある場合には全員が勤務することもあった。

番士4家は牛頭天王社の西方、古利根川の堤防脇に各々屋敷を構えていた。これを拝領屋敷、または居屋敷と称した。屋敷は東から加藤家、足立家、嶋田家、富田家の順で並立していた。調査対象地外の富田家を除く各屋敷の規模や構造などについては、当事業団が発掘調査を実施した、栗橋関所番士屋敷跡の調査報告書（埼玉県埋蔵文化財調査事業団2018）を参照されたい。

先にも触れたように、堤防上に構えられていた関所は元禄三年、同八年、宝永元年、寛保二年の四度、利根川の氾濫により流失し、その度毎に再建されている。寛保二年の時は加藤家裏の堤防が決壊し、周囲より一段高い盛土上に建てられていたにも拘らず、屋敷は押し寄せた砂で軒先まで埋め尽くされている（埼玉県教育委員会2002）。

明治二年（1869）、新政府の行政が及ぶに至り、240年以上続いた房川渡中田御関所は廃止となる。番士4家も時を待たず任を解かれ、新たに置かれた葛飾県役所へ奉職することとなった。

### （3）栗橋宿の様子

江戸を発した日光道中は幸手宿から北上し、栗橋宿の入り口で直角に左折、直ぐに右折すると長い北向きの直線路となる。宿の北端で再び右折、堤上の関所を経て中田宿へ向かう房川渡（渡船場）となる。この道筋は関所付近を除き、現在も主要地方道羽生外野・栗橋線に踏襲されている。

『風土記稿』は栗橋宿の規模を長さ10町（1090m）余、民家419軒とし、その多くは街道左右に透き間なく建ち並び、櫛の歯のごとくであると記す。

宿内には上町、中町、下町、三ツ俣、船戸、鍛冶町の小名（地区名）がある。上町は街道沿いの北部で、本陣や脇本陣、問屋場、旅籠屋など宿の中枢的な施設が集中していた。北端で右折して関所へ向かう街道沿いは、上横町もしくは横町と呼ばれた。中町は同じく中央部、下町は南部で新町とも称される。三ツ俣は北2丁目陣屋跡の位置する牛頭天王社と関所番士屋敷の間、船戸は利根川

堤防に沿った堤外（河川側）の町で、河岸場があり舟間屋などが立ち並んだ。鍛冶町は上町と堤防に挟まれた地区で、渡船や舟運に携わる水主たちの住まいが密集していた。

『久喜市栗橋町史 資料編二』（久喜市教育委員会2013）に載る文政十二年（1829）の「栗橋宿外十二ヶ村農間渡世改帳（抄）」には、宿の大きさが記されていないものの、家数434軒、人口1,772人とある。434軒のうち309軒は「農間商并職人」で、建て前上は農業となっている。

一方、『大概帳』によれば、往還（街道）の距離は南隣の小右衛門村の境から房川渡船場まで15町13間（約1,658m）、道幅は6間半（約11.7m）、町並の長さは南北10町30間（約1,140m）である。人口は男869人、女872人の計1,741人、家数は本陣・脇本陣各1軒、旅籠屋25軒を含め、総数404軒とする。

『大概帳』に載る埼玉県内の他の5宿の人口、および家数は次のとおりである。

草加宿：3,619人、723軒（うち旅籠屋67軒）  
越ヶ谷宿：4,303人、1,005軒（うち旅籠屋52軒）  
粕壁宿：3,701人、733軒（うち旅籠屋45軒）  
杉戸宿：1,663人、365軒（うち旅籠屋46軒）  
幸手宿：3,937人、962軒（うち旅籠屋27軒）

杉戸宿を除くと、栗橋宿の人口や家数は他宿の半数以下で、合宿である中田宿の人口403人、家数69軒を加えてもその数は4宿に遠く及ばない。人口、家数ともに、関所や渡船場を有する街道の要衝にしては意外な数値である。なお、越ヶ谷宿は千住宿、宇都宮宿に次ぎ、日光道中では3番目の規模を有する繁華な宿場であった。

明治時代の『郡村誌』を見ると、栗橋宿の人口は男1,109人、女1,131人の計2,240人である。家数は戸数として本籍476戸、寄留4戸、社1戸、寺5戸が挙げられている。日光道中に該当する道については、これを「陸羽街道」と呼んで、小右衛門村から房川渡場まで15町55間（約1,745m）、

道幅は4間(約7.2m)としている。

『大概帳』と比較すると、道幅が2間半(約4.5m)も狭くなっている。試みに『郡村誌』に載る他宿の「陸羽街道」幅を確認したところ、杉戸宿は5間、幸手宿は6間と記されている。両宿の幅からしても、栗橋宿のそれを4間とする『郡村誌』の記述は聊か疑わしく、『大概帳』の示す幅の方が正しいのではないと思われる。現在の主要地方道羽生外野・栗橋線の幅は、路側帯を含めれば10mを超える。

これまでの発掘調査では、本陣跡の北辺部で道路跡が検出されている。硬化面の幅は6～7mで、開所へ続く往昔の街道そのものであることは間違いない(埼玉県埋蔵文化財調査事業団2020a)。第一面で検出された道路跡の両側に敷設された木樋や、第二面で検出された側溝状の溝と土壌の間隔は、7.3～7.5m(およそ4間)と読み取ることができる。発掘調査前、この部分に存在した道路の幅は6m程であった。

憶測に過ぎないが、あるいは『大概帳』は宿の南北を貫く街道の幅(6間半)で、『郡村誌』の記述は誤記や誤植ではなく、そこから折れて開所へ向かう街道の幅(4間)をそれぞれ示しているのではなかろうか。江戸時代の諸絵図が開所前の街道を心持ち狭く描いているのも、故なきことではないのかもしれない。

宿内の生業について、『風土記稿』は宿駅関連と諸商とし、『大概帳』は農業の傍ら旅籠屋(25軒)や食物を提供する茶店の他、諸商を営む者が多いと記す。

天保十四年(1843)～弘化二年(1845)頃に作成されたと考えられる久喜市所蔵の『栗橋宿往還絵図』には、町並の図とともに居住者名と職業が書き込まれている。同図によれば、職種は旅籠屋22軒(うち飯売旅籠屋2軒)、荒物屋12軒、煮売茶屋10軒、青物屋9軒、饅頭屋8軒、小売酒屋6軒、茶屋5軒、春米屋5軒、餅菓子屋5軒、湯屋4

軒、髪結4軒、豆腐屋3軒、糸屋3軒、疊職人3軒、塩物屋2軒、煙草屋2軒、足袋屋2軒、医師2軒、鍛冶屋2軒、乾物屋2軒、甘酒屋2軒、油屋2軒、出穀問屋2軒の他、駕籠屋、芋屋、舟問屋、質屋、古立道具屋、鍋釜屋、左官、附木屋、定足屋、絵師、仕立職人、綿屋、建具屋、飴屋、小問物屋、薬師屋、按摩各1軒などとなっている(他に明家、明地あり)。

一方、前出の「栗橋宿外十二ヶ村農渡世改帳(抄)」には居酒屋27軒、髪結7軒、湯屋6軒、煮売屋5軒、質屋29軒(休業中8軒)が経営者名とともに記されている。『栗橋宿往還絵図』に比して質屋の軒数が異常に多いが、これは他職を兼業する者も載せたためであろうし、煮売屋が少なく居酒屋が多いのも、酒肴を提供する煮売茶屋や一部の旅籠屋をも含むためと解される。

『郡村誌』では、専ら男は農・工・商、女は農・商に携わるとする。

栗橋宿は利根川河畔に拓けた町のため、舟船による物資運輸も盛んであった。船戸町(栗橋河岸)と宿の南端近く(下河岸)には河岸場が備わり、周辺農村の年貢米をはじめ、民間の荷も多数取り扱われた。江戸まで荷を運んだ舟は荷下ろしの後、奥川積問屋を通じて塩、砂糖、肥料、木綿、瀬戸物などを積載して遡行の途に就いた。奥川積問屋とは特定の河岸場との取引権を有する問屋のことで、栗橋河岸を持ち場としたのは、江戸小網町二丁目の利根川屋多吉であった(久喜市教育委員会2015)。

河岸には舟の手配と荷の積み下ろしを行う舟問屋があり、栗橋では伊勢屋と菊田屋が著名である。栗橋宿関連の発掘調査でも、「栗橋 伊勢屋長次郎殿」「菊田や平兵衛殿」など、送り荷に付けられたであろう問屋名を記した木札が出土している(埼玉県埋蔵文化財調査事業団2019b・d)。栗橋の開所では舟荷も改める必要があったが、実際の業務はこれら舟問屋に委託されていた。

#### (4) 八坂神社（牛頭天王社）

北2丁目陣屋跡の第2次調査区は、第4図に示した遺跡範囲の西側3分の1程を占める八坂神社境内に含まれる。

八坂神社は栗橋宿の北西端に鎮座し、江戸時代には宿の總鎮守として崇敬を集めた。明治初年までの別当は宿の中程、街道の西方にある福寿院長栄寺（元栗橋の真言宗実相院末）であった。当時は牛頭天王社と号したが、明治元年（慶応四年）三月、新政府の発令した太政官達（神仏判然令）以下の神仏分離政策により、現在の社号である八坂神社となった。同布達で権現や牛頭天王など、仏語を社号とすること、仏像を神体とすることがそれぞれ禁止されたためである。

栗橋宿の牛頭天王社がいつ八坂神社と改められたか明確でないが、氏子に出された守札（切支丹ではないという身分証明証）には、八坂神社の社号に加え、明治四年（1871）九月の発行であることが記されている（久喜市教育委員会2012）。したがって、それ以前に八坂神社が正式な社号となっていたことは確実である。とはいえ、地元では今日に至るもなお「天王さま」と呼び親しまれ、参拝者の絶えることがない。

当所への鎮座について『風土記稿』は、

牛頭天王社 宿の鎮守なり、福壽院の持、慶長年中利根川洪水のとき、水溢を防んとて村民等堤に登り居たりしに、渺々たる水波の中に鯉魚と泥龜とあまた圍み、神輿とおほしきもの流れ來り、引上みるに全く神輿にて元栗橋の天王なること、偶つとへる彼村民等も見認得たりしかば、衆皆奇異の思ひをなし、かゝる亂流の中に傾覆の患なく、鯉魚泥龜の類圍て當所に来れることは、これ神靈の然らしむる所ならんとて、則爰に觀請し、是より後毎歲六月は、此神を祭れる月なれば、村老はさならり兒童さへかの二魚を食ふことを得ず、

と説く。興味深いのは、利根川の洪水に際して栗橋の住民が堤防の補強工事を行っていること、鯉と龜に囲まれた牛頭天王社の神輿が元栗橋から流れてきたこと、それを祀つたのを当社の始原とするのである。

『郡村誌』に載る開墾家池田鶴平の記事と照らし合わせれば、この創祀譚は、慶長年間（1596～1611）に利根川の氾濫で元栗橋が被災し、今の栗橋へ移住した折、故地の牛頭天王社も同時に勧請されたことを物語るものであろう。鯉龜と神輿云々は、神輿渡御を伴う夏祭りが行われていた由縁を示すものと思われる。近代の例ながら、明治十九年（1886）の明治天皇行幸に際しては、神輿を利根川に担ぎ入れ天覽に供している。

『郡村誌』は「八坂社」として、

村社々地東西十三間三分、南北二十五間八分五厘、面積三百四十三坪、村の北方にあり、素戔嗚尊を祭る、祭日六月十五日と載せる。

明治十二年（1879）の内務省布達を受けて調査が行われ、大正二年（1913）に同省令により改正されたという埼玉県立文書館所蔵の『埼玉県神社明細帳』には、

埼玉県武蔵国葛飾郡栗橋町字上町

村社 八坂神社

一、祭神 素戔嗚尊 置受姫命

一、由緒 元和年中（1615～1624）月日不詳、当地開墾新栗橋宿ト称シ、奥羽・日光両街道ト定ラレ、衆庶集マル為ニ宿内鎮守勸請シ、元禄十五年（1702）檢地ノ際除稅地ト為ル、寛保二戊年（1742）洪水ノ為流失、同三年中幕府郡代伊奈半左衛門寄附ニ依テ社殿再建、其后大破ニ及ヒ、嘉永五子年（1852）氏子等尽力シテ再ヒ建立シ、明治六年（1873）五月十六日村社ニ許可、大正二年四月十五日同町字堤外無格社稲荷神社ヲ合祀ス、一略一

一、社殿 本殿 拝殿 向拝付

一、境内 七百坪

一、氏子 六百三十五戸

一、境内神社 一下略一

と記されている(引用は栗橋町教育委員会『栗橋町史資料1』2007より)。

由緒にいう社殿流失をもたらした寛保二年の大洪水は、関所番士であった足立家文書『御関所御用諸記Ⅰ』(埼玉県教育委員会2002)八月の項にも、二日のこととして、

一、八幡宮・牛頭天王・大神宮其外小祠流失、宿方家居不残流失、尤家財米穀等不残流失之者多、誠身命を助り漸々土手江遁上り候軀ニ有之、三ツ又より舟戸迄之切所凡式百五拾間程、一下略一

であると、その被害の凄まじさが綴られている。

同記によれば、堤防は番士屋敷の裏手から関所の南まで「式百五拾間程(約450m)」にわたって決壊し、牛頭天王社をはじめ、関所から町屋に至るまで、宿内の建物は悉く流されてしまった。

『埼玉県神社明細帳』では、洪水の後に再建されたもの大破し、嘉永五年に再度造営されたものが当時の社殿であるとしている。これに対し、『栗橋町史 民俗Ⅱ』(栗橋町教育委員会2010)は、現在の社殿となったのは安政年間(1854~1859)であるとする。

『風土記稿』の鎮座由来に見える当社の神輿については、前出の『御関所御用諸記Ⅰ』(埼玉県教育委員会2002)享保九年(1724)六月の項に、

天王御神輿新敷出来幸手町=出出来、九両式分也

とある。また、昭和四十五年(1970)に修理された際には、神輿の屋根内部から「笹屋池田三郎左衛門 文久三年十月吉祥日」と書かれた棟札が発見されている。このことから『久喜市栗橋町史 通史編上』(久喜市教育委員会2015)は、文久三年(1863)に新たに作り替えられたのではないかと

としている。

棟札にある池田三郎左衛門は栗橋宿上町の住人で、本陣池田家所蔵「取調絵図面控」に「三郎左衛門」、『栗橋宿往還絵図』には「三郎左衛門店 七郎左衛門 茶屋」、明治六年(1837)の『深廣寺所蔵絵図』には「第七 池田三郎左衛門」と、それぞれその名が載る。

明治九年(1876)八月末、旅の途中で栗橋を訪れた三遊亭円朝は、旅日記『上野下野道の記』の中で、三郎左衛門経営の料理屋「笹屋」のことに触れている(久喜市教育委員会2015)。円朝はこれに先立って『怪談牡丹灯籠』を創作しており、栗橋宿を舞台とした段では、登場人物の一女性を笹屋の奉公人としている。

絵図に示された笹屋を含む一画は、栗橋宿本陣跡として発掘調査を実施しており、ほぼその町並を復元できている(終章参照)。笹屋跡に比定できる区画内からは文字資料など、積極的にそれと証明し得る遺物の発見はなかった。ただ、茶屋を思わせる18世紀中葉のせんじ碗や腰鉋碗が一括出土した建物跡や、火災に遭った生活道具を多量に廃棄した土壌などが検出されている(埼玉県埋蔵文化財調査事業団2019d)。

雑駁ながら、北2丁目陣屋跡の所在する栗橋宿の置かれた地理的、歴史的環境について見てきた。利根川河畔の栗橋宿は関所、渡船場、河岸場を有する日光道中の要衝であり、陸運のみならず、水運による利沢も享受した町であった。

反面、数多の河川に取り囲まれた低い土地に営まれているため、水の災いは避け難く、経済的な打撃も少なからず受けていた。だが、栗橋宿の人々はその都度復興を成し遂げ、江戸時代を通じて町の繁栄に寄与し続けたのである。

なお、本書で報告する北2丁目陣屋跡であるが、遺跡名にある「陣屋跡」については、終章で触れることとした。

### III 遺跡の概要

北2丁目陣屋跡の第2次発掘調査は、栗橋宿跡、栗橋宿本陣跡、栗橋宿西本陣跡、栗橋関所番土屋敷跡とともに、国土交通省による首都圏氾濫区域堤防強化対策事業に伴って実施した。

各遺跡の位置は第4図に示した通りである。北2丁目陣屋跡の南西は栗橋宿西本陣跡、南東は栗橋宿本陣跡で、三者は互いに接している。西本陣跡との境をなす小路は江戸時代の絵図にも描かれており、古くから牛頭天玉社（八坂神社）と町屋を分かちものであった。北2丁目陣屋跡の範囲は、およそ南北90m、東西185mで、西は八坂神社から東は現在の利根川河畔まで及んでいる。

栗橋宿関連の発掘調査は、既に報告された栗橋関所番土屋敷跡、栗橋宿跡第1地点に始まり、その後も継続的に続けられた。調査範囲も広大となるため、栗橋宿全体を網羅するよう方100mの大グリッドを設定し、その内部を方10mの小グリッドに分割して調査を実施している。詳細は凡例と第4図に示した。本書で報告する北2丁目陣屋跡第2次調査区は、栗橋宿の北端部、大グリッドのB-5グリッドに位置している。

北2丁目陣屋跡の調査は既に第1次調査を実施し、報告書も刊行している。ただし、栗橋宿跡第5地点と連続する調査区であったため、報告書では後者の名称で一括して取り扱っている（埼玉県埋蔵文化財調査事業団2020a）。

第1次調査で検出された遺構は溝跡や土壌が主で、遺物の組成も栗橋宿跡出土のもの共通している。遺跡範囲としては北2丁目陣屋跡ながら、性格的には、関所へ向かう街道に南面した町屋の一部である。特に、「陣屋」の存在を思わせるような遺構、また遺物は発見されていない。

今次の発掘調査は、上下二面の遺構確認面を設定して行なった。確認面の標高は第一面で9.3m前後、第二面で8.7m前後である。試掘では第一

面の直上層上面に遺構確認面を想定していたが、検出は近代以降の建物跡、池跡、井戸跡、土壌、杭囲のみであった。そのため、池跡の南側を任意の小トレンチで12分割し、土層を観察しながら調査を進めた。

その結果、第一面は北東から南西に向け緩やかに傾斜しており、遺物包含層はこの傾斜に沿って形成されていることが判明した。包含層の土質は小礫と炭化物を多く含むシルト質土、および黒色の腐植土が主体で、後者は遺物とともに、竹木の小枝などの植物を多く含んでいた。このことから、第一面は湿地、乃至は池沼の底面であったと考えられる。

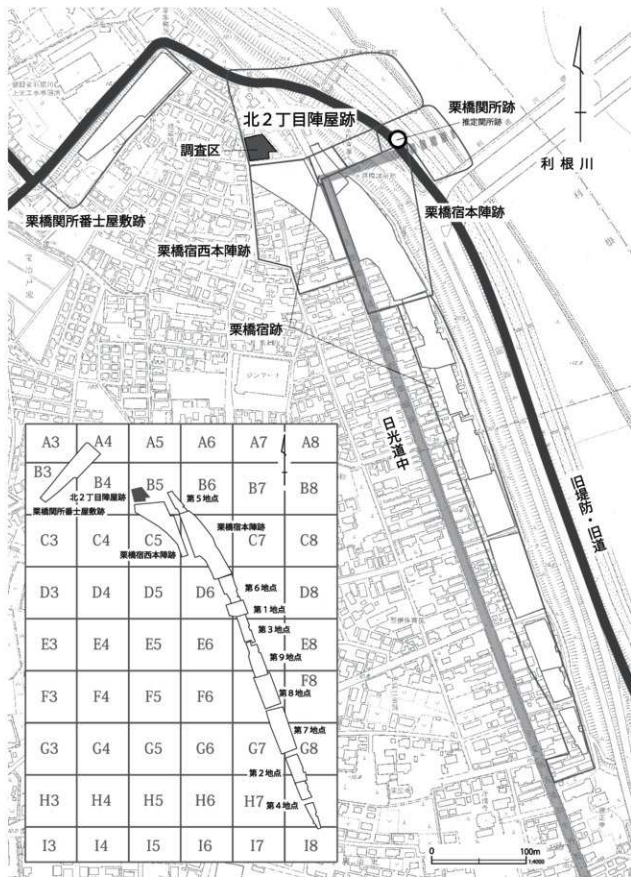
検出されたのはこの遺物包含層のみで、出土遺物から見て、形成時期は19世紀後葉である。

第二面は小トレンチの土層観察により、砂層であることが確認できた。そこで調査区の中央部から四方へ向け掘り下げを進めたが、軟弱な土質と出水で崩落が激しいため、検出範囲は狭めざるを得なかった。確認できたのは自然の流路跡1条で、出土遺物や浅間A軽石の純層を含むことから推して、その形成時期は18世紀後葉以前である。

土層序は調査区東壁のC-4グリッド、および小トレンチで観察のうえ記録した。地表から第一面遺物包含層の間は、最上層の人為的な盛土を除けば、北東側から流入したと思われる二次堆積土が主体である。

第一面から第二面の間は、自然堆積した粘性の強いシルト層になっている。滯水や流水に伴って形成されたと思しき層が多く、遺物の出土はまれであった。流路跡でイネ科の植物遺体の広がりが見出されたことなどからも、湿潤な環境下にあったと推測される。

このシルト層の直下は砂層、あるいは砂粒を多量に含むシルト層が広がっており、これを第二面



第4図 遺跡位置図



とした。上層との境界は明瞭で、おそらくは洪水に起因する堆積層である。

なお、栗橋宿本陣跡で検出されている火災に伴う焼土層（埼玉県埋蔵文化財調査事業団2019d・2020b）や、栗橋宿跡第6地点で観察された細かな整地層（埼玉県埋蔵文化財調査事業団2019b）などは確認できなかった。

第一面の遺物包含層と第二面の流路跡からは、陶磁器や木製品を中心に、土器、瓦、土製品、石製品、金属製品などが多量に出土した。陶磁器は各面ごとに最新期の陶磁器や組物、特徴的な陶磁器を中心に挿図、観察表で示した。

磁器のうち、瀬戸美濃系では碗、坏、皿類が主で、これに鉢、爛徳利、土瓶などが加わる。肥前系磁器も一定量が出土している。特に第一面出土の碗、坏、皿は組物の可能性がある同文製品が極めて多く、高い一括性が看取される。紅坏や紅皿と考えられる坏類についても、出土量の多さは特筆される。絵付けは染付や色絵のほか、酸化コバルト染付、型紙摺絵染付、銅版転写染付などの印刷技法も認められるが、全体的には僅かである。舶載磁器は栗橋宿跡や本陣跡と同様、ごく少量ながらも清朝景德鎮窯系、ヨーロッパ系軟質磁器が見られる。磁器の中には焼継痕や焼継印のほか、屋号や店印（標章）が釘書きされたものもある。

陶器では産地不詳の鍋や土瓶、京都信楽系の爛徳利、灯明皿、灯火具が多く、東北や北関東地方で見られる大型長頸瓶の出土も顕著である。他に肥前系、瀬戸美濃系、備前系、常滑系、萩系、萬古系、大堀相馬系、松岡系、堺明石系、益子・笠間系の製品が出土している。これらには屋号などを墨書したものや、産地の刻印を捺したものも見られる。

土器には瓦質土器、土師質土器、施釉土器の三種がある。器種としては焙烙、火鉢を主体に、竈、竈鑪、焔炉、火消壺、火消壺の蓋、植木鉢、塩焼壺、塩焼壺の蓋などが加わる。反面、宿跡や本陣跡に

比し、かわらけの出土はごく僅かである。焙烙は瓦質土器の平底焙烙が少なく、土師質土器の丸底焙烙が主体である。後者は厚手で底部が扁平のものが多く、内耳付の製品が認められる。

瓦は出土したものの全ての収蔵が困難であるため、現地で水洗して種別ごとに分類のうえ、重量と破片数を記録した。

土製品には玩具、人形、箱底道具などがある。泥面子、芥子面、小壺の出土が多く、埴塙、羽口などの生産道具も少量認められる。材質は土師質が主で、これに磁器、陶器、拓器質のものが加わる。生産地は多くが江戸在地系で、京都系のほか、瀬戸美濃系や産地不明の製品も少量見られる。

石製品では石筆、石板、硯、碁石、火打石、磨石、石臼などの出土があるが、火打石と磨石の量が多い。火打石の材質はほとんどが玉髓であり、良質のチャートも僅かながら認められる。表面には文字が墨書されたものもある。磨石の石質は多孔質の角閃石安山岩で、その転石を利用したもので占められる。他の石材には滑石、粘板岩、凝灰岩、ホルンフェルス、流紋岩、砂岩などがある。

また、調査地点は地下水位が高い環境に置かれているため、漆器、下駄、農具、遊戯具、絵馬、木太刀、木札など多くの木製品が腐食せずに遺存していた。漆器や下駄の出土が極端に少ない一方、絵馬（拝み絵馬）や木太刀（納め太刀）といった信仰に関わる遺物が発見されるなど、栗橋宿跡や本陣跡の内容とは異なっている。位置は不規則ながら、第一面から出土した絵馬は4枚あり、全て同じ絵柄である。第二面では、流路跡から大山信仰に係る納め太刀の出土が特筆される。

金属製品は釘が主体で、他に包丁、握鉄、鉄鎌、火箸、煙管、簪、針金など多様な製品が出土している。銭貨は寛永通宝が主体である。

硝子製品としては、筭が出土している。

このほか、少量ながら貝類、種実、獣骨なども検出されている。

## 陶磁器類の時期区分

陶磁器の分類や時期区分については、『栗橋宿本陣跡Ⅰ』（埼玉県埋蔵文化財調査事業団2019d）刊行にあたり、東京大学本郷構内出土遺物の分類および年代視（堀内1996・1997）を援用し、栗橋独自の編年（時期区分と想定年代）が設定された。北2丁目陣屋跡も一連の遺跡であることから、本書における陶磁器の時期区分もこれに従った。

『栗橋宿本陣跡Ⅰ』で提示された時期区分は、次のとおりである。

- ・栗橋1期…17世紀前半
- ・栗橋2期…17世紀後半～18世紀初頭
- ・栗橋3期…18世紀前葉～中葉（第2四半期後半～第3四半期前半）、肥前系磁器波佐見系碗・瀬戸美濃系陶器腰鑄碗・せんじ碗で組成
- ・栗橋4期…18世紀後葉（第3四半期後半～第4四半期前半）、肥前系磁器外面青磁釉碗各種、筒形碗、瀬戸美濃系陶器柿軸灯明皿の出現
- ・栗橋5期…18世紀後葉～19世紀初頭（18世紀第4四半期後半～19世紀第1四半期）、肥前系磁器広東碗、一部に大振りの端反碗あり
- ・栗橋6期…19世紀前葉（第1四半期後半）瀬戸美濃系磁器の出現
- ・栗橋7期…19世紀前葉～中葉（第2四半期中心）、磁器湯呑碗、陶器青緑釉土瓶等多い
- ・栗橋8期…19世紀中葉（第3四半期）、磁器卵殻手坏、型押寿文皿の出現
- ・栗橋9期…19世紀中葉～後葉、酸化コバルト染付磁器の出現以降

なお、東構内遺跡群の時期区分との対比関係は、概ね以下のようである。

栗橋1・2期＝東大Va期以前（～1720年代）、栗橋3期＝東大Vb期（1730～40年代）、栗橋4期＝東大VIa・b期（1750～70年代）、栗橋5期＝東大VII期（1780～1800年代）、栗橋6期＝東大VIIa期（1800～10年代）、栗橋7期＝東大VIIb・c期（1820～40年代）、栗橋8期＝東大VIII期（1850～60年代）、

栗橋9期＝東大IX期

## 文字資料

文字の記された陶磁器や木製品などについては、判読の可否に関わらず、意図的な記入と認められたものは全て掲載した。ただし、判読し得たものは観察表の中に示したが、その他は遺物種目、写真図版のいずれかのみとなったものもある。

木製品の文字については、判読可能なものを第20表に記し、写真図版に赤外線写真を掲示した。

積読と積文の作成にあたっては、久喜市教育委員会、並びに久喜市立郷土資料館の協力を得た。

## 鳥居薬座と石碑（第5図）

北2丁目陣屋跡の調査では、表土除去の際に鳥居の薬座（根巻）1対、石碑（刻字された大型の転石）1基が出土している。いずれも地表直下から乱雑な状態で発見されており、本来の位置や状態を保つものではない。

刻まれた文字の内容から見て、薬座が牛頭天王社（八坂神社）へ奉納された鳥居の一部であることは疑いが無い。このため、埼玉県教育局市町村支援部文化資源課、八坂神社、氏子代表間で協議のうえ、石碑とともに同社で御受納いただくこととなった。そこで、薬座と石碑については現地で写真撮影と簡易な実測を行った後、八坂神社境内に納め置いた。以下では、その概略について記しておく。

鳥居の薬座は各々一石から彫り出されており、全体は出納加工された方形の礎石状である。幅と奥行はともに約92cm（3尺）で、四隅は波形に面取りされている。上部は径約58cm（1尺9寸）、高さ約6cm（2寸）の円盤状に突出し、うち1基の上面には八角形の柱痕跡が観察された。下部も鳥居の基底となる台石に組み合わせるよう、一辺約66cm（2尺2寸）、高さ12～15cm（4～5寸）の方形に加工されている。全体の高さは約49cm（1尺6寸）で、上下両面の突出部を除いた厚みは約30cm（1尺）である。

中央部には、鳥居の柱根を固定するための柄孔が穿たれている。孔は方23cm（7寸5分）程で貫通しており、上面の対置する2箇所には、柱の沈下を防ぐための貫を受ける窪みが彫り加えられている。おそらく、鳥居の柱から上の部分は木造であっただろう。

両薬座の1側面は中央部が長方形に浅く彫り窪められ、その内部に1基は「氏子」、もう1基は「誠信」（ともに実際の文字は右から左）と刻まれている。さらに「氏子」の右側面には、3行にわたり「天保十年 己亥 六月之吉」（実際の文字は縦書き）と刻字されている。

現在の八坂神社に建つ石鳥居は神明系で、大正九年（1920）建立と刻まれている。出土した薬座には天保十年（1839）とあるので、この時の鳥居は建立年の間隔からして、今の鳥居に建て替えられる直前のものではないかと思われる。

久喜市郷土資料館発行の『第4回特別展 懐かしいふるさとの風景』（久喜市郷土資料館2012）展示図録には、八坂神社正面を撮影した写真が掲載されている。「明治30年代カ」と注記された古写真のため鮮明ではないものの、建っているのは木造の明神系鳥居で、扁額の文字は「天王社」と読める。薬座は一部しか写っていないため確言で

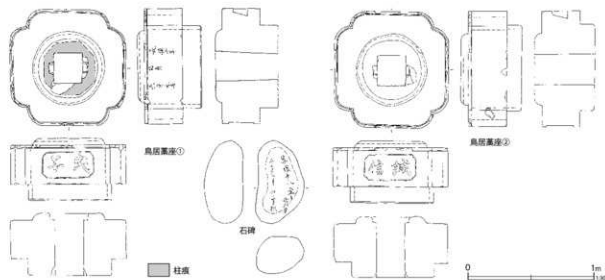
きないが、石造で、今回出土したものと同じ形状に見受けられる。ただし、柱については八角形か否か判然としない。

大型の転石（河原石）を用いた石碑は、長さ約65cm、幅約36cm、厚さ約29cmを測る不整な楕円形である。やや平坦となる面には、長軸に沿って3行にわたり、「享保十八年 丑六 くりはし中丁組」（実際の文字は縦書き）と刻まれている。形状は力試しに持ち上げた「力石」のようにも見えるが、重量や奉納者名などの表記はない。

栗橋宿は南北に貫く日光道中（街道）に沿って、北から上町、中町（仲町）、下町（新町）の3町に区分される。石碑の「中丁」は上に「くりはし」とあるので、宿場の中央部を指す「中町」と同義である。したがって「中丁組」とは、ともに行事を行うための中町住民の集まり、ということになるだろう。

石碑の性格は明らかとし得ないが、石にそのような意味の文字を刻み、それを牛頭天王社境内に据え置いたのであれば、何らかの奉納寄進に係る記念碑なのではなからうか。

享保十八年は西暦1733年にあたり、栗橋宿関連の発掘調査において発見されたものの中では、最も年代の遡る文字資料である。



第5図 鳥居薬座・石碑略測図

## IV 遺構と遺物

### 1 第一面の遺構と遺物

第一面では遺物包含層が検出された。

なお、その直上上面でも建物跡2棟（SB1・2）、井戸跡2基（SE1・2）、土壇1基（SK1）、池跡1面（SG1）、杭囲1基（SA1）の検出があった。しかしながら、いずれも下面の遺物包含層を掘り込んで構築されていることから、明治時代後半以降のものと判断された。今回、報告の対象とはならなかったが、栗橋宿の総鎮守であった牛頭天王社（八坂神社）の境内に発見されたという点を深慮し、その位置のみは図示することとした（第6図）。

特に2棟の建物跡は、ともに方形（1間×1間）かつ小規模であることから、八坂神社の境内社（小祠）の跡ではないかと思われる。現在、境内社は本殿の周囲に整然と配祀されているが、江戸時代の絵図などでは、境内に点在する様子を見て取ることができると推察される。

#### (1) 遺物包含層（第6～18図）

前章で触れたように、第一面は調査区の北東から南西に向けて緩やかに傾斜している。面上には腐植土層（9層）、その上にはさらに小礫と炭化物を多く含むシルト質土層（8A・B層）などが形成されている。両層には極めて多量の遺物が含まれており、層間での接合も顕著であった。そこで、両層とこれに準ずる中間層を併せ、遺物包含層と捉えた。

腐植土層は下層との境界が明瞭で、竹木の小枝なども多く含まれている。木製品が多量に遺存していたことをも勘案すれば、第一面はかつての地表というよりも、湿地、あるいは浅い池沼の底面であったと思われる。腐植土層は水底に堆積した植物に、シルト質土は北東の高い部分から流入、沈殿した土砂にそれぞれ由来するものであろう。

遺物は北寄りの池跡を除く全面に分布してい

るが、遺物包含層として把握できるのは1・2・4・5・7・8・10区である。その範囲はおおよそ東西20m、南北5mの範囲で、厚さは腐植土層（9層）が10cm～15cm、シルト質土層（8層）が30cm程度である。

遺物の出土は1・2・4・5区に多く、中でも1・2区に集中する傾向が窺われる。腐植土の厚さも同程度である。出土状態に規則性は認められず、陶磁器、土器、瓦、木製品、金属製品、石製品、自然木などが乱雑な状態で見出されている。

遺物を含んだ土砂で盛土、あるいは埋め立てが行われたような様子が見られず、岸辺から池沼へ故意に投棄されたような印象が強い。

遺物の内容は栗橋宿跡や本陣跡と同じく、日常生活の道具類が圧倒的多数である。神社の境内でありながらも、信仰関係の遺物はごく僅かで、町屋部分出土の遺物組成と何ら変わる所がない。この傾向せざるを得ない点については、終章で改めて考えることとした。

陶磁器では各産地、および器種を網羅的に抽出し、包含層形成時期を示す遺物と、最新期の遺物を器種ごとに図示した。また、同文の組物と考えられる遺物については、可能な限り個体数の把握に努め、最低個体数を図示した。さらに、特徴的な遺物や希少性の高い遺物に関しては、細片であっても優先して掲載した。土器については、特徴的な遺物を中心に図示した。出土土器の概要については「III 遺跡の概要」を参照されたい。

これら陶磁器の様相から見て、第一面遺物包含層の形成時期は酸化コバルト染付磁器が出現する前後段階の19世紀後葉（栗橋第8～9期）、主に西暦1860～1870年代と判断できる。

なお、明治時代後半以降の遺構からも、その構築時に遺物包含層から混入したもの、あるいは

後に流入したと思しき遺物が出土している。これらには遺物包含層の遺物と接合したのもあるため、全てを遺物包含層出土遺物として挿図に掲載し、観察表には出土場所として井戸跡、土壇、池跡等の表記（略号）を加えた。したがって、井戸跡など遺構の構築時期を示す遺物ではない。

出土した遺物は第19～91図に図示した。

#### 磁器（第19～44図）

第20図25・26は舶載磁器で、同文の清朝景德鎮窯系の端反形碗である。高台径が大きく、体部から口縁部にかけては薄造りである。外面に花唐文、高台内に「嘉慶年製」の銘が記される。嘉慶帝の在位期間は、西暦1796～1820年である。栗橋宿では舶載陶磁器の出土は稀であるため、全点を図示している。

第23図114～第24図122は同文の瀬戸美濃系磁器の小碗である。割り底で、高台内には「清玩」の銘が見られる。破片は多量に出土しているが、極力個体数の把握に努め、銘の確認できたものは原則図示した。出土量から推して、組物として使用されていたものが一括廃棄された可能性がある。第24図123～126は同文の瀬戸美濃系磁器小碗で、外面に寿文、高台内に「道八」とある。

127～130は同文の瀬戸美濃系磁器の端反形小碗で、高台内に「大明成化年製」の銘が記される。これも破片が多く出土しており、銘が確認できるものは原則図示した。組物での使用が想定される。

131は肥前系磁器の碗で、高台外周を打ち欠き、円盤状に二次加工を施している。所謂円盤状製品である。栗橋宿跡では18世紀代の遺構で多く確認され、19世紀以降にはほとんど見られなくなる。

136・137は肥前系の紅帯で、外面に赤色の上絵付で「□□へに」と書かれている。所謂小町紅である。小町紅は京都で19世紀から盛行したもので、江戸遺跡でも確認されている。

第24図143～第25図166は内面に上絵付や江戸絵付けを施す坏である。多くは内面に文字や酒商

標を記している。商標を記した坏の多くは19世紀後葉の所産と推定される。

146には「名酒/惣一/酒七仕入」の銘がある。「惣一」は、東松山市相崎にあった利根川醸造の看板ブランドで、「酒七」は幸手の酒屋と推定される。栗橋宿第1地点の遺物集中心地点から出土している（栗橋宿跡1第35図5）坏には「サツテ」、「サカ七」の銘が見える（埼玉県埋蔵文化財調査事業団2018b）。『営業便覧』の幸手町の部分には、「料理店/酒仕出し」として「七・酒場/田島熊吉」とあり、関係性が窺われる。

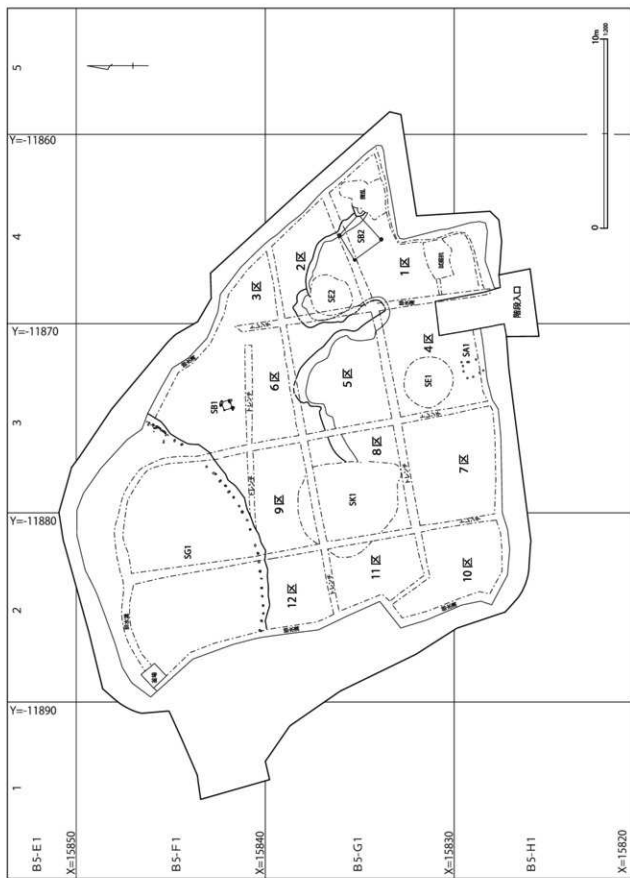
148は「下総野田中町/茂木佐平治語/無類格別仕入」、中央には亀甲に「萬」、瓢箪に「泉清」、「淡麗」と記される。亀甲に「萬」の商標は、天保十一年（1840）の「関東醤油番付（天保十一年版）」に、「関脇/野田/茂木佐平治」のものとして載る。したがって、この頃には既に同商標は使用されていたと推測される。

149には「酒貫」の銘がある。栗橋宿本陣跡の遺構外出土遺物に樽と亀甲に「貫」と「中田/酒井家」の文字が見える（『栗橋宿本陣跡II』第358図1）。中田宿の酒井家を示し、本製品も中田宿に関わるものと考えられる（埼玉県埋蔵文化財調査事業団2020b）。

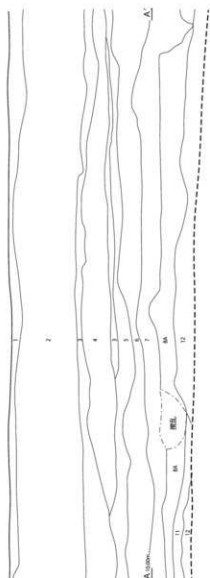
151は「三國/第一山/福祿/寿水/製造」、醤油樽に「山形に香」の店印が描かれる。この店印は前出「関東醤油番付」に、「大関/野田/柏屋七郎右エ門」のものとして載る。148と同様、醤油醸造店に関わる坏と考えられる。

第25図152は「柏倉琴平山」、「山形に十一」の店印が見られる。栃木市柏倉町には山頂に琴平神社の鎮座する鞍掛山があることから、その関係性が窺える。

これらの他にも、「名酒/盛」（147）、「銘酒/廻利吉/青木製」（150）、「目黒」（153）、「瀬戸屋」（158）、「草加」（159）、「松川橋」（160）、「万上」（162）、「廣セ口」（163）、「櫻川/大正」（164）などの銘が記



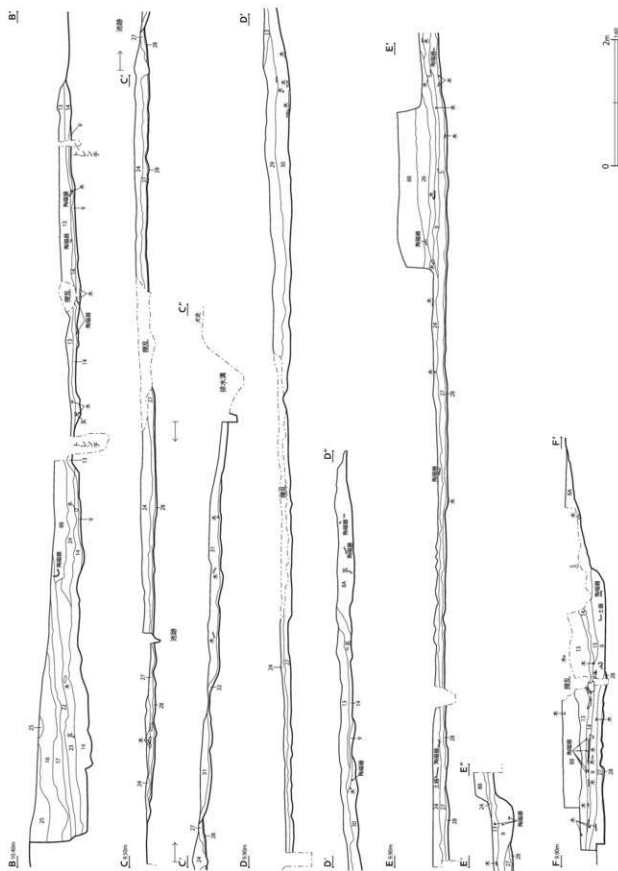
第6区 第一面全体图



- 土層序
- 1 褐色土 表土 しまりなくバサバサ 掘八坂神社境内に敷かれた砂
  - 2 茶褐色土 暗褐色粘質土ブロックを多く含む 人為的な盛土と考えられる
  - 3 灰褐色土 粘質土 小礫を含む 流水（湧水）に伴う沈殿土か 部分的に炭化物の薄層を挟む
  - 4 暗茶褐色土 2層に近似するが、粘質土ブロックは薄か
  - 5 灰黄色土 非常に硬くなる 旧地表面（道路?）と考えられる
  - 6 灰褐色土 小礫・炭化物を多く含む 降雨などにより流入した土か
  - 7 暗灰褐色土 シルト質 細かい砂のブロックを多く含む 大塚などによる堆積か
  - 8 A 黒灰褐色土 小礫・炭化物を多量に含む 陶磁器など遺物を多く含む 周辺からの流入土と推される 主に調査区の中央部に分布する
  - 8 B 褐色土 8 A層に近似するが、小礫・炭化物・遺物の含有は少ない 8 A層より南調査区域にかけ分布する
  - 9 黒褐色土 腐植過程にある縮木（竹を含む）の断片を多量に含む しまりなくバサバサ 陶磁器・木製品など遺物を多量に含有する
  - 10 欠番
  - 11 灰褐色粘質土 所謂「青ネバ」粘性劣る
  - 12 灰黄色砂 単純砂層 鉄分多く赤味を帯びる 無遺物層 雨水などによる堆積か
  - 13 褐色土 8 B層に準するが、小礫・炭化物・遺物の含有は少ない
  - 14 灰黄色土 しまりなくバサバサ パウダー状で上下層との境界は明確
  - 15 褐色土 13層が基本 14層土のブロックを多く含む
  - 16 灰褐色土 大型の炭化物（φ5～10mm）を多量に含む 木などを燃やしたものが、二次的に流入した土層か 17層との境界に鉄分の薄層を挟む
  - 17 暗灰褐色土 16層と同様の炭化物を少量含む 白色砂粒を多く含む粘質土 陶磁器片・瓦片を含有する
  - 18 褐色土 きめの細かいパウダー状
  - 19 暗褐色土 10～20mmの木炭片を多く含む 粘質土
  - 20 暗褐色土 19層に近似する 貝殻（シジミ?）を多く含有する
  - 21 暗褐色土 細物片は少ない砂り層に似る しまりなし 陶磁器・木製品を含有する
  - 22 明褐色土 18層に近似する粘質土層 鉄分多く赤味を帯びる
  - 23 明褐色土 22層の漸移変化土層 褐色土を多く含む 粘性が強い
  - 24 灰褐色土 8 B層に似るが、色調暗い 粘性強い 遺物・炭化物少ない
  - 25 黄褐色土 パウダー状の単一土層
  - 26 褐色土 小礫・炭化物を多く含む 上位の8 B層と下位の24層との中間的な土層
  - 27 暗褐色土 28層と同様の灰褐色土層（厚1～2cm）を数枚挟む粘質土 水成土か 若干の陶磁器片・板片を含む
  - 28 黒色土 殆ど粘土 単一的に遺物が見られない 腐植土状だが、湧水底に堆積したものと思われる
  - 29 褐色土 30層土・灰白色粘質土のブロック 炭化物粒を含む
  - 30 灰褐色土 粘性強い 炭化物粒を含む 下位の33層との境界に黒色の薄層を挟む
  - 31 灰白色粘質土 消滅堆積土 ヘドロ状 32層との境界明確 陶磁器片・木材などを含む
  - 32 黒色粘質土 池の底に堆積した植物性腐植土



第7図 第一面土層図（1）

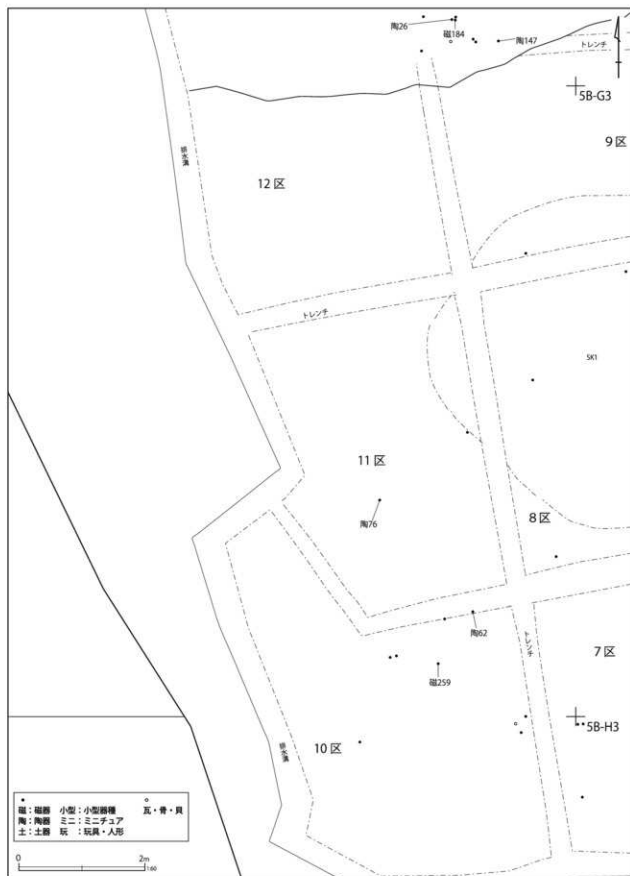


第8图 第一面土层图(2)

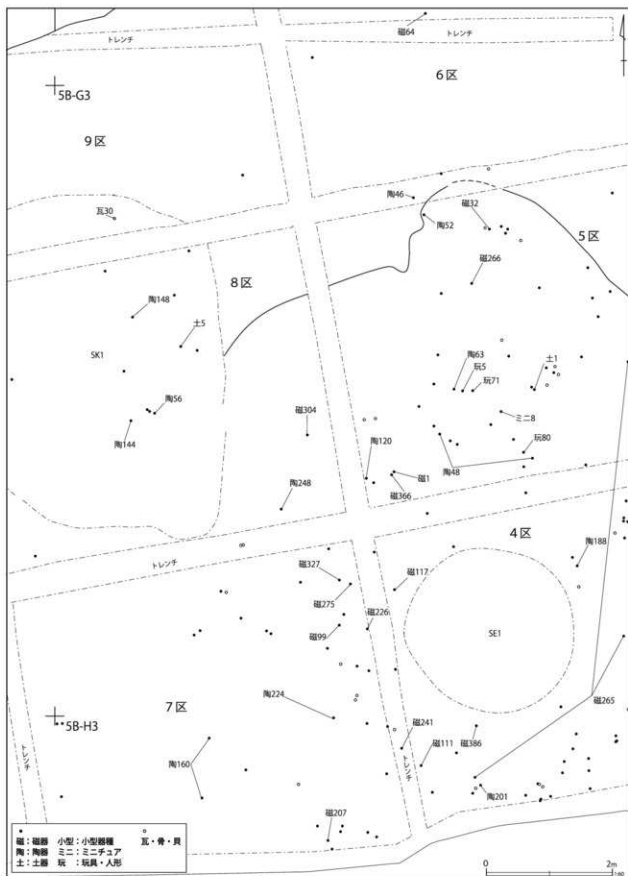




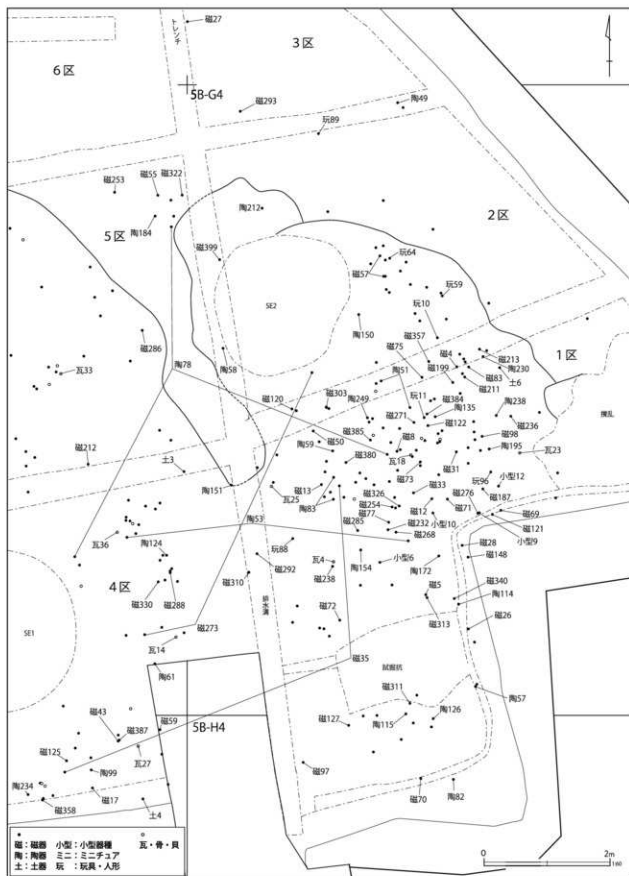
第9図 遺物包含層遺物分布図(全体)



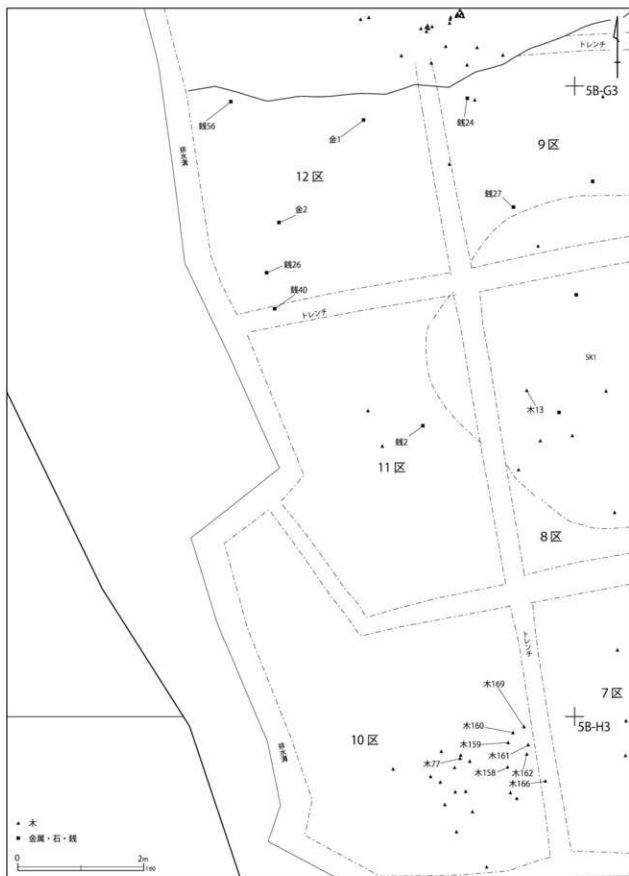
第10図 遺物包含層遺物分布図 1 - (1)



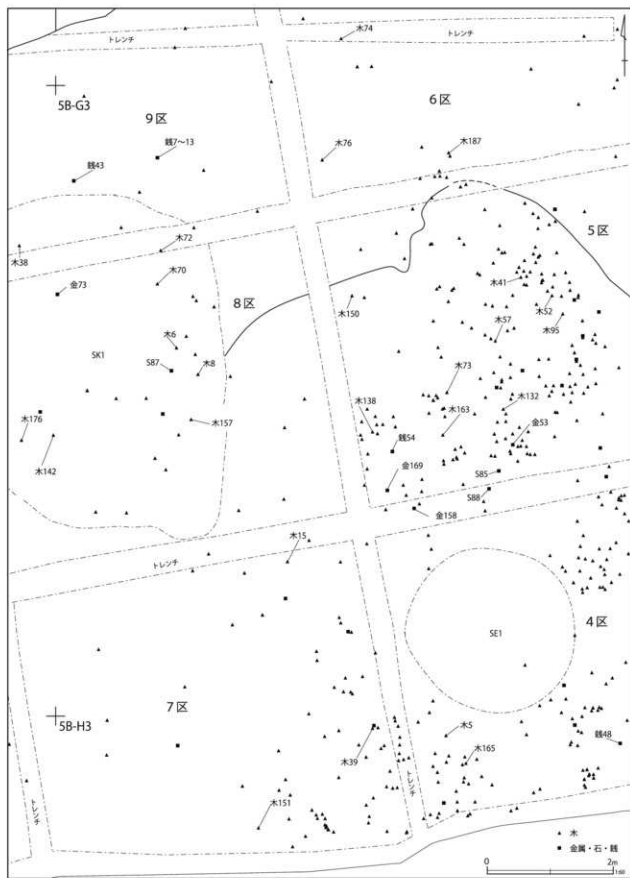
第11図 遺物包含層遺物分布図1-(2)



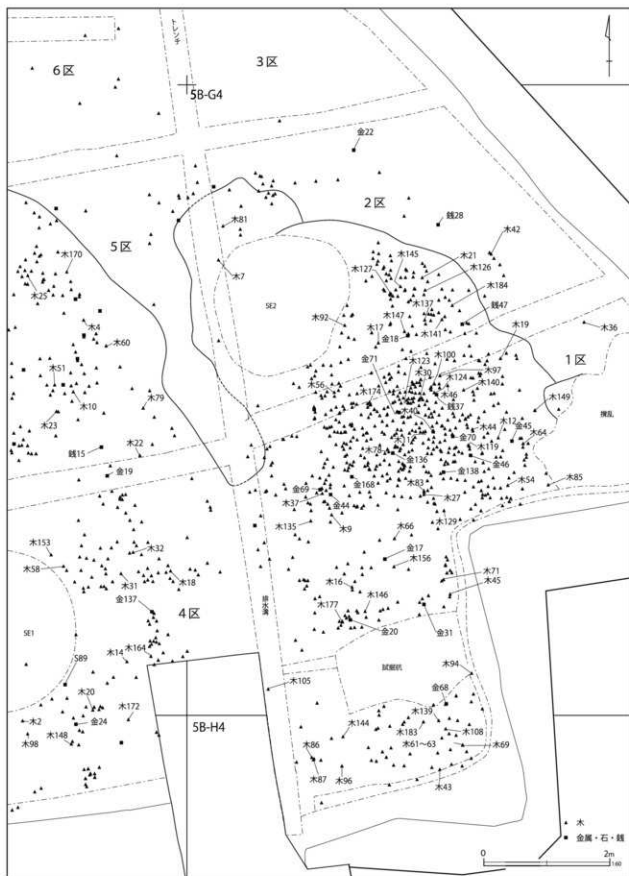
第12図 遺物包含層遺物分布図1-(3)



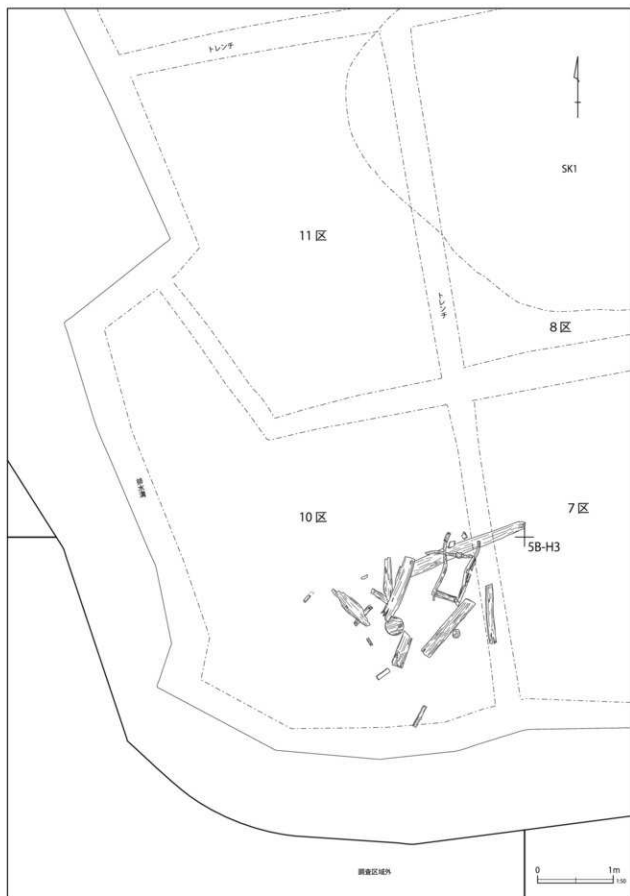
第13図 遺物包含層遺物分布図2-(1)



第14図 遺物包含層遺物分布図2-(2)

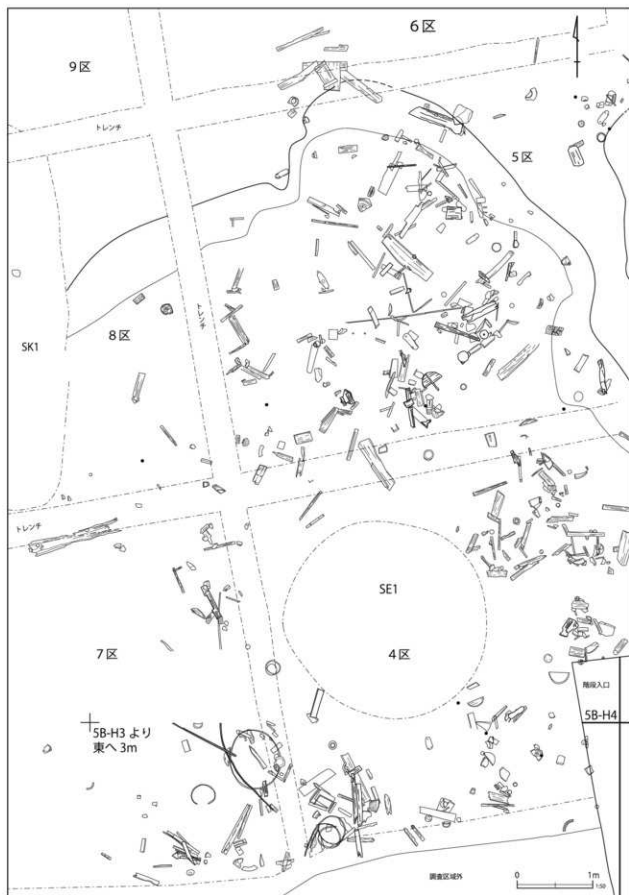


第15図 遺物包含層遺物分布図2-(3)

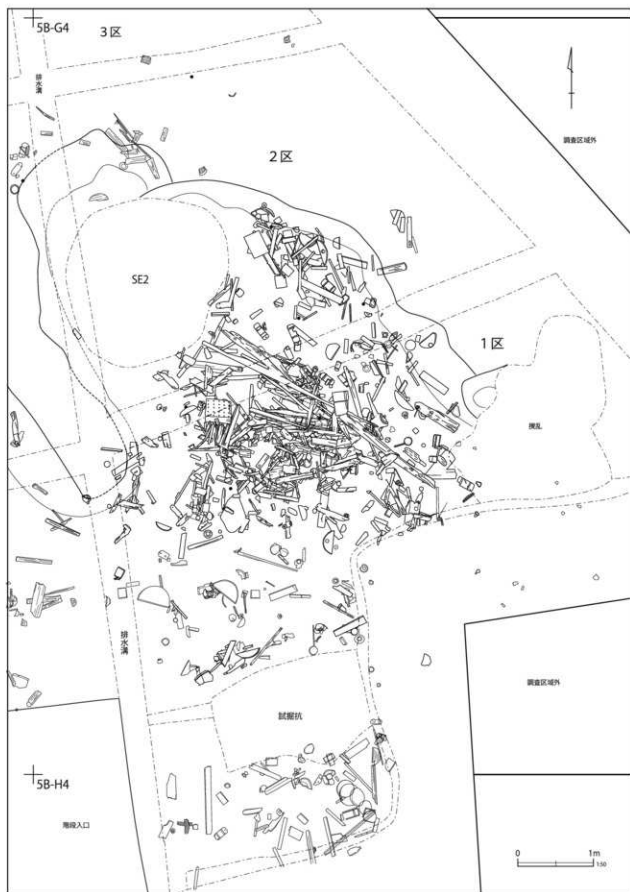


第16図 遺物包含層遺物出土状態図(1)

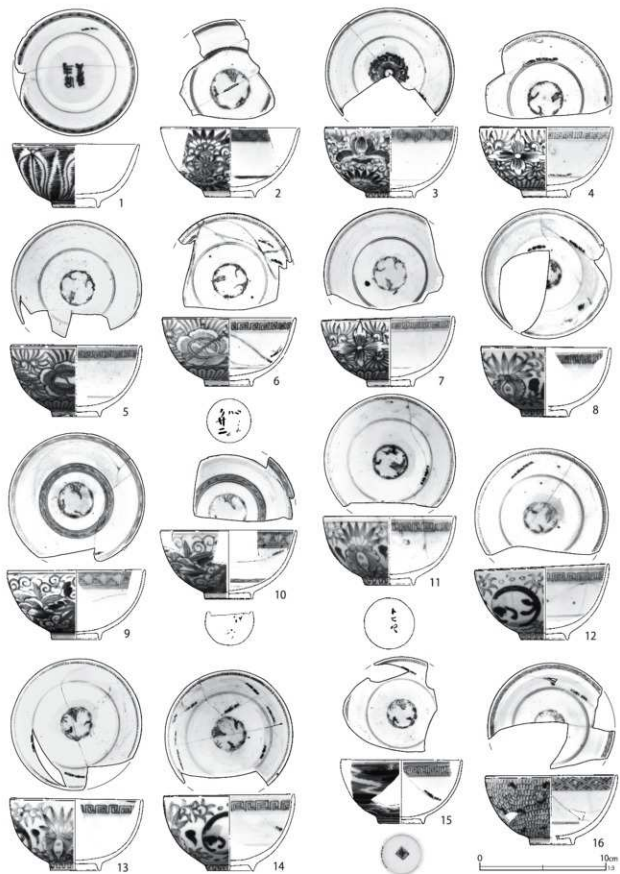




第17図 遺物包含層遺物出土状態図(2)



第18図 遺物包含層遺物出土状態図(3)



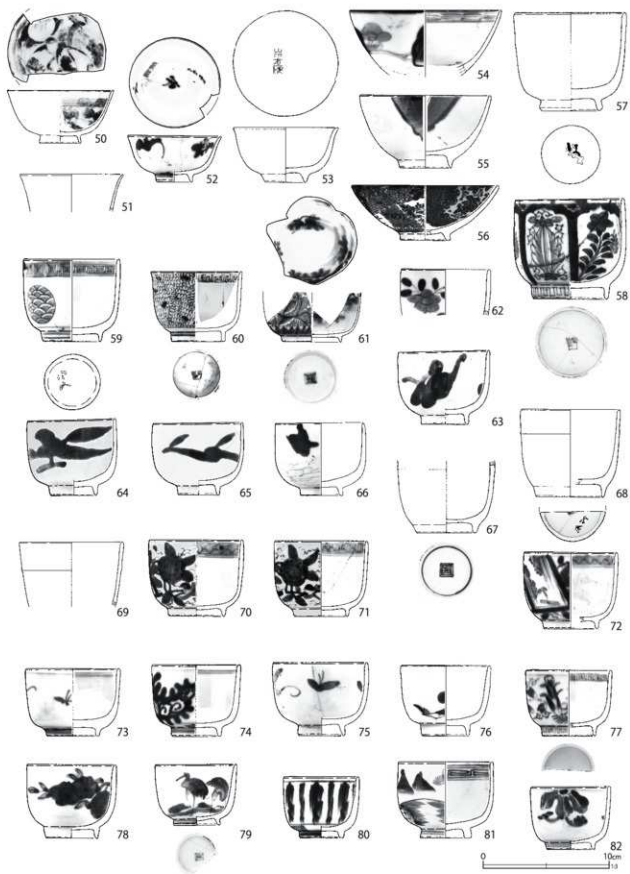
第19图 遺物包含層出土磁器(1)



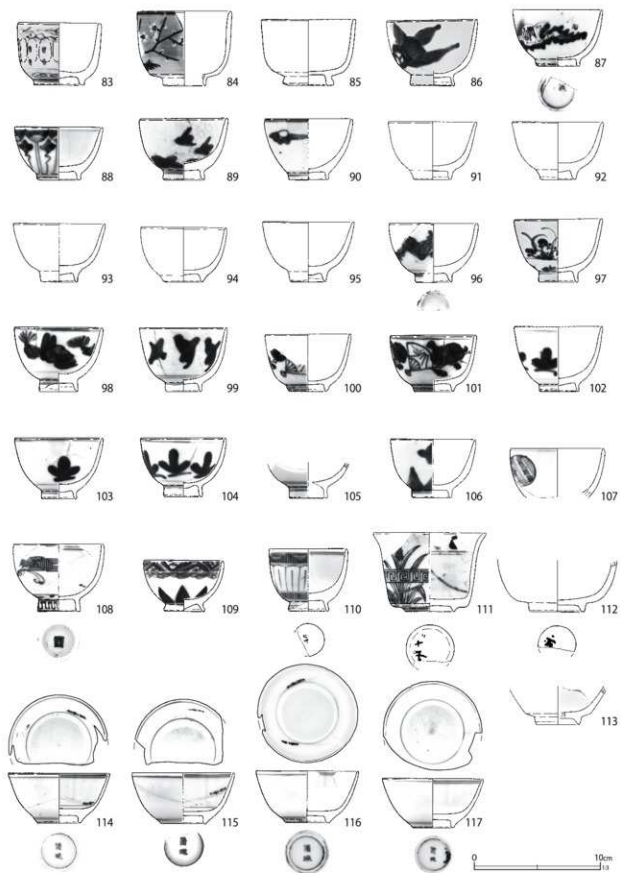
第20图 遺物包含層出土磁器(2)



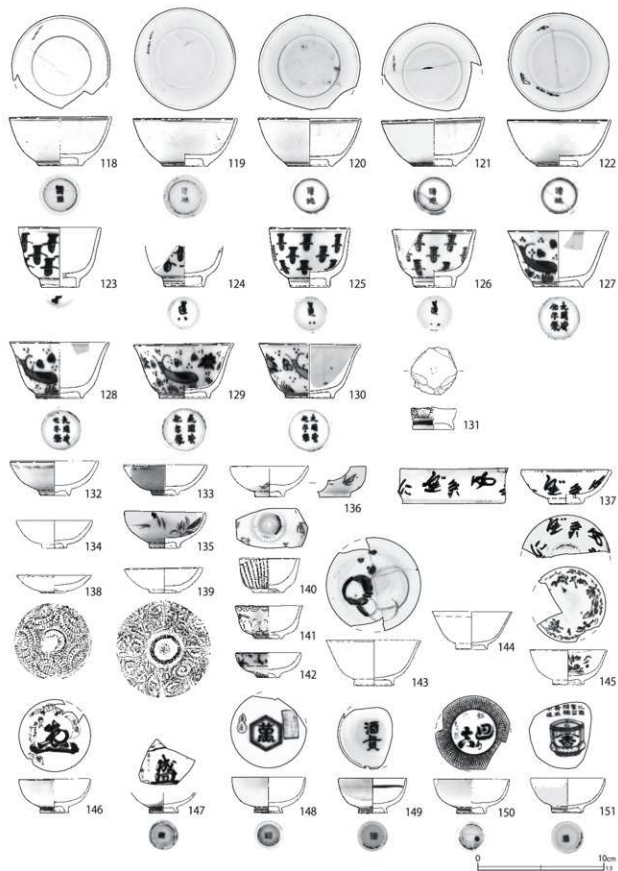
第21图 遗物包含層出土磁器(3)



第22图 遺物包含層出土磁器(4)



第23图 遗物包含層出土磁器(5)

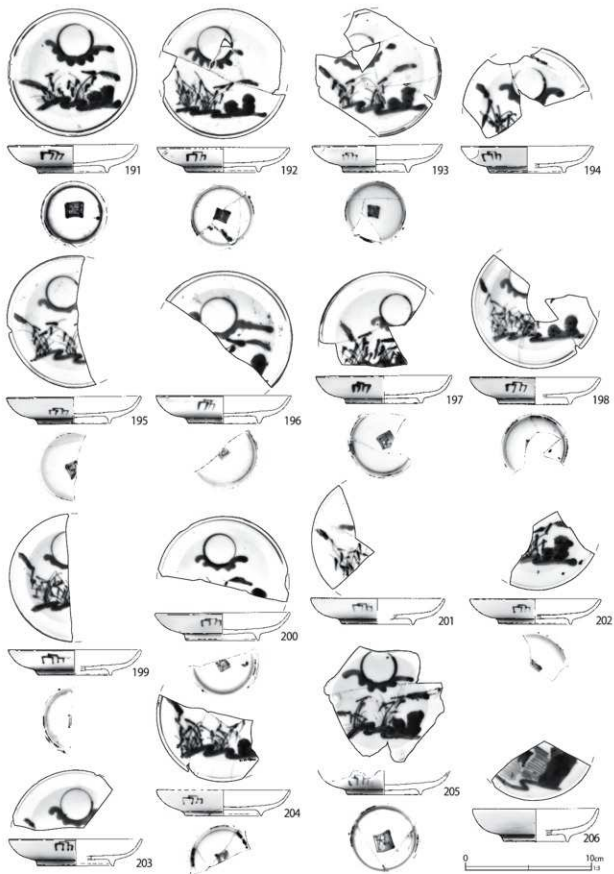


第24图 遺物包含層出土磁器(6)

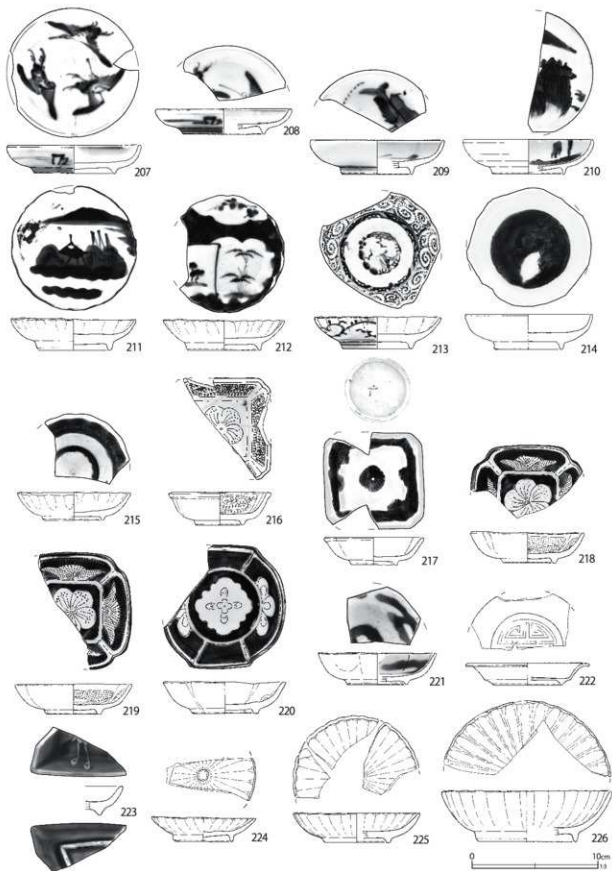




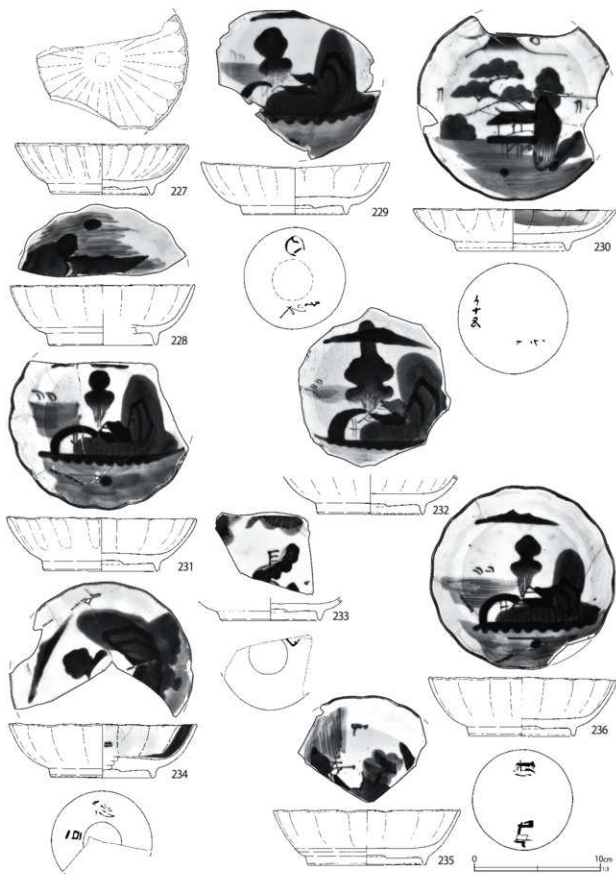
第25図 遺物包含層出土磁器(7)



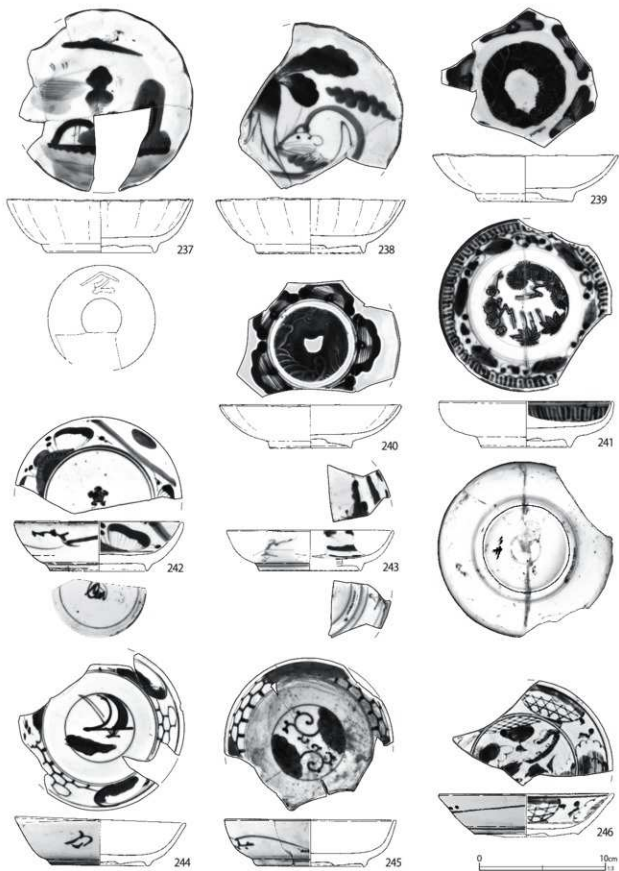
第26図 遺物包含層出土磁器(8)



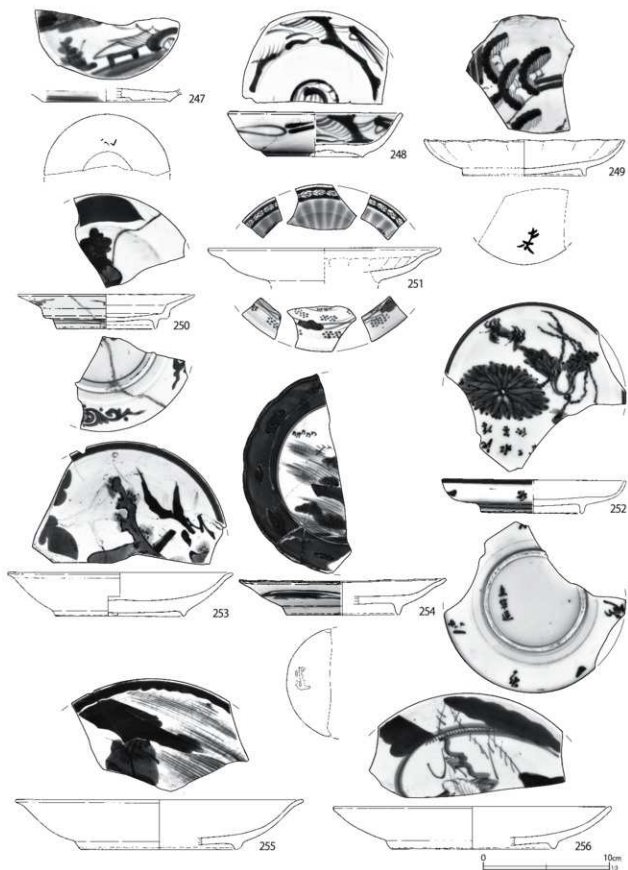
第27图 遺物包含層出土磁器(9)



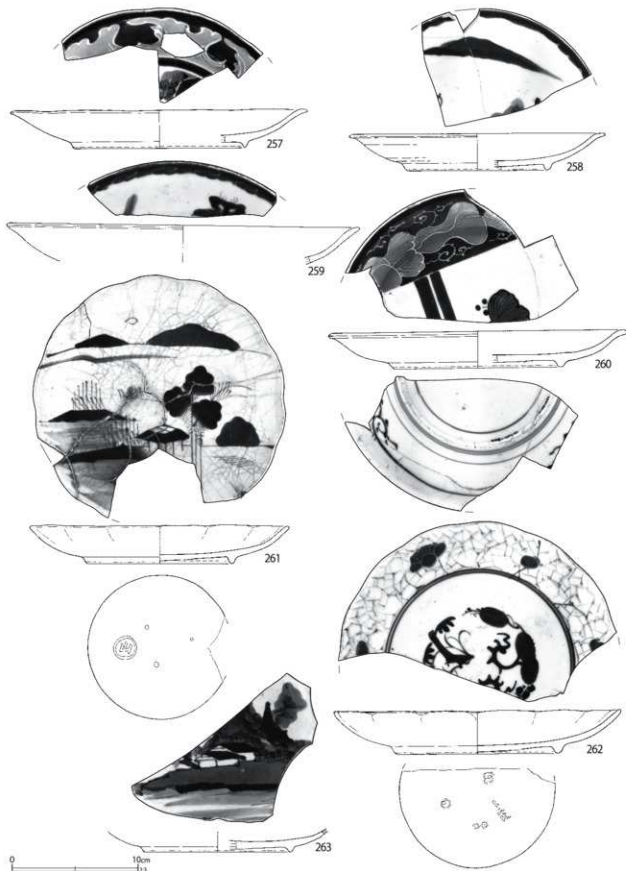
第28図 遺物包含層出土磁器 (10)



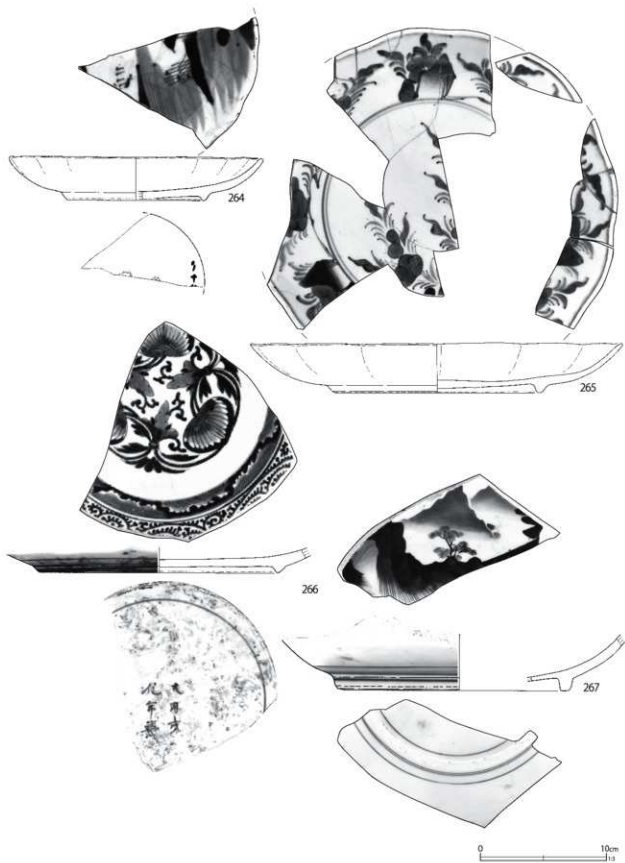
第29图 遺物包含層出土磁器 (11)



第30圖 遺物包含層出土磁器 (12)



第31图 遺物包含層出土磁器 (13)

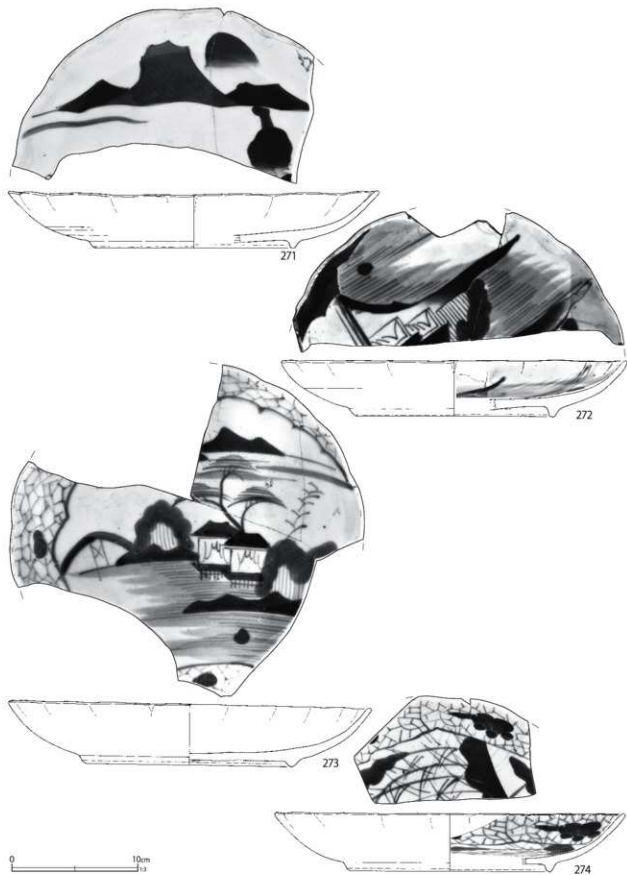


第32圖 遺物包含層出土磁器 (14)

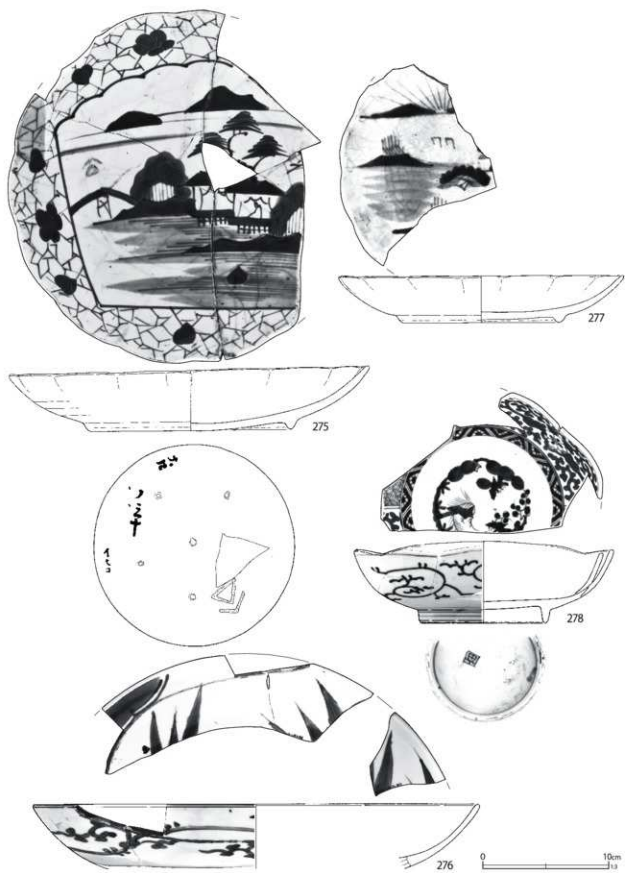




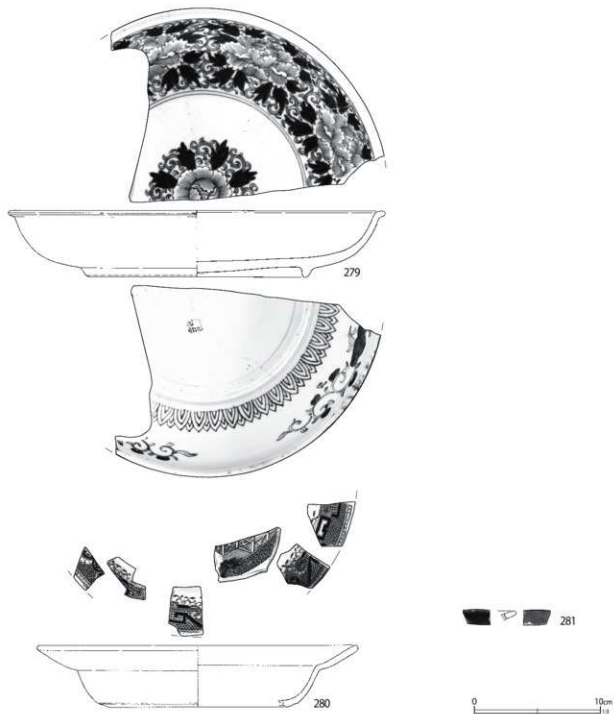
第33图 遗物包含層出土磁器 (15)



第34圖 遺物包含層出土磁器 (16)



第35图 遺物包含層出土磁器 (17)



第36図 遺物包含層出土磁器 (18)

された坏がある。

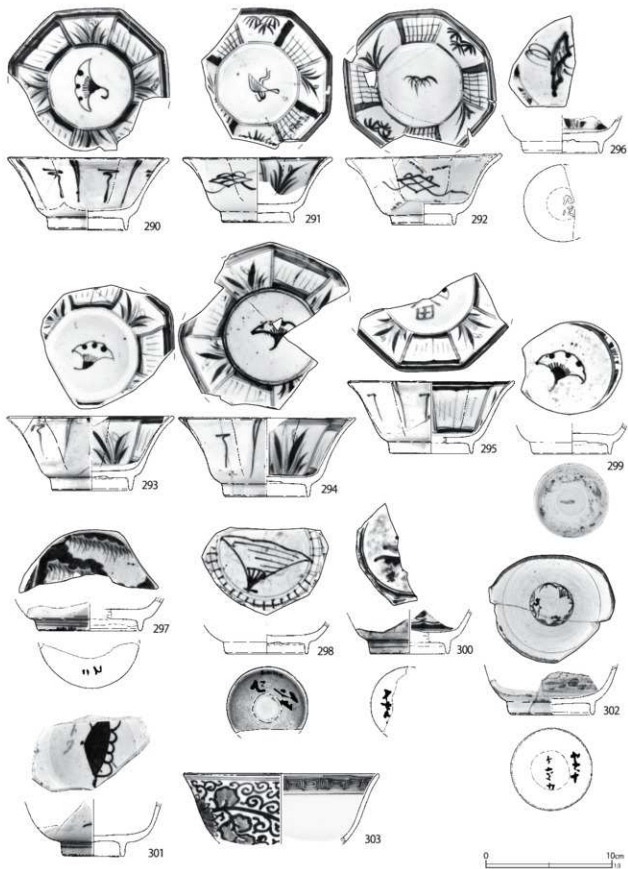
189・190は瀬戸美濃系の型紙摺絵染付筒形坏である。189は当時の社会状況を窺わせる珍しい一品で、「明治政府/天下泰平」とある。本製品は型紙摺絵染付磁器が普及し始める明治十年代の所産と考えられる。

第26図191～205は同文の瀬戸美濃系磁器皿である。破片が多量に出土しており、出土量の多さから見て、組物として使用されていたものが一括廃棄されたと思われる。

第27図223は型成型の陽刻文角皿で、青磁釉の釉調から三田焼と考えられる。三田焼は現在の兵



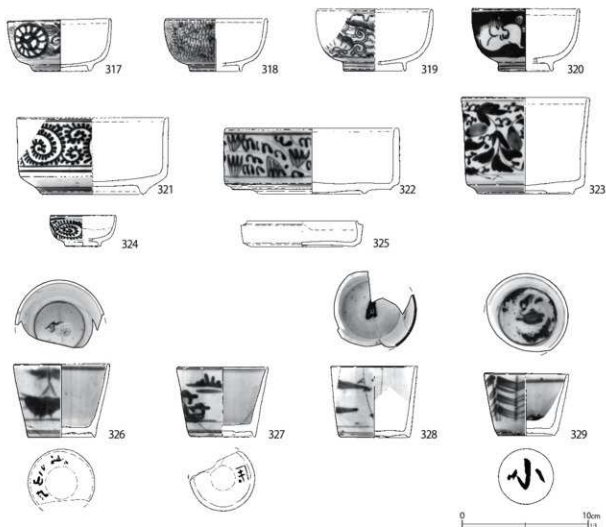
第37图 遺物包含層出土磁器 (19)



第38图 遺物包含層出土磁器 (20)



第39图 遗物包含层出土磁器 (21)



第40図 遺物包含層出土磁器 (22)

千葉県三田市にある磁器窯で、江戸時代中期から後期に興隆し、昭和初期まで創業されていた。平面形は三角形と推定されるが、三輪明神窯跡では、本製品と類似する内面陽刻製品用の型である内型A-1類：三角形に分類される型が出土している(三田市2000)。

第36図280・281は舶載陶磁器で、ヨーロッパ系軟質磁器の皿である。栗橋宿跡関連の遺跡では、長崎の出島阿蘭陀商館跡や江戸の都市遺跡とは異なり、19世紀後半に限り出土する傾向がある。

280は内面に銅版転写染付でウィロウ・パターンが絵付けられている。口縁は折鏢状で、畳付けも含め全面に施釉している。窯道具痕は観察されなかった。破片は6点出土しているが、接点を

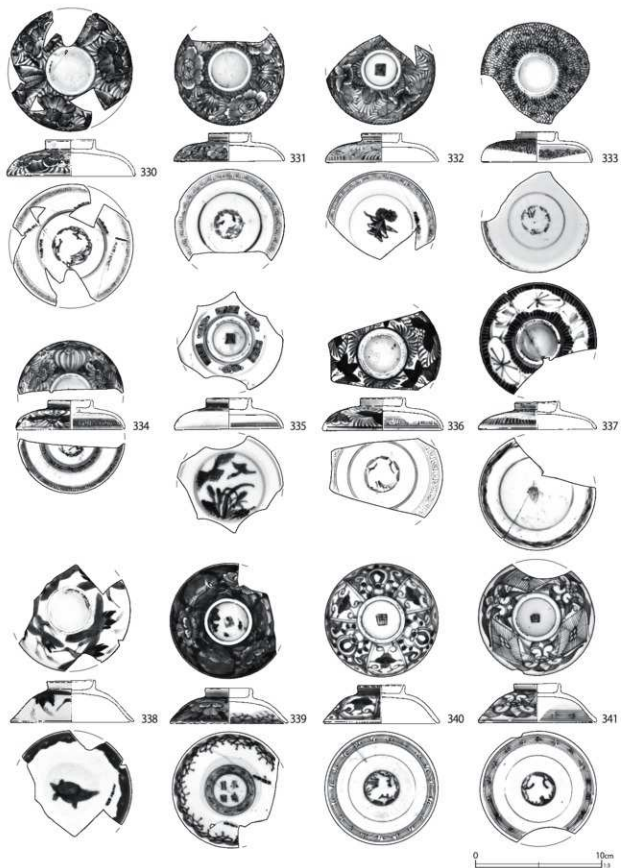
見出せないため図上復元を行った。栗橋宿本陣跡第654号土壌からの出土品に類例がある。年代は19世紀中葉である(埼玉県埋蔵文化財調査事業団2019d)。

281は酸化コバルトが滲む、所謂フロウ・ブルーの製品である。口縁部の細片ではあるが、栗橋宿跡関連ではヨーロッパ産陶磁器の全点図示を行っているため掲載した。

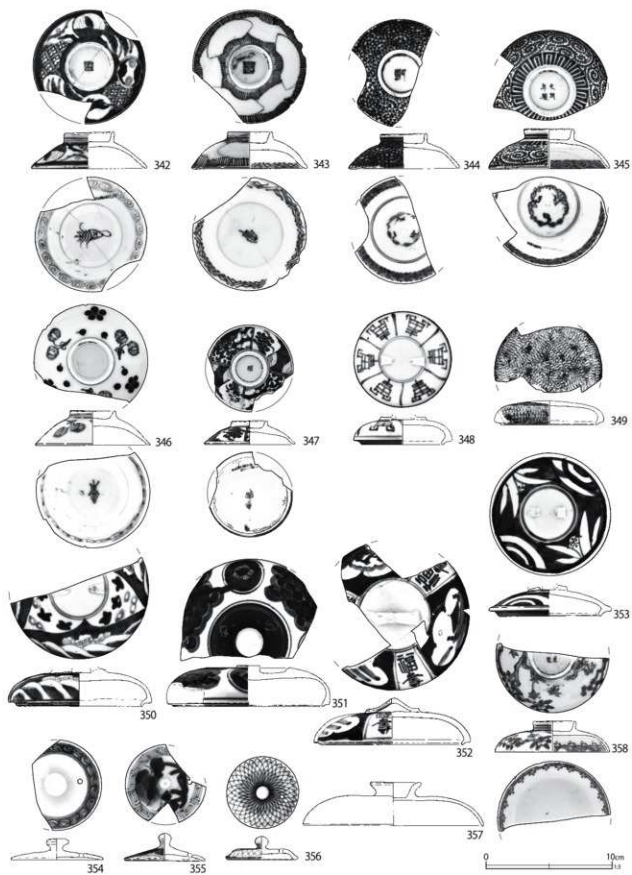
#### 陶器 (第45～57図)

第45図27は萬古系の可能性がある端反形環である。口縁部に鉄釉を流し掛けし、体部下位には成形時の圧痕が残る。胎土は灰色を呈し、緻密かつ極めて硬質である。高台内は渦巻状で、「万古」と刻印される。栗橋宿跡関連の萬古系陶器で、「萬

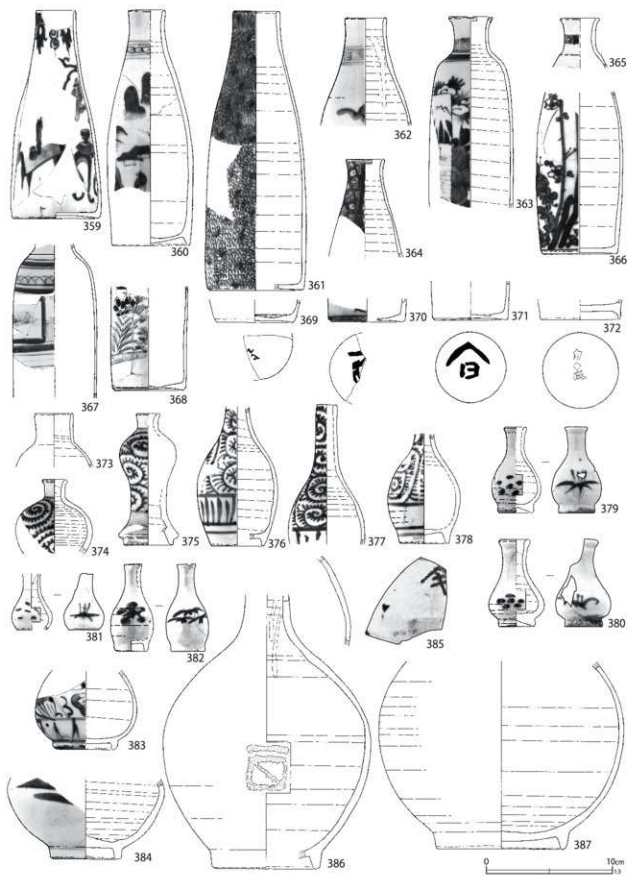




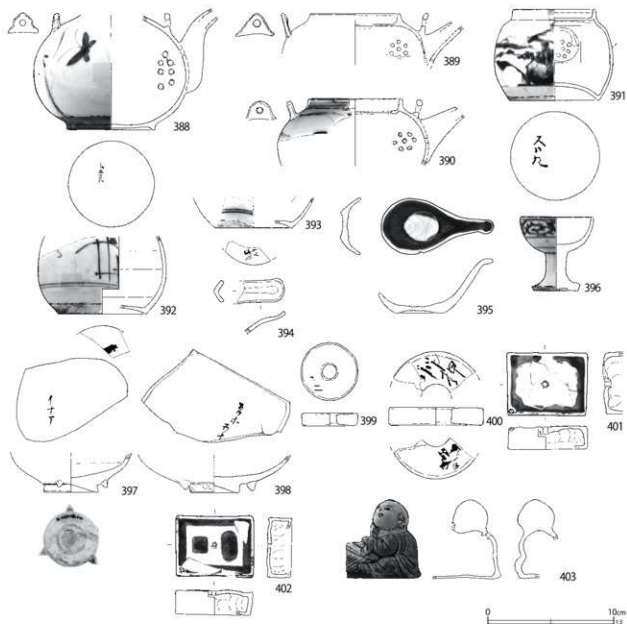
第41图 遗物包含层出土磁器 (23)



第12図 遺物包含層出土磁器 (24)



第43図 遺物包含層出土磁器 (25)



第44図 遺物包含層出土磁器(26)

ではなく「万」を用いる刻印は初出である。また、坏の出土も同様に初めてである。

第48図84は瀬戸美濃系のべこかん徳利で、内外面の大部分に黒漆が付着している転用品である。内部に刷毛(第74図133)が入った状態で出土しており、セットで使われたものと考えられる。

第49図97～108は、東北・北関東地方を中心に分布する頭部別造りの所謂すず徳利である。97は頭部鉄軸・体部灰軸で、外面にトビガナ状文が施文される。内面下位には製作技法に関わると考

えられる特徴的なチヂレ目が見られる。104は頭部青緑軸、外面はトビガナ状施文に鉄軸を施軸する。胎質から大塚相馬系の可能性がある。

第50図113～118は同文の白土染付土瓶で、注口部下面に「道八」の銘がある。また第52図160の両手鍋にも「道八」銘が認められる。

第53図164・165は飯能焼で、行平鍋の蓋と身である。軸調・胎土等が同様であることから、セット物と考えられる。胎土は緻密で、長石粒と思しき白色粒と黒色粒を多く含む。いずれも外面に飯

第2表 遺物包含層出土磁器観察表 (第19~44区)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	10.0	5.0	3.5	—	95	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 9層	
2	磁器	碗	(10.9)	5.5	3.9	—	30	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 8層A 表土	
3	磁器	碗	10.4	5.7	3.7	—	75	良好	白		肥前系 内外面施釉・染付 8層B	
4	磁器	碗	(10.4)	5.5	3.6	—	60	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 9層	
5	磁器	碗	10.2	5.6	3.8	—	80	良好	白		肥前系 内外面施釉・染付 8層A 9層	
6	磁器	碗	(10.4)	5.4	3.7	—	50	良好	白		肥前系 内外面施釉・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(赤) 4 8層A 9層	14-1
7	磁器	碗	(10.4)	5.4	3.6	—	65	良好	白		肥前系 内外面施釉・染付 8層A	
8	磁器	碗	10.2	5.4	(3.7)	—	85	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 9層	
9	磁器	碗	10.8	5.5	3.8	—	95	良好	白		肥前系 内外面施釉・染付 9層	
10	磁器	碗	(10.6)	5.4	3.7	—	30	良好	白		肥前系 内外面施釉・染付 高台内焼継印(赤) 8層A 表土	
11	磁器	碗	10.4	5.5	3.8	—	90	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(赤) 8層B	14-2
12	磁器	碗	10.5	5.7	3.6	—	70	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 9層	
13	磁器	碗	10.4	5.7	3.8	—	90	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 8層A・B 9層	
14	磁器	碗	10.2	6.0	3.6	—	90	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 寺理土6区 8層A 9層	
15	磁器	碗	(9.5)	5.0	3.5	—	40	良好	白		肥前系 内外面施釉・染付 8層A	
16	磁器	碗	10.4	5.5	(3.4)	—	65	良好	白		肥前系 内外面施釉・染付 8層A	
17	磁器	碗	(10.3)	4.5	3.3	—	55	良好	白		肥前系 内外面施釉・染付 8層B 9層	
18	磁器	碗	(14.9)	6.1	4.6	—	40	良好	白		肥前系 内外面施釉・染付 8層A・B	
19	磁器	碗	—	(5.3)	(5.3)	—	30	良好	白	SG1	肥前系 内外面施釉・染付	
20	磁器	碗	9.7	5.3	3.4	—	95	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉 上絵付(赤・緑・黄・青) 8層A	6-1
21	磁器	碗	(10.0)	(3.8)	—	—	10	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉・上絵付(赤・黒・緑) 焼継痕あり 9層	
22	磁器	碗	(9.9)	5.0	3.8	—	75	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 内面型押陰刻文 8層A・B	
23	磁器	碗	9.7	4.9	3.3	—	60	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 内面型押陰刻文 焼継痕あり 8層B 表土	
24	磁器	碗	(9.6)	4.7	3.5	—	60	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 8層B	6-2
25	磁器	碗	9.7	5.0	4.7	—	80	良好	白		清朝景德鎮窯系 内外面施釉・染付 9層	6-3
26	磁器	碗	(9.6)	4.9	4.5	—	35	良好	白		清朝景德鎮窯系 内外面施釉・染付 8層A 9層	6-4
27	磁器	碗	(10.8)	5.8	4.2	—	55	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
28	磁器	碗	10.5	5.6	4.0	—	95	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 9層	
29	磁器	碗	10.1	5.5	4.2	—	75	良好	白	視乱	肥前系 内外面施釉・染付 8層A	
30	磁器	碗	(10.6)	5.7	(4.0)	—	30	良好	白	SE1	肥前系 内外面施釉・染付	
31	磁器	碗	12.3	7.2	5.2	—	80	良好	白		肥前系 内外面施釉・染付 9層	
32	磁器	碗	9.4	5.5	3.8	—	80	良好	白		肥前系 内外面施釉・染付 28層	
33	磁器	碗	(10.6)	6.0	4.0	—	60	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(赤) 8層 9層	14-3
34	磁器	碗	10.6	6.0	(4.1)	—	65	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 9層	
35	磁器	碗	(10.2)	5.4	4.0	—	70	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 内面上位陰刻文 9層	
36	磁器	碗	(10.2)	(5.7)	—	—	40	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(赤・白) 8層A 9層	14-4
37	磁器	碗	—	(4.9)	4.7	—	45	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(透明) 8層B	14-5
38	磁器	碗	(10.4)	(5.1)	—	—	60	良好	白	SG1	肥前系 内外面施釉・染付	
39	磁器	碗	(10.3)	5.8	(4.2)	—	20	良好	白	SG1	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	
40	磁器	碗	(9.8)	(4.7)	—	—	20	良好	白	SE2	瀬戸美濃系 内外面施釉 染付	
41	磁器	碗	(9.8)	4.7	(3.4)	—	75	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉・染付・陰刻文 8層A・9層	
42	磁器	碗	9.0	4.6	3.7	—	95	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 8層B 9層	
43	磁器	碗	(8.2)	4.9	3.4	—	80	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 8層B 9層	
44	磁器	碗	8.1	4.5	2.9	—	55	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 欠質面に漆状物質付着 8層B	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
45	磁器	碗	(8.5)	4.2	(2.3)	—	20	良好	白	SG1	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面型押除刻文・酸化コバルト染付 口紅	
46	磁器	碗	(8.4)	4.9	(3.8)	—	50	良好	白	視乱	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
47	磁器	碗	(8.9)	5.0	3.9	—	50	良好	白	視乱	瀬戸美濃系 内外面施釉・染付	
48	磁器	碗	(8.2)	4.0	3.9	—	45	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 9層	
49	磁器	碗	(8.2)	4.1	2.9	—	40	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 口紅 8層A	
50	磁器	碗	(8.3)	4.2	3.2	—	50	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉 内面上絵付(黒化) 被熱 9層	
51	磁器	碗	(8.0)	[3.0]	—	—	15	良好	白		淡路根平系 内外面黄色釉 8層A	6-5
52	磁器	碗	7.3	3.7	2.8	—	95	良好	白		瀬戸美濃系 内外面瑠璃釉・染付 口紅 8層A 9層	6-6
53	磁器	碗	8.1	4.3	3.1	—	95	良好	白		瀬戸美濃系 内面施釉 外面青磁釉 口紅 内面刻印 9層	6-7
54	磁器	碗	(11.9)	[5.1]	—	—	20	良好	白	視乱	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 口紅	
55	磁器	碗	(10.3)	5.7	4.0	—	40	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉(鉄軸掛け分け) 9層	
56	磁器	碗	(11.5)	4.3	(3.6)	—	20	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉・型紙摺染付 8層A	
57	磁器	碗	8.5	7.7	4.6	—	75	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉 焼継痕あり 高台内焼継印(赤) 9層	6-8
58	磁器	碗	8.5	7.9	5.8	—	95	良好	白		肥前系 内外面施釉・染付 焼継痕あり 8層A	
59	磁器	碗	7.4	6.5	4.4	—	80	良好	白		肥前系 内外面施釉・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(透明) 8層B 9層	
60	磁器	碗	—	[5.2]	(4.0)	—	20	良好	白	SE2	肥前系 内外面施釉・染付	
61	磁器	碗	—	[3.9]	4.6	—	40	良好	白	SK1	肥前系 内外面施釉・染付	
62	磁器	碗	(6.9)	[3.7]	—	—	10	良好	白	SE2	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	
63	磁器	碗	7.0	5.8	3.6	—	90	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 被熱(弱) 8層A	
64	磁器	碗	6.8	6.0	3.5	—	80	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉 外面除刻文・染付 被熱(弱)	
65	磁器	碗	7.1	5.8	3.1	—	85	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉 外面除刻文・染付	
66	磁器	碗	(7.3)	[5.1]	—	—	25	良好	白	SG1	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面除刻文・染付	
67	磁器	碗	—	[5.7]	4.5	—	50	良好	白		瀬戸美濃系 内面施釉 外面青磁釉・上位凸帯1条 高台内染付 8層B	
68	磁器	碗	(7.6)	6.9	(5.2)	—	40	良好	白		瀬戸美濃系 内面施釉 外面青磁釉・上位凸帯1条 焼継痕あり 高台内染付・焼継印(赤) 8層A	6-9
69	磁器	碗	(8.0)	[5.1]	—	—	35	良好	白		瀬戸美濃系 内面施釉 外面青磁釉・上位凸帯1条 9層	
70	磁器	碗	7.3	6.0	4.3	—	90	良好	白		肥前系 内外面施釉・染付 9層	
71	磁器	碗	(7.2)	5.9	4.1	—	60	良好	白		肥前系 内外面施釉・染付 8層A・B 9層	
72	磁器	碗	(7.2)	6.0	(4.2)	—	35	良好	白		肥前系 内外面施釉・染付 9層	
73	磁器	碗	(7.2)	5.3	4.0	—	75	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 9層	
74	磁器	碗	(6.8)	5.6	3.7	—	60	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 8層A	
75	磁器	碗	7.4	5.8	3.5	—	75	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 9層	
76	磁器	碗	(6.8)	5.6	3.5	—	55	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 8層B	
77	磁器	碗	(6.6)	5.2	(4.1)	—	45	良好	白		肥前系 内外面施釉・染付 9層	
78	磁器	碗	(6.9)	5.8	(4.1)	—	45	良好	白		肥前系 内外面施釉 外面染付 被熱(弱) 8層B	
79	磁器	碗	6.3	4.8	3.6	—	65	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 8層A	
80	磁器	碗	(5.8)	4.8	(3.4)	—	50	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 8層B	
81	磁器	碗	(7.3)	6.0	4.0	—	70	良好	白		肥前系 内外面施釉・染付 9層	
82	磁器	碗	6.0	5.0	3.6	—	95	良好	白		肥前系 内外面施釉・染付 8層A	
83	磁器	碗	6.3	4.9	3.8	—	95	良好	白		肥前系 内外面施釉・染付 9層	
84	磁器	碗	(7.3)	5.9	(3.2)	—	20	良好	白		瀬戸美濃系 内面施釉 外面橙色釉・鉄・盛絵 8層A・B	6-10
85	磁器	碗	(7.3)	5.2	3.1	—	45	良好	白		肥前系 内面施釉 外面鉄釉 9層	
86	磁器	碗	7.0	5.2	3.4	—	65	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉 外面除刻文・染付 8層B	
87	磁器	碗	(7.0)	4.4	(3.3)	—	50	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 9層	
88	磁器	碗	(6.9)	4.2	3.1	—	45	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉・染付 8層B	
89	磁器	碗	6.8	5.9	3.1	—	95	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施釉 外面除刻文・染付 9層	
90	磁器	碗	(6.8)	4.8	(3.0)	—	45	良好	白	SG1	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付	
91	磁器	碗	(6.9)	4.6	2.8	—	80	良好	白		瀬戸美濃系 内面施釉 外面瑠璃釉 口紅 8層B	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	燒成	色調	遺構	備考	図版
92	磁器	碗	7.1	4.5	2.7	—	80	良好	白	瀬戸美濃系	内外面施釉 外面瑠璃釉 口紅 8層B	
93	磁器	碗	7.1	4.6	2.8	—	60	良好	白	瀬戸美濃系	内外面施釉 外面瑠璃釉 口紅 8層B 9層	
94	磁器	碗 (6.6)	4.3	3.0	—	65	良好	白	瀬戸美濃系	内外面施釉 外面瑠璃釉 9層		
95	磁器	碗	7.1	4.7	2.6	—	55	良好	白	瀬戸美濃系	内外面施釉 外面瑠璃釉 口紅 8層B	
96	磁器	碗 (6.8)	4.6	(2.8)	—	25	良好	白	瀬戸美濃系	内外面施釉 外面陰刻文・染付 27層		
97	磁器	碗	6.9	5.0	3.0	—	95	良好	白	瀬戸美濃系	内外面施釉 外面染付 8層B 9層	
98	磁器	碗	6.6	5.1	3.0	—	95	良好	白	瀬戸美濃系	内外面施釉 外面陰刻文・染付 9層	6-11
99	磁器	碗 (6.9)	5.0	2.6	—	65	良好	白	瀬戸美濃系	内外面施釉 外面陰刻文・染付 9層		
100	磁器	碗	6.7	4.5	2.9	—	75	良好	白	瀬戸美濃系	内外面施釉・染付 8層A	
101	磁器	碗	6.7	4.4	3.1	—	95	良好	白	瀬戸美濃系	内外面施釉・染付 9層	
102	磁器	碗	6.9	5.1	3.0	—	55	良好	白	瀬戸美濃系	内外面施釉 外面染付 8層B	
103	磁器	碗 (6.9)	4.8	2.7	—	60	良好	白	瀬戸美濃系	内外面施釉 外面染付 8層B		
104	磁器	碗	6.7	4.6	2.9	—	80	良好	白	瀬戸美濃系	内外面施釉 外面陰刻文・染付 9層	
105	磁器	碗 —	[2.8]	(2.9)	—	20	良好	白	SE2	瀬戸美濃系	内外面施釉 外面染付	
106	磁器	碗 (6.7)	4.7	(2.8)	—	40	良好	白	SE2	瀬戸美濃系	内外面施釉 外面陰刻文・染付	
107	磁器	碗 (7.3)	3.9	—	—	30	良好	白	複品	瀬戸美濃系	内外面施釉 外面染付	
108	磁器	碗 (7.0)	5.4	3.3	—	25	良好	白		瀬戸美濃系	内外面施釉・染付 8層A	
109	磁器	碗 (6.2)	4.1	3.2	—	50	良好	白		瀬戸美濃系	内外面施釉 外面染付 高台内凹溝状 9層	
110	磁器	碗 (6.1)	4.9	(3.1)	—	45	良好	白		瀬戸美濃系	内外面施釉・染付 燒痕痕あり 高台内凹溝状 (赤) 8層A	14-6
111	磁器	碗 (8.7)	6.2	3.8	—	45	良好	白		肥前系	内外面施釉・染付 燒痕痕あり 高台内凹溝状 (赤) 9層	14-7
112	磁器	碗 —	[4.1]	4.2	—	35	良好	白		瀬戸美濃系	内外面施釉・染付 高台内凹溝状 8層B	14-8
113	磁器	碗 —	[3.0]	(3.3)	—	35	良好	白	SE1	瀬戸美濃系	内外面施釉	
114	磁器	碗 (7.9)	3.9	(3.4)	—	60	良好	白		瀬戸美濃系	内外面施釉・染付 8層A	
115	磁器	碗 (8.0)	4.0	3.5	—	50	良好	白		瀬戸美濃系	内外面施釉・染付 9層	
116	磁器	碗	8.0	4.1	3.5	—	95	良好	白	瀬戸美濃系	内外面施釉・染付 8層A 9層	
117	磁器	碗	7.9	3.9	3.2	—	75	良好	白	瀬戸美濃系	内外面施釉・染付	
118	磁器	碗	8.0	3.9	3.4	—	80	良好	白	瀬戸美濃系	内外面施釉・染付 8層A	
119	磁器	碗	8.2	3.8	3.5	—	95	良好	白	瀬戸美濃系	内外面施釉・染付 8層A	6-12
120	磁器	碗	8.1	3.9	3.5	—	85	良好	白	瀬戸美濃系	内外面施釉・染付 9層	
121	磁器	碗 (8.1)	3.8	3.4	—	65	良好	白		瀬戸美濃系	内外面施釉・染付 8層A 9層	
122	磁器	碗	8.1	3.7	3.5	—	95	良好	白	瀬戸美濃系	内外面施釉・染付 9層	
123	磁器	碗 (6.4)	4.8	(2.8)	—	35	普通	白		瀬戸美濃系	内外面施釉 外面染付 口紅 8層A	
124	磁器	碗 —	[3.3]	3.1	—	40	良好	白		瀬戸美濃系	内外面施釉 外面染付 9層	
125	磁器	碗 (6.3)	4.8	3.0	—	65	良好	白		瀬戸美濃系	内外面施釉 外面染付 口紅	7-1
126	磁器	碗	6.5	4.6	3.1	—	60	良好	白	瀬戸美濃系	内外面施釉 外面染付 口紅 8層B	
127	磁器	碗	7.8	4.5	3.8	—	95	良好	白	瀬戸美濃系	内外面施釉・染付 8層A 9層	7-2
128	磁器	碗	7.8	4.6	3.6	—	95	良好	白	瀬戸美濃系	内外面施釉・染付 8層A	
129	磁器	碗	7.8	4.4	3.8	—	95	良好	白	瀬戸美濃系	内外面施釉・染付 8層 9層	
130	磁器	碗	8.0	4.4	3.8	—	90	良好	白	瀬戸美濃系	内外面施釉・染付 8層A 9層	
131	磁器	碗 —	[1.8]	3.1	—	—	良好	灰白	SG1	肥前系	内外面施釉 外面染付 円盤状製品転用	
132	磁器	坏	6.8	2.7	2.2	—	95	良好	灰白	肥前系	内外面施釉 外面染付 9層	
133	磁器	坏 (3.5)	2.4	2.0	—	50	良好	灰白		肥前系	内外面施釉 外面染付 9層	
134	磁器	坏 (2.9)	2.2	(1.9)	—	25	良好	灰白		肥前系	内外面施釉 8層A	
135	磁器	坏	6.4	2.9	2.1	—	75	良好	灰白	肥前系	内外面施釉 外面染付 9層	
136	磁器	坏 (6.0)	2.4	2.1	—	40	良好	白		肥前系	内外面施釉 外面上給付 (赤) 8層A	14-10
137	磁器	坏 (7.0)	2.7	(2.6)	—	40	良好	白		肥前系	内外面施釉 外面上給付 (赤) 熟変 (黒) 8層A	14-9
138	磁器	紅皿	5.6	1.4	2.0	—	95	良好	白	瀬戸美濃系	型成形・陰刻文 内外面施釉 8層A 9層	7-3
139	磁器	紅皿	6.0	2.0	2.2	—	100	良好	白	瀬戸美濃系	型成形・陰刻文 内外面施釉 8層A 9層	7-4
140	磁器	紅坏	(4.6)	2.7	2.2	—	50	良好	白	肥前系	型成形 内外面施釉 8層A	7-5

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
141	磁器	坏	(5.2)	2.6	(2.0)	—	25	良好	白		瀬戸美濃系 形成型 外面黒刻文・施軸・染付 9層	
142	磁器	坏	(5.0)	[2.0]	1.8	—	40	良好	白	SE1	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付	
143	磁器	坏	7.3	3.6	3.1	—	30	良好	白		肥前系 内外面施軸 内面上絵付(赤・緑) 8層B	
144	磁器	坏	(6.3)	3.0	(2.5)	—	30	良好	白	SE2	肥前系 内外面施軸	
145	磁器	坏	6.1	2.8	2.4	—	80	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸 内面上絵付(青) 8層A 8層B	14-11
146	磁器	坏	5.6	5.7	2.2	—	90	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 内面上絵付(青) 9層	14-12
147	磁器	坏	—	[1.6]	2.2	—	60	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 内面上絵付(青)「盛・金彩」9層	14-14
148	磁器	坏	5.8	2.8	2.2	—	90	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 内面上絵付(青)「下総野田中町」「茂木佐平治語」「黒箱格別仕入」「泉清」金区 9層	14-13
149	磁器	坏	(5.3)	2.8	2.2	—	55	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 内面上絵付(青)「酒具」8層 8層A	14-15
150	磁器	坏	6.0	2.7	2.3	—	90	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバルト染付 内面上絵付(青)・金彩「銘酒」「青木製」8層A	14-16
151	磁器	坏	(5.9)	2.7	2.4	—	50	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 内面上絵付(青)「三國第一福祿寿水引造」「金」8層A	14-17
152	磁器	坏	(6.0)	2.7	(2.3)	—	45	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 内面上絵付(青)「柏倉翠平山」8層B	14-18
153	磁器	坏	(5.6)	3.1	2.4	—	75	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 内面上絵付(青)「目黒」9層	14-19
154	磁器	坏	(3.0)	2.7	(2.4)	—	30	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸 内面上絵付(青) 8層B	14-20
155	磁器	坏	—	[2.0]	2.3	—	75	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 内面上絵付(青) 9層	14-21
156	磁器	坏	—	[1.7]	(2.1)	—	35	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバルト染付 内面上絵付(青)「イナリ文」8層A	14-22
157	磁器	坏	(6.7)	2.7	2.4	—	80	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 内面上絵付(黒) 8層A 8層B	
158	磁器	坏	—	[1.0]	2.2	—	90	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 内面上絵付(青)「瀬戸口」被熱(上絵付黒化) 8層B	14-23
159	磁器	坏	(6.5)	[1.8]	—	—	20	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸 内面上絵付(青)「草加」8層A	15-1
160	磁器	坏	(5.9)	[2.3]	—	—	20	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸 内面上絵付(青) 9層	15-2
161	磁器	坏	—	[1.5]	2.5	—	90	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバルト染付 内面上絵付(青) 8層A 4区サブレンテ	15-3
162	磁器	坏	(5.9)	[2.1]	—	—	15	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸 内面上絵付(青)「万上」8層B	15-4
163	磁器	坏	(5.6)	2.7	2.2	—	60	良好	白	視乱	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 内面上絵付(青)	15-5
164	磁器	坏	5.5	2.8	2.3	—	60	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 内面上絵付(青)「櫻川」「大正」3区	15-6
165	磁器	坏	—	[1.7]	2.5	—	20	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 内面上絵付(青) 1区 表採	15-7
166	磁器	坏	—	[1.1]	2.2	—	20	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 内面上絵付(青) 5区 表採	15-8
167	磁器	坏	(5.9)	3.1	(2.6)	—	25	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸 外面凸帯 1条 内面上絵付(青)被熱(上絵付黒化) 9層	
168	磁器	坏	(5.1)	4.1	1.4	—	30	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸 内面・口縁金彩 内面上絵付(青) 9層	
169	磁器	坏	5.0	3.2	2.3	—	75	良好	白	視乱	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面金彩	
170	磁器	坏	(7.2)	4.8	(2.6)	—	55	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸 口紅 9層	7-6
171	磁器	坏	(6.6)	5.0	3.2	—	45	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸 口紅 8層B	
172	磁器	坏	7.0	4.8	(2.9)	—	75	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸 口紅 8層A 9層	
173	磁器	坏	(6.6)	4.7	2.6	—	40	良好	白	視乱	瀬戸美濃系 内外面施軸 口紅 高台内焼隠印(赤)	
174	磁器	坏	(6.9)	5.5	(3.4)	—	30	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸 内面型押除刻文 口紅 9層	
175	磁器	坏	6.2	[4.3]	—	—	90	良好	白		瀬戸美濃系 内面施軸・除刻文 外面青磁軸 口紅 9層	7-7
176	磁器	坏	—	[2.1]	2.5	—	60	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コバルト染付 8層A	
177	磁器	坏	(3.5)	4.6	3.5	—	65	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 9層	
178	磁器	坏	7.2	4.7	3.7	—	85	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 8層	
179	磁器	坏	(6.8)	4.7	2.8	—	55	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 8層B	
180	磁器	坏	7.2	4.6	3.7	—	90	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 9層	



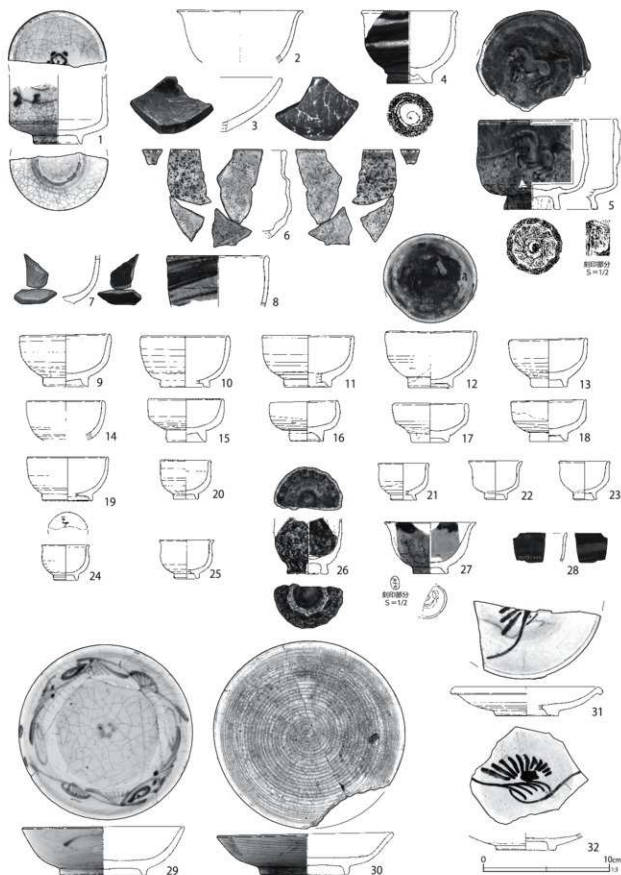
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
181	磁器	坏	6.8	4.2	2.8	—	85	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 焼継あり 高台内焼 罫印(赤) 9層	15-9
182	磁器	坏	(6.6)	4.1	(2.8)	—	45	良好	白		瀬戸美濃系 内面施軸 外面酸化クロム青磁軸・絵付(緑・ 黒) 8層A	
183	磁器	坏	—	[1.8]	(3.7)	—	25	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 焼継あり 高台内焼 罫印	
184	磁器	坏	(6.7)	3.5	(2.7)	—	45	良好	白	SG1	瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 口紅 被熱(弱)	
185	磁器	坏	(6.6)	3.0	2.4	—	50	良好	白	SE2	瀬戸美濃系 内外面施軸 染付	
186	磁器	坏	(6.6)	3.2	2.6	—	40	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸 高台内無軸 外面染付・下位トビ ガンナ状施文 口紅 8層A 8層B 9層	
187	磁器	坏	(6.4)	2.9	(2.6)	—	45	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 高台内無軸 外面下位トビ ガンナ状施文 口紅 9層	
188	磁器	坏	6.2	4.3	2.8	—	50	良好	白		瀬戸美濃系 型成形 外面隔刻文 内外面施軸 口紅 8層A	
189	磁器	坏	(5.0)	5.4	3.0	—	45	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸・型紙摺繪染付「天下泰平」「明 治政府」「山友製園」8層A	7-8
190	磁器	坏	4.8	5.7	2.9	HK	90	不良	灰白	SK1	瀬戸美濃系 内外面施軸・型紙摺繪染付	
191	磁器	皿	10.2	2.2	5.5	—	95	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 口紅 8層A	7-9
192	磁器	皿	10.4	2.0	5.7	—	90	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 口紅 8層A 9層	
193	磁器	皿	10.2	2.2	5.2	—	85	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 口紅 8層A 9層	
194	磁器	皿(10.3)	2.1	(5.8)	—	50	良好	白			瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 口紅 8層A	
195	磁器	皿	10.4	5.6	2.1	—	55	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 口紅 9層 27層	
196	磁器	皿	10.6	2.2	5.6	—	55	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 口紅 9層	
197	磁器	皿(10.6)	2.2	5.8	—	50	良好	白			瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 口紅 9層	
198	磁器	皿(10.3)	2.1	(5.6)	—	50	良好	白			瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 口紅 9層	
199	磁器	皿(10.4)	2.0	(5.7)	—	45	良好	白			瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 口紅 9層	
200	磁器	皿	10.5	2.2	5.7	—	55	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 口紅 表土	
201	磁器	皿(10.5)	2.1	(5.6)	—	30	良好	白			瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 口紅 8層A 9層	
202	磁器	皿(10.2)	2.0	(5.6)	—	35	良好	白			瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 口紅 9層	
203	磁器	皿(10.4)	2.1	(6.0)	—	25	良好	白			瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 口紅 8層A	
204	磁器	皿(10.5)	2.1	(6.0)	—	30	良好	白			瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 口紅 9層	
205	磁器	皿	—	[1.9]	5.8	—	80	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 表土 9層	
206	磁器	皿(9.8)	2.6	(5.1)	—	25	良好	白			瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 9層	
207	磁器	皿	10.4	2.2	6.3	—	90	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 8層B 9層	7-10
208	磁器	皿(10.6)	2.0	(6.4)	—	30	良好	白			瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 8層B	
209	磁器	皿(10.5)	2.7	(5.4)	—	30	良好	白			瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 9層	
210	磁器	皿(10.1)	2.7	(5.6)	—	35	良好	白			瀬戸美濃系 内外面施軸 内面染付 8層B	
211	磁器	皿	9.7	2.5	5.5	K	95	良好	灰白		肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 9層	
212	磁器	皿	9.3	2.4	5.6	K	95	良好	灰白		肥前系 内外面施軸 内面染付	
213	磁器	皿(9.9)	2.4	5.3	K	75	良好	白			肥前系 内外面施軸(白濁)・染付 9層	
214	磁器	皿	9.9	2.8	5.2	—	90	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸 内面型押隔刻文・染付 口紅 9層	8-1
215	磁器	皿(8.8)	2.2	(4.6)	—	25	良好	白			瀬戸美濃系 内外面施軸 内面型押隔刻文・染付 口紅 9層	
216	磁器	皿	8.1	2.6	3.7	—	45	良好	白		瀬戸美濃系 型成形 内外面施軸 内面隔刻文 8層A 9層	
217	磁器	皿	7.6	2.2	3.5	—	85	良好	白		瀬戸美濃系 型成形 内外面施軸 内面隔刻文・染付 8層B	
218	磁器	皿(8.6)	2.4	4.1	—	45	良好	白			瀬戸美濃系 型成形 内外面施軸 内面隔刻文・染付 口紅 8層B	
219	磁器	皿(9.1)	2.8	(4.3)	—	55	良好	白			瀬戸美濃系 型成形 内外面施軸 内面隔刻文・染付 口紅 9層	
220	磁器	皿	9.4	2.5	5.0	—	85	良好	白		瀬戸美濃系 型成形 内外面施軸 内面隔刻文・染付 8層B	
221	磁器	皿(9.2)	2.5	(4.6)	—	25	良好	白	SE1		瀬戸美濃系 内外面施軸 内面型押隔刻文・染付	
222	磁器	皿(9.2)	1.7	(5.2)	—	40	良好	白			瀬戸美濃系 内外面施軸 内面型押隔刻文 8層A	
223	磁器	皿	—	2.3	—	—	5	良好	白		三田系 型成形 内外面青磁軸 内面隔刻文 表土	
224	磁器	皿(8.1)	1.7	4.5	—	30	良好	白			肥前系 内外面施軸 内面型押隔刻文 口紅 8層A	8-2
225	磁器	皿(9.7)	2.3	(5.0)	—	55	良好	白			肥前系 内外面施軸 内面型押隔刻文 口紅 表土 8層A	
226	磁器	皿(13.2)	4.0	(7.7)	—	40	良好	白			肥前系 内外面施軸 内面型押隔刻文 口紅 9層	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
227	磁器	皿	(13.5)	4.0	7.8	—	40	良好	白		肥前系 内外面施軸 内面型押刷刻文 口紅 表採	
228	磁器	皿	(14.4)	4.7	(8.4)	—	35	良好	白		肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 表土	
229	磁器	皿	(14.7)	4.1	8.1	—	75	良好	白		肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 高台内墨書「◎さのや」8層A 9層 表土	
230	磁器	皿	15.8	3.3	8.7	—	90	良好	白		肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 高台内焼継印(赤) 2 焼継痕あり 9層 表採	15-10
231	磁器	皿	(14.8)	4.2	8.8	—	60	良好	白		肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 8層A-B 9層	
232	磁器	皿	—	[3.1]	8.2	—	85	良好	白		肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 9層	
233	磁器	皿	—	[1.8]	(7.8)	—	40	良好	白		肥前系 内外面施軸 内面染付 高台内墨書 8層B	
234	磁器	皿	14.7	4.2	7.9	—	60	良好	白		肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 高台内墨書 8層A	
235	磁器	皿	(14.6)	4.3	(9.2)	—	30	良好	白		肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 表採	
236	磁器	皿	14.7	4.6	8.2	—	95	良好	白		肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 高台内墨書 9層	
237	磁器	皿	(14.5)	4.3	8.5	—	60	良好	白	SE1	肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 高台内墨書「全」外面採付者	
238	磁器	皿	(14.8)	4.3	8.4	—	75	良好	白		肥前系 内外面施軸 内面染付 口紅 9層	
239	磁器	皿	(14.5)	3.7	7.3	—	65	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸 内面刷刻文・酸化コバルト染付 口紅 8層A	
240	磁器	皿	(14.0)	3.4	6.3	—	40	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸 内面刷刻文・酸化コバルト染付 口紅 表採 8層B	
241	磁器	皿	(13.6)	3.6	6.9	—	85	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 内面型押刷刻文 口紅 焼継痕あり 焼継印(赤) 9層	8-3
242	磁器	皿	(13.2)	3.9	(7.6)	—	50	良好	灰白		肥前系 内外面施軸・染付 9層	
243	磁器	皿	(13.1)	3.2	(8.0)	—	10	良好	白	視乱	肥前系 内外面施軸・染付	
244	磁器	皿	13.2	4.8	7.5	—	80	良好	灰白		肥前系 内外面施軸・染付 8層A-B	
245	磁器	皿	13.5	3.7	8.5	—	75	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 表土	
246	磁器	皿	(13.7)	3.4	(8.1)	—	30	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 表土 8層A	
247	磁器	皿	—	[1.1]	(10.0)	—	45	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 高台内焼継印(赤) 表土	15-11
248	磁器	皿	(13.5)	4.0	(7.7)	—	35	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 表土 8層A	
249	磁器	皿	(15.7)	2.8	(9.6)	—	20	良好	白		肥前系 内外面施軸・内面染付 口紅 高台内焼継印(赤) 8層B	15-12
250	磁器	皿	(13.8)	2.7	(7.8)	—	30	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 焼継痕あり(一部緑化) 9層	8-4
251	磁器	皿	(18.2)	[2.8]	—	—	20	良好	白		肥前系 内外面施軸(内面青磁軸)・染付 表土 8層B	
252	磁器	皿	(14.4)	2.6	7.8	—	75	良好	白	SK1	瀬戸美濃系 内外面施軸・酸化コバルト染付	15-13
253	磁器	皿	(17.6)	3.4	10.2	—	45	良好	灰白		肥前系 内外面施軸 内面染付 高台内ハリ支脚 1 9層	
254	磁器	皿	(16.2)	2.8	(8.8)	—	45	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 焼継痕あり 焼継印あり 9層	8-5
255	磁器	皿	(22.5)	3.9	(12.4)	—	20	良好	白		肥前系 内外面施軸 内面染付 焼継痕あり 8層B	
256	磁器	皿	(21.6)	3.4	(12.7)	—	30	良好	白		肥前系 内外面施軸 内面染付 8層A	
257	磁器	皿	(22.9)	3.0	(13.4)	—	15	良好	白		肥前系 内外面施軸 内面染付 8層A-B 9層	
258	磁器	皿	(19.7)	2.9	(11.0)	—	20	良好	白		肥前系 内外面施軸 内面染付 高台内ハリ支脚 2 遺存 9層	
259	磁器	皿	(27.6)	[3.0]	—	—	15	良好	白		肥前系 内外面施軸 内面染付	
260	磁器	皿	(26.4)	2.9	(23.0)	—	30	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 高台内ハリ支脚 1 遺存 8層A-B	
261	磁器	皿	20.3	3.0	11.4	—	90	良好	白		肥前系 内外面施軸 内面染付 高台内ハリ支脚 3 焼継痕あり 焼継印(透明) ◎ 8層A	15-14
262	磁器	皿	(22.4)	3.4	12.6	—	50	良好	白		肥前系 内外面施軸 内面染付 高台内ハリ支脚 4 遺存 焼継痕(透明)	
263	磁器	皿	—	[1.8]	(11.6)	—	25	良好	白	SG1	肥前系 内外面施軸 内面染付 高台内ハリ支脚 1 遺存	
264	磁器	皿	(19.8)	3.4	(10.8)	—	20	良好	白		肥前系 内外面施軸 内面染付 高台内ハリ支脚 2 遺存 焼継印(赤) 9層	15-15
265	磁器	皿	(29.2)	3.9	(16.0)	—	45	良好	白		肥前系 内外面施軸 内面染付 高台内ハリ支脚 3 遺存 焼継痕あり 8層A 9層 28層 32層 33層 SE2	
266	磁器	皿	—	[2.0]	(18.8)	—	30	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 9層	
267	磁器	皿	—	[4.5]	(18.3)	—	20	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 9層	
268	磁器	皿	縦13.3 横(16.2) 高さ4.0 底径7.0			—	60	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 9層	8-6
269	磁器	皿	(25.8)	4.7	(15.0)	—	30	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 表土	8-7

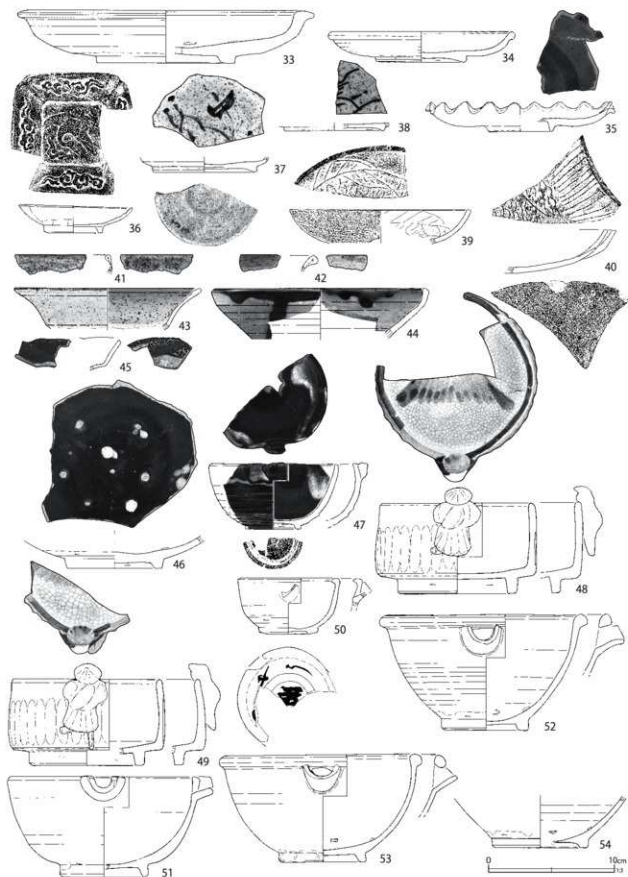
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
270	磁器	皿	(22.2)	3.9	(13.8)	—	40	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 表土 8層A	8-8
271	磁器	皿	(29.1)	4.5	(15.6)	—	35	良好	白		肥前系 内外面施軸 内面染付 高台内ハリ支跡 2遺存 9層	
272	磁器	皿	(27.0)	4.4	(15.5)	—	30	良好	白		肥前系 内外面施軸 内面染付 高台内ハリ支跡 2遺存 表土 8層A	
273	磁器	皿	(28.4)	4.9	16.2	—	75	良好	白		肥前系 内外面施軸 内面染付 高台内ハリ支跡 5遺存 9層	
274	磁器	皿	(26.8)	4.6	(15.8)	—	20	良好	白		肥前系 内外面施軸 内面染付 表土	
275	磁器	皿	28.2	4.8	15.8	—	75	良好	白		肥前系 内外面施軸 内面染付 高台内ハリ支跡 5遺存 焼印3(赤) 内外面釘書「金」 焼継痕あり 8層A・B 9層	8-9
276	磁器	皿	(35.0)	[5.1]	—	—	10	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 焼継痕あり 8層A 9層	
277	磁器	皿	(22.3)	3.7	(12.2)	—	25	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 8層B	
278	磁器	皿	(20.2)	6.2	9.8	—	50	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 9層	
279	磁器	皿	(29.4)	5.2	(17.2)	—	40	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 8層A	8-10
280	軟質磁器	皿	(25.0)	4.9	(14.1)	—	15	良好	白	SE2	ヨーロッパ系 内外面施軸 内面銅版転写染付(ウィロウ・パターン) 接点のない同一破片2点から復元	8-12
281	軟質磁器	皿	—	[0.7]	—	—	5	良好	灰白		ヨーロッパ系 内外面施軸 フロウ・ブルー 8層	8-13
282	磁器	鉢	(16.6)	7.5	7.6	—	55	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 8層A 9層	
283	磁器	鉢	—	[4.7]	(7.8)	—	10	良好	白	SE2	肥前系 内外面施軸・染付 焼継痕あり 焼継印(赤) 高台内釘書「金」	8-11
284	磁器	鉢	16.3	7.3	8.1	—	90	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 高台内釘書「木」 煤付着 9層	
285	磁器	鉢	—	[8.0]	10.5	—	40	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 9層	
286	磁器	鉢	(15.7)	7.4	7.1	—	45	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 高台内焼継印(赤) 9層 14層	15-16
287	磁器	鉢	14.3	7.1	7.4	—	45	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 8層B 9層	
288	磁器	鉢	16.1	6.9	7.5	—	70	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(赤) 絞熟 8層A・B 9層 2層施跡	15-17
289	磁器	鉢	(13.5)	[5.7]	—	—	45	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 8層A 9層	
290	磁器	鉢	(12.5)	5.7	6.1	—	70	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 8層A	
291	磁器	鉢	(11.5)	5.1	5.5	—	65	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 8層A・B	
292	磁器	鉢	12.1	5.4	4.9	—	80	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 8層A 9層	
293	磁器	鉢	(12.8)	5.8	6.1	—	50	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付	
294	磁器	鉢	(13.8)	6.2	6.6	—	60	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 8層A・B	
295	磁器	鉢	(12.9)	5.7	(6.4)	—	45	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 内面釘書「金」 8層B	
296	磁器	鉢	—	[3.0]	6.0	—	40	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 高台内焼継印(透明) 9層	15-18
297	磁器	鉢	—	[2.6]	(8.0)	—	20	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 高台内焼継印(赤) 8層A	15-20
298	磁器	鉢	—	[2.5]	6.3	—	50	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 内面ハリ支跡 4遺存 高台内焼継印(赤) 9層	15-21
299	磁器	鉢	—	[2.5]	6.0	—	20	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 高台内釘書「一」 表土	15-19
300	磁器	鉢	—	[3.5]	(6.0)	—	10	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(赤) 煤付着 9層	15-22
301	磁器	鉢	—	[4.3]	4.5	—	40	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 内面釘書「トリ」 8層A	
302	磁器	鉢	—	[4.0]	6.5	—	45	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(赤) 2	15-23
303	磁器	鉢	(15.3)	[5.6]	—	—	55	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 焼継痕あり 9層	
304	磁器	鉢	16.0	7.0	8.0	—	85	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 高台内二次穿孔(楕木鉢転用) 8層B 9層	
305	磁器	鉢	(12.5)	6.3	6.4	—	50	良好	白		肥前系 内外面施軸(内面上位青磁軸)・染付 高台内釘書「ト」	15-24
306	磁器	鉢	(16.2)	7.4	(9.2)	—	30	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 8層A・B 9層	
307	磁器	鉢	—	[5.5]	(8.8)	—	20	良好	白	視品	肥前系 内外面施軸・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(赤)	15-25
308	磁器	鉢	(12.6)	[4.6]	—	—	10	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 口縁・凸帯部鉄軸 9層	
309	磁器	鉢	(13.6)	9.6	5.6	—	70	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 焼継痕あり 高台内焼継印(赤) 8層A・B	9-1
310	磁器	鉢	12.8	6.4	5.8	—	90	良好	白		三田系か 内外面青磁軸 内面型押漏刻状文 9層	9-2
311	磁器	鉢	12.4	4.9	6.2	—	95	良好	白		肥前系 内外面青磁軸 9層	9-3

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	烧成	色调	遺構	備考	図版
312	磁器	鉢	(8.6)	[5.7]	—	—	20	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 8層A	
313	磁器	鉢	(11.3)	[3.9]	—	—	20	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸 内面上絵付(黒・赤・緑) 9層	
314	磁器	鉢	—	[3.9]	4.2	—	40	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸 内面上絵付(黒・赤) 9層	
315	磁器	鉢	(13.0)	5.5	(5.4)	—	20	良好	白	SG1	瀬戸美濃系 内外面施軸 口縁埋瑠璃軸 内面型押彫刻文 高台内同心円状施文・筋軸	
316	磁器	鉢	(14.0)	5.3	(7.1)	—	30	良好	白		淡路坂平系 内外面黄色軸 8層A	
317	磁器	蓋物	8.1	4.1	4.4	—	55	良好	白		肥前系 内外面施軸 外面染付 8層A	
318	磁器	蓋物	(7.9)	4.1	(3.9)	—	45	良好	白		肥前系 内外面施軸 外面染付 8層A	
319	磁器	蓋物	(9.0)	4.8	(4.8)	—	25	良好	白		肥前系 内外面施軸 外面染付 9層	
320	磁器	蓋物	(8.4)	5.0	(4.2)	—	40	良好	白		肥前系 内外面施軸 外面染付 8層A	
321	磁器	段重	(11.9)	6.0	(8.0)	K	35	良好	白		肥前系 内外面施軸 外面染付 8層B	
322	磁器	段重	(13.6)	5.2	8.4	—	50	良好	白		肥前系 内外面施軸 外面染付 8層B 9層	
323	磁器	蓋物	(10.0)	7.6	7.5	—	45	良好	白	SE1	肥前系 内外面施軸 外面染付	
324	磁器	合子	(5.1)	2.5	(2.6)	—	40	良好	白	視乱	肥前系 内外面施軸 外面染付	
325	磁器	合子	8.6	2.0	8.2	—	95	良好	白		肥前系 内外面施軸 8層B	
326	磁器	猪口	(7.4)	5.7	5.2	—	50	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 高台内墨板 9層	16-1
327	磁器	猪口	(7.1)	5.5	5.1	—	60	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 高台内墨書「乳」 9層	16-2
328	磁器	猪口	(6.8)	5.6	5.4	—	45	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 口紅 9層	
329	磁器	猪口	6.6	4.9	4.4	—	75	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 底部墨書「小」 9層	16-3
330	磁器	蓋	3.8	2.9	10.0	—	70	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 8層A・B 9層	
331	磁器	蓋	3.3	2.3	8.7	—	90	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 8層A	
332	磁器	蓋	3.1	2.3	8.9	—	60	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 8層B	
333	磁器	蓋	3.2	2.4	(8.6)	—	60	良好	白	SE2	肥前系 内外面施軸 染付	
334	磁器	蓋	(3.4)	2.3	(8.6)	—	45	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 8層B	
335	磁器	蓋	3.5	2.5	(8.5)	—	80	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 8層B	
336	磁器	蓋	3.4	2.6	(9.4)	—	60	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 9層	
337	磁器	蓋	3.4	2.2	9.3	—	75	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 8層B	
338	磁器	蓋	3.7	3.3	(9.7)	—	65	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 8層B 9層	
339	磁器	蓋	3.6	2.8	9.2	—	85	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 8層B 33層	
340	磁器	蓋	3.6	3.0	9.0	—	100	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 9層	
341	磁器	蓋	3.5	3.1	9.2	—	95	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 8層A	
342	磁器	蓋	3.8	2.8	9.0	—	85	良好	白		肥前系 内外面施軸・染付 8層A 9層	
343	磁器	蓋	3.4	2.9	9.0	—	90	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 9層	
344	磁器	蓋	3.6	2.7	8.6	—	55	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 8層A	
345	磁器	蓋	3.8	3.1	(9.5)	—	75	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 8層A	
346	磁器	蓋	3.0	2.8	8.9	—	75	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸・染付 9層	
347	磁器	蓋	2.6	1.9	(7.0)	—	75	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸・上絵付(赤・緑・青・黄・黒) 8層A 9層	9-4
348	磁器	蓋	—	[2.2]	6.4	—	95	良好	白		肥前系 内外面施軸 外面染付 9層	
349	磁器	蓋	—	1.9	7.5	—	55	普通	白		肥前系 内外面施軸 外面染付 8層A	
350	磁器	蓋	—	[4.0]	9.9	—	55	良好	白		肥前系 内外面施軸 外面染付 8層B	
351	磁器	蓋	—	3.2	(11.8)	—	45	良好	白		肥前系 内外面施軸 外面染付 8層B	9-5
352	磁器	蓋	—	3.7	(11.0)	—	60	良好	白		肥前系 内外面施軸 外面染付 8層A 9層 視乱	
353	磁器	蓋	—	[2.5]	8.0	—	95	良好	白		肥前系 内外面施軸 外面染付 8層A	
354	磁器	蓋	—	2.7	7.2	—	60	良好	白		瀬戸美濃系 上下面施軸 上面染付 9層	
355	磁器	蓋	—	2.2	6.0	—	75	良好	白		瀬戸美濃系 上下面施軸 上面染付 9層	
356	磁器	蓋	—	1.9	5.4	—	100	良好	白	SK1	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面酸化コハルト染付	
357	磁器	蓋	3.7	3.4	(14.2)	—	30	良好	白		淡路坂平系 内外面黄色軸 9層	9-6
358	磁器	蓋	3.2	2.4	9.1	—	50	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸・銅版転写染付 9層	
359	磁器	燗德利	3.0	16.4	6.7	—	60	良好	白		瀬戸美濃系 内外面施軸 外面染付 8層A・B 9層	9-7
360	磁器	燗德利	2.8	18.6	6.0	—	75	良好	灰白	SE1	肥前系 外面施軸・染付 9層 視乱	9-8

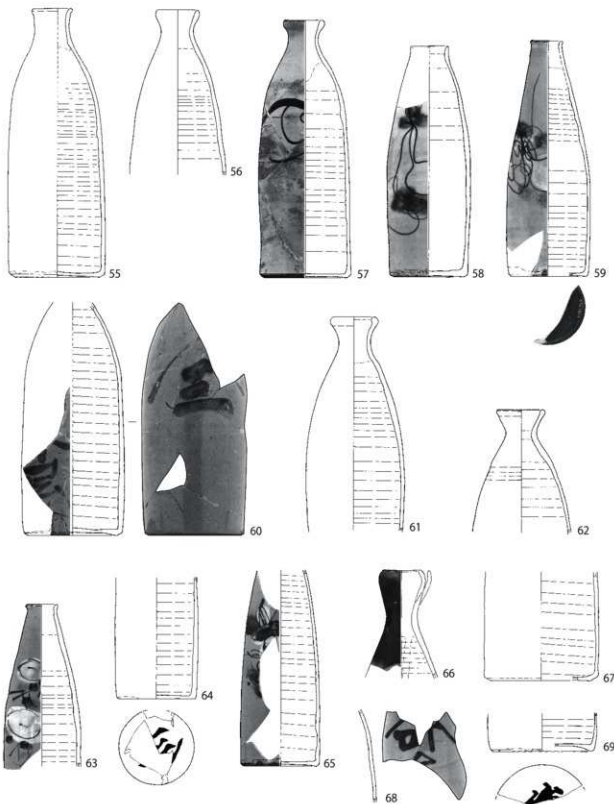
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
361	磁器	燗徳利	3.5	[22.0]	(7.6)	—	70	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 8層A・B 表土		
362	磁器	燗徳利	3.1	[8.5]	—	—	60	良好	白	瀬戸美濃系 外面施釉・染付 9層		
363	磁器	燗徳利	3.2	[15.1]	—	—	50	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 8層A		
364	磁器	燗徳利 (2.9)	[7.7]	—	—	—	60	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 焼継痕あり 8層A・B		
365	磁器	燗徳利 (2.9)	[4.0]	—	—	—	40	良好	白	SE2 瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付		
366	磁器	燗徳利	—	[12.8]	5.8	—	70	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 9層		
367	磁器	燗徳利	—	[12.2]	—	—	30	良好	白	瀬戸美濃系 外面施釉・上絵付(赤) 接点のない4片から復元 8層A・B 9層		
368	磁器	燗徳利	—	[8.2]	5.5	—	90	良好	白	瀬戸美濃系 外面施釉・上絵付(黒・赤・緑・青) 8層B 27層		
369	磁器	燗徳利	—	[1.8]	6.0	—	25	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 底部焼継印(赤) 8層A	16-4	
370	磁器	燗徳利	—	[1.8]	(5.5)	—	30	普通	白	瀬戸美濃系 外面施釉・酸化コバルト染付 底部墨書 8層A		
371	磁器	燗徳利	—	[3.1]	5.6	—	80	良好	白	瀬戸美濃系 外面施釉 底部墨書「全」9層	16-5	
372	磁器	燗徳利	—	[1.6]	6.2	—	90	良好	白	瀬戸美濃系 内面施釉 外面珪瑠釉 焼継痕あり 高台内焼継印(透明釉) 被熱 9層		
373	磁器	燗徳利	2.9	[4.2]	—	—	65	良好	白	瀬戸美濃系 外面施釉 頸部凸帯1条 11層		
374	磁器	徳利	1.8	[5.9]	—	—	60	良好	白	肥前系 外面施釉・染付 9層		
375	磁器	徳利	1.8	10.5	(3.7)	—	90	良好	灰白	肥前系 外面施釉・染付 8層B 表採	9-9	
376	磁器	徳利	—	[11.0]	(4.1)	—	30	良好	灰白	肥前系 外面施釉・染付 8層A・B		
377	磁器	徳利	1.5	[11.1]	—	—	75	良好	白	肥前系 外面施釉・染付 8層B	9-10	
378	磁器	徳利	—	[8.6]	3.6	—	80	良好	灰白	肥前系 外面施釉・染付 表土		
379	磁器	徳利	1.5	6.8	2.6	—	90	良好	白	瀬戸美濃系 外面施釉・染付 9層		
380	磁器	徳利 (2.1)	6.9	2.8	—	—	90	良好	白	瀬戸美濃系 外面施釉・染付 8層A 9層		
381	磁器	徳利	—	[4.5]	—	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 外面施釉・染付 被熱(弱) 8層 複瓦		
382	磁器	徳利	1.3	6.9	2.2	—	95	良好	灰白	肥前系 外面施釉・染付 表土	9-11	
383	磁器	徳利	—	[5.7]	4.5	—	40	良好	白	SG1 瀬戸美濃系 外面施釉・染付		
384	磁器	徳利	—	[6.4]	5.6	—	45	良好	白	肥前系 外面施釉・染付 裏付砂厚く付着 9層		
385	磁器	徳利	—	[7.0]	—	—	5	良好	灰白	肥前系 外面施釉・外面釘書「全」9層	16-6	
386	磁器	徳利	—	[21.7]	(7.7)	—	40	良好	灰白	肥前系 外面施釉・外面釘書「区」8層A・B 9層 表土	16-7	
387	磁器	徳利	—	[14.8]	9.9	—	55	良好	白	肥前系 外面施釉 9層		
388	磁器	土瓶	—	[9.5]	6.8	—	75	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉・酸化コバルト染付 焼継痕あり 高台内焼継印(墨書) 8層A	9-12	
389	磁器	土瓶	(7.0)	[4.0]	—	—	45	良好	白	瀬戸美濃系 内面施釉 外面珪瑠釉 8層A 9層		
390	磁器	土瓶	(7.2)	[3.4]	—	—	15	良好	白	SE1 肥前系 内外面施釉 外面染付 口縁内側削付着		
391	磁器	急須	6.3	7.2	7.0	—	70	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面酸化コバルト染付 焼継痕あり 焼継印(赤) 8層B	16-8	
392	磁器	急須	—	[6.2]	(6.9)	—	20	良好	白	肥前系 内外面施釉 外面染付 底部焼継印(赤) 8層B		
393	磁器	急須	—	[2.4]	(6.0)	—	15	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 外面染付 底部墨書 8層A		
394	磁器	蓮華	長さ(3.8) 高さ[1.8]	幅1.8	—	—	5	良好	白	洗路底平焼 内外面黄色釉 8層B		
395	磁器	蓮華	長さ9.0 高さ4.3	幅4.6	—	—	95	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面染付・開刻文 底部無釉 9層	9-13	
396	磁器	仏飯器	5.6	5.8	3.5	—	95	良好	白	肥前系 内外面施釉 外面染付 8層A 9層		
397	磁器	香炉	—	[3.2]	4.1	—	55	良好	白	瀬戸美濃系 内外面施釉 内面墨書 8層A	16-9	
398	磁器	香炉	—	[3.0]	3.6	—	50	良好	白	瀬戸美濃系 外面青磁釉 内面墨書 8層B	16-10	
399	磁器	戸車	4.5	1.0	4.0	—	100	良好	白	肥前系 側面施釉 上面墨書 9層	16-12	
400	磁器	戸車	(7.5)	1.4	(7.1)	—	35	良好	白	肥前系 側面施釉 上下面墨書 9層	16-11	
401	磁器	水滴	長さ6.4 高さ1.8	幅5.0	—	—	70	良好	白	瀬戸美濃系 型成形 外面施釉 側面一面無釉 上面陽刻文・染付 下面布目煎 8層A・B	10-1	
402	磁器	水滴	長さ6.2 高さ2.0	幅4.9	—	—	75	良好	白	瀬戸美濃系 型成形 外面施釉 側面一面無釉 上面陽刻・陰刻文 染付 下面布目煎 8層A 9層		
403	磁器	水滴	長さ5.8 高さ6.2	幅2.9	—	—	50	良好	灰白	肥前系 左右二枚型成形 外面施釉(一部鉄釉)	10-2	



第45图 遗物包含层出土陶器(1)

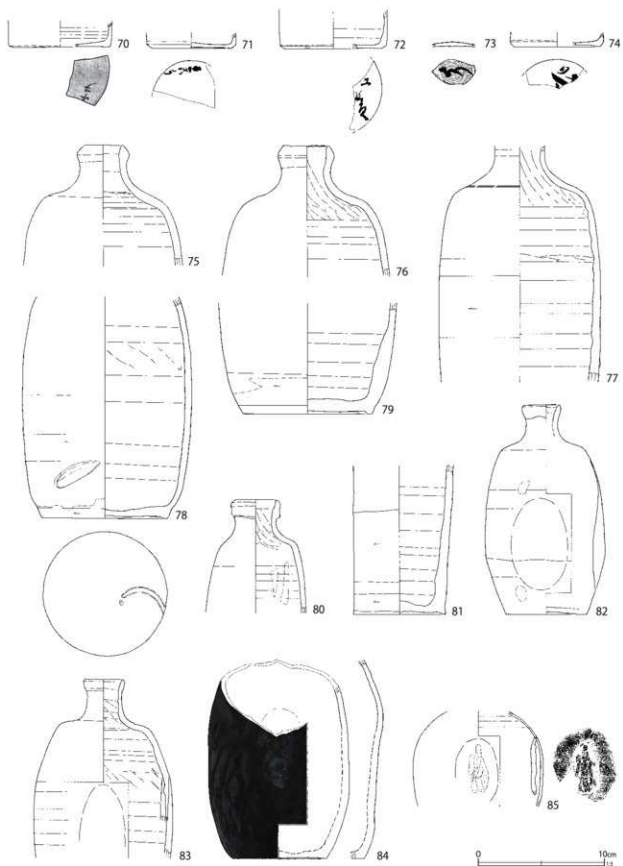


第46图 遺物包含層出土陶器(2)

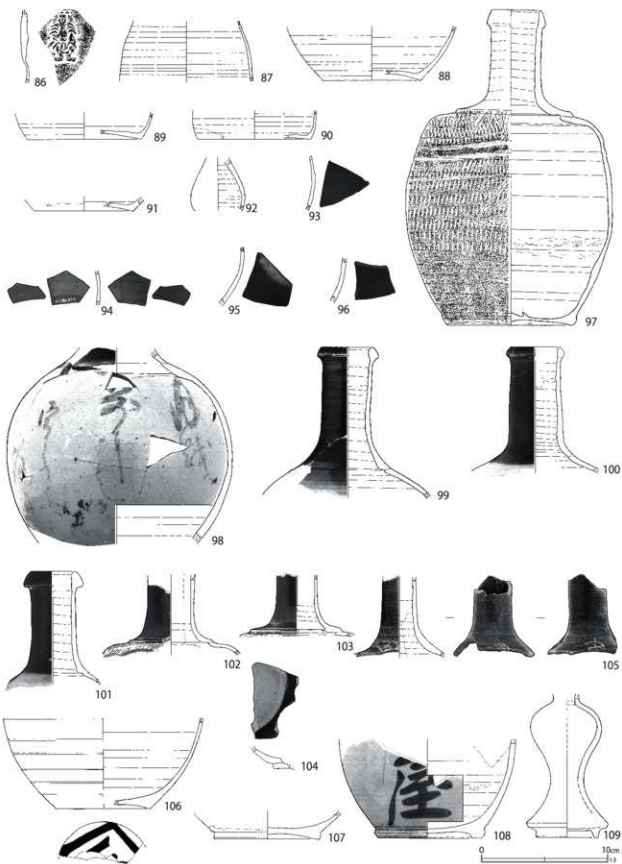


第17図 遺物包含層出土陶器（3）

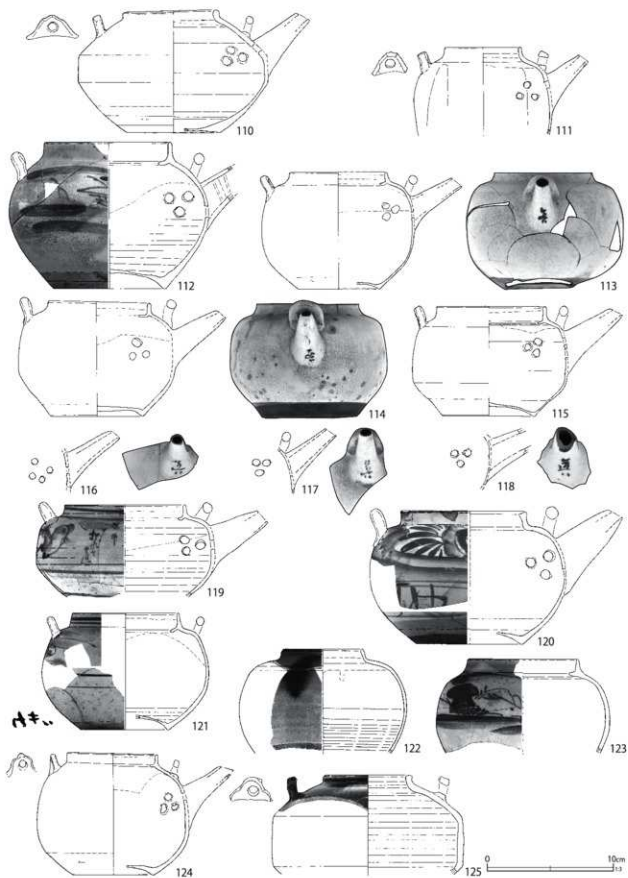




第48图 遺物包含層出土陶器(4)



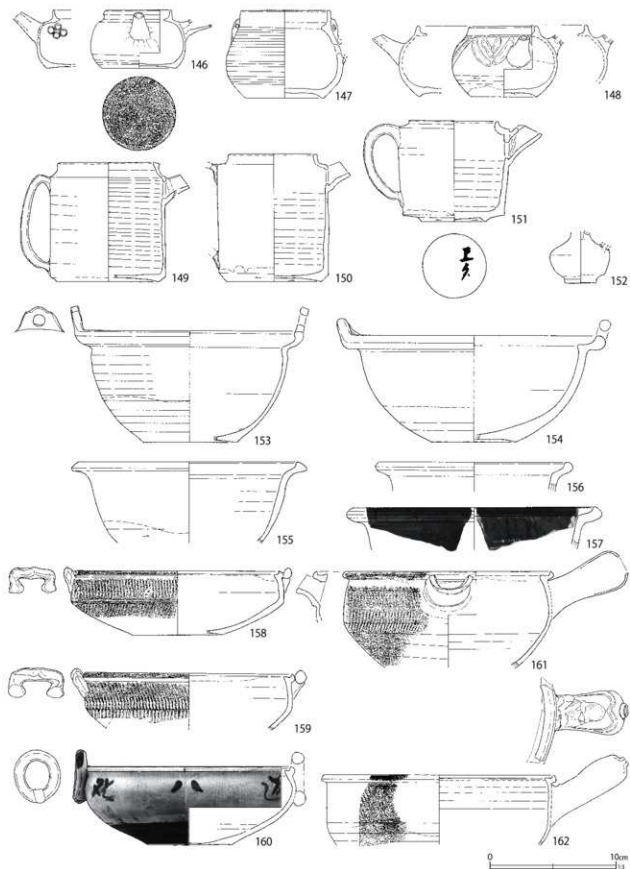
第49图 遺物包含層出土陶器(5)



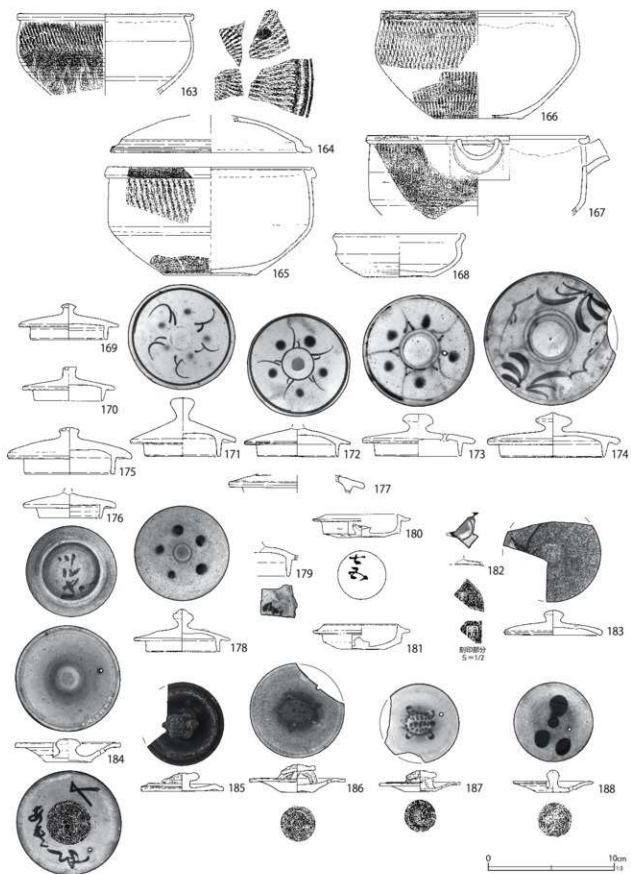
第50図 遺物包含層出土陶器（6）



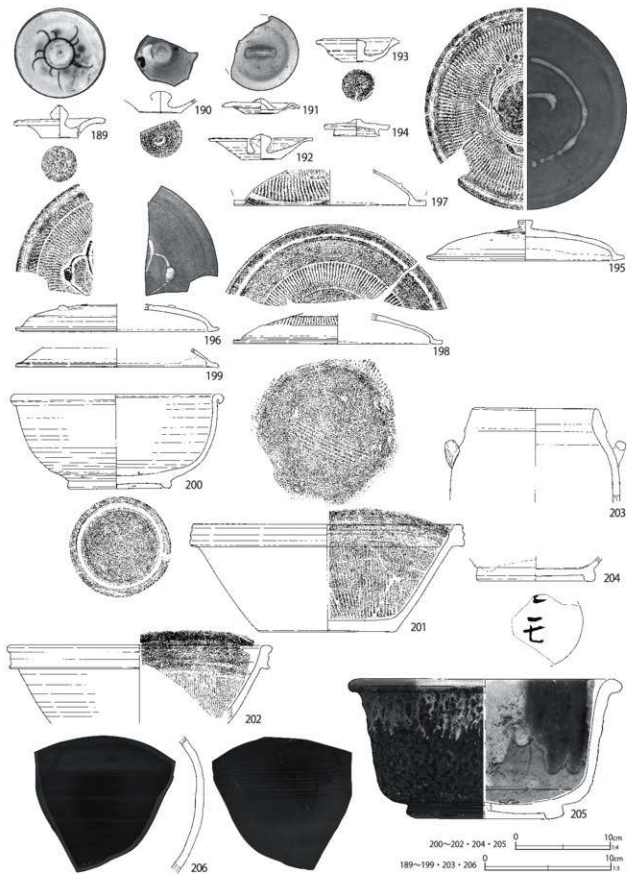
第51図 遺物包含層出土陶器（7）



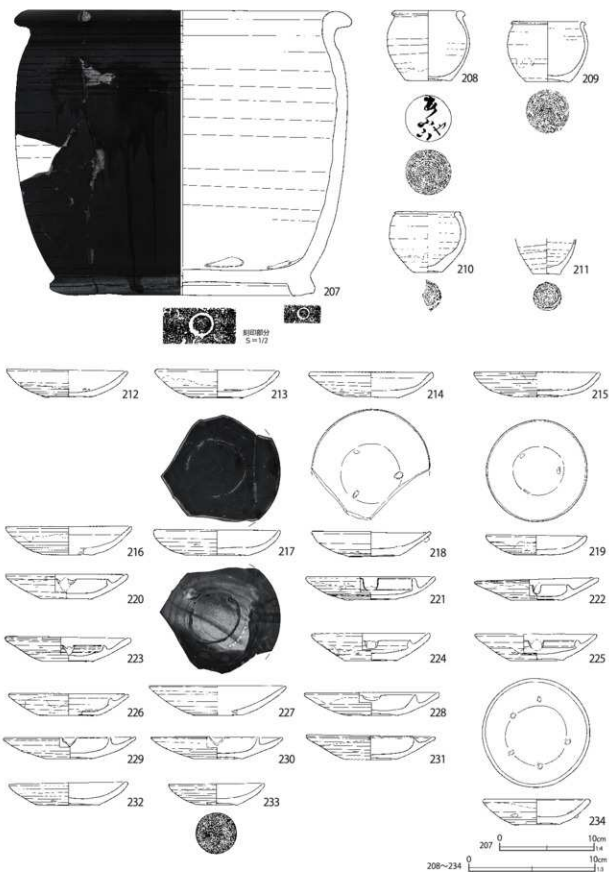
第52図 遺物包含層出土陶器(8)



第53図 遺物包含層出土陶器(9)

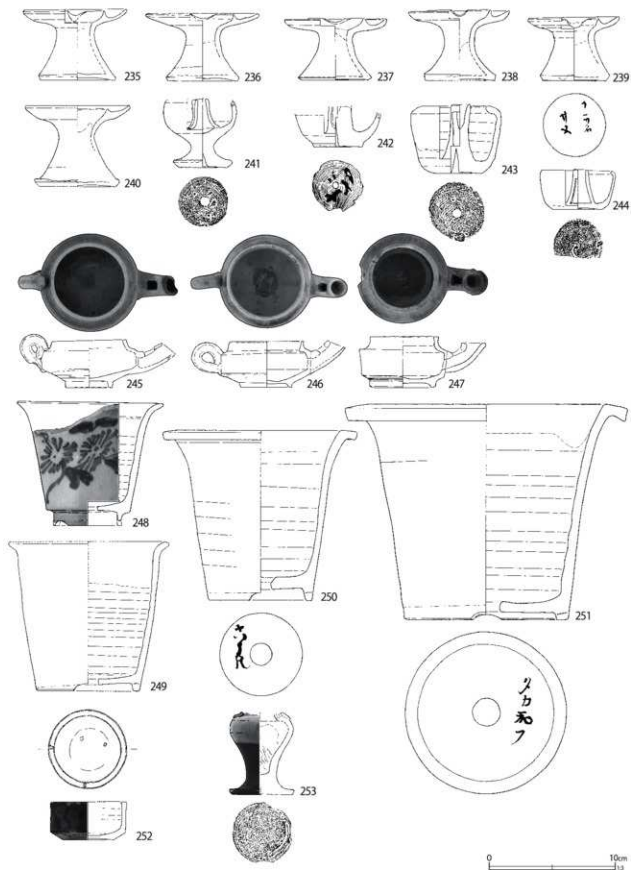


第54图 遺物包含層出土陶器 (10)

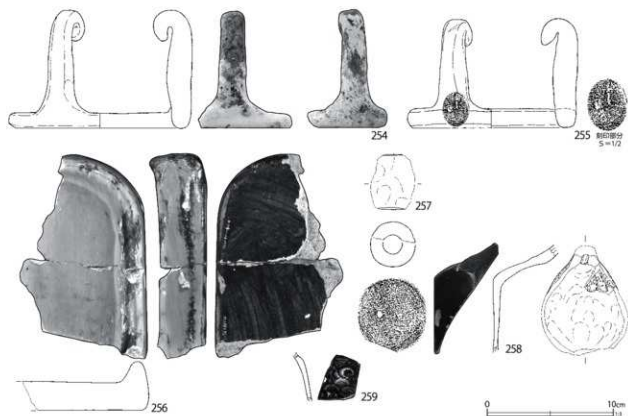


第55図 遺物包含層出土陶器 (11)





第56図 遺物包含層出土陶器 (12)



第57図 遺物包含層出土陶器 (13)

第3表 遺物包含層出土陶器観察表 (第45~57図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	陶器	碗	—	[5.5]	3.5	I	40	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面施釉・呉須絵 8層B		
2	陶器	碗	(9.7)	[4.1]	—	K	15	良好	灰白	SE2 京都信楽系 内外面灰釉 胎土磁質		
3	陶器	碗	—	[4.3]	—	EI	5	良好	淡赤橙	SG1 内外面刷毛目状釉 胎土灰色・硬質・粗い		
4	陶器	碗	(7.4)	5.7	3.5	IK	30	良好	黄橙	萩系 内面ワラ灰釉 外面鉄釉・ワラ灰釉ピラ掛け 被熱(強) 8層B		
5	陶器	碗	(8.2)	7.1	4.5	K	80	良好	灰白	大塚相馬系 手捻り 型成形駒形貼付文 胎土砂鉄含む 内外面施釉・銅赤釉流し掛け 高台内刻印「相馬」 8層B 9層 32層	10-3	
6	陶器	碗	—	[6.9]	—	IK	5	良好	灰白	大塚相馬系 手捻り 胎土砂鉄含む 内外面灰釉 5片から復元(内3片放熱) 8層A・B 9層		
7	陶器	碗	—	[3.4]	—	K	5	良好	灰白	大塚相馬系 外面青緑釉 内面練白釉 2片から復元 8層 B 9層		
8	陶器	碗	(7.8)	[4.0]	—	K	20	普通	灰白	胎土練込マーブル状 内外面施釉 表土		
9	陶器	坏	7.0	4.1	3.5	—	95	良好	にぶい・黄橙	瀬戸美濃系 内外面灰釉・黒色塗付物附着		10-4
10	陶器	坏	(6.7)	4.0	(3.8)	K	30	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰釉・黒色塗付物附着 32層		
11	陶器	坏	(7.0)	4.1	(3.6)	IK	35	普通	にぶい・黄橙	SG1 瀬戸美濃系 内外面灰釉・タール状物質附着		
12	陶器	坏	7.0	4.4	3.4	IK	80	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰釉・内面・露胎部・タール状物質附着		
13	陶器	坏	6.1	3.8	2.7	IK	95	普通	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰釉 8層B		
14	陶器	坏	5.9	[3.1]	—	IK	50	普通	灰黄	SG1 瀬戸美濃系 内外面灰釉 露胎部・タール状物質附着		
15	陶器	坏	(5.7)	3.4	3.0	EK	90	良好	灰白	瀬戸美濃系 内外面灰釉 8層A		
16	陶器	坏	5.2	3.2	2.5	EIK	95	良好	楊灰	瀬戸美濃系 内外面灰釉 8層A		
17	陶器	坏	(5.7)	3.0	2.9	EK	40	普通	黄灰	瀬戸美濃系 内外面灰釉 9層		
18	陶器	坏	5.8	3.3	2.9	EIK	90	良好	楊灰	瀬戸美濃系 内外面灰釉 8層A		
19	陶器	坏	(6.2)	3.4	(3.9)	K	40	良好	灰白	京都信楽系 内外面施釉 胎土磁質 高台内墨書 8層A		
20	陶器	坏	(3.9)	3.0	1.7	EK	50	良好	灰白	京都信楽系 内外面施釉 9層		
21	陶器	坏	(3.8)	2.9	(1.7)	K	40	良好	灰白	京都信楽系 内外面施釉 胎土磁質 9層		

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
22	陶器	坏	(4.1)	3.0	1.6	K	50	良好	灰白		京都信楽系 内外面施釉 8層B	
23	陶器	坏	(3.8)	3.0	(1.6)	K	50	良好	灰白		京都信楽系 内外面施釉 胎土磁質 8層B	
24	陶器	坏	(3.5)	2.8	1.6	K	45	良好	灰白		京都信楽系 内外面施釉 9層	
25	陶器	坏	(2.2)	3.1	(1.5)	K	30	良好	灰白		京都信楽系 内外面施釉 胎土磁質 9層	
26	陶器	坏	-	[4.4]	(3.0)	K	40	良好	灰白	SG1	大塚相馬系 内外面施釉・青緑釉流し掛け 手捻り 胎土砂鉄含む	
27	陶器	坏	(7.1)	4.1	2.6	K	25	良好	褐色		萬古系 内外面灰釉 口縁鉄釉流し掛け 胎土磁質・硬質高台内刻印「万古」8層D	10-5
28	陶器	坏	-	[2.3]	-	I	5	良好	褐色		胎土白色土練込マール状 内外面施釉(一部のふく)8層A	
29	陶器	皿	12.7	3.9	6.3	IK	95	良好	灰白		瀬戸美濃系 内外面施釉・呉須絵 8層A 9層	
30	陶器	皿	13.7	3.4	6.2	IK	90	良好	淡黄		瀬戸美濃系 内外面刷毛目録 内面重燒痕が 9層	
31	陶器	皿	(11.4)	2.3	4.8	K	30	普通	灰白		京都信楽系 内外面施釉 内面鉄絵・ビン痕1 遺存 8層B	
32	陶器	皿	-	[1.3]	4.6	K	55	良好	灰白		京都信楽系 内外面施釉 内面鉄絵・ビン痕3 8層B	
33	陶器	皿	(21.8)	4.2	(10.9)	EIK	45	普通	灰白		瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面目録3 遺存 8層B	
34	陶器	皿	(14.2)	2.4	6.7	IK	60	良好	灰白		内外面灰釉 被熱か 8層A	
35	陶器	皿	(14.4)	2.4	(4.8)	IK	20	普通	灰黄褐色		内外面施釉(一部のふく味) 胎土光沢あり 9層	
36	陶器	皿	8.8	2.2	4.0	K	80	普通	灰白		型成形 内面陽刻文 胎土磁質 無熱焼結 8層A 9層	10-6
37	陶器	皿	-	[1.2]	(7.8)	K	40	良好	灰白		大塚相馬系 胎土砂鉄含む 内外面施釉 内面鉄絵 蛇ノ目凹形高台 表土	
38	陶器	皿	-	[7.0]	(7.8)	K	5	良好	灰白		大塚相馬系 胎土砂鉄含む 内外面施釉 内面鉄絵 蛇ノ目凹形高台 8層A	
39	陶器	皿	(14.2)	[2.7]	-	K	20	普通	にぶい・橙	SG1	型成形 内面陽刻文 外面布目録 軸むすかに遺存か	
40	陶器	皿	-	[3.5]	-	-	5	良好	にぶい・黄緑		軟質施釉陶器 型成形 内面陽刻文 外面布目録 軸刺落敷しい 8層B	
41	陶器	鉢	-	[1.6]	-	K	5	良好	灰白		大塚相馬系か 手捻り 胎土砂鉄含む 内外面施釉 8層A	
42	陶器	鉢	-	[1.0]	-	K	5	良好	灰白		大塚相馬系 胎土砂鉄含む 内外面施釉 8層B	
43	陶器	鉢	(14.8)	[3.3]	-	K	5	良好	灰白		大塚相馬系 胎土砂鉄含む 内外面施釉 8層B	
44	陶器	鉢	(16.6)	[4.0]	-	K	15	良好	灰白		瀬戸美濃系 内外面施釉 口縁鉄絵流し掛け 8層B	
45	陶器	鉢か	-	[2.5]	-	K	5	良好	にぶい・黄緑	SG1	内外面鉄釉	
46	陶器	鉢	-	[2.5]	7.4	IK	80	良好	灰白		内外面鉄釉 内面白釉散らし・目録5 9層	
47	陶器	鉢	(9.8)	5.3	(4.3)	IK	20	良好	にぶい・橙	SE2	内外面鉄釉・白釉流し掛け	
48	陶器	鉢	11.7	9.4	8.0	IK	60	良好	灰白		内外面白土染付・施釉 外面緑・手捻り整形人形貼付 9層	10-7
49	陶器	鉢	(11.6)	8.0	8.8	IK	20	良好	灰白		内外面白土染付・施釉 外面緑・手捻り整形人形貼付	
50	陶器	片口鉢	(7.5)	4.4	(3.2)	K	50	普通	灰白		大塚相馬系か 胎土磁質 内外面青緑釉 外面下位・高台内墨書 接点のない2片から図上復元 被熱 8層A	16-13
51	陶器	片口鉢	(14.6)	7.9	(6.2)	K	55	良好	灰白		瀬戸美濃系 内外面灰釉 内面目録2 遺存 被熱(弱)・煤付着 9層	
52	陶器	片口鉢	15.5	9.2	6.6	EIK	90	普通	にぶい・黄緑		内外面施釉(部分のうのふく味) 胎土粗密 内面目録5 表土 8層D 9層	10-8
53	陶器	片口鉢	15.2	8.5	6.6	EK	75	普通	灰白		内外面施釉 内面目録4 遺存・径3.5cmの胎土付着 8層A-B 9層	10-9
54	陶器	片口鉢	-	[4.1]	(7.2)	EIK	10	良好	淡黄褐色		内外面施釉 胎土粗密 内面目録2 遺存 8層A	
55	陶器	燗徳利	2.8	21.2	6.6	K	75	良好	灰白		内面施釉 外面青緑釉 被熱 接点のない2片から復元 表土 8層A-B 9層 北側・ベルト	
56	陶器	燗徳利	3.2	[13.0]	-	K	60	良好	灰白		外面青緑釉 被熱 9層	
57	陶器	燗徳利	(2.9)	20.3	6.5	K	90	良好	灰白		京都信楽系 外面施釉・鉄絵 被熱 8層A 9層	10-10
58	陶器	燗徳利	(2.8)	8.2	5.3	K	80	良好	灰白		京都信楽系 外面施釉・鉄絵・緑釉 9層	
59	陶器	燗徳利	2.9	18.6	6.0	K	60	良好	灰白		京都信楽系 外面施釉・鉄絵・緑釉・白色絵付 墨痕	
60	陶器	燗徳利	-	[18.4]	6.9	IK	60	良好	灰白		外面施釉・呉須文字「原木屋」・「全」8層A 9層	16-14
61	陶器	燗徳利	(3.2)	[16.9]	-	IK	50	良好	灰白		内外面施釉 8層A 9層	
62	陶器	燗徳利	3.4	[9.7]	-	IK	30	良好	灰白		京都信楽系 外面灰釉	
63	陶器	燗徳利	2.3	12.8	-	K	45	良好	灰白		京都信楽系 外面施釉・鉄絵・緑釉・白土 9層	
64	陶器	燗徳利	-	[9.6]	6.0	K	40	良好	灰白		京都信楽系 外面灰釉 底部墨書「全」 9層	16-15
65	陶器	燗徳利	-	[18.5]	5.5	K	40	良好	灰白		京都信楽系 外面施釉・鉄絵・赤・緑釉・白土 9層	
66	陶器	燗徳利	(2.9)	[8.5]	-	K	50	良好	灰白	攪乱	京都信楽系 胎土磁質 内外面施釉・緑釉流し掛け	
67	陶器	燗徳利	-	[8.6]	(7.8)	IK	30	良好	灰白	SG1	外面漆黒鉄釉 内面施釉	
68	陶器	燗徳利	-	[7.2]	-	IK	5	良好	灰白		外面施釉・呉須文字 8層B	16-16
69	陶器	燗徳利	-	[3.0]	(7.8)	K	5	良好	明褐色		内外面鉄釉 底部墨痕 9層	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
70	陶器	燗德利	—	[2.1]	(7.4)	K	5	良好	灰白		京都信楽系 外面施釉 底部墨書「ナツ」9層	16-17
71	陶器	燗德利	—	[1.3]	(6.2)	K	35	良好	浅黄橙		外面施釉 底部墨書「□古」か	16-19
72	陶器	燗德利	—	[3.1]	(7.6)	K	5	良好	灰白		京都信楽系 外面施釉 底部墨書 表土	16-18
73	陶器	燗德利	—	0.4	—	K	5	良好	灰白		底部墨書「ヲリ」か 8層B	17-1
74	陶器	燗德利	—	[1.2]	(6.8)	IK	15	良好	明褐色		内外面鉄軸 底部墨書「□リ」8層B	17-2
75	陶器	德利	3.0	[9.5]	—	EIK	60	普通	灰白		瀬戸美濃系 内外面鉄軸 8層A	
76	陶器	德利	3.6	[10.3]	—	EIK	75	良好	灰黄		瀬戸美濃系 内外面鉄軸	
77	陶器	德利	—	[18.7]	—	DEIK	50	良好	赤灰		瀬戸美濃系 内外面鉄軸 8層A	
78	陶器	德利	—	[17.5]	9.8	DEF	50	良好	灰白		瀬戸美濃系 内外面鉄軸 底部軸ふきとり・輪状重使痕 外面下位胎土付着 表土 8層A 9層	
79	陶器	德利	—	[8.8]	10.1	DIK	65	普通	淡黄橙	SGI	瀬戸美濃系 外面鉄軸 外面下位・底部軸ふきとり	
80	陶器	德利	3.2	[8.9]	—	DEIK	30	良好	灰白		瀬戸美濃系 内外面鉄軸 8層A 9層	
81	陶器	德利	—	[11.8]	7.1	EIK	85	普通	淡黄		瀬戸美濃系 外面鉄軸 8層A	
82	陶器	德利	2.8	16.0	6.2	IK	95	良好	灰白		瀬戸美濃系 外面鉄軸 底部軸ふきとり 9層	
83	陶器	德利	(3.0)	[14.1]	—	IK	70	良好	灰黄		瀬戸美濃系 外面鉄軸 9層	
84	陶器	德利	—	[15.8]	7.3	K	95	良好	灰白		瀬戸美濃系 外面鉄軸 内外面漆付着 内部刷毛遺存(74 図133) 底部軸ふきとり 1区橙灰	10-11
85	陶器	德利	—	[7.6]	—	IK	30	良好	明褐色		備前系 胎土拓器質 被熱(強) 9層	10-12
86	陶器	德利	—	[5.7]	—	IK	5	良好	灰褐		備前系 胎土拓器質 被熱(強) 8層A-B	10-13
87	陶器	德利	—	[4.9]	—	I	10	良好	灰褐		備前系 胎土拓器質 8層A-B	
88	陶器	德利	—	[4.3]	(7.8)	IK	30	普通	にがい・赤褐		備前系 胎土拓器質 外面塗土 8層B	
89	陶器	德利	—	[2.1]	(9.0)	I	15	良好	にがい・赤褐		胎土拓器質 8層A	
90	陶器	德利	—	[2.3]	(9.0)	I	10	良好	褐灰		備前系 胎土拓器質 外面塗土 8層B	
91	陶器	德利	—	[1.2]	(7.8)	DK	15	良好	にがい・赤褐		備前系 胎土拓器質 8層A	
92	陶器	德利	—	[4.2]	—	I	20	良好	浅黄橙		外面塗土 胎土緻密・硬質 9層	
93	陶器	德利	—	[4.3]	—	I	5	良好	灰赤		備前系 胎土拓器質 8層A	
94	陶器	德利	—	[2.7]	—	I	5	良好	灰赤		備前系 胎土拓器質 8層A	
95	陶器	德利	—	[4.7]	—	I	10	良好	灰褐		備前系 胎土拓器質 被熱 8層A	
96	陶器	德利	—	[3.7]	—	IK	5	良好	にがい・赤褐		備前系 胎土拓器質 外面塗土 8層B	
97	陶器	德利	3.7	24.9	9.7	EIK	75	良好	浅黄橙	SKI	外面トビガンナ状施文 頸部外面鉄軸 体部内外面鉄軸 頸部別造り 体部内面中位シロ灰か 8層 9層	11-1
98	陶器	德利	—	[15.4]	—	IK	45	良好	黄灰		外面施釉・鉄軸流し掛け・鉄絵文字 8層B 9層	16-20
99	陶器	德利	4.0	[11.9]	—	IK	15	良好	灰白		外面施釉・頸部鉄軸流し掛け 8層A 9層	
100	陶器	德利	3.8	[9.9]	—	IK	15	良好	灰白		内外面鉄軸・頸部鉄軸流し掛け 8層A	
101	陶器	德利	3.4	[8.9]	—	IK	10	良好	灰白		外面鉄軸・頸部鉄軸流し掛け 8層B	
102	陶器	德利	—	[6.9]	—	IK	10	良好	灰白		外面トビガンナ状施文・鉄軸 頸部鉄軸流し掛け 8層A	
103	陶器	德利	—	[4.8]	—	K	10	良好	灰白		外面トビガンナ状施文・鉄軸 頸部鉄軸流し掛け 8層B	
104	陶器	德利	—	[1.8]	—	K	5	普通	にがい		外面トビガンナ状施文・鉄軸 頸部青緑軸流し掛け 8層B	
105	陶器	德利	—	[6.4]	—	IK	10	普通	にがい・赤褐		外面施釉 内面鉄軸 釘書 3ヶ所 8層A	
106	陶器	德利	—	[7.2]	(7.4)	K	10	良好	明褐色		外面施釉 底部墨書「山形に□」8層A-B 9層	
107	陶器	德利	—	[2.2]	4.2	K	5	良好	灰黄		外面鉄軸 内面施釉(一部のふち気味) 胎土石英・黒色 粒子多量・粗密 8層A	
108	陶器	德利	7.0	[7.8]	—	IK	20	良好	灰白		内外面施釉 外面緑色絵付文字「限」表土 8層A	17-3
109	陶器	德利	—	[11.4]	4.2	K	95	良好	灰白		外面青緑軸 被熱 8層B	11-2
110	陶器	土瓶	7.0	9.6	(7.4)	K	65	良好	浅黄橙		外面青緑軸・被熱・煤付着 表土 8層A 9層	
111	陶器	土瓶	(5.8)	[7.0]	—	K	20	普通	灰白		外面青緑軸 8層A	
112	陶器	土瓶	9.9	11.6	8.9	K	90	良好	灰白		外面施釉・一部白土染付 体部中位胎土付着1あり 8層A	
113	陶器	土瓶	7.6	9.2	(6.4)	IK	90	普通	灰黄		内外面施釉 外面白土染付「道入」銘 9層	
114	陶器	土瓶	7.9	9.2	7.1	I	95	普通	黄灰		内外面施釉 外面白土染付 被熱(弱)・煤付着「道入」銘 9層	11-3
115	陶器	土瓶	8.5	8.7	7.1	K	65	良好	灰白		内外面施釉 外面白土化粧 被熱(弱) 底部煤付着 9層	
116	陶器	土瓶	—	[4.6]	—	K	5	良好	灰白		内外面施釉 外面白土染付「道入」銘 9層	
117	陶器	土瓶	—	[5.1]	—	I	5	良好	灰		内外面施釉 外面白土染付「道入」銘 8層A	
118	陶器	土瓶	—	[4.5]	—	K	5	良好	灰白		内外面施釉 外面白土染付「道入」銘 8層B	
119	陶器	土瓶	9.5	[7.5]	—	IK	45	良好	褐灰		内外面施釉 外面白土染付 被熱 表土 8層A 9層	
120	陶器	土瓶	8.8	10.6	8.4	K	60	良好	灰白		外面施釉・白土染付 被熱(弱) 煤付着 8層B 9層	11-4

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
121	陶器	土瓶	(8.3)	9.2	(7.0)	IK	50	良好	灰		内外面施釉 外面・底部白化粧 外面鉄絵・緑軸・被熱 焼 罌瓶あり 外面下位施釉印(赤) 8層A 9層	17-4
122	陶器	土瓶	(6.1)	[8.3]	—	K	15	良好	灰白	SE2	内外面灰軸 外面鉄絵流し掛け	
123	陶器	土瓶	(8.6)	[7.5]	—	EK	20	普通	浅黄橙	視乱	内外面施釉 外面白土塗付	
124	陶器	土瓶	7.0	9.7	6.4	EK	85	良好	浅黄橙		内外面施釉 底部煤付着 表採 8層A 9層	
125	陶器	土瓶	6.4	[7.8]	—	HIK	40	良好	灰白		瀬戸美濃系 内面灰軸 外面鉄軸 外面上位白軸流し掛け	
126	陶器	土瓶	7.8	11.7	(8.2)	IK	60	普通	灰白		内外面鉄軸(漆黒) 外面下位煤付着 8層A 9層	
127	陶器	土瓶	(7.4)	[7.3]	—	EK	30	良好	灰白		瀬戸美濃系 内面施釉 外面鉄軸・白軸流し掛け 8層A-B	
128	陶器	土瓶	—	[2.6]	9.0	K	10	良好	淡黄		内面施釉(薄掛け) 底部墨書 9層	17-5
129	陶器	土瓶	—	[2.2]	—	IK	5	良好	にぶい・橙		外面施釉 墨書「ツルヤ」 8層A	17-6
130	陶器	土瓶	(7.8)	[2.4]	—	K	5	良好	灰白		大塚相馬系 胎土ややマーブル状(灰白・黒色) 内外面施 白軸 外面黒色胎土が模様状効果 8層B	11-5
131	陶器	土瓶	(8.8)	[2.8]	—	—	5	良好	淡黄		胎土焙器質 外面塗土 9層	
132	陶器	土瓶	(9.6)	[6.9]	—	IK	30	普通	にぶい・黄緑		胎土焙器質 外面塗土 8層A 9層	
133	陶器	土瓶	(8.8)	[4.2]	—	IK	15	良好	灰白	SE2	外面灰軸・白土塗付	
134	陶器	急須	(6.8)	[2.9]	—	—	20	良好	にぶい・黄緑	SE2	胎土焙器質	
135	陶器	土瓶	—	[8.1]	8.9	I	30	良好	灰黄		胎土焙器質 外面上位施釉 被熱(内面黒化) 8層 9層	
136	陶器	土瓶	—	[4.9]	—	K	5	良好	にぶい・黄緑		胎土焙器質 無軸被熱 外面刻印「口仕入」 8層B	
137	陶器	土瓶	—	[4.3]	—	—	5	良好	楊灰		胎土焙器質 外面塗土 8層B	
138	陶器	土瓶	7.3	[8.1]	—	IK	20	良好	楊灰		外面白軸ビラ掛け状施釉 内面施釉 8層A 9層	
139	陶器	土瓶	—	[5.5]	—	I	5	良好	灰黄楊	視乱	内外面施釉 外面白土化粧・鉄軸	
140	陶器	急須	—	[1.2]	5.2	IK	50	良好	にぶい・黄緑		型成形 上面白目・白軸イッチン描き状 141の蓋 9層	
141	陶器	急須	6.2	6.1	(7.5)	IK	35	良好	にぶい・黄緑		型成形 外面・底部・受口底面白目 外面白軸イッチン 描き状 五角形 9層 8層A	
142	陶器	急須	(3.6)	5.5	(4.0)	—	20	良好	黄灰		胎土焙器質 無軸被熱 手捻り整形(外面指頭圧痕) 内面 白目 8層B 9層	
143	陶器	急須	—	[5.8]	—	I	5	良好	黒楊		萬古系 胎土焙器質 型成形 把手一部施釉・透かし彫り 外面刻印「萬古」・「みさ」 8層A	17-7
144	陶器	急須	5.1	7.0	5.3	—	90	良好	黒		萬古系 胎土焙器質 型成形 口縁塗土 外面刻印「萬古」 ・「糸」他特殊文字	
145	陶器	急須	(5.5)	[2.4]	—	—	25	良好	赤灰	視乱	萬古系 胎土焙器質 口縁施釉 外面イッチン描き文字 「豚」	17-8
146	陶器	急須	5.1	4.6	5.8	IK	95	良好	赤	SK1	朱泥 胎土焙器質 底部回転糸切痕遺存	11-6
147	陶器	水注	6.9	6.9	6.2	K	85	良好	灰白	SGI	無軸 被熱め	11-7
148	陶器	急須	5.1	5.6	5.0	EK	90	良好	灰白		内外面施釉・胎土粗密・石灰多量 外面鏡文 外面上位・ 注口部端部金彩遺存	11-8
149	陶器	水注	7.3	9.4	8.1	K	80	良好	灰白		京都信楽系 胎土磁質 内外面施釉 8層B	
150	陶器	水注	6.5	10.1	7.5	IK	95	良好	灰白		京都信楽系 内外面施釉 底部煤付着 9層	
151	陶器	水注	6.9	8.0	5.0	K	95	良好	灰白		瀬戸美濃系 内外面施釉 高台内墨書 9層	17-9
152	陶器	水注	—	[4.1]	2.4	K	80	良好	灰白		京都信楽系か 胎土磁質 外面鉄軸 8層A	
153	陶器	鍋	18.0	10.7	(7.4)	DK	55	良好	灰白		内外面鉄軸 内面目跡 1遺存 底部被熱(黒化) 8層A-B 9 層	
154	陶器	鍋	(20.4)	9.7	(6.8)	IK	65	良好	灰白		内外面施釉 外面被熱・煤付着 8層A 9層 9層	
155	陶器	鍋	17.0	[6.4]	—	EIK	20	良好	楊灰		松岡系 内外面うのふ軸 外面下位ケズ・煤付着 8層A 表土	
156	陶器	鍋	(15.0)	[2.3]	—	EIK	10	普通	黄灰	視乱	松岡系 内外面うのふ軸	
157	陶器	鍋	(19.0)	[3.3]	—	IK	5	普通	灰白	SGI	内外面施釉・漆黒鉄軸流し掛け 池1東2層	
158	陶器	鍋	(16.1)	5.3	(7.1)	HI	35	良好	灰白		内面鉄軸 把手手軸 外面上位トビガンノ施文 外面煤付 着 8層A	
159	陶器	鍋	(16.4)	[8.4]	—	K	15	良好	にぶい・黄緑		内面・外面一部赤褐色軸 外面トビガンノ施文 8層B	
160	陶器	両手鍋	16.1	7.5	6.6	IK	75	良好	灰白		内外面施釉 外面白土塗付 底部煤付着 内面白痕 3 「道入」銘 9層	11-9
161	陶器	行平鍋	16.2	9.1	—	I	60	良好	灰白		内外面施釉(外面ふきとり) 外面上部トビガンノ施文 8層B 9層	11-10
162	陶器	片手鍋	(18.2)	[7.1]	—	IK	10	良好	灰白		内外面施釉(外面ふきとり) 外面上部トビガンノ施文 把手上下二枚型成形 表土	
163	陶器	行平鍋	(13.7)	[6.4]	—	IK	30	良好	浅黄橙	SK1	外面上位トビガンノ施文 内外面施釉 外面下位煤付着	
164	陶器	蓋	—	[2.9]	(15.8)	BHK	5	良好	にぶい・黄緑		飯焼 内面黒色系緑褐色軸 外面上位鉄軸・複刀状トビ ガンノ施文 白軸散らし 接点のない4片から復元 165 の蓋 8層A-B 9層	11-11

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
165	陶器	鍋	(16.2)	8.6	(7.2)	EIK	5	良好	にぶい・黄褐色		甗能焼 内面黒色系緑褐色釉 外面上位鉄釉・複刀状トビガンナ施文 底面外周沈線 緑点のない3片から復元 底部鉄煎(黒化) 164の身 8層A・B 9層	11-12
166	陶器	行平鍋	(15.2)	(8.5)	(7.0)	K	25	良好	楊灰		内面緑褐色系釉 外面体部中・上位赤褐色・単刀状トビガンナ施文 底面外周沈線1条 接点のない同一破片7点から復元 8層A・B 9層	12-1
167	陶器	行平鍋	(17.4)	[6.3]	—	EIK	15	良好	明褐色	SE1	外面上位トビガンナ施文 下位ヘラケズリ 内面黒色系緑褐色釉 注口部鉄釉	
168	陶器	行平鍋	(10.0)	3.4	5.4	OHJK	30	良好	灰白		内外面鉄釉 胎土粗粒 8層B 9層	12-2
169	陶器	蓋	—	2.8	5.9	K	95	良好	灰白		上面青緑釉 被煎(弱)・煤付着 9層	
170	陶器	蓋	—	2.7	5.3	K	95	良好	灰白	SK1	上面青緑釉	
171	陶器	蓋	—	4.6	5.7	IK	95	良好	黄灰		上面白化粧・鉄釉・施軸(一部緑釉) 9層	
172	陶器	蓋	—	[2.2]	6.3	K	90	良好	にぶい・橙		上面白化粧・鉄釉・施軸(一部緑釉) 9層	
173	陶器	蓋	—	3.4	6.7	K	95	普通	浅黄	SK1	上面白土染付(黒・緑)・施軸	
174	陶器	蓋	—	3.5	8.1	K	95	良好	灰白		上面白土染付・施軸 被煎 9層	
175	陶器	蓋	—	3.7	7.0	EIK	60	良好	淡黄		松岡系 上面うのふ輪 胎土粗粒 8層B 表土	
176	陶器	蓋	—	[2.0]	4.9	K	95	良好	灰白		上面灰釉 内面黒書「ツルヤ」 9層	17-10
177	陶器	蓋	—	[1.5]	—	EIK	5	良好	にぶい・橙		胎土粗密・硬質 上面施軸・重ね焼き煎 35層	
178	陶器	蓋	—	3.4	5.7	K	95	良好	灰白	SE2	京都信楽系 上面施軸 胎土粗質 下面黒書 8層B	
179	陶器	蓋	—	[2.3]	—	K	5	良好	灰白		京都信楽系 胎土粗質 上面施軸 下面黒書「七五」重ね焼き煎	17-11
180	陶器	蓋	—	1.8	3.7	K	90	良好	灰白	SE2	京都信楽系 胎土粗質 上面施軸 下面黒書「七五」重ね焼き煎	
181	陶器	蓋	—	2.0	3.7	K	95	良好	灰白	SE1	京都信楽系 上面施軸 タール状物質係かにつ着	
182	陶器	蓋	—	[0.4]	[2.4]	IK	5	良好	にぶい・橙		上面白化粧・施軸・鉄煎・一部緑釉 下面刻印「寶口」 8層B	17-12
183	陶器	蓋	—	1.4	7.5	IK	55	良好	黄灰		上面白化粧・施軸(黒色粒斑状)・鉄釉 穿孔は軸でふさがる 8層A 9層	
184	陶器	蓋	—	1.8	3.5	EIK	100	普通	にぶい・黄褐色		底部糸切痕(右) 上部施軸 下部黒書「あきたや」「又口」 9層	17-13
185	陶器	蓋	—	1.5	6.4	IK	85	良好	楊灰・橙		上部鉄釉 ツマミ亀 9層	12-3
186	陶器	蓋	—	2.2	2.5	K	80	良好	灰白		底部糸切痕(左) 上面施軸 ツマミ亀 8層A	12-3
187	陶器	蓋	—	1.7	2.6	K	85	良好	灰白		底部糸切痕 上面施軸 ツマミ亀・鉄化粧・施軸 8層B	12-3
188	陶器	蓋	—	1.8	2.7	CHK	100	普通	にぶい・黄褐色		底部糸切痕(右) 上面瑠璃釉散らし 9層	
189	陶器	蓋	—	2.6	2.9	HK	100	良好	灰白	SG1	底部中心糸切痕 上面白化粧後施軸 鉄煎・緑釉	
190	陶器	蓋	—	[1.7]	3.3	IK	50	良好	灰白	SE1	底部中心糸切痕 白化粧土付着 上面施軸 酸化コバルト染付	
191	陶器	蓋	—	1.2	2.5	—	80	良好	にぶい・黄褐色		胎土焙器質 手貼付 底部糸切痕粗粒 8層A	
192	陶器	蓋	—	2.0	(1.5)	I	50	良好	浅黄緑		胎土焙器質 上面中央塗土 ツマミ焼成不良か(発泡) 8層A	
193	陶器	蓋	—	1.9	2.4	IK	100	良好	にぶい・黄褐色		備前系か 胎土焙器質 底部糸切痕(右) 表土	
194	陶器	蓋	—	1.8	3.6	K	100	良好	にぶい・黄褐色	SG1	京都信楽系 上面施軸	
195	陶器	蓋	—	3.2	13.8	EX	95	良好	灰黄		上面トビガンナ施文・白釉散らし 内面鉄釉 9層	
196	陶器	蓋	—	[2.2]	(14.5)	IK	20	良好	灰黄		上面トビガンナ施文・イッチン描文 内面鉄釉 8層A	
197	陶器	蓋	—	2.8	(15.1)	K	30	良好	灰白	視査	内面鉄軸 外面トビガンナ状施文・鉄釉(輪ふきとり)	
198	陶器	蓋	—	[2.4]	(16.5)	EHJ	25	良好	にぶい・橙		内面鉄化粧・緑色系緑褐色釉 外面上・下位鉄釉・中位トビガンナ施文 9層	
199	陶器	蓋	—	[1.6]	(16.0)	IJK	5	良好	にぶい・橙		内面鉄化粧・緑褐色系釉 外面鉄釉 9層	12-4
200	陶器	掬ね鉢	21.3	10.0	10.7	EIK	60	良好	灰黄		内外面鉄釉 口縁部輪ふきとり 高台糸切痕一部遺存 内面目跡(角形) 5 口縁部直重焼痕か 8層A 9層	
201	陶器	播鉢	(28.2)	11.4	14.3	HJKLM	60	良好	橙		堺明石系 内面播目 底部砂目 8層A 9層	
202	陶器	播鉢	(27.3)	[8.3]	—	EIK	20	良好	灰白		益子系 内面播目 内外面輪軸 8層A	
203	陶器	壺	(9.6)	[7.5]	—	EIK	25	普通	淡黄	SG1	瀬戸美濃系 外面鉄軸	
204	陶器	壺	—	[1.6]	(12.0)	EK	5	良好	灰白		瀬戸美濃系 内外面輪軸 内面目跡1遺存 底部黒書「口一七」 8層A	17-14
205	陶器	水鉢	(26.8)	14.8	(14.0)	EIK	30	良好	にぶい・黄褐色		瀬戸美濃系 内外面青緑釉・白釉流し掛け 内面鉄軸 外面鉄釉(小縦混じり) 底部鉄軸刷毛塗状 内面目跡3遺存 9層	12-5
206	陶器	壺	—	[10.4]	—	EI	5	良好	赤褐色		備前系か 胎土焙器質 外面塗土 鉄釉流し掛け 内面刷毛塗状施軸 8層B	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
207	陶器	甕	(32.4)	30.2	23.4	EK	70	良好	灰白		瀬戸美濃系 内外面柿輪 外面鉄輪流し掛け 内面目跡7 高台内面目跡6 髷付頸肩(○) 外面下端面・高台内輪 ふきとり 7層 8層A・B 9層B 表土 表皮	12-6
208	陶器	豆壺	5.1	5.5	3.6	IK	70	良好	灰黄		内外面柿輪 底部糸切痕(右)・墨書「あふらや」8層A 9 層	17-15
209	陶器	豆壺	(5.4)	4.7	3.4	IK	45	良好	にぶい橙		内外面柿輪 底部糸切痕(右) 8層B	
210	陶器	豆壺	(4.6)	4.8	(2.1)	EK	45	良好	浅黄橙		内外面柿輪 底部糸切痕 9層	
211	陶器	豆壺	—	[2.8]	2.2	K	30	普通	灰白		内外面施輪(黄色) 底部糸切痕(右) 9層	
212	陶器	灯明皿	9.4	2.2	3.6	IK	95	良好	にぶい黄橙		瀬戸美濃系 内外面柿輪 底部・外面下位輪ふきとり 内 面輪状重焼痕 9層	
213	陶器	灯明皿	9.5	2.2	4.1	IK	95	良好	にぶい黄橙		瀬戸美濃系 内外面柿輪 底部・外面下位輪ふきとり 内 面輪状重焼痕 外面下位重焼痕 8層A	
214	陶器	灯明皿	9.6	2.0	4.4	IK	85	良好	灰白		瀬戸美濃系 内外面柿輪 底部・外面下位輪ふきとり 内 面輪状重焼痕 外面下位重焼痕 9層	
215	陶器	灯明皿	9.7	1.8	3.9	IK	75	良好	灰白		瀬戸美濃系 内外面柿輪 底部・外面下位輪ふきとり 内 面輪状重焼痕 8層B	
216	陶器	灯明皿	(9.8)	2.2	(4.0)	IK	30	良好	灰白	SG1	瀬戸美濃系 内外面柿輪 外面下位・底部輪ふきとり 内 面輪状重焼痕	
217	陶器	灯明皿	9.9	2.0	5.0	IK	60	普通	褐灰	SG1	瀬戸美濃系 内外面柿輪・輪状重焼痕 底部輪ふきと り	
218	陶器	灯明皿	(10.6)	2.3	(3.7)	K	20	良好	灰白	SE2	京都信楽系 胎土磁質 内外面施輪 外面上位タール状物 質付着	
219	陶器	灯明皿	7.8	1.6	2.8	DEI	100	良好	灰白		瀬戸美濃系 内外面灰輪 内面目跡3(長槽円形) 8層B	12-9
220	陶器	灯明皿	9.5	2.0	4.1	IK	100	良好	灰褐		瀬戸美濃系 内外面柿輪 底部・外面下位輪ふきとり 外 面中位輪状重焼痕 8層A	
221	陶器	灯明皿	10.0	1.8	4.0	IK	100	良好	にぶい橙		瀬戸美濃系 内外面柿輪 底部・外面下位輪ふきとり 外 面中位輪状重焼痕 受口直重焼痕 口縁一部保付着	
222	陶器	灯明皿	9.4	1.8	4.1	IK	100	良好	にぶい黄橙		瀬戸美濃系 内外面柿輪 底部・外面下位輪ふきとり 外 面下位輪状重焼痕 8層A	
223	陶器	灯明皿	9.7	1.9	4.0	EIK	85	良好	灰白		瀬戸美濃系 内外面柿輪 底部・外面下位輪ふきとり 8層 A	
224	陶器	灯明皿	9.2	2.1	4.1	IK	95	良好	褐灰		瀬戸美濃系 内外面柿輪 外面下位輪ふきとり・輪状重焼 痕 受口直重焼痕 9層	
225	陶器	灯明皿	9.4	2.1	4.1	IK	95	良好	黄灰		瀬戸美濃系 内外面柿輪 底部・外面下位輪ふきとり 輪 状重焼痕 受口直重焼痕 8層A	
226	陶器	灯明皿	(9.2)	1.7	(4.6)	IK	25	良好	褐灰	SG1	瀬戸美濃系 内外面柿輪・重ね焼き痕 外面下位・底部 輪ふきとり	
227	陶器	灯明皿	(9.3)	2.0	4.0	K	75	良好	灰白		瀬戸美濃系 内外面施輪 底部・外面下位輪ふきとり 内 面目跡3 外面上位直重焼痕(口縁部付着) 粗雑なつくり 8層B	
228	陶器	灯明皿	10.5	1.8	4.1	IK	95	普通	灰白		京都信楽系 内外面施輪 外面保付着 8層A	12-8
229	陶器	灯明皿	10.3	1.7	3.6	IK	95	良好	灰白		京都信楽系 胎土磁質 内外面施輪 8層A	12-8
230	陶器	灯明皿	10.3	1.7	3.8	IK	95	良好	灰白		京都信楽系 胎土磁質 内外面施輪 外面上位一部ター ル状物質付着 9層	12-8
231	陶器	灯明皿	10.0	1.9	4.1	K	95	良好	灰白		京都信楽系 内外面施輪 被熱 切込なし 8層A 9層	12-8
232	陶器	灯明皿	9.3	1.8	4.9	IK	95	良好	灰白		内外面灰輪 外面上位タール状物質付着 8層B	12-9
233	陶器	灯明皿	7.5	1.7	3.2	IK	100	良好	灰白		内外面灰輪 内面ピン痕1か 8層B	12-9
234	陶器	灯明皿	8.2	2.0	3.6	IK	95	良好	明褐灰		内外面灰輪 内面ハリ支路5 外面中位ハリ支路1 口縁 保付着 9層	12-9
235	陶器	灯火具	8.1	5.6	5.9	IK	100	普通	にぶい黄橙		京都信楽系 内外面施輪 9層	12-7
236	陶器	灯火具	(8.7)	5.3	5.5	K	95	良好	灰白		京都信楽系 胎土磁質 内外面施輪 12層	
237	陶器	灯火具	4.4	4.9	5.3	K	95	良好	灰白		京都信楽系 胎土磁質 内外面施輪 8層B	
238	陶器	灯火具	4.9	5.6	5.5	K	95	良好	灰白		京都信楽系 内外面施輪 9層	
239	陶器	灯火具	7.1	5.0	5.0	K	100	良好	灰白		京都信楽系 内外面施輪 内面胎土付着 底部墨書 被熱 8層A	17-16
240	陶器	灯明具	(8.1)	6.4	6.0	K	80	良好	灰白	SG1	京都信楽系 胎土磁質 内外面施輪 被熱(弱)	
241	陶器	乗燵	—	[5.3]	3.9	K	75	普通	灰白		内外面鉄輪 底部糸切痕(右) 9層	
242	陶器	乗燵	—	[3.2]	3.8	EIK	80	良好	灰白		内外面鉄輪 底部糸切痕(右)・墨書 表土	17-17
243	陶器	乗燵	(5.2)	5.4	4.0	EIK	50	良好	灰白		内外面柿輪 底部糸切痕(右) 接点のない2片から図土 還元 8層A	
244	陶器	乗燵	5.5	3.1	3.9	IK	60	良好	灰白		底部中心糸切痕(左) 胎土磁質 内外面柿輪 8層A	
245	陶器	カンテラ	5.8	3.8	3.7	IK	95	普通	灰黄		京都信楽系 内外面施輪 8層B	13-1
246	陶器	カンテラ	5.5	3.6	4.0	K	100	良好	にぶい橙		京都信楽系 内外面施輪 被熱か 8層B	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
247	陶器	カンテラ	5.4	4.0	4.6	IK	90	良好	灰白		京都信楽系 内外面施釉 被熱か 8層B	13-2
248	陶器	植木鉢	(11.2)	9.8	5.4	IK	75	良好	灰白		内外面施釉 外面白土塗付 高台折り 3 9層	13-3
249	陶器	植木鉢	(12.5)	11.9	7.9	IK	25	良好	褐色		内外面鉄釉 高台折り 1 8層A 9層	
250	陶器	植木鉢	(12.8)	13.3	8.2	EIK	70	良好	灰白		瀬戸美濃系 内外面鉄釉 高台折り 1 底部墨書 9層	17-18
251	陶器	植木鉢	18.6	17.0	12.1	K	65	良好	灰白		瀬戸美濃系 内外面鉄釉 高台折り 2 底部墨書 表土 表探 8層A 9層	17-19
252	陶器	香炉	6.0	3.0	3.9	EIK	100	良好	灰白		京都信楽系 内面施釉 外面鉄釉・緑釉流し掛け 内底面目跡 2 口縁部目跡 2 底部鉄化粧土付着 被熱 8層B	
253	陶器	花生	—	[6.5]	4.8	IK	45	良好	灰白		瀬戸美濃系 内面鉄釉 外面上位灰釉・下位鉄釉掛け分け 底部糸切痕(右) 表探	
254	陶器	五徳	—	9.3	(13.0)	IK	10	普通	灰白		京都系 手捻り成形 緑釉(下位内面摩耗・釉剥け) 被熱 白色胎土 接点のない2片から復元 8層A	13-4
255	陶器	五徳	—	8.6	(12.2)	EIK	60	普通	灰白		京都系 手捻り整形 無釉 白色胎土 下部刻印「新口」爪 2遺存 8層A	13-5
256	陶器	衛生陶器	長さ[10.0]	高さ3.8		EIK	5	良好	灰白		瀬戸美濃系 内面黄褐色釉(部分的にうろふ釉) 外面鉄釉刷毛塗付 9層	13-7
257	陶器	土鐘	長さ4.4	外径(3.5)	内径(1.5)	BEXM	30	良好	—		常滑系 伎輪 重さ18.8g 表土	
258	陶器	水筒か	—	[5.1]	—	AIK	50	良好	灰白		京都系 ナス 外面緑釉・鉄釉 上下合二枚型成形 白色胎土 底部刻印 9層 28層	13-6
259	陶器	不明品	—	[3.8]	—	EIK	5	良好	灰		内面鉄釉 外面施釉・白土塗付 上位陰刻文 被熱 8層B	

能焼原原I a期～I b期前半の特徴とされる複刃状トビガンナが施文される。内面の緑褐色釉は黒く発色し、『飯能の遺跡(27)』巻頭図版4(飯能市1999)の釉調表では黒色系にあたる。また、鍋身の底部脇には飯能焼行平鍋の最大の特徴である沈線が1条廻る。鍋身・蓋ともに外面には鉄釉が施釉されており、原窯では稀な製品である。

166は飯能焼に類似する行平鍋である。165と同じく底部脇に沈線が廻り、内面は緑褐色系釉である。トビガンナは単刃状で、外面は露胎で赤褐色を帯びる。胎土は緻密で硬質である。焼成時の火膨れが見られる。

168・第54図199は生産地不明製品で、胎土に白色針状物質が一定量含まれている陶器である。168は小型の鍋と考えられるが、ミニチュアとの区別が困難である。釉調は黄色味を帯びる鉄釉で、胎土は粗粒で、白色針状物質の含有は顕著である。199は行平鍋の蓋である。内面に鉄化粧を施し、緑褐色系釉を施釉している。外面は鉄釉で、胎土は緻密で硬質である。

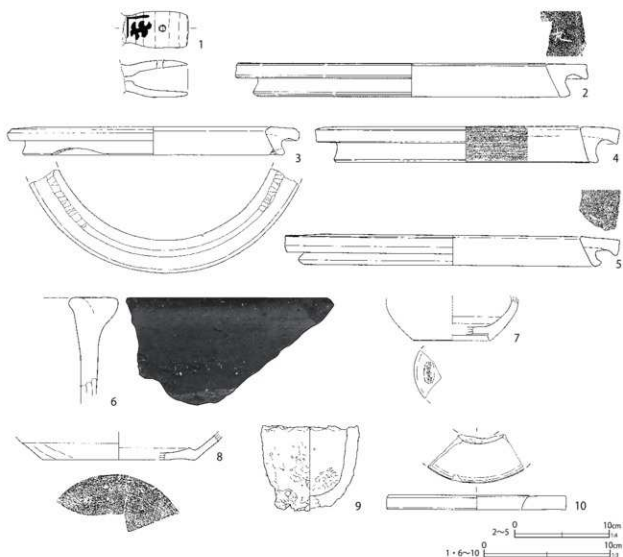
関東地方の近世窯で白色針状物質を含む代表的な窯は、鳩山町の熊井焼である。熊井焼は飯能焼

と非常によく似た陶器として知られている(渡辺2003・富元2006)。飯能焼原原窯跡でも白色針状物質を含む製品が出土しており、熊井焼として報告されている。しかし、白色針状物質が含むこと以外では、原窯製品との区別はつかないとしている。(富元2006)。

熊井焼は天明五年(1785)～昭和三十三年(1963)まで操業していた陶器窯で、釉薬は灰釉・鉄釉・灰白色釉を主体とし、口径10cm程度の小型行平鍋を含む鍋類を主力生産品としている(渡辺2004)。熊井焼は168・199の生産地候補の一つとして捉えておきたい。

第57図256は瀬戸美濃系の衛生陶器である。外面は鉄釉が刷毛塗付に施釉される。内面には黄褐色系釉が施釉され、部分的に海鼠釉調である。栗橋宿跡第5地点第23号土壌から同様の製品が出土している。遺構の位置は調査区北端であり、遺跡の範囲としては北2丁目陣屋跡にかかっている。年代は19世紀中葉(栗橋第8期)である(埼玉県埋蔵文化財調査事業団2020a)。遺物包含層の形成時期とも重なることから、同一個体の可能性は高い。江戸時代まで廻る衛生陶器の出土は稀である。

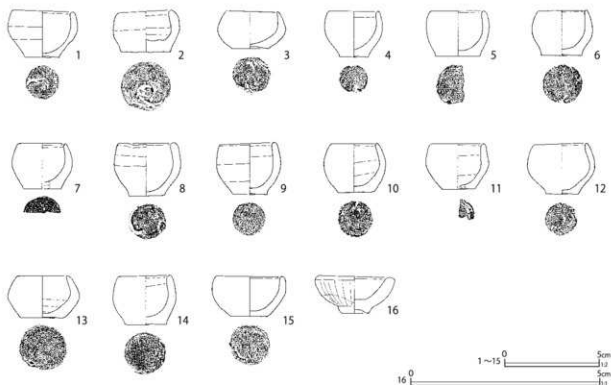




第58図 遺物包含層出土土器

第4表 遺物包含層出土土器観察表 (第58図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	土師質土器	片手鍋	長さ [7.6]	[3.3]	—	CHK	5	普通	灰白		把手 墨書「五」 8層	17-20
2	瓦質土器	甕罍	(28.8)	3.5	(31.6)	ACIK	20	普通	灰白・黒		胎土緻密・硬質・中心部灰色 燻す 上面刻印「九」 8層A	13-10
3	瓦質土器	甕罍	(24.8)	3.0	(27.1)	EIK	40	普通	灰白・灰		胎土中心部灰色 燻す 下腹部二次加工(刷瓶) 被熱・全面煤付着 9層	
4	瓦質土器	甕罍	32.0	3.8	27.7	CHK	60	—	鶉灰・黒		内外面筋状のナゲ 上面・内面上位煤付着 燻す 8層A・B 9層	
5	瓦質土器	甕罍	27.6	3.2	31.0	CHK	75	普通	灰白		燻す 上面刻書「一」か・全面煤付着 8層A・B 9層	13-11
6	土師質土器	甕	—	—	—	ABCD EIK	5	普通	褐色		真壁系 9層	13-8
7	瓦質土器	鉢	(9.3)	3.6	(6.0)	I	20	普通	灰白・黄灰	SE1	外面ミガキ 燻す 底部刻印「立石勝五郎」	17-21
8	かわらけ	中皿	—	[2.2]	(12.0)	HIK	10	普通	にぶい橙		底部永切瓶 胎土粉質 江戸在地系 内面煤付着 8層B	
9	土器	埴埴	(7.4)	6.7	—	EI	45	普通	黒褐		内外面滓状付着物 外面ガラス化 還元 9層	13-9
10	土師質土器	環状土製品	—	1.1	(14.1)	CHK	15	普通	にぶい橙		下面砂目 被熱(弱) 8層B	



第59図 遺物包含層出土小型器種

第5表 遺物包含層出土小型器種観察表 (第59図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	土師質土器	小壺	3.1	2.5	1.8	12.1	ACHK	良好	にぶい橙		底部糸切痕(左) 胎土粉質 8層A	18-1
2	土師質土器	小壺	2.7	2.2	2.1	16.5	AHK	良好	橙		底部糸切痕(左) 胎土粉質 8層A	18-1
3	土師質土器	小壺	2.7	2.0	2.0	11.0	AIK	良好	橙		底部糸切痕(左) 胎土粉質 8層A	18-1
4	土師質土器	小壺	(2.5)	2.4	1.5	5.4	HK	普通	にぶい橙		底部糸切痕(左) 胎土粉質 8層B	18-1
5	土師質土器	小壺	2.7	2.4	2.4	4.5	HK	普通	にぶい橙		底部糸切痕(左) 胎土粉質 8層B	18-1
6	土師質土器	小壺	2.4	2.4	2.1	12.9	ACJK	良好	にぶい橙		底部糸切痕(左) 胎土粉質 9層	18-1
7	土師質土器	小壺	(2.4)	2.4	(2.0)	5.6	AIK	良好	にぶい橙		底部糸切痕 胎土粉質 9層	18-1
8	土師質土器	小壺	2.8	2.8	1.9	16.0	AHK	良好	にぶい橙		底部糸切痕(左) 胎土粉質 9層	18-1
9	土師質土器	小壺	2.8	2.7	1.8	15.2	ACHK	良好	にぶい橙		底部糸切痕(左) 胎土粉質 9層	18-1
10	土師質土器	小壺	2.4	2.6	1.9	15.4	AIK	良好	にぶい橙		底部糸切痕(左) 胎土粉質 9層	18-1
11	土師質土器	小壺	(2.7)	2.4	(1.7)	4.9	AIK	良好	にぶい橙		底部糸切痕 胎土粉質 9層	18-1
12	土師質土器	小壺	2.8	2.7	1.7	13.3	AHK	良好	にぶい橙		底部糸切痕(左) 胎土粉質 9層	18-1
13	土師質土器	小壺	(2.6)	2.2	2.2	11.3	AHK	良好	にぶい橙		底部糸切痕(左) 胎土粉質 9層	18-1
14	土師質土器	小壺	2.6	2.6	2.2	15.3	HK	良好	橙	攪乱	底部糸切痕(左) 胎土粉質	18-1
15	土師質土器	小壺	3.4	2.1	2.0	10.7	AHI	普通	にぶい橙		底部糸切痕摩耗 8区	18-1
16	磁器	紅環	1.9	1.0	0.6	3.3	-	良好	白		瀬戸美濃系 型成形 内外面施釉 9層	18-2

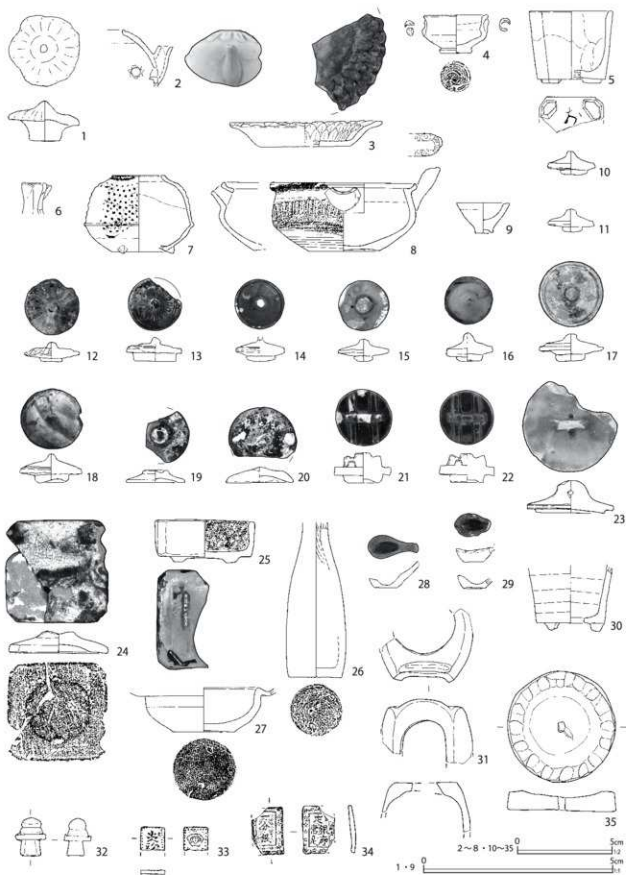
### 土器 (第58図)

2～5は瓦質土器の甕罍である。3の下端部2箇所には、大きく抉るような連続するノッキング状の削痕が遺存している。

6は土師質土器の大甕で、胎土に金雲母・石英・長石等が多量に含まれる。茨城県桜川市埴世

(旧真壁町)で生産された真壁焼(源法寺焼)である。19世紀中葉に比定される栗橋宿本陣跡第33号土壇では、生産地と店印・生産者名を記した大甕(第157図481)が出土している(埼玉県埋蔵文化財調査事業団2020b)。

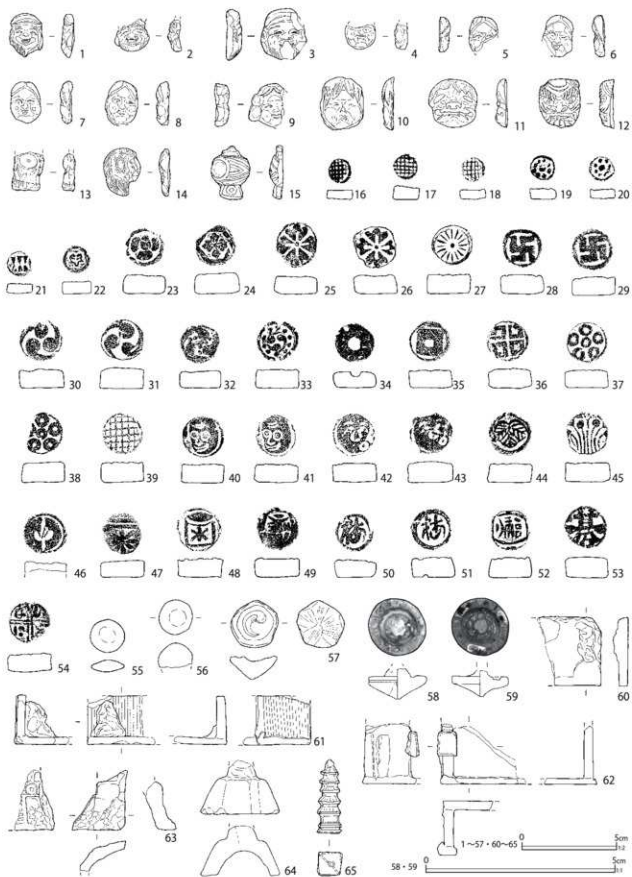
7は瓦質土器の鉢である。外面は丁寧なミガキ



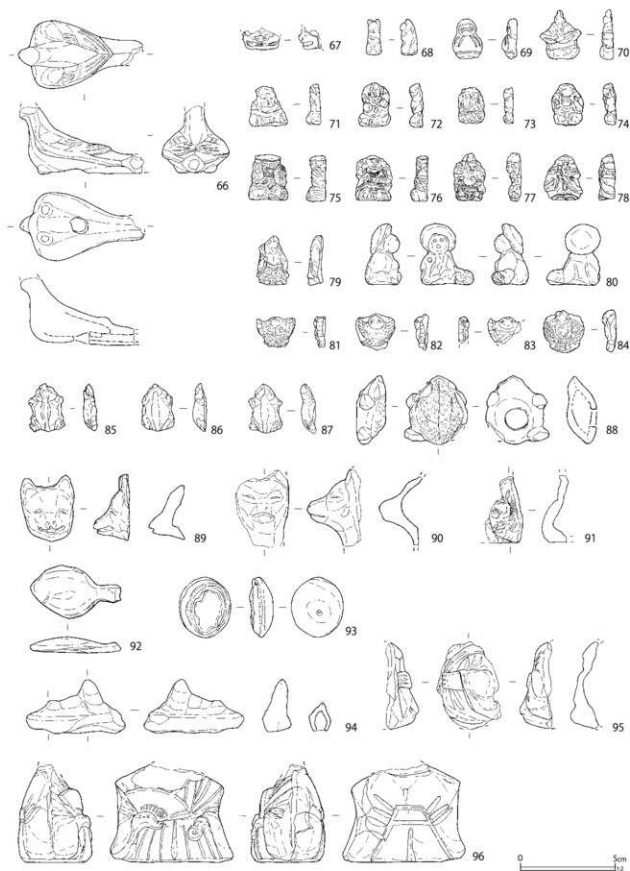
第60図 遺物包含層出土ミニチュア

第6表 遺物包含層出土ミニチュア観察表 (第60図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	重量	胎土	焼成	色調	遺情	備考	図版
1	磁器	ミニチュア	径1.9	1.0	0.8	2.2	—	良好	白		瀬戸美濃系 型成形 下部粘土貼付 上面施軸表土	
2	磁器	ミニチュア	—	[3.0]	—	7.6	—	良好	白		瀬戸美濃系 急須 型成形 外面施軸・黒刻文9層	
3	陶器	ミニチュア	(8.0)	1.8	(4.6)	8.2	IK	良好	灰白		京都系 皿 型成形 内面緑・黄色軸 8層A	
4	陶器	ミニチュア	3.3	2.0	1.1	11.9	K	良好	灰白		肥前系 香炉 内外面青緑軸 底部糸切痕(左) 8層A	18-3
5	陶器	ミニチュア	4.4	3.8	3.6	13.6	AK	良好	灰白		京都系 燈炉 型成形 外面上位施軸 底部墨書 8層B	
6	陶器	ミニチュア	1.1	[1.6]	—	2.4	K	良好	灰白		徳利 内外面青緑軸	
7	陶器	ミニチュア	(2.4)	4.1	(2.8)	8.5	K	良好	灰白		型成形 内外面施軸 胎土硬質 8層A 9層	
8	陶器	ミニチュア	7.5	[4.4]	3.8	60.4	AIK	良好	灰白		行平鍋 把手型成形 外面上位鉄軸施軸後トビガンナ状施文 内面施軸 8層A	
9	土製品	ミニチュア	1.4	0.8	(0.5)	0.6	—	良好	橙		江戸在地系 鉢 型成形 内面白化粧 内外面施軸 9層	
10	土製品	ミニチュア	径2.5	1.2	—	4.1	K	良好	橙		江戸在地系 蓋 手捻り 上下別造り 上面白化粧 8層A	
11	土製品	ミニチュア	径2.5	1.2	1.0	3.5	IK	良好	淡赤橙		江戸在地系 蓋 手捻り 上下別造り 上下面白化粧 8層A	
12	土製品	ミニチュア	径2.9	1.0	1.1	4.4	—	良好	橙		江戸在地系 蓋 型成形 下部粘土貼付 上面施軸 下面黒色付着物 8層B	18-4
13	土製品	ミニチュア	径2.9	1.3	2.2	6.2	HIK	良好	灰白	SE2	京都系 蓋 型成形 下部粘土貼付 上面施軸・緑軸	18-4
14	土製品	ミニチュア	径2.1	1.2	—	4.7	IK	良好	橙		江戸在地系 蓋 型成形 上面鉄化粧・施軸 土部型成形 下部粘土貼付 8層A	
15	土製品	ミニチュア	2.7	1.2	—	4.1	K	良好	橙		江戸在地系 蓋 型成形 下位粘土貼付 上面白化粧・施軸 9層	
16	土製品	ミニチュア	径2.5	1.5	1.3	4.7	AHIK	良好	橙		江戸在地系 蓋 手捻り 上下別造り 上面白化粧・施軸(黄) 3区	18-4
17	土製品	ミニチュア	3.5	1.5	—	8.9	AK	良好	橙		江戸在地系 蓋 型成形 下位粘土貼付 上面白化粧・施軸 9層	18-4
18	土製品	ミニチュア	径3.3	1.5	1.8	7.8	AH	良好	橙		江戸在地系 蓋 型成形 上面白化粧・施軸 下部粘土貼付・白土付着 8層A	
19	土製品	ミニチュア	(1.4)	0.6	(3.2)	2.0	AHI	良好	江赤・橙		江戸在地系 蓋 型成形 上面施軸(赤・白・黒) 下面雲母細粒付着 9層	18-4
20	土製品	ミニチュア	—	1.0	(3.6)	4.5	AHIK	良好	明褐色		京都系小 蓋 型成形 上面施軸・被熱(黒化・釉剥落) 9層	18-4
21	土製品	ミニチュア	径3.0	1.6	2.0	9.8	I	良好	橙		江戸在地系 蓋 型成形 上面施軸 8層A	
22	土製品	ミニチュア	径2.9	1.5	1.5	10.1	CI	良好	赤橙		蓋 型成形 上面塗土・施軸 陶器質 8層B	18-4
23	土製品	ミニチュア	4.6	[1.7]	3.6	12.5	AIK	良好	橙		江戸在地系 蓋 型成形 上面施軸 8層A	
24	土製品	ミニチュア	長5.3 幅5.3 高1.1			21.5	AHK	良好	橙		江戸在地系 蓋 型成形 上面白化粧・施軸(一部緑軸) 下面中央布目痕 8層B 9層	
25	土製品	ミニチュア	長5.3 幅5.3 高2.2			13.1	AHK	良好	浅黄橙		江戸在地系 蓋物 型成形 外面白化粧・施軸(一部緑軸) 内面布目痕 9層	
26	土製品	ミニチュア	—	[8.2]	2.7	39.9	K	普通	灰白	視乱	京都系 徳利 底部糸切痕(右) 外面光沢	18-5
27	土製品	ミニチュア	—	[2.4]	3.3	34.6	AHIK	良好	江赤・橙		鍋 底部糸切痕(左) 胎土粉質 内外面煤付着9層	
28	土製品	ミニチュア	長2.6 幅1.3 高1.4			1.1	I	良好	赤橙		蘆華 型成形 内外面施軸 8層A	18-6
29	土製品	ミニチュア	長[1.8] 幅1.2 高[0.8]			0.9	H	良好	橙		江戸在地系 蘆華 型成形 内面施軸 8層B	
30	土製品	ミニチュア	—	[3.1]	(3.6)	8.7	I	良好	江赤・橙		植木鉢 内外面施軸(外面漆黒鉄軸) 底部全輪 8層A	18-7
31	土製品	ミニチュア	長3.4 幅4.9 厚0.8			15.1	ACIK	良好	橙		江戸在地系 甕 型成形 内面布目痕 8層B	
32	土製品	ミニチュア	高2.0 幅1.6 厚1.4			3.3	—	良好	橙		江戸在地系 鍬柄 型成形 施軸 上部白化粧9層	18-8
33	土製品	ミニチュア	長[1.2] 幅1.3 厚0.2			0.6	IK	良好	橙	SE2	江戸在地系 錢貨 型成形 雲母付着	
34	土製品	ミニチュア	長2.5 幅1.7 厚0.3			1.4	—	良好	橙		江戸在地系 錢貨 型成形 雲母付着 8層B	18-10
35	土製品	不明	径5.8 厚1.0			38.1	AHIK	良好	江赤・橙		型成形 燒成前穿孔1 雲母付着 8層B	18-9



第61图 遗物包含層出土玩具·人形 (1)



第62图 遺物包含層出土玩具・人形(2)

第7表 遺物包含層出土玩具・人形観察表 (第61・62図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	焼成	色調	造構	備考	図版
1	土製品	芥子面	2.3	1.7	0.7	1.9	AK	良好	橙		江戸在地系 一枚型成形 中実 9層	19-1
2	土製品	芥子面	[1.7]	1.8	0.7	1.3	AK	良好	橙		江戸在地系 一枚型成形 中実 9層	19-1
3	土製品	芥子面	2.7	2.4	0.8	4.5	AHK	良好	にぶい橙		江戸在地系 中実 8層B	19-1
4	土製品	芥子面	[1.3]	1.6	0.7	1.4	AK	良好	にぶい橙		江戸在地系 一枚型成形 中実 9層	19-1
5	土製品	芥子面	1.8	[1.5]	0.6	1.4	AK	良好	にぶい橙		江戸在地系 一枚型成形 中実 9層	19-1
6	土製品	芥子面	2.2	[2.1]	0.7	1.9	AK	良好	橙		江戸在地系 一枚型成形 中実 9層	19-1
7	土製品	芥子面	2.2	1.6	0.7	2.0	AK	良好	にぶい橙	複品	一枚型成形 雲母細粒含む	19-1
8	土製品	芥子面	[2.3]	1.7	0.7	2.3	AK	良好	にぶい橙		江戸在地系 一枚型成形 中実 9層	19-1
9	土製品	芥子面	2.3	[1.9]	0.8	2.6	AK	良好	にぶい橙		江戸在地系 一枚型成形 中実 9層	19-1
10	土製品	芥子面	2.8	2.3	0.7	3.4	AK	良好	にぶい橙		江戸在地系 一枚型成形 中実 9層	19-1
11	土製品	芥子面	2.5	2.5	0.6	3.6	AK	良好	橙		一枚型成形 中実 雲母付着 9層	19-1
12	土製品	芥子面	2.6	2.2	0.8	3.5	AHK	良好	にぶい橙	複品	江戸在地系 一枚型成形	19-1
13	土製品	芥子面	[2.0]	1.7	0.7	1.7	AK	良好	橙		江戸在地系 一枚型成形 中実 雲母付着 9層	19-1
14	土製品	芥子面	2.5	1.9	0.6	2.3	AK	良好	橙		江戸在地系 一枚型成形 中実 9層	19-1
15	土製品	芥子面	2.8	2.0	0.7	3.0	AK	良好	橙		江戸在地系 一枚型成形 中実 9層	19-1
16	土製品	泥面子	径1.4	0.5	1.1	AK	良好	橙			江戸在地系 一枚型成形 雲母付着 8層A	19-4
17	土製品	泥面子	径2.4	1.0	7.3	AIK	良好	にぶい橙			江戸在地系 一枚型成形 雲母付着 8層A	19-4
18	土製品	泥面子	径1.4	0.6	1.2	AK	良好	橙			江戸在地系 一枚型成形 雲母付着 8層B	19-4
19	土製品	泥面子	径1.4	0.6	1.3	AIK	良好	橙			江戸在地系 一枚型成形 雲母付着 8層B	19-4
20	土製品	泥面子	径1.3	0.5	1.1	AK	良好	にぶい橙			江戸在地系 一枚型成形 雲母付着 8層B	19-4
21	土製品	泥面子	径1.4	0.5	1.1	AK	良好	橙			江戸在地系 一枚型成形 8層B	19-4
22	土製品	泥面子	径1.5	0.7	1.8	AK	良好	橙			江戸在地系 一枚型成形 雲母付着 9層	19-4
23	土製品	泥面子	径2.3	1.0	6.1	AK	良好	にぶい橙			江戸在地系 一枚型成形 8層B	19-4
24	土製品	泥面子	径2.4	1.1	6.9	AHK	良好	にぶい橙			一枚型成形 雲母付着 9層	19-4
25	土製品	泥面子	径2.3	0.9	5.9	ACEHIK	良好	橙			江戸在地系 一枚型成形 雲母付着 8層A	19-4
26	土製品	泥面子	径2.3	1.0	6.6	AIK	良好	にぶい橙			江戸在地系 一枚型成形 雲母付着 8層B	19-4
27	土製品	泥面子	径2.3	1.0	6.5	AK	良好	橙			江戸在地系 一枚型成形 雲母付着 8層B	19-4
28	土製品	泥面子	径2.3	1.0	6.3	AHK	良好	橙			江戸在地系 一枚型成形 雲母付着 8層A	19-4
29	土製品	泥面子	径2.3	1.0	6.4	AHK	良好	橙			江戸在地系 一枚型成形 雲母付着 表探	19-4
30	土製品	泥面子	径2.4	1.0	6.3	AHK	良好	橙			江戸在地系 一枚型成形 雲母付着 8層B	19-4
31	土製品	泥面子	径2.3	1.1	6.8	AK	良好	橙			江戸在地系 一枚型成形 雲母付着 9層	19-4
32	土製品	泥面子	径2.2	0.9	5.4	ACEIK	良好	橙			江戸在地系 一枚型成形 雲母付着 摩耗 8層A	19-4
33	土製品	泥面子	径2.3	1.0	5.9	ACK	良好	橙			江戸在地系 一枚型成形 雲母付着 8層A	19-4
34	土製品	泥面子	径2.3	0.8	5.0	AHK	良好	橙			江戸在地系 一枚型成形 雲母付着 摩耗 8層B	19-4
35	土製品	泥面子	径2.3	0.9	5.9	AHK	良好	橙			江戸在地系 一枚型成形 8層B	19-4
36	土製品	泥面子	径2.2	1.1	6.6	AHK	良好	にぶい橙	SE2		江戸在地系 一枚型成形 雲母付着	19-4
37	土製品	泥面子	径2.3	0.9	5.5	AK	良好	橙			江戸在地系 一枚型成形 雲母付着 9層	19-4
38	土製品	泥面子	径2.3	1.0	5.9	AHK	良好	にぶい橙	SE2		江戸在地系 一枚型成形 雲母付着	19-4
39	土製品	泥面子	径2.3	1.1	7.1	AHK	良好	にぶい橙			江戸在地系 一枚型成形 雲母付着 8層A	19-4
40	土製品	泥面子	径2.3	1.0	6.5	AHK	良好	明赤褐			江戸在地系 一枚型成形 雲母付着 8層A	19-4
41	土製品	泥面子	径2.3	1.0	6.7	AIK	良好	にぶい橙			江戸在地系 一枚型成形 雲母付着 8層B	19-4
42	土製品	泥面子	径2.4	1.0	6.8	AIK	良好	にぶい橙			江戸在地系 一枚型成形 雲母付着 8層B	19-4
43	土製品	泥面子	径2.4	1.1	7.1	AHK	良好	にぶい橙	複品		江戸在地系 一枚型成形 雲母付着	19-4
44	土製品	泥面子	径1.4	0.7	1.5	AK	良好	橙			江戸在地系 一枚型成形 雲母付着 8層B	19-4
45	土製品	泥面子	径2.4	1.0	7.0	AIK	良好	橙			江戸在地系 一枚型成形 雲母付着 8層B	19-4
46	土製品	泥面子	径1.2	[0.7]	2.6	AHK	良好	橙			江戸在地系 一枚型成形 雲母付着	19-4
47	土製品	泥面子	径2.3	0.9	6.5	AIK	良好	にぶい橙			江戸在地系 一枚型成形 雲母付着 摩耗 8層A	19-4
48	土製品	泥面子	径2.4	1.0	6.1	AHI	良好	橙	複品		江戸在地系 一枚型成形 雲母付着	19-4
49	土製品	泥面子	径2.4	1.0	6.6	AHK	良好	にぶい橙			江戸在地系 一枚型成形 雲母付着 8層B	19-4

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
50	土製品	泥面子	径2.2	0.9	5.4	AK	良好	にぶい橙			江戸在地系 一枚型成形 雲母付着 摩粒 8層B	19-4
51	土製品	泥面子	径2.3	1.1	6.8	AIK	良好	にぶい橙			江戸在地系 一枚型成形 雲母付着 8層A	19-4
52	土製品	泥面子	径2.3	1.1	6.5	AHK	良好	にぶい橙			江戸在地系 一枚型成形 雲母付着 8層A	19-4
53	土製品	泥面子	径2.3	1.1	6.8	AHK	良好	橙			江戸在地系 一枚型成形 雲母付着 8層B	19-4
54	土製品	泥面子	径2.3	1.0	6.2	AHK	良好	橙	SE2		江戸在地系 一枚型成形 雲母付着 被熱	19-4
55	土製品	碁石	径1.7	0.6	1.6	AK	良好	にぶい橙			江戸在地系 手捻り 雲母付着 8層B	
56	土製品	土玉	径1.8	—	3.8	ACHK	良好	にぶい橙			手捻り やや砂質 9層	
57	陶器	玩具	2.5	2.5	1.2	5.3	—	普通	灰白		ペーゴウ 白色胎土 無軸 表土	
58	土製品	玩具	径1.5	[0.8]	1.1	—	良好	橙			江戸在地系 独楽か・型成形 上・下面施軸 8層A	
59	土製品	玩具	径1.5	0.7	1.0	—	良好	橙			江戸在地系 独楽か・型成形 全面施軸 上面白土の上に緑軸 9層	
60	土製品	箱庭道具	3.7	[3.4]	0.8	8.3	AIK	良好	橙		江戸在地系 舞板作り成形 内外面施軸 白化粧 緑軸 8層A	
61	土製品	箱庭道具	高さ2.6 幅[3.6] 奥行[2.9]			12.4	AHK	良好	にぶい橙	攪乱	江戸在地系 舞板作り成形 内外面施軸(一部白土・緑軸) 下面無軸 側面断面状痕	
62	土製品	箱庭道具	高さ[3.2]幅[4.2] 奥行[2.9]			18.4	AHK	良好	にぶい橙	攪乱	江戸在地系 舞板作り成形 内外面施軸(一部白土・黒軸)	
63	土製品	箱庭道具	[3.2]	[2.1]	1.0	6.8	AHK	普通	にぶい橙	攪乱	江戸在地系 石垣付き石段か 一枚型成形 開口	
64	土製品	箱庭道具	2.8	4.2	1.8	20.1	—	良好	橙		江戸在地系 左右合二枚型成形 開口 外面白化粧・施軸・緑軸流し掛7 9層	
65	土製品	箱庭道具	1.3	1.2	3.9	5.0	K	良好	にぶい橙	SG1	塔 左右合二枚型成形 中実 雲母付着	18-11
66	土製品	埴苗	[3.5]	[6.6]	0.4	18.5	AIK	良好	橙		江戸在地系 上下合二枚型成形 中空 外面施軸 8層A	18-12
67	土製品	人形	[1.2]	[2.0]	0.5	1.3	ACK	良好	橙		江戸在地系 獅子頭 一枚型成形 開口 内外面白化粧 8層A	
68	磁器	人形	1.9	0.8	0.9	1.7	—	普通	白		瀬戸美濃系 猫 型成形 無軸 表土	
69	土製品	人形	2.1	1.6	0.8	1.9	K	良好	橙		連磨 一枚型成形 中実 9層	
70	土製品	人形	2.6	2.2	0.7	2.7	AK	良好	にぶい橙		天神 一枚型成形 中実 9層	
71	土製品	人形	2.1	2.0	0.8	1.9	AK	良好	橙		一枚型成形 中実 9層	
72	土製品	人形	2.3	1.7	0.7	2.1	HK	良好	にぶい橙		一枚型成形 8層A	
73	土製品	人形	1.9	1.4	0.5	1.3	AK	良好	にぶい橙		大黒 一枚型成形 中実 9層	
74	土製品	人形	2.4	1.9	0.9	1.9	AK	良好	橙		江戸在地系 大黒 一枚型成形 中実 8層B	
75	土製品	人形	2.4	2.1	1.0	4.3	AK	良好	にぶい橙		江戸在地系 大黒 一枚型成形 中実 雲母付着 被熱 8層B	
76	土製品	人形	2.2	1.7	0.6	3.7	A	良好	にぶい橙		江戸在地系 大黒 一枚型成形 中実 雲母付着 8層B	
77	土製品	人形	2.5	1.7	0.8	2.2	AHK	良好	橙		江戸在地系 一枚型成形 中実 8層B	19-2
78	土製品	人形	2.4	2.1	0.9	3.3	AK	良好	にぶい橙		江戸在地系 一枚型成形 雲母付着 8層A	19-3
79	土製品	人形	2.6	1.7	0.8	2.3	A	良好	にぶい橙		江戸在地系 一枚型成形 雲母・糠付着 9層	
80	土製品	人形	3.2	2.8	1.9	10.1	AK	良好	橙		江戸在地系 手捻り 施軸(一部白土・緑軸) 9層	19-5
81	土製品	人形	1.6	2.0	0.6	1.5	AK	良好	橙		江戸在地系 鳥 一枚型成形 中実 9層	
82	土製品	人形	1.9	2.1	0.8	2.0	ACK	良好	にぶい橙		鳥 一枚型成形 中実 9層	
83	土製品	人形	[1.4]	[1.8]	[0.5]	0.9	A	良好	にぶい橙		鳥 一枚型成形 中実 9層	
84	土製品	人形	2.2	2.1	0.8	2.3	AH	良好	橙	攪乱	江戸在地系 鳥 一枚型成形	
85	土製品	人形	2.5	1.9	0.7	2.4	AK	良好	橙		江戸在地系 蛙 一枚型成形 中実 8層B	
86	土製品	人形	2.5	1.7	0.7	2.1	AK	良好	橙		江戸在地系 蛙 一枚型成形 中実 9層	
87	土製品	人形	2.6	1.7	0.8	2.3	AK	良好	橙		江戸在地系 蛙 一枚型成形 中実 9層	
88	土製品	人形	4.1	2.8	1.3	10.5	AHK	良好	橙		江戸在地系 蛙 上下合二枚型成形 中空 外面施軸(一部白土・緑軸) 9層	
89	土製品	人形	3.5	2.8	1.3	6.8	AHK	良好	橙		江戸在地系 狐 前後合二枚型成形 中空 雲母付着 9層	
90	土製品	人形	3.6	3.3	0.6	10.1	AHK	良好	橙		江戸在地系 狐 前後合二枚型成形 中空 9層	



番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
91	土製品	人形	[3.5]	[2.0]	0.8	4.9	AHK	良好	にぶい橙	S61	江戸在地系 二枚型成形 中空 8層B	19-6
92	土製品	人形	2.8	4.8	0.8	6.8	AIK	良好	橙		江戸在地系 魚一枚型成形 中実 8層B	
93	土製品	人形	3.2	2.7	1.2	8.2	AWK	良好	にぶい橙	S61	一枚型成形 鮎 中実 雲母付着 9層	19-7
94	土製品	人形	[5.3]	1.5	2.8	11.1	K	普通	灰白		京都系 左右合二枚型成形 中空 摩耗	
95	土製品	人形	[4.6]	[3.4]	0.8	11.2	ACEBK	良好	にぶい橙	S61	二枚型成形 大黒 中空 8層A	19-8
96	土製品	人形	5.2	6.4	0.4	39.1	AHK	良好	橙		前後合二枚型成形 中空 9層	

調整が見られる。胎土は粉質で、全体を強く焼す。底部には「立石勝五郎」と刻印されている。

### 非掲載陶磁器

第一面遺物包含層の遺物は、その上位層や近代の遺構から出土したものと接合するものも多かった。そこで、地表面から遺物包含層までの出土遺物のうち、非掲載としたものを一括し、その重量計測を行った。

非掲載陶磁器の総重量は、磁器が131,863.3g、陶器67,325.7g、土器52,001.1gである。このうち、磁器については近代製品の判別が容易であるので、上位層由来の混入品を分別した。その内容は、各種染付技法の出現時期とピークとなる時期を基準に、酸化コバルト染付磁器段階（1870～1880年代）、型紙摺絵染付磁器段階（1880～1890年代）、銅版転写染付磁器段階以降（1890年代以降）の3段階に分類のうえ計量した。

また、それら遺物が上位層からの混入か否かを判別するため、上位層出土、表面採取遺物についても同様に分類し、出土量の計量を行った。

確認された近代磁器は4506.2gあり、そのうち確認できた上位層出土、表面採取遺物は2578.8gであった。以下、各種内訳について見ていく。

酸化コバルト染付磁器段階の製品は2102.3gで、うち680.5gが上位層出土、表面採取遺物である。型紙摺絵染付磁器段階の製品は483.1gで、上位層出土、表面採取遺物は372.1gである。銅版転写染付磁器段階以降の製品は1920.8gで、上位層出土、表面採取遺物は1526.2gである。

上位層出土、表面採取遺物は銅版転写染付磁器段階以降のものが多く、多色刷り銅版を含む銅版

転写染付磁器のほか、ゴム印版染付磁器も一定量が認められる。このことから、第一面遺物包含層から出土したこの段階の製品は、明らかに上位層からの混入である。

型紙摺絵染付磁器段階の製品も、同様に上位層出土、表面採取遺物が遺物包含層の出土量を上回っている。加えて、この段階の製品は出土量が極端に少ないので、やはり上位層からの混入と推測される。

酸化コバルト染付磁器段階の製品は、第一面遺物包含層からある程度の出土があるうえ、上位層出土からの出土は少ない。とはいえ、磁器全体の僅か1.5%という状況を考慮すれば、これも混入の可能性が十分に考えられる。ただし、染付の発色の良さから、酸化コバルトと真須との区別がつかない製品も少なからず認められる。この点は留意しておきたい。

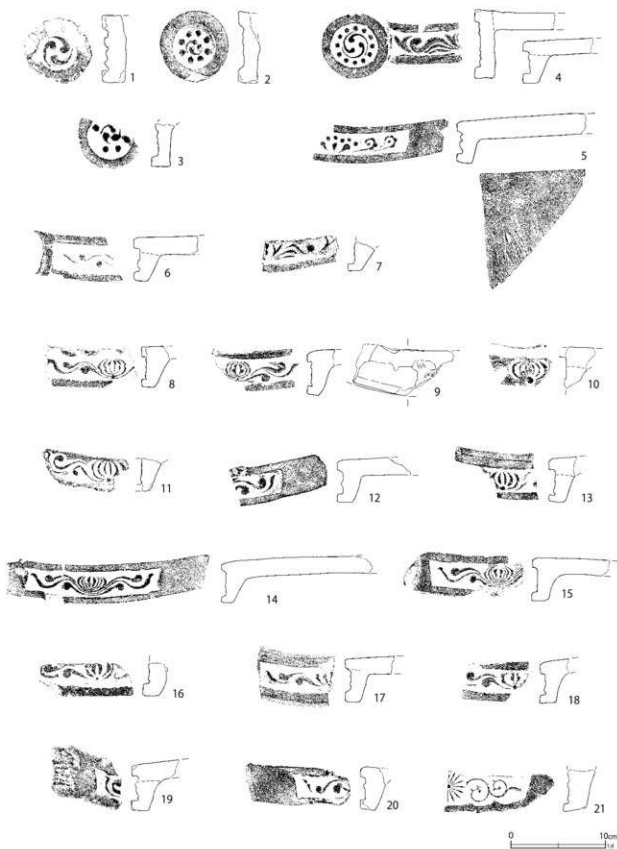
これに対し、遺物包含層出土磁器の主体は瀬戸美濃系の江戸絵付小坏、小型の湯呑形碗、端反碗である。

### 土製品（第59～62図）

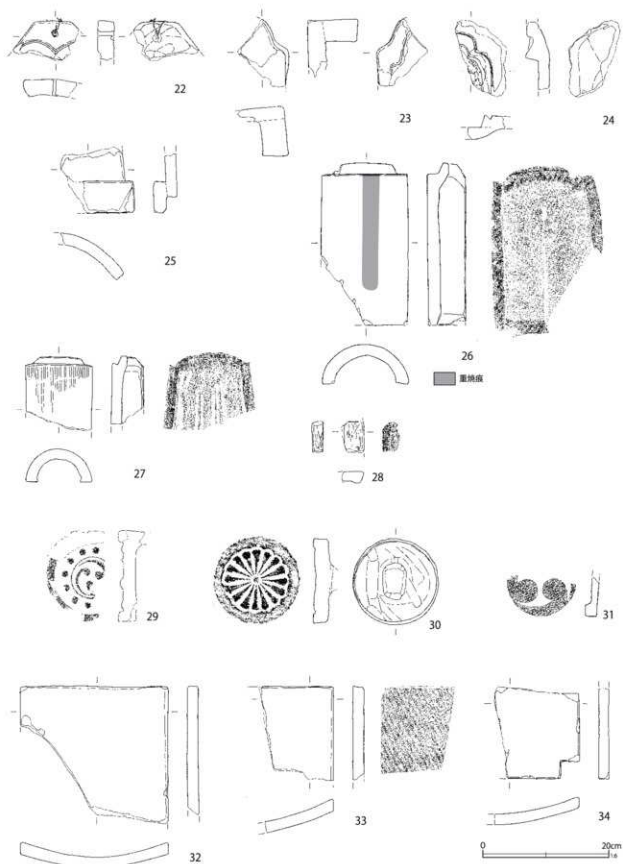
第59図には、ミニチュアと実用品の判別が困難な小型器種を一括した。1～15は土師質土器の小壺で、京都系の所謂「つぼつぼ」に類似する製品である。雲母細粒を含む粉質な胎土で、左回転の糸切り痕である。第60～62図にはミニチュア、玩具類、人形類を図示した。

### 瓦（第63～65図）

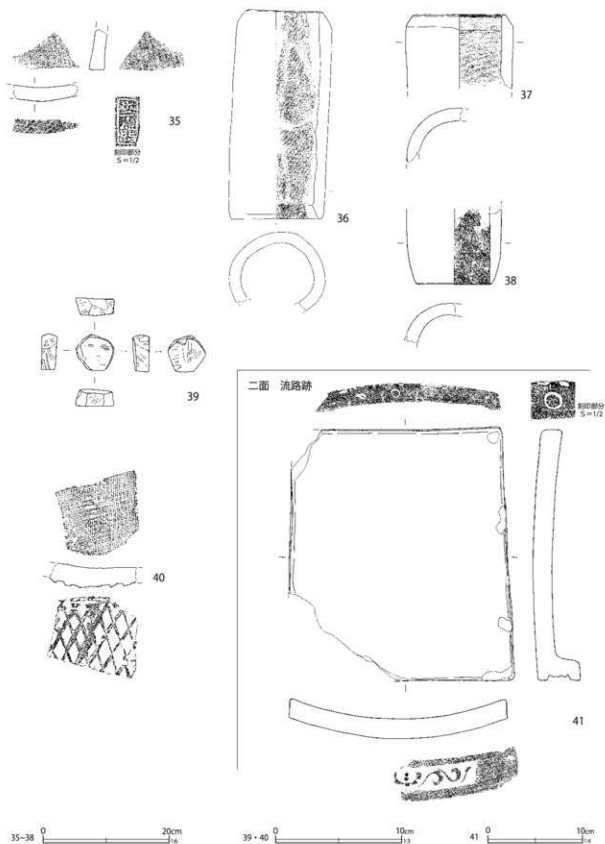
第64図30は棟に固定する裏面の棒状突起を欠くが、一般的なものに比してかなり大型の菊丸瓦である。菊花は単弁16葉で、瓦当面には赤色塗彩の



第63图 遗物包含層出土瓦(1)



第64圖 遺物包含層出土瓦(2)



第65図 遺物包含層出土瓦(3)・流路跡出土瓦

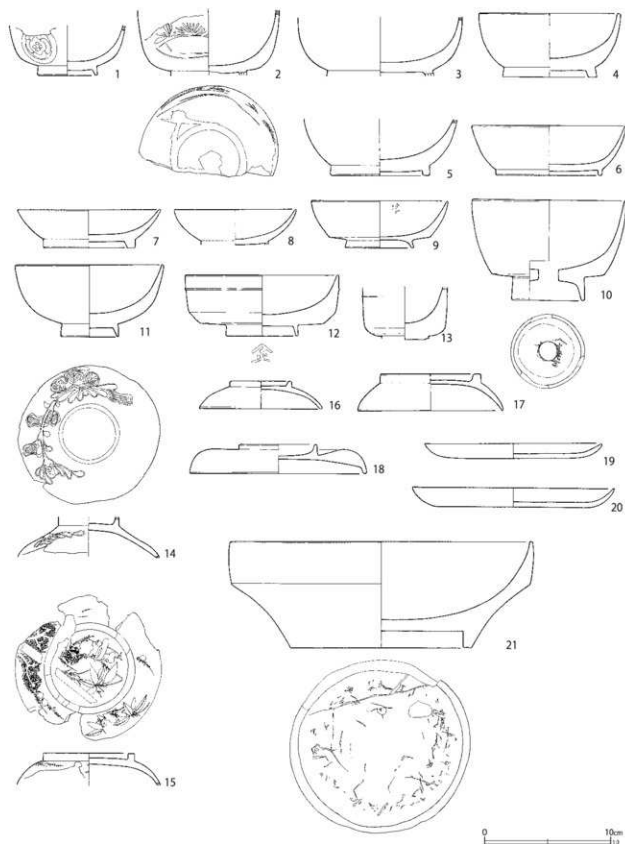
第8表 遺物包含層・流路跡出土瓦観察表 (第63～65図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	径	胎土	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	瓦	軒棧瓦	[3.0]	[8.1]	1.9	—	6.9	AIK	普通	灰白		右巻三巴文 弱く銀化 燻す 8層B	
2	瓦	軒棧瓦	[2.2]	7.6	2.0	[7.5]	7.5	IK	普通	灰白		右巻連珠三巴文 燻す 雲母付着	
3	瓦	軒棧瓦	7.1	7.1	2.0	4.5	—	ACIK	良好	灰白		右巻連珠三巴文 銀化 強く燻す 表採	
4	瓦	軒棧瓦	[10.6]	[22.7]	2.1	[7.0]	7.0	EIK	良好	灰白		大阪式 左巻十二連珠三巴文 銀化 強く燻す 胎土マーブル状・粒径大の黒色粒子多量 雲母付着 9層	20-1
5	瓦	軒棧瓦	[13.6]	[15.2]	2.1	[6.5]	—	IK	良好	灰白		東海式 銀化 強く燻す 裏面刃物状痕	20-2
6	瓦	軒棧瓦	[8.3]	[16.7]	2.0	[6.5]	—	AIKM	普通	灰白		江戸式 銀化 燻す 8層B	20-3
7	瓦	軒棧瓦	[2.2]	[8.1]	2.1	[3.2]	—	AEIKM	普通	灰白		大阪式 銀化 燻す 9層	
8	瓦	軒棧瓦	[2.9]	[10.3]	2.5	[5.4]	—	AIK	普通	灰白		江戸式 銀化 強く燻す 瓦当面粉粒 雲母付着 8層A	
9	瓦	軒棧瓦	[3.3]	[10.6]	2.3	[5.3]	—	ACIK	良好	灰白		江戸式 銀化 裏面転用 (摩粒) 8層B	
10	瓦	軒棧瓦	[3.0]	[6.9]	2.5	[4.6]	—	AIK	普通	灰白		江戸式 弱く銀化 燻す 8層B	
11	瓦	軒棧瓦	[2.2]	9.2	2.1	5.3	—	ACEIK	普通	灰白		江戸式 燻す 8層B	
12	瓦	軒棧瓦	[7.6]	[11.0]	2.0	[6.2]	—	AIK	普通	灰白		江戸式 一部銀化 燻す 9層	
13	瓦	軒棧瓦	[3.5]	[8.7]	2.1	[5.7]	—	AEIK	普通	灰白		江戸式 銀化 燻す	
14	瓦	軒棧瓦	16.1	[24.2]	1.9	[7.3]	—	ACIK	良好	灰白		江戸式 銀化 強く燻す 9層	
15	瓦	軒棧瓦	[9.3]	[14.4]	1.7	[4.5]	—	AK	良好	灰白		江戸式 銀化 強く燻す 表採	
16	瓦	軒棧瓦	[2.5]	[11.0]	1.9	[3.5]	—	ACIK	普通	灰白		江戸式 弱く燻す	
17	瓦	軒棧瓦	[3.8]	[8.6]	1.9	[5.8]	[5.4]	ACIK	良好	灰白		江戸式 銀化 強く燻す 雲母付着 8層A	
18	瓦	軒棧瓦	[3.2]	[8.3]	2.2	[4.5]	—	AHIK	良好	灰白		江戸式 銀化 強く燻す 9層	
19	瓦	軒棧瓦	[5.7]	[8.1]	1.9	[7.5]	—	AEIKM	良好	灰白		江戸式 強く燻す 雲母付着	
20	瓦	軒平瓦	[2.6]	[10.7]	2.0	[5.9]	—	ACIK	普通	灰白		江戸式 銀化 燻す 9層	
21	瓦	滴水瓦	—	12.5	2.9	[4.9]	—	AEIK	良好	灰白		弱く銀化 中心菊花文 2、3区南側側面	20-4
22	瓦	鬼瓦	[6.3]	[10.6]	2.7	2.7	—	CIK	良好	灰白		穿孔・鋼線付 銀化 強く燻す 9層	20-5
23	瓦	鬼瓦	[10.9]	[8.3]	4.2	8.1	—	AIK	普通	灰白		弱く銀化 燻す 9層	20-6
24	瓦	鬼瓦	[12.2]	[8.3]	[2.2]	[3.8]	—	AEI	良好	灰白		銀化 雲母付着 雲母細粒含む 9層	20-7
25	瓦	道瓦	[10.6]	[11.9]	3.7	[9.1]	—	HIK	良好	灰白		強く燻す 9層	
26	瓦	丸瓦	25.9	13.9	2.0	6.4	—	CIK	良好	灰白		銀化 強く燻す 8層A	
27	瓦	丸瓦	[11.8]	10.7	1.7	[5.3]	—	AIK	良好	灰白		銀化 強く燻す 9層	
28	瓦	丸瓦	[5.1]	[3.5]	1.8	—	—	ACIK	普通	灰白	SG1	外面・欠角部磁具転用 燻す 端部平担	
29	瓦	軒丸瓦	14.2	[14.2]	2.9	[14.4]	—	IK	普通	灰白		右巻十二連珠三巴文 燻す 雲母付着 8層A	
30	瓦	菊丸瓦	[3.2]	13.7	2.2	[13.5]	13.7	ACIK	普通	灰白		燻す 瓦当面粉赤色物質付着	20-9
31	瓦	軒丸瓦	—	11.3	1.9	[6.8]	11.3	IK	普通	灰白	SG1	右巻三巴文 弱く銀化 燻す 雲母付着	20-8
32	瓦	平瓦	[22.0]	23.8	1.9	4.1	—	ACIK	良好	灰白		銀化 燻す 8層B	
33	瓦	平瓦	[15.1]	[11.9]	1.9	[5.4]	—	AIKM	良好	灰白		銀化 燻す 裏面櫛歯状の波条線 2 遺存 28層	
34	瓦	棧瓦	[14.7]	[13.8]	1.7	[4.4]	—	IK	良好	灰白		銀化 強く燻す 雲母付着 8層A	
35	瓦	棧瓦	[6.4]	[11.6]	2.2	[2.7]	—	AIK	良好	灰白		刻印「幸熊」銀化 燻す	20-10
36	瓦	瓦樋	33.0	15.5	1.8	—	—	AIK	良好	灰白		燻す 9層	
37	瓦	瓦樋	11.9	12.7	2.0	[8.7]	—	AIK	普通	灰白		燻す 8層B	
38	瓦	瓦樋	[12.5]	15.2	1.9	[6.4]	15.2	AIK	普通	灰白		強く燻す	
39	瓦	転用瓦	[2.9]	[3.0]	1.3	—	—	IK	普通	灰白		円盤状製品転用 35層	
40	瓦	平瓦	[6.9]	[7.0]	1.4	2.0	—	DIK	普通	灰		胎土マーブル状・硬質 凸面橋字状タタキ目 凹面布目痕 8層A 古代	
41	瓦	軒平瓦	26.8	23.9	2.1	4.2	—	AHIL 小籠	普通	灰白	SD1	江戸式 刻印「〇」燻す 雲母付着	

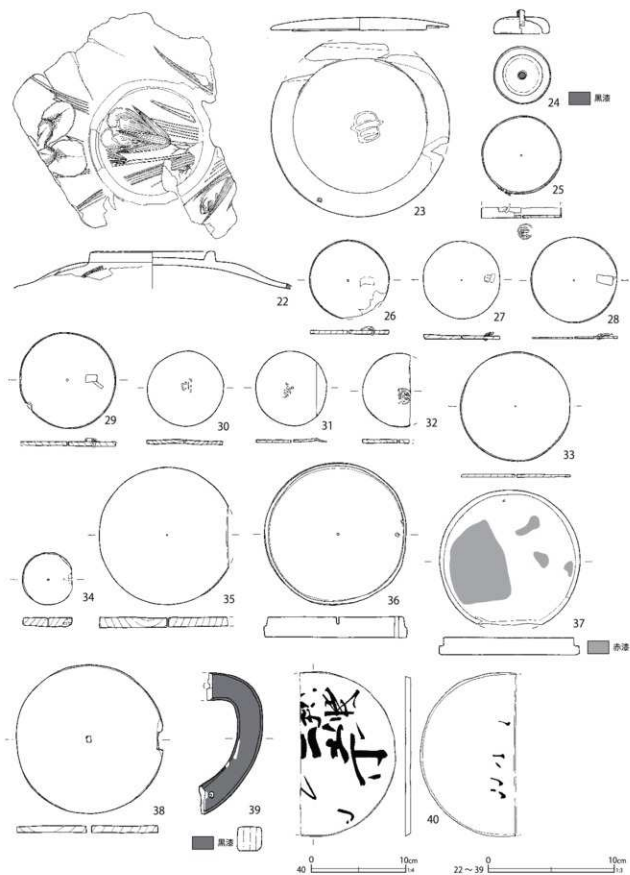
痕跡が見られる。

棧瓦と思われる第65図35は、端面に縦書きで「幸熊」の刻印が捺されている。「幸」は19世紀に瓦生産の盛んであった、幸手を指すのではなくろうか。明治八年(1875)の『埼玉県行政文書』「土

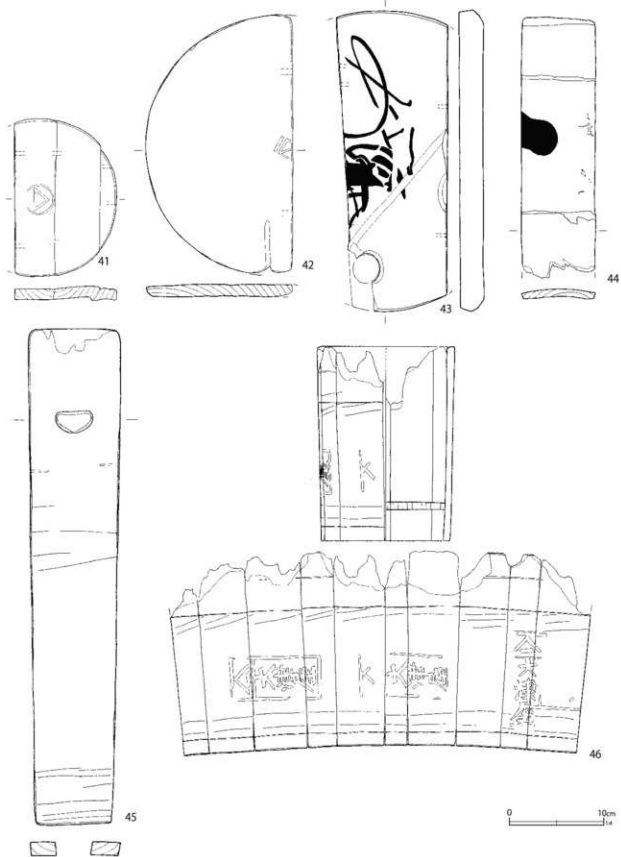
石産出取調上申ノ件」では、幸手宿に安政三年(1856)創業「藤沼熊次郎」が見える(埼玉県立民俗文化センター1986)。刻印の「熊」がこの熊次郎を指す可能性はないだろうか。



第66図 遺物包含層出土木製品(1)

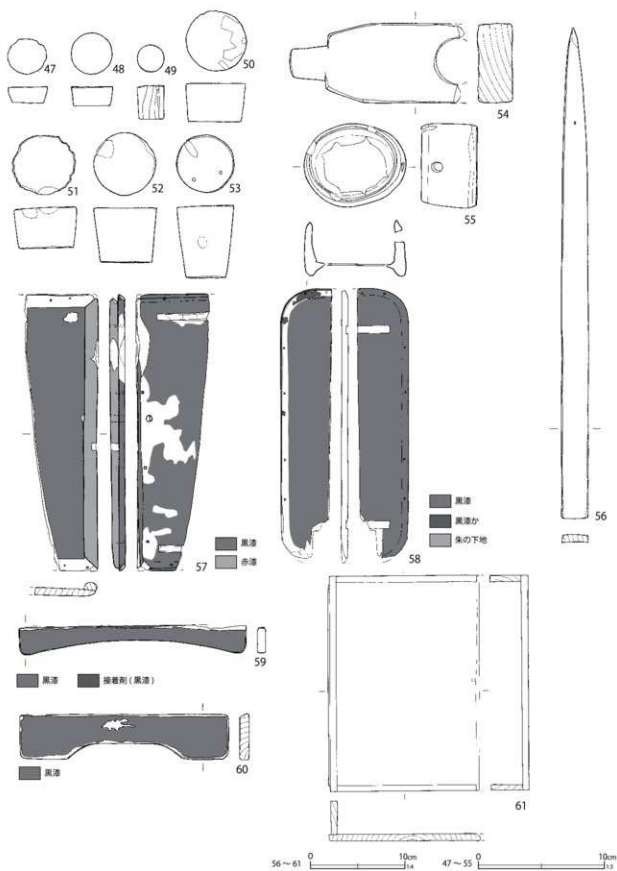


第67図 遺物包含層出土木製品(2)

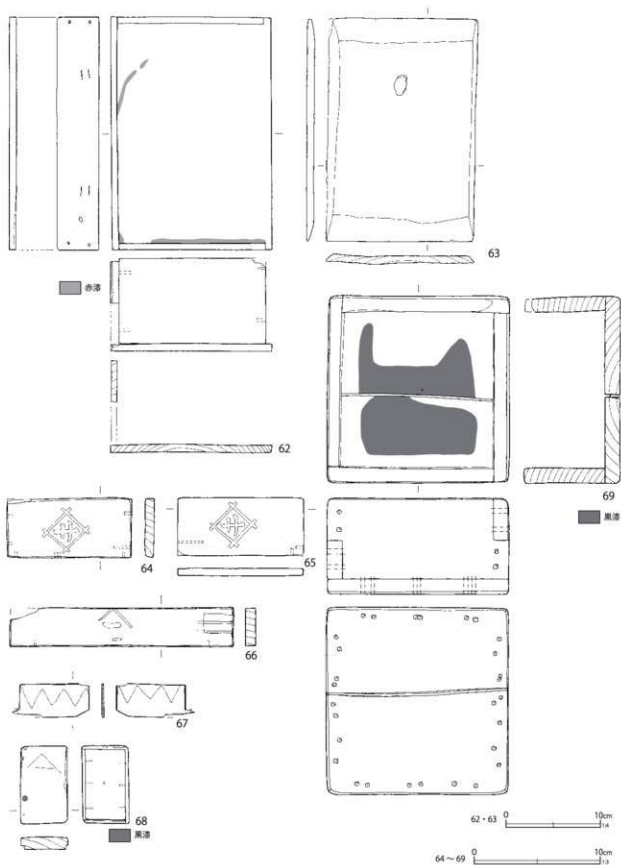


第68図 遺物包含層出土木製品(3)

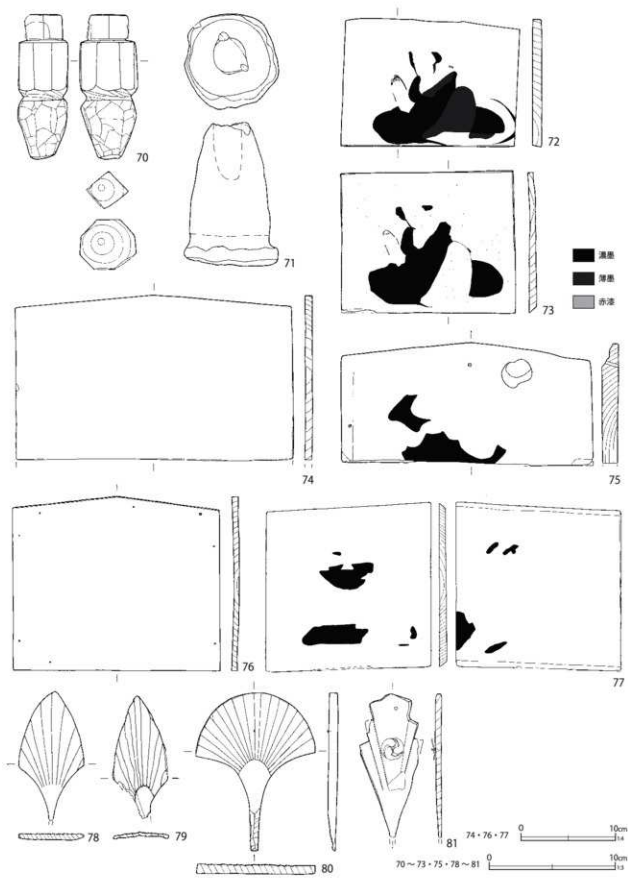




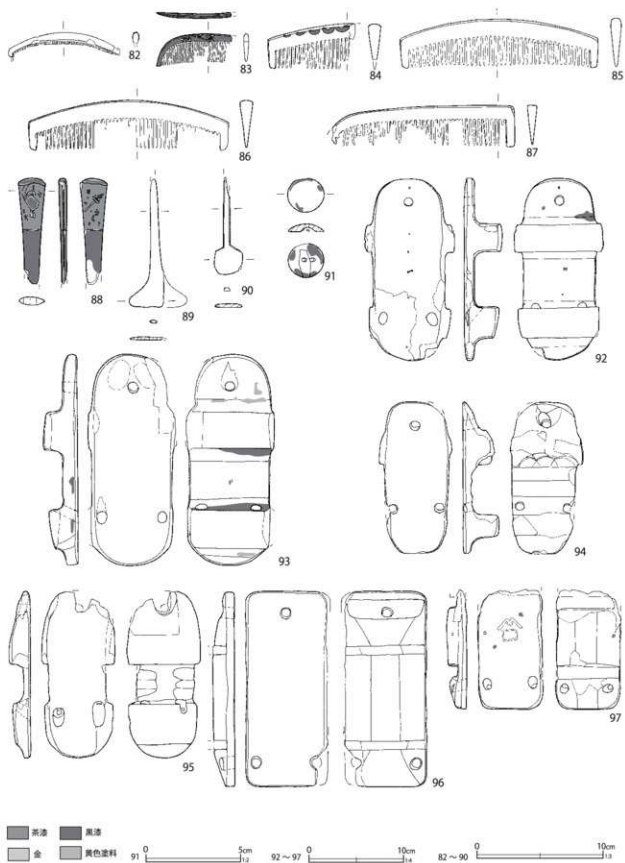
第69図 遺物包含層出土木製品(4)



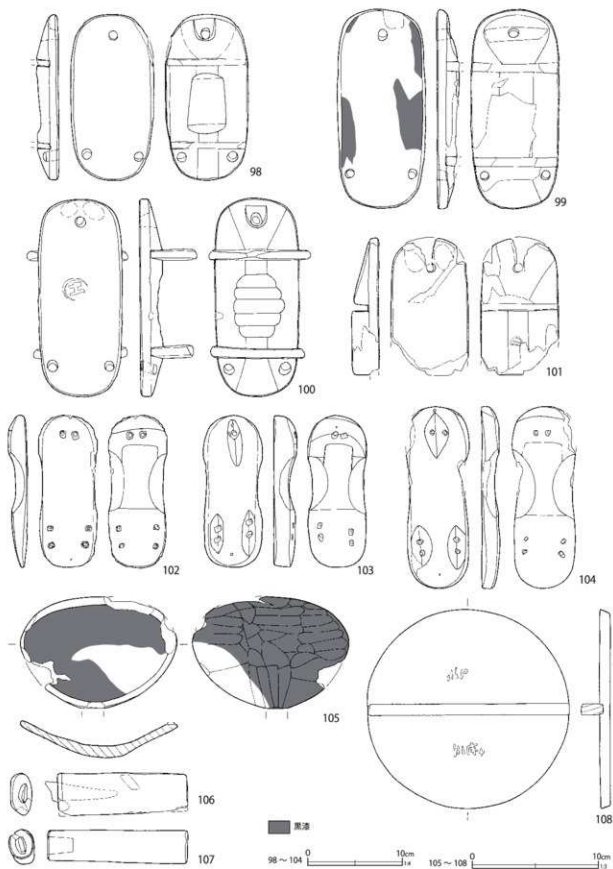
第70図 遺物包含層出土木製品（5）



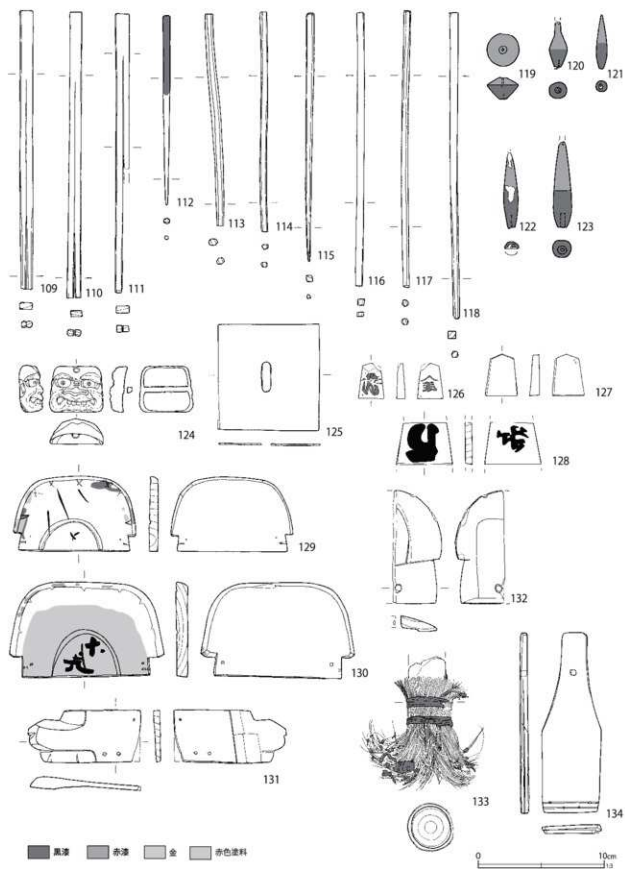
第71図 遺物包含層出土木製品(6)



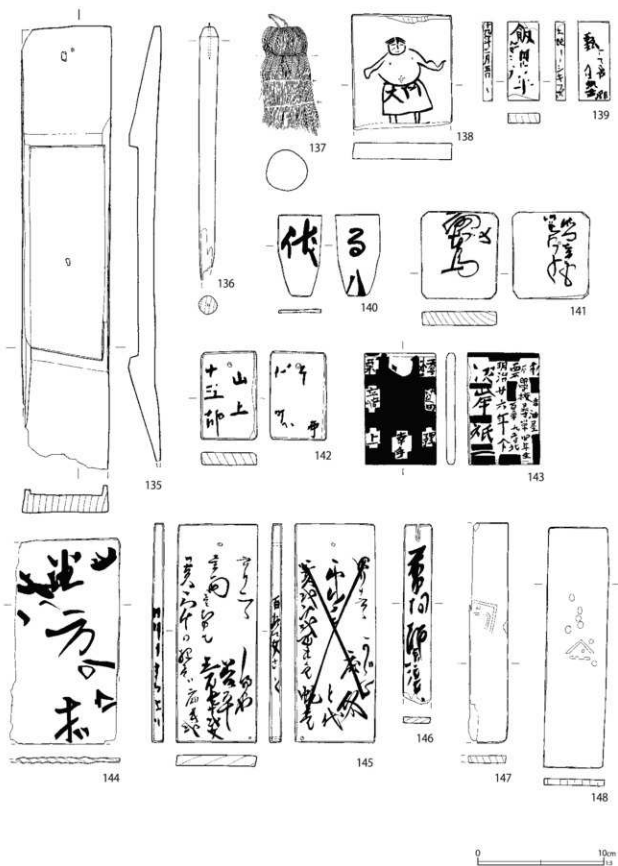
第72図 遺物包含層出土木製品（7）



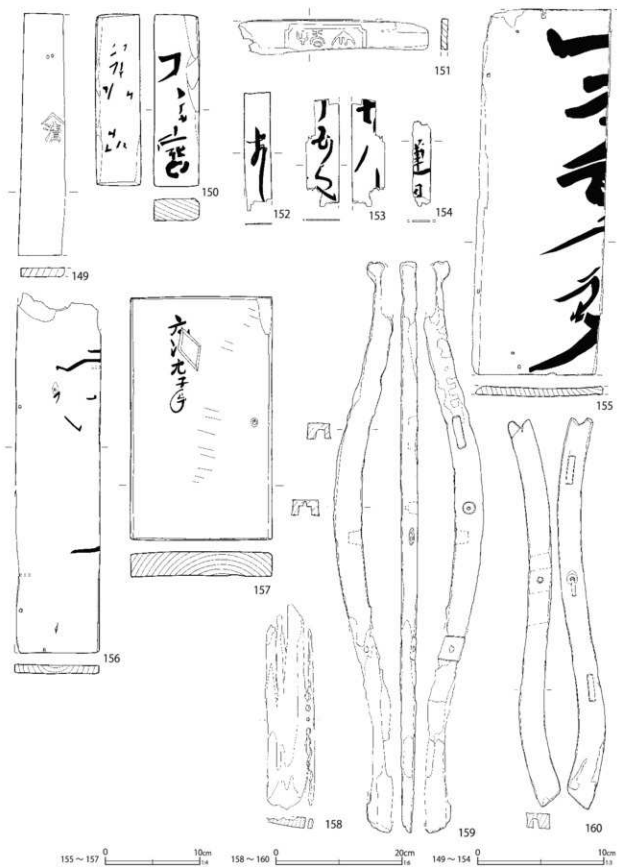
第73図 遺物包含層出土木製品（8）



第74図 遺物包含層出土木製品(9)

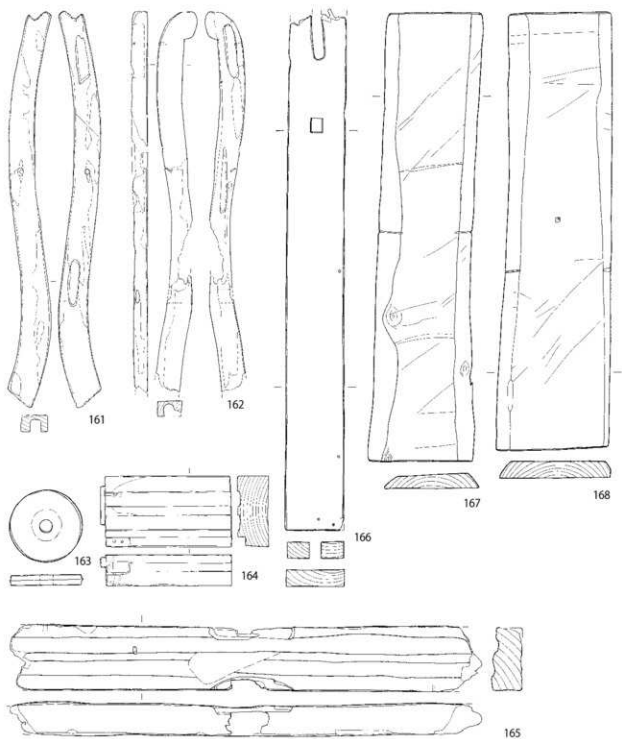


第75図 遺物包含層出土木製品 (10)

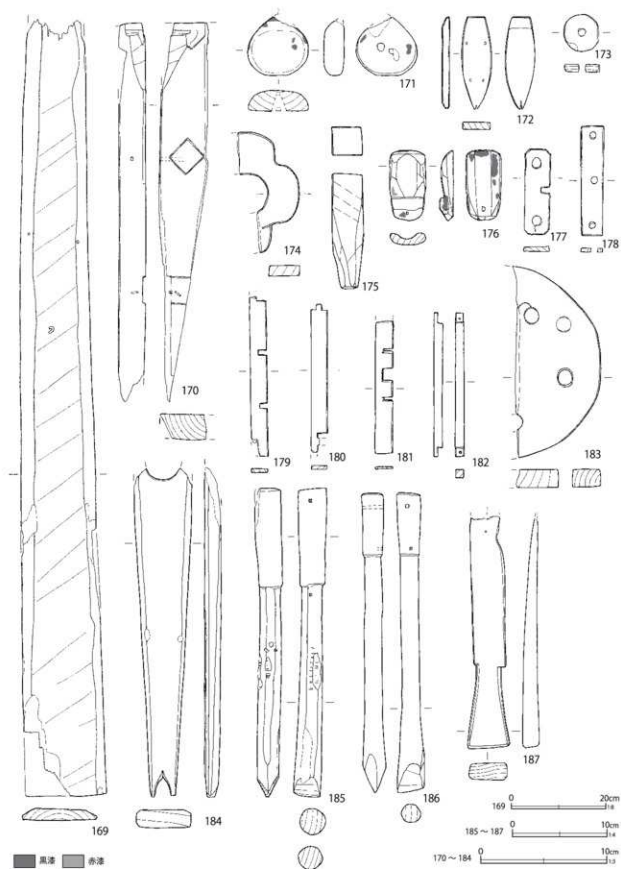


第76図 遺物包含層出土木製品 (11)





第77図 遺物包含層出土木製品 (12)



第78図 遺物包含層出土木製品 (13)

第9表 遺物包含層出土木製品観察表 (第66~78図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	漆椀	—	—	—	—	[3.9]	4.6	横木取り	内面赤漆 外面黒漆 家紋「丸に木瓜」3		
2	木製品	漆椀	—	—	—	—	[5.1]	—	横木取り	内外面赤漆 外面黒で文様		
3	木製品	漆椀	—	—	—	—	[4.6]	—	横木取り	内面赤漆 外面黒漆 8層BS区ベルト		
4	木製品	漆椀	—	—	—	11.0	5.0	7.5	横木取り	内面赤漆 外面黒漆 28層	20-11	
5	木製品	漆椀	—	—	—	—	[4.5]	7.7	横木取り	内面赤漆 外面黒漆 9層		
6	木製品	漆椀	—	—	—	12.1	3.9	8.3	横木取り	暗褐色塗料 内面クワロ痕明瞭 9層	20-12	
7	木製品	漆椀	—	—	—	11.2	3.0	7.2	横木取り	内面赤漆 外面黒漆 9層	20-13	
8	木製品	漆椀	—	—	—	9.5	[2.9]	—	横木取り	内面赤漆 外面黒漆 9層		
9	木製品	漆椀	—	—	—	10.7	3.7	5.3	横木取り	内外面赤漆 内面に赤漆で文字 9層	20-14	
10	木製品	漆椀	—	—	—	12.0	7.9	5.7	横木取り	内外面黒漆 高台中央に孔 金で文字 9層	20-15	
11	木製品	漆椀	—	—	—	11.6	5.7	4.5	横木取り	内面赤漆 外面黒漆 9層	20-16	
12	木製品	漆椀	—	—	—	12.1	4.3	5.6	横木取り	内面赤漆 外面黒漆 高台内赤で「全」9層	20-17	
13	木製品	漆椀	—	—	—	—	[4.1]	—	横木取り	内面赤漆 外面黒漆		
14	木製品	漆椀蓋	—	—	—	—	[3.2]	—	横木取り	内外面赤漆 外面に赤・黒・金で草花文様 9層		
15	木製品	漆椀蓋	つまみ径7.2			—	[2.5]	—	横木取り	内面赤漆 外面黒漆、金で草木文様 歪み有 9層		
16	木製品	漆椀蓋	つまみ径4.5			9.7	2.2	—	横木取り	内面赤漆 外面黒漆 9層	20-18	
17	木製品	漆椀蓋	つまみ径7.8			11.4	2.9	—	横木取り	内面赤漆 外面黒漆 9層	21-1	
18	木製品	漆椀蓋	つまみ径6.0			13.8	2.3	—	横木取り	内外面黒漆 9層	21-2	
19	木製品	漆皿	—	—	—	13.9	1.2	10.0	横木取り	内外面黒漆 9層	21-3	
20	木製品	漆皿	—	—	—	(16.0)	1.5	(12.2)	横木取り	内外面黒漆 9層	21-4	
21	木製品	鉢	—	—	—	23.8	8.4	14.3	横木取り	内外面赤漆 高台内黒で文字 9層		
22	木製品	漆蓋	つまみ径9.0			—	[3.0]	—	横木取り	内外面赤漆 黒と金で花文様 9層		
23	木製品	蓋	—	—	—	14.2	[1.0]	—	板目	側板一部残存 全面黒漆 焼印 9層		
24	木製品	蓋	—	—	—	4.4	1.9	—	板目	中央に把手 黒漆 体部全面黒化 9層	21-5	
25	木製品	曲物	—	—	—	(7.3)	[0.8]	—	板目	焼印「㊦」中央に孔 28層		
26	木製品	曲物	—	—	0.3	6.3	—	—	板目	蓋 中央に孔 樹皮紐 8層A		
27	木製品	曲物	—	—	0.3	6.1	—	—	板目	蓋 黒書不鮮明 樹皮紐 9層		
28	木製品	曲物	—	—	0.2	6.8	—	—	板目	蓋 中央に孔 樹皮紐 9層		
29	木製品	曲物	—	—	0.3	7.6	—	—	板目	蓋 中央に孔 樹皮紐 9層		
30	木製品	曲物	—	—	0.3	6.0	—	—	板目	底板 焼印「㊦」か 9層		
31	木製品	曲物	—	—	0.2	5.8	—	—	板目	底板 焼印「㊦」 9層		
32	木製品	曲物	—	—	0.3	5.7	—	—	板目	底板 焼印「㊦」 9層		
33	木製品	曲物	—	—	0.2	8.6	—	—	板目	底板 中央木孔 9層		
34	木製品	不明品	—	—	0.7	4.0	—	—	板目	中央木釘残存 側面木釘 9層		
35	木製品	桶	—	—	0.8	10.8	—	—	板目	中央に孔 欠け口に孔痕跡 9層		
36	木製品	曲物	—	—	1.6	11.2	—	—	板目	底板 中央に釘孔 端に木釘		
37	木製品	桶	—	—	1.4	11.5	—	—	板目	底板 木釘残 表裏赤漆 9層		
38	木製品	不明品	—	—	0.6	11.7	—	—	板目	側面抉り 抉り周辺磨れ 中央に孔		
39	木製品	湯桶	11.2	1.9	1.9	—	—	—	板目	把手 全面黒漆 孔 2 9層		
40	木製品	樽	17.2	[10.0]	0.6	—	—	—	板目	蓋 表裏面黒書 9層		
41	木製品	樽	—	—	1.1	16.6	—	—	板目	蓋 焼印「㊦」木釘で接合 外周鉄釘 28層		
42	木製品	樽	—	—	1.3	(27.0)	—	—	板目	蓋 焼印「㊦」木釘 9層		
43	木製品	樽	31.9	[11.8]	2.5	—	—	—	板目	蓋 栓孔 焼印 黒書 9層		
44	木製品	樽	[27.5]	8.9	0.8	—	—	—	板目	側板 黒書 刻印 9層		
45	木製品	桶	53.0	9.8	1.5	—	—	—	板目	側板 孔 1 箇所 9層		
46	木製品	桶	—	—	—	(14.5)	20.5	—	板目	側板 内面黒色塗料か 黒漆付着 外面焼印「△大津屋」4ヶ所 底板・内面黒漆 9層		
47	木製品	栓	—	—	—	3.0	1.2	—	板目	上部に樹皮残 8層A		
48	木製品	栓	—	—	—	3.2	1.5	—	板目	9層		

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
49	木製品	栓	—	—	—	2.1	2.6	—	板目		側面加工痕 9層	
50	木製品	栓	—	—	—	4.8	3.0	—	板目		上面焼印 8層A	
51	木製品	栓	—	—	—	5.0	3.2	—	分割材		28層	
52	木製品	栓	—	—	—	4.9	4.3	—	分割材		28層	
53	木製品	栓	—	—	—	4.5	5.7	—	板目		上面釘穴2 側面金属 9層	
54	木製品	桶	6.2	[13.8]	2.8	—	—	—	板目		9層	
55	木製品	柄杓	6.5	8.0	—	—	4.4	—	—		竹 歪みあり 柄孔1 10層	
56	木製品	柄杓	51.7	2.8	0.8	—	—	—	板目		柄 木釘残 9層	
57	木製品	膳か	29.2	[7.8]	1.4	—	—	—	板目		朱漆 黒漆 木釘孔 28層	
58	木製品	膳	[28.4]	[5.5]	0.7	—	—	—	板目		表裏面黒漆 下に赤漆 表面端に漆状の付着物 9層	
59	木製品	膳	2.7	24.0	0.9	—	—	—	板目		脚部全面黒漆 接着の漆付着 9層	
60	木製品	膳	4.8	22.1	1.0	—	—	—	板目		脚部黒漆 28層	
61	木製品	箱	22.6	[15.9]	0.8	—	4.2	—	板目		木釘9 内面炭化 62に入る大きさ 63の蓋より小さい9層	
62	木製品	箱	24.6	7.0	—	—	9.8	—	板目		木釘残存 内面赤漆 外面黒漆 9層	
63	木製品	箱	23.6	15.6	0.8	—	—	—	板目		61の蓋か 9層	
64	木製品	箱	4.7	9.8	0.8	—	—	—	板目		銅板 木釘痕 焼印「△」9層	
65	木製品	箱	4.6	9.9	0.6	—	—	—	板目	視乱	焼印「△」	
66	木製品	木札	3.1	17.7	0.8	—	—	—	板目		焼印「△」 側面孔4 内木釘残2 9層	
67	木製品	箱	[2.6]	6.1	0.2	—	—	—	板目		銅板 表裏面文様 9層	
68	木製品	箱	6.1	3.7	1.0	—	—	—	板目		墨書 刻印 黒漆 鉄釘1	
69	木製品	弁	14.8	14.3	1.2	—	7.6	—	板目		五合升 底板2枚の間に別板をかませる(補修か) 木釘固定 一部鉄釘固定 9層	
70	木製品	脚	11.4	4.5	3.9	—	—	—	芯持材		基盤または得模盤の脚か	21-6
71	木製品	不明品	[11.3]	7.4	7.8	—	—	—	分割材		上面円形の抉り 9層	
72	木製品	絵馬	10.0	14.2	0.7	—	—	—	板目		拝み絵馬 墨絵 一部朱色 裏面剥痕	21-7
73	木製品	絵馬	11.0	13.8	0.6	—	—	—	板目		拝み絵馬 墨絵 裏面剥痕 9層	21-8
74	木製品	絵馬か	[17.3]	29.4	0.8	—	—	—	板目			
75	木製品	絵馬	9.5	19.8	1.3	—	—	—	板目	SE2	拝み絵馬	21-9
76	木製品	絵馬か	18.3	22.0	0.6	—	—	—	板目		外周に木釘	
77	木製品	絵馬	17.7	17.7	0.8	—	—	—	板目		拝み絵馬 表裏面墨書	21-10
78	木製品	神酒口	[10.2]	5.2	0.5	—	—	—	板目		9層	21-11
79	木製品	神酒口	[9.7]	4.4	0.3	—	—	—	板目		9層	21-12
80	木製品	神酒口	12.5	9.3	0.8	—	—	—	板目		上部鉄釘 下部割りこみ	21-13
81	木製品	神酒口	[11.3]	[4.7]	0.5	—	—	—	板目		銅製巴文 9層	21-14
82	木製品	棚	[8.8]	[2.2]	0.5	—	—	—	板目		背に銅がふせてある 8層A	21-15
83	木製品	棚	[6.0]	2.2	0.4	—	—	—	板目		黒漆 金で文様 9層	21-16
84	木製品	棚	[6.8]	[3.6]	1.0	—	—	—	板目		黒で文様 9層	21-17
85	木製品	棚	15.7	3.8	0.9	—	—	—	板目		9層	
86	木製品	棚	[15.8]	3.7	1.0	—	—	—	板目		9層	
87	木製品	棚	[14.5]	3.2	0.8	—	—	—	板目		全面炭化 9層	
88	木製品	笄	[8.3]	2.1	0.7	—	—	—	板目		黒漆 茶漆の上に金で文様 9層	21-18
89	木製品	棚	[10.1]	(4.5)	0.3	—	—	—	板目		9層	
90	木製品	棚か	[7.7]	2.2	0.3	—	—	—	板目		9層	
91	木製品	卸	—	—	0.4	1.9	—	—	板目		表裏面黒漆 9層	
92	木製品	下駄	19.4	7.1	—	—	4.1	—	板目		漆垂下駄 裏面黒漆 鉄釘 鉄釘跡6 9層	
93	木製品	下駄	22.3	9.2	—	—	3.6	—	板目	SE1	漆垂下駄 裏面中央に黒色塗料 側面・裏面黒漆 裏面黄灰色塗料	
94	木製品	下駄	16.0	7.7	—	—	3.8	—	板目		割り下駄 9層	
95	木製品	下駄	17.6	7.8	—	—	2.3	—	板目		割り下駄 28層	
96	木製品	下駄	20.5	8.7	—	—	[2.3]	—	板目		陰印下駄 9層	
97	木製品	下駄	[12.5]	6.8	—	—	[2.1]	—	板目		陰印下駄 焼印 表面黒漆 木釘孔1 9層	

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
98	木製品	下駄	17.5	8.8	—	—	[2.3]	—	板目	SGI	陰印下駄 9層	
99	木製品	下駄	21.0	9.4	—	—	[2.3]	—	板目		陰印下駄 黒漆 9層	
100	木製品	下駄	20.8	8.9	—	—	6.1	—	板目		陰印下駄 焼印「㊦」 焼印二度押し 9層	
101	木製品	下駄	[14.5]	8.2	—	—	[2.9]	—	板目		陰印下駄 焼印「㊦」	
102	木製品	下駄	16.0	5.4	—	—	2.0	—	板目		無眼下駄 8層B	
103	木製品	下駄	16.0	6.2	—	—	2.4	—	板目		無眼下駄 9層	
104	木製品	下駄	19.2	6.5	—	—	1.9	—	板目		無眼下駄 8層A	
105	木製品	杵子	[8.8]	12.4	0.9	—	—	—	板目		表裏面黒漆 28層	
106	木製品	包丁	3.2	[11.2]	1.7	—	—	—	板目		鉄製刀一部残存 8層B	
107	木製品	包丁	2.6	11.1	2.0	—	—	—	板目		柄 側面に柄穴 9層	
108	木製品	蓋	—	—	—	21.0	3.1	—	板目		焼印「篋三」2カ所 文字1 9層	
109	木製品	箸	22.0	1.0	0.5	—	—	—	分割		割箸 未使用 9層	
110	木製品	箸	22.6	1.0	0.5	—	—	—	分割		割箸 未使用 9層	
111	木製品	箸	22.0	1.1	0.5	—	—	—	分割		割箸 9層	
112	木製品	箸	15.1	0.6	0.4	—	—	—	削出	黒色の下地塗 9層		
113	木製品	箸	16.7	0.8	0.5	—	—	—	分割	9層		
114	木製品	箸	17.3	0.5	0.4	—	—	—	分割	9層		
115	木製品	箸	19.1	0.6	0.5	—	—	—	分割	全面炭化 9層		
116	木製品	箸	21.5	0.6	0.5	—	—	—	削出	8層A		
117	木製品	箸	21.9	0.5	0.5	—	—	—	分割	9層		
118	木製品	箸	24.2	0.7	0.6	—	—	—	分割	9層		
119	木製品	浮子	1.7	—	—	2.5	—	—	板目	上部赤漆 下部黒漆 上下面に孔 9層	22-1	
120	木製品	浮子	[3.7]	—	—	1.4	—	—	—	上部赤漆 下部黒漆 金属残 9層	22-2	
121	木製品	浮子	4.3	—	—	0.9	—	—	—	上部赤漆 下部黒漆 下面に孔 8層A	22-3	
122	木製品	浮子	[6.0]	—	—	1.1	—	—	板目	上部赤漆 下部黒漆 下面に孔 9層	22-4	
123	木製品	浮子	[6.8]	1.5	1.4	—	—	—	—	上部赤漆 下部黒漆 上下面に孔 9層	22-5	
124	木製品	小型型	3.7	4.2	1.8	—	—	—	不明	裏面中央に突起・穴 9層	22-6	
125	木製品	鏝	8.4	8.0	0.1	—	—	—	板目	9層		
126	木製品	持棋駒	2.8	2.0	0.7	—	—	—	板目	文字黒漆 表「銀将」裏「金」9層	22-7	
127	木製品	持棋駒	3.3	2.5	0.8	—	—	—	板目	表裏面墨書 9層	22-8	
128	木製品	持棋駒	[3.3]	4.4	0.6	—	—	—	板目	表裏面墨書 文字2 9層	22-9	
129	木製品	獅子頭	5.9	9.7	0.7	—	—	—	板目	表面墨書 文字3 孔4 9層	22-10	
130	木製品	獅子頭	7.5	12.2	0.9	—	—	—	板目	表面墨書「十九」文字4 朱漆 金箔剥離 赤色塗料 釘孔4 8層A	22-11	
131	木製品	獅子頭	4.2	8.9	0.8	—	—	—	板目	孔3 9層	22-12	
132	木製品	獅子頭	8.9	[3.9]	0.9	—	—	—	板目	孔1 28層	22-13	
133	木製品	刷毛	[10.5]	9.7	3.7	—	—	—	芯持丸木	黒漆固着 陶器徳利(48図84)から出土	22-14	
134	木製品	刷毛	14.2	4.7	0.7	—	—	—	板目	木釘残存 9層		
135	木製品	砥石台	[35.3]	[7.1]	2.5	—	—	—	板目	孔2 裏面に鉄残 9層		
136	木製品	蓋	[20.4]	1.5	1.5	—	—	—	板目	8層B		
137	木製品	箆	9.7	4.8	3.2	—	—	—	—	針金二重巻 一段残存 下二段痕跡		
138	木製品	板	[9.2]	8.0	1.3	—	—	—	板目	墨面力士(大間) 9層		
139	木製品	木札	6.2	2.5	0.8	—	—	—	板目	四面墨書 文字5 9層		
140	木製品	木札	6.4	3.4	0.2	—	—	—	板目	表裏面墨書 文字6 9層		
141	木製品	木札	6.8	6.1	1.1	—	—	—	板目	表裏面墨書 文字7 9層		
142	木製品	木札	7.0	4.5	1.0	—	—	—	板目	表裏面墨書 文字8 孔1		
143	木製品	木札	8.8	5.6	0.7	—	—	—	板目	墨書 文字9		
144	木製品	木札	16.2	[8.4]	0.5	—	—	—	板目	墨書 9層		
145	木製品	木札	17.3	6.4	0.9	—	—	—	板目	四面墨書 孔1 木釘1 文字10 9層		
146	木製品	木札	[14.1]	2.2	0.5	—	—	—	板目	墨書 孔1 9層		
147	木製品	木札	17.4	[3.0]	0.6	—	—	—	板目	焼印 9層		
148	木製品	木札	18.9	4.8	0.5	—	—	—	板目	焼印「△」炭化 同品他6		

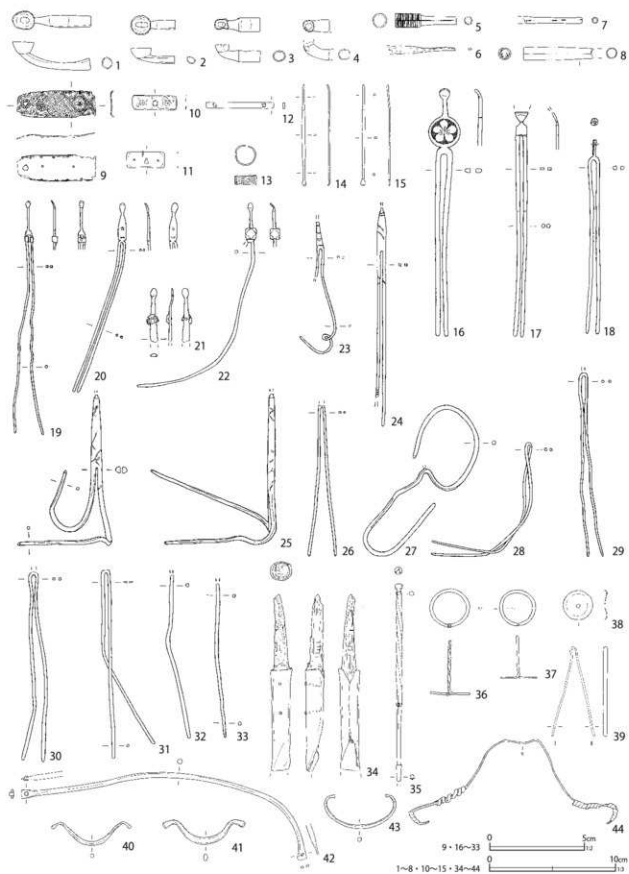
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
149	木製品	木札	19.1	[3.5]	0.7	—	—	—	板目		焼印「倉」孔2 同品他2 9層	
150	木製品	板	13.5	3.5	1.7	—	—	—	板目		表裏面墨書 9層	
151	木製品	不明品	[2.7]	[15.0]	0.6	—	—	—	板目		焼印 9層	
152	木製品	経木	[9.2]	2.1	0.1	—	—	—	板目		墨書 文字11 9層	
153	木製品	経木	[8.5]	[2.6]	0.1	—	—	—	板目		表裏面墨書 文字12 9層	
154	木製品	経木	[6.7]	[1.5]	0.1	—	—	—	板目		墨書 文字13 9層	
155	木製品	板	38.6	[13.6]	0.9	—	—	—	板目		墨書 釘孔4	
156	木製品	板	[38.1]	9.0	0.9	—	—	—	板目		表裏面墨書 釘孔 鉄釘 木釘 9層	
157	木製品	不明品	25.7	15.0	2.5	—	—	—	板目		墨書「元治元子年」文字14 釘孔1	
158	木製品	不明品	[32.6]	[7.7]	1.7	—	—	—	板目		159～162と同一 7、10区	
159	木製品	不明品	93.4	4.5	2.6	—	—	—	板目		158・160～162と同一 162と似る 鉄釘痕 1 四角い納穴3 丸い納穴1 7、10区	
160	木製品	不明品	63.2	4.5	2.6	—	—	—	板目		158・159・161・162と同一 161・162と似る 赤茶の塗料 7、10区	
161	木製品	不明品	61.8	4.9	2.6	—	—	—	板目		157～160・162と同一 納穴2 作り粗い 表裏面剥離 7、10区	
162	木製品	不明品	[60.2]	4.0	2.5	—	—	—	板目		158～161と同一 159と似る 木釘2 孔の 痕1 楕円形の孔3 7、10区	
163	木製品	戸車	—	—	0.8	5.7	—	—	板目		孔周辺圧痕 孔径1.0cm 9層	22-15
164	木製品	敷居	20.7	11.2	4.9	—	—	—	板目		木釘孔2 左側に朱色の線 鉄釘1 9層	
165	木製品	敷居	[75.6]	10.5	5.5	—	—	—	板目		鉄釘 木釘 両側に決り 表面圧痕 9層	
166	木製品	建築部材	[83.5]	9.4	2.7	—	—	—	板目		納穴2 木釘孔4 7、10区	
167	木製品	板材	71.3	17.0	2.3	—	—	—	板目	SGI	168と接合	
168	木製品	板材	70.0	18.2	2.7	—	—	—	板目	SGI	表面中央木釘 167と接合	
169	木製品	建築部材	163.4	17.0	2.5	—	—	—	板目		鉄釘1 銅痕 7、10区	
170	木製品	不明品	[40.0]	[5.1]	2.7	—	—	—	板目		正方形の金属板はめ込み 金属釘残 28層	
171	木製品	不明品	[4.6]	4.8	1.1	—	—	—	板目		裏面に孔2 貫通 墨漆 金属残存 9層	22-16
172	木製品	不明品	7.3	2.4	0.6	—	—	—	板目		孔4 端部に切り込み 9層	22-17
173	木製品	不明品	—	—	0.6	2.9	—	—	板目		中央に孔 8層B	
174	木製品	不明品	[9.5]	[4.9]	0.8	—	—	—	板目		9層	
175	木製品	不明品	9.1	2.5	2.2	—	—	—	板目		9層	
176	木製品	不明品	5.5	2.8	1.1	—	—	—	板目		黒漆 朱漆 孔1	22-18
177	木製品	不明品	6.7	2.0	0.4	—	—	—	板目		孔2 9層	
178	木製品	不明品	8.6	2.2	0.3	—	—	—	板目		孔3 9層	
179	木製品	不明品	[12.5]	1.3	0.3	—	—	—	板目		9層	
180	木製品	不明品	[11.6]	1.3	0.3	—	—	—	板目		9層	
181	木製品	不明品	[10.5]	1.4	0.2	—	—	—	板目			
182	木製品	不明品	11.4	0.7	0.7	—	—	—	板目		孔2 9層	
183	木製品	不明品	[15.1]	[6.7]	1.4	—	—	—	板目		孔3 穿孔途中の痕跡2 9層	
184	木製品	不明品	[26.0]	4.5	1.4	—	—	—	板目		9層	
185	木製品	不明品	32.6	3.0	2.8	—	—	—	板目		樹皮状の紐巻いている 上部孔1 8層B	
186	木製品	不明品	31.6	2.9	1.9	—	—	—	板目		釘孔2 30層	
187	木製品	不明品	[24.5]	4.4	1.8	—	—	—	板目		裏面炭化	

## 木製品 (第66～78区)

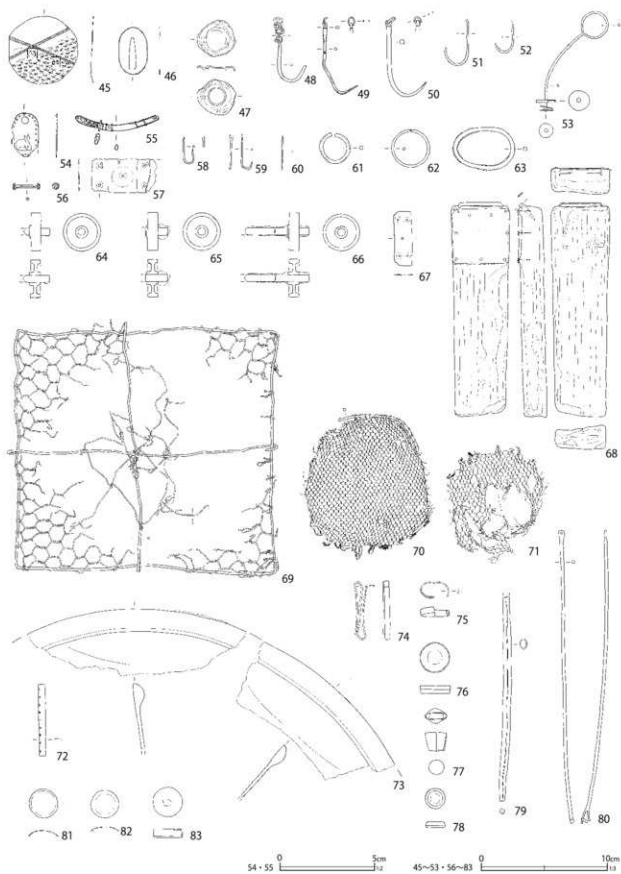
木製品のうち、特記される遺物として第71区72・73・75・77の絵馬が挙げられる。1枚はSE 2 (近代以降の井戸跡)の掘方埋土内から、他の3枚は5・8・10区に散在して出土している。

4枚のうち2枚(73・77)は方形で、他の2枚

(72・75)は上部が山形に加工されている。絵柄は4枚とも同じで、跪坐して合掌する一人の女性である。いずれも顔の表現は失われているが、着物姿で髷を結っている。袂や帯が長く描かれているので、未婚女性(娘)であろう。確認できるのは墨画部分と赤彩の痕跡のみであることから、お

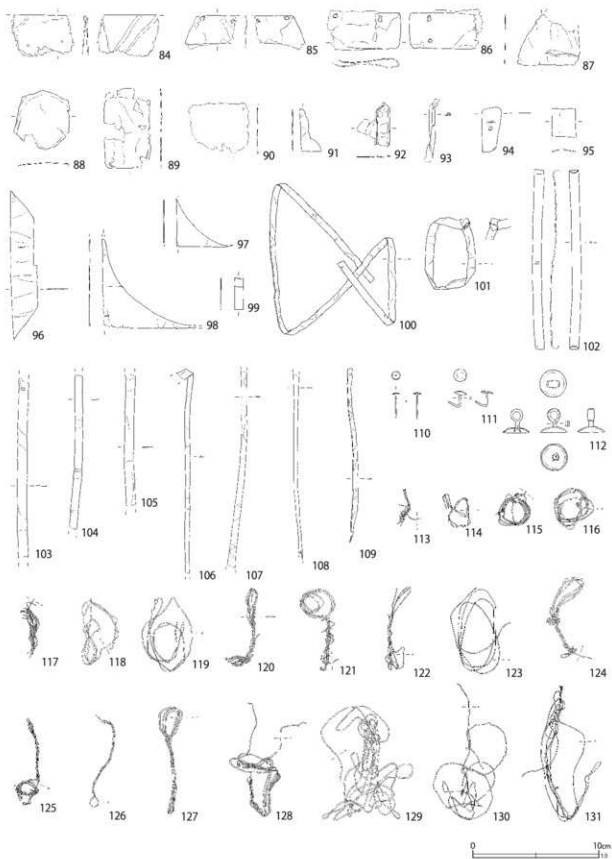


第79图 遺物包含層出土金屬製品(1)

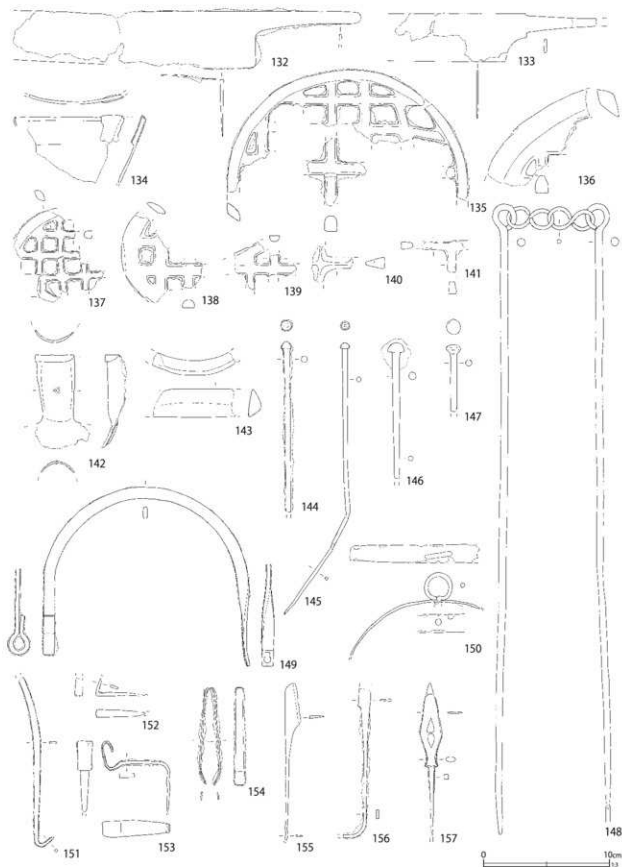


第80图 遗物包含层出土金属制品(2)

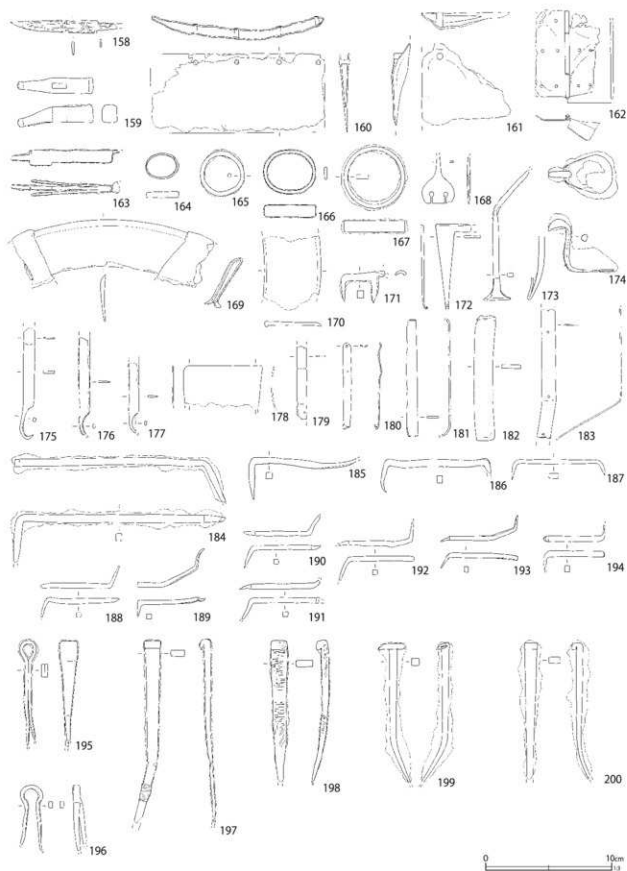




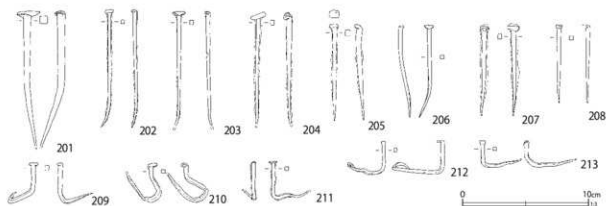
第81图 遺物包含層出土金屬製品(3)



第82图 遗物包含层出土金属制品(4)



第83图 遺物包含層出土金屬製品(5)



第84図 遺物包含層出土金属製品 (6)

第10表 遺物包含層出土金属製品観察表 (第79~84図)

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品	煙管	長さ6.2 火皿径1.7×1.4 小口径0.9×0.8 重さ6.7		雁首 中央が押し潰され火皿歪む	23-1
2	銅製品	煙管	長さ3.5 火皿径1.5 小口径0.6×0.5 重さ2.7		雁首	23-1
3	銅製品	煙管	長さ3.6 火皿径1.1×0.8 小口径1.0×0.9 重さ7.2		雁首 火皿歪む 8層B	
4	銅製品	煙管	長さ[2.1] 小口径0.9×0.8 重さ1.7		雁首 火皿欠失 8層A	
5	銅製品	煙管	長さ4.8 小口径1.1 口付径0.6 重さ7.3		吸口 8層B	23-1
6	銅製品	煙管	長さ[5.4] 口付径0.3×0.2 重さ1.2		吸口 欠損部多い 8層B	
7	銅製品	煙管	長さ[4.7] 口付径0.5 重さ2.5		吸口 小口部欠損 8層B	
8	銅製品	煙管	長さ[5.6] 小口径1.0 重さ4.5		吸口 内部に羅字残存 口付欠損 8層B	
9	銅製品	押草入れの金具	縦1.4 横[4.2] 厚さ0.06 重さ1.8		前金具 鍍金残る 9層	23-1
10	銅製品	押草入れの金具	縦1.1 横3.6 厚さ0.03 重さ0.7		前金具の裏金 9層	23-1
11	銅製品	押草入れの金具	縦1.3 横3.0 厚さ0.03 重さ1.0		前金具の裏金 8層B	23-1
12	銅製品	押草入れの金具	縦0.5 横5.4 厚さ0.2 重さ3.2		9層	23-1
13	銅製品	指環	径1.7×1.6 高さ0.8 厚さ0.1 重さ1.7		9層	
14	銅製品	耳かき	長さ8.0 幅0.2 厚さ0.1 重さ1.3	SE2		23-2
15	銅製品	耳かき	長さ8.0 幅0.2 厚さ0.1 重さ1.9		持ち手部角棒状 8層B	23-2
16	銅製品	簪	長さ13.0 幅1.6 厚さ0.2 重さ11.3	視見	平打簪 魚子地に桔梗紋	23-2
17	銅製品	簪	長さ[11.8] 幅0.6 厚さ0.2 重さ6.2		飾一部欠損 9層	23-2
18	銅製品	簪	長さ10.3 幅0.6 厚さ0.2 重さ4.1		飾欠損 鍍金あり 9層	
19	銅製品	簪	長さ12.4 幅0.1 厚さ0.1 重さ2.2		飾欠落 連結金具のみ 28層	23-2
20	銅製品	簪	長さ10.0 幅0.3 厚さ0.1 重さ3.7		飾欠落 留孔あり 9層	23-2
21	銅製品	簪	長さ[2.9] 幅0.7 厚さ0.15 重さ0.6		飾のみ 花飾り紙止め 8層A	
22	銅製品	簪	長さ9.7 幅0.6 厚さ0.2 重さ3.5		足一方欠落 9層	23-2
23	銅製品	簪	長さ7.0 幅0.1 厚さ0.1 重さ1.7	視見	飾欠失 足欠損・変形	
24	銅製品	簪	長さ[11.5] 幅0.4 厚さ0.1 重さ2.8		飾欠失 9層	23-2
25	銅製品	簪	長さ[7.9] 幅0.6 厚さ0.35 重さ12.8		飾欠失 足大きく変形する 9層	
26	銅製品	簪	長さ[8.0] 幅0.4 厚さ0.1 重さ1.7		飾欠失 9層	23-3
27	銅製品	簪	縦7.9 横6.2 厚さ0.2 重さ6.2		飾欠失 大きく変形する 8層A	
28	銅製品	簪	長さ[6.0] 幅0.4 厚さ0.13 重さ2.0		飾欠失 8層A	
29	銅製品	簪	長さ[9.7] 幅0.5 厚さ0.13 重さ1.6		飾欠失 8層A	
30	銅製品	簪	長さ[10.0] 幅0.5 厚さ0.18 重さ4.4		飾欠失 鍍金あり 9層	
31	銅製品	簪	長さ10.0 幅0.5 厚さ0.1 重さ2.4		飾欠損 足折れ曲がる 9層	
32	銅製品	簪か	長さ[8.6] 厚さ0.16 重さ1.4		足か 9層	
33	銅製品	簪	長さ[8.1] 厚さ0.13 重さ1.1		足のみ 鍍金あり 8層A	
34	銅製品	柄	長さ[14.0] 幅1.4 厚さ0.2 重さ23.7		木柄・目釘2残存 十能か 8層B	
35	銅製品	火箸	長さ[15.7] 幅0.3 厚さ0.3 重さ17.6		持ち手振る 欠損部に銅板を巻く 修復の跡か 9層	23-2

番号	種別	容積	法量	遺構	備考	図版
36	銅製品	直立て	高さ4.3 幅3.2 厚さ0.13 重さ3.3		持ち手部振りあり 8層B	23-2
37	銅製品	直立て	高さ3.4 幅2.9 厚さ0.1 重さ1.4		9層	23-2
38	銅製品	燭台	径2.3 厚さ0.03 重さ0.5		受皿 9層	
39	銅製品	篩子か	長さ7.1 幅0.1 厚さ0.3 重さ2.6	SKI	受留めの可能性もあり	
40	銅製品	把手	縦1.8 横6.4 厚さ0.3 重さ3.6		引出の把手か 8層A	23-2
41	銅製品	把手	縦1.9 横6.5 厚さ0.5 重さ5.2		引出の把手 9層	23-2
42	銅製品	把手	長さ22.6 厚さ0.4 重さ30.4		変形 一端目釘残 8層B	
43	銅製品	把手	縦2.8 横5.7 厚さ0.3 重さ4.5		引出の把手 8層A	23-2
44	銅製品	把手	縦6.7 横16.5 幅0.2 厚さ0.1 重さ6.0		9層	
45	銅製品	携引手	縦5.3 幅5.5 厚さ0.04 重さ8.1		文様打出し 9層	23-3
46	銅製品	切刃	縦3.7 横2.2 厚さ0.05 重さ3.1		縁に細かい刻みあり 9層	23-3
47	銅製品	キャップ	縦2.9 幅3.1 厚さ0.1 重さ5.5		潰れる 8層A	
48	銅製品	鉤金具	長さ6.1 厚さ0.2 重さ2.4		2重輪鎖3点連結 8層A	23-3
49	銅製品	鉤金具	長さ6.2 幅0.3 厚さ0.2 重さ2.1		横吊手あり やや歪む 8層B	
50	銅製品	鉤金具	長さ6.3 幅0.35 厚さ0.3 重さ5.3		横吊手あり 8層B	23-3
51	銅製品	鉤金具か	長さ[3.6] 厚さ0.15 重さ0.4		9層	
52	銅製品	鉤金具か	長さ[2.4] 厚さ0.15 重さ0.3		9層	
53	銅製品	吊手	長さ7.9 厚さ0.2 座金径1.6 重さ5.3		9層	
54	銅製品	飾金具	縦[2.3] 横1.4 厚さ0.04 重さ1.1	SG1	孔あり 縁に列点 内に爪	
55	銅製品	玩具	長さ4.5 幅0.3 厚さ0.2 重さ1.6		太刀 人形の得物か 9層	
56	銅製品	埴目	縦0.5 横2.1 径0.5 重さ0.5		座縁に刻み目 8層B	
57	銅製品	飾金具	縦2.7 横[5.2] 厚さ0.03 重さ2.4		孔あり(縁5 中央1) 8層B	
58	銅製品	釣針	長さ2.1 厚さ0.1 重さ0.3		8層A	
59	銅製品	釣針	長さ[2.6] 厚さ0.1 重さ0.2	SB1		
60	銅製品	針か	長さ[2.8] 厚さ0.1 重さ0.2		8層B	
61	銅製品	環金具	径2.5 厚さ0.3 重さ3.4		8層B	
62	銅製品	環金具	径3.1×3.0 厚さ0.2 重さ1.5		2-3区壁面	
63	銅製品	環金具	縦3.4 横4.9 厚さ0.3 重さ6.8		8層A	
64	銅製品	車輪	径3.0 長さ[2.2] 重さ23.3	SG1	軸は鉄製	
65	銅製品	車輪	径3.0 長さ[1.8] 重さ26.3	SG1	軸は鉄製	
66	銅製品	車輪	径3.0 長さ[5.1] 重さ25.0	SG1	軸は鉄製	
67	銅製品	螺香	長さ4.3 幅[1.5] 厚さ0.03 重さ1.5		留孔5箇所 8層A	
68	銅製品	皮剥器	全長16.9 重さ135.0 柄 長さ16.6 幅4.6 厚さ1.8 刀 長さ3.5 刃幅0.5 背幅0.1		金具はすべて銅製 当ての部分には方形金具を目釘9箇所固定 9層	23-4
69	銅製品	金網	縦20.7 横22.0 厚さ1.6(枠) 0.07(網) 重さ41.2		9層	23-3
70	銅製品	口すくい	縦[11.5] 横[10.6] 厚さ0.02 重さ10.8		外枠は鉄製 9層	23-3
71	銅製品	口すくい	縦[9.4] 横[8.3] 厚さ0.03 重さ1.7		金網のみ 9層	
72	銅製品	不明	長さ5.2 幅0.5 厚さ0.1 重さ1.4		側縁に小孔が9点等間隔(6mm)で連続する 一端1点のみ貫通しない 8層A	
73	銅製品	銅線か	縦[5.4] 横[17.4] 厚さ最大0.8 重さ166.3 縦[5.3] 横[14.3] 厚さ最大0.8 重さ150.0	SKI	接合しないが同一個体	23-3
74	銅製品	不明	縦4.6 横1.0 厚さ0.1 重さ3.3	SG1	3つ折り	
75	銅製品	不明	縦1.3 横2.3 幅0.5 厚さ0.1 重さ1.2		8層A	
76	銅製品か	不明	縦0.6 横2.3 厚さ2.3 重さ7.5		内面は空洞か 9層	
77	銅製品	不明	縦1.5 横1.7 厚さ0.05 重さ2.1		口縁潰れか 9層	
78	銅？製品	不明	径1.6 縦0.5 横1.6 重さ10.5		8層A	
79	銅製品	不明	長さ[16.2] 幅0.6 厚さ0.1 重さ12.0		1枚の銅板を押し、管状にする 8層A	
80	銅製品	不明	長さ23.2 幅0.2 厚さ0.2 重さ7.5	SE2	両端に小孔 一方に目釘残る	
81	銅製品	不明	径2.3 厚さ0.03 重さ1.6		円形ドーム状 8層B	
82	銅製品	不明	径2.2 厚さ0.02 重さ0.8		円形ドーム状 9層	
83	銅製品	不明	径2.3 高さ0.65 厚さ0.1 重さ5.6		蓋か 縁にわずかな段差あり 9層	
84	銅製品	不明	縦[3.3] 横[5.0] 厚さ0.08 重さ5.4		二つ折 8層A	
85	銅製品	不明	縦[2.2] 横[4.1] 厚さ0.02 重さ2.0		一端折れ曲がる 側縁2箇所孔あり 8層A	

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
86	銅製品	不明	縦[3.2] 横[5.8] 厚さ0.04 重さ5.2		短辺二つ折 3箇所に孔あり 8層A	
87	銅製品	不明	縦[4.0] 横5.0 厚さ0.03 重さ4.6		薄板 部分的に魚契入る 8層B	
88	銅製品	不明	縦4.7 横4.4 厚さ0.03 重さ4.8		薄板 8層B	
89	銅製品	不明	縦6.3 横3.7 厚さ0.03 重さ1.7		薄板 9層	
90	銅製品	不明	縦[4.0] 横[4.8] 厚さ0.05 重さ5.9		8層A	
91	銅製品	不明	縦3.4 横1.7 厚さ0.03 重さ0.8		薄板 9層	
92	銅製品	不明	縦[3.5] 横[2.6] 厚さ0.03 重さ0.5		薄板 9層	
93	銅製品	不明	長さ[5.0] 幅0.5 厚さ0.03 重さ0.5		半裁筒状 8層A	
94	銅製品	不明	縦3.5 横1.6 厚さ0.04 重さ1.6	SK1	薄板状 中央に小孔あり	
95	銅製品	不明	縦2.3 横1.9 厚さ0.04 重さ1.3		薄板 8層B	
96	銅製品	不明	長さ11.8 幅2.1 厚さ0.03 重さ4.2		薄板 8層B	
97	銅製品	不明	縦3.8 横4.4 厚さ0.03 重さ2.2		薄板 8層B	
98	銅製品	不明	縦[7.0] 横[7.4] 厚さ0.03 重さ2.0		薄板 8層B	
99	銅製品	不明	長さ2.5 幅0.7 厚さ0.03 重さ0.8		短冊状 一端折れ曲がる 8層B	
100	銅製品	不明	縦12.0 横10.0 厚さ0.03 重さ3.5		帯状 9層	
101	銅製品	不明	縦5.7 横4.0 厚さ0.03 重さ1.8		帯状品を回し針金で端部を連結 9層	
102	銅製品	不明	長さ14.2 幅0.7 厚さ0.05 重さ4.0		両端丸く折れ曲がる 8層A	
103	銅製品	不明	長さ[14.2] 幅0.8 厚さ0.03 重さ1.3		鍍金あり 一端に孔あり 9層	
104	銅製品	不明	縦[12.3] 横[0.6] 厚さ0.03 重さ2.3		9層	
105	銅製品	不明	長さ[10.4] 幅0.8 厚さ0.03 重さ0.8		鍍金あり 9層	
106	銅製品	不明	長さ[16.1] 幅0.4 厚さ0.04 重さ2.2	SE2	一端幅広	
107	銅製品	不明	長さ[15.6] 幅0.4 厚さ0.05 重さ2.6		両端わずかに幅広 9層	
108	銅製品	不明	長さ[14.6] 幅0.4 厚さ0.03 重さ1.0		一端幅広 2区	
109	銅製品	不明	長さ13.8 幅0.4 厚さ0.03 重さ1.8		一端尖る 8層A	
110	銅製品	新	長さ2.1 新頭径7.0 重さ0.2		9層	
111	銅製品	新	長さ1.3 幅1.0 重さ0.4		9層	
112	銅製品	燵釘	縦2.1 横2.1 厚さ1.9 重さ5.1		円形座金具付 8層B	
113	銅製品	針金	縦3.0 横1.9 厚さ0.08 重さ0.6		8層B	
114	銅製品	針金	縦2.7 横2.1 厚さ0.07 重さ0.4		8層A	
115	銅製品	針金	縦2.8 横2.8 厚さ0.1 重さ1.7		輪状に縛る 8層A	
116	銅製品	針金	縦3.3 横3.2 厚さ0.08 重さ1.1		一辺約2cmの角棒状品に括り付けられていた形状を残す 8層B	
117	銅製品	針金	縦4.7 横1.5 厚さ0.04 重さ1.4		8層B	
118	銅製品	針金	縦5.3 横3.0 厚さ0.07 重さ1.4		32層	
119	銅製品	針金	縦6.0 横4.0 厚さ0.1 重さ1.2		管状付風品 3箇所あり 9層	
120	銅製品	針金	縦6.1 横2.8 厚さ0.06 重さ1.5		8層	
121	銅製品	針金	縦6.5 横3.0 厚さ0.07 重さ1.9	SK1		
122	銅製品	針金	縦6.5 横2.1 厚さ0.08 重さ2.1		8層B	
123	銅製品	針金	縦6.8 横4.8 厚さ0.07 重さ2.0		8層A	
124	銅製品	針金	縦6.4 横3.6 厚さ0.07 重さ2.3		9層	
125	銅製品	針金	縦6.9 横2.1 厚さ0.03 重さ1.7		径約1cmの棒状品に括り付けられていた形状を残す 8層B	
126	銅製品	針金	縦7.3 横2.0 厚さ0.08 重さ0.9		径5mmの棒状品に括り付けられていた形状を残す 8層B	
127	銅製品	針金	縦8.5 横1.9 厚さ0.07 重さ1.7		径約2cmの棒状品に括り付けられていた形状を残す 9層	
128	銅製品	針金	縦9.0 横6.1 厚さ0.08 重さ3.4		8層B	
129	銅製品	針金	縦9.1 横7.4 厚さ0.07 重さ4.3		9層	
130	銅製品	針金	縦10.8 横5.9 厚さ0.1 重さ2.0		8層A	
131	銅製品	針金	縦10.7 横6.3 厚さ0.03 重さ3.6		9層	
132	鉄製品	包丁	長さ[27.6] 刃長[19.3] 刃幅4.5 背幅0.3 重さ111.2		刃部欠損し部分的に折れ曲がる 8層A	23-5
133	鉄製品	包丁	長さ[16.0] 刃長[9.0] 刃幅3.8 背幅0.1 重さ20.3		9層	
134	鉄製品	鍋か	縦[5.3] 横[7.7] 厚さ最大0.5 重さ42.0		口縁破片 9層	

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
135	鉄製品	火格子	縦[10.8] 横[19.0] 厚さ1.3 重さ289.4		遊離した破片の位置は推定 8層B	23-5
136	鉄製品	火格子	縦[7.6] 横[8.1] 厚さ1.4 重さ193.2		9層	
137	鉄製品	火格子	縦[7.3] 横[7.1] 厚さ0.6 重さ60.9		9層	23-5
138	鉄製品	火格子	縦[6.9] 横[6.3] 厚さ0.6 重さ73.7		9層	
139	鉄製品	火格子	縦[3.8] 横[5.0] 厚さ0.5 重さ20.6		8層B	
140	鉄製品	火格子	縦[2.9] 横[3.3] 厚さ1.5 重さ32.3		9層	
141	鉄製品	火格子	縦[2.6] 横[3.4] 厚さ0.6 重さ12.3	視乱		
142	鉄製品	十徳	長さ[7.4] 幅[3.1] 厚さ0.2 重さ32.8		ソケット状の柄部 目釘残る 9層	
143	鉄製品	玉徳	縦2.2 横[6.6] 厚さ1.0 重さ56.6		8層B	
144	鉄製品	火箸	長さ13.5 厚さ0.5 重さ21.9	視乱		
145	鉄製品	火箸	長さ21.4 厚さ0.4 重さ15.2		折れ曲がる 復元長25cm 9層	
146	鉄製品	火箸	長さ[10.7] 厚さ0.6 重さ28.2		9層	
147	鉄製品	火箸	長さ[5.3] 厚さ0.5 重さ6.9		33層	
148	鉄製品	火箸	長さ60.0 厚さ0.6 重さ197.5		2連の8字状鎖で連結 西壁側溝	23-5
149	鉄製品	把手	縦14.2 横16.4 幅0.9 厚さ0.3 重さ63.3	SGI	連結構造異なる(環と孔)	23-5
150	鉄製品	提灯金具	縦1.4 横[10.4] 高さ[6.7] 重さ14.5		8層B	
151	鉄製品	把手	長さ[13.4] 幅0.6 厚さ0.2 重さ7.8		9層	
152	鉄製品	額受け金具	縦[1.4] 横[3.9] 厚さ0.5 重さ20.6		8層B	
153	鉄製品	額受け金具	縦[5.6] 横5.4 厚さ1.2 重さ14.6		8層B	
154	鉄製品	毛抜き	長さ7.7 幅0.6 厚さ0.1 重さ13.9		9層	23-5
155	鉄製品	襦袢	長さ[12.4] 幅2.2 厚さ0.2 重さ6.4	SKI	半身	
156	鉄製品	襦袢	長さ[11.7] 幅最大0.6 厚さ最大0.7 重さ12.1			
157	鉄製品	鉄織	全長[11.2] 織身長[5.8] 表長[5.4] 幅1.2 厚さ0.2 重さ11.3		尖根 目透2 8層A	23-5
158	鉄製品	刀子	長さ[8.5] 刃長6.9 刃幅1.0 背幅0.2 重さ5.0		全面的に木質付着	
159	鉄製品	金締	長さ6.0 幅1.2 重さ42.7	視乱		
160	鉄製品	鋤先	縦[6.2] 横[13.8] 厚さ0.8 重さ69.3		鋤留4箇所に残る 8層A	
161	鉄製品	鋤先	縦[6.5] 横[7.1] 厚さ1.3 重さ34.2		9層	
162	鉄製品	螺番	長さ7.0 幅[5.1] 厚さ0.05 軸長[6.1] 重さ14.7		袋着片側6箇所 9層	
163	鉄製品	錠前	縦1.2 横[8.7] 厚さ1.3 重さ20.9	SKI	板+木部分	
164	鉄製品	口金	径2.6×2.0 幅0.5 厚さ0.1 重さ2.6		9層	
165	鉄製品	環金具	径3.6×3.5 厚さ0.3 重さ7.2		5区	
166	鉄製品	環金具	縦3.7 横4.4 幅1.0 厚さ0.25 重さ16.6	SKI		
167	鉄製品	環金具	径4.8 幅0.9 厚さ0.3 重さ19.3		8層A	
168	鉄製品	不明	縦[3.7] 横2.6 厚さ0.25 重さ5.7		9層	
169	鉄製品	不明	長さ[16.1] 幅3.7 厚さ0.4 重さ98.5		両端に帯状の銅金具が残存 釜の鐔か 9層	
170	鉄製品	不明	縦[5.9] 横4.7 厚さ0.4 重さ28.7		釜の鐔か 9層	
171	鉄製品	不明	縦[2.4] 横[3.5] 厚さ0.5 重さ7.3		8層B	
172	鉄製品	不明	縦6.7 横[2.8] 厚さ0.2 重さ7.0		8層A	
173	鉄製品	不明	長さ[10.3] 幅0.5 厚さ0.3 重さ12.2		端部T字に折れ曲がる 8層A	
174	鉄製品	不明	縦3.9 横5.1 厚さ0.4 重さ36.1		受け金具か 8層A	
175	鉄製品	不明	長さ[8.8] 幅0.9 厚さ最大0.3 重さ7.3		一端鈎状 9層	
176	鉄製品	不明	長さ[7.7] 幅0.9 厚さ0.2 重さ4.4		端部鈎状 同一体か 9層	
177	鉄製品	不明	長さ[5.6] 幅0.8 厚さ0.2 重さ2.7		9層	
178	鉄製品	不明	縦[3.3] 横6.3 厚さ0.1 重さ13.2		9層	
179	鉄製品	不明	長さ[5.7] 幅0.8 厚さ0.1 重さ1.6		小孔2 9層	
180	鉄製品	不明	長さ[6.9] 幅0.6 厚さ0.1 重さ2.5		一端に小孔あり 9層	
181	鉄製品	不明	長さ[9.3] 幅0.9 厚さ0.15 重さ5.7		32層	
182	鉄製品	不明	長さ[9.8] 幅1.5 厚さ0.3 重さ29.4		9層	
183	鉄製品	不明	長さ[10.2] 幅1.1 厚さ0.1 重さ9.7		小孔4 9層	
184	鉄製品	錠	長さ[16.8] 幅0.6 厚さ0.5 重さ64.6	視乱		
185	鉄製品	錠	長さ[8.1] 幅0.5 厚さ0.5 重さ14.3		9層	
186	鉄製品	錠	長さ[8.8] 幅0.6 厚さ0.4 重さ12.8		8層A	

番号	種別	器種	法量	遺構	備考	図版
187	鉄製品	錠	長さ[7.4] 幅0.4 厚さ0.7 重さ6.7		8層B	
188	鉄製品	錠	長さ6.3 幅0.4 厚さ0.4 重さ5.8	視見		
189	鉄製品	錠	長さ5.4 幅0.4 厚さ0.4 重さ5.1		9層	
190	鉄製品	錠	長さ[6.0] 幅0.4 厚さ0.4 重さ4.8		8層A	
191	鉄製品	錠	長さ[6.3] 幅0.4 厚さ0.4 重さ5.0	視見		
192	鉄製品	錠	長さ[6.0] 幅0.4 厚さ0.4 重さ5.0	視見		
193	鉄製品	錠	長さ6.1 幅0.4 厚さ0.3 重さ4.7		9層	
194	鉄製品	錠	長さ4.9 幅0.5 厚さ0.4 重さ6.0	視見		
195	鉄製品	燻釘	長さ[8.4] 幅0.25 厚さ1.0 重さ21.4	SK1		
196	鉄製品	燻釘	長さ[5.2] 幅0.3 厚さ0.5 重さ7.5		8層B	
197	鉄製品	釘	長さ[14.5] 幅1.1 厚さ0.5 重さ32.9	視見	一部木質付着	
198	鉄製品	釘	長さ[11.2] 幅1.3 厚さ0.5 重さ31.4		木質付着 8層B	
199	鉄製品	釘	長さ[11.1] 幅0.6 厚さ0.6 重さ33.8		8層A	
200	鉄製品	釘	長さ[10.8] 幅0.9 厚さ0.5 重さ32.2		8層A	
201	鉄製品	釘	長さ10.6 幅0.6 厚さ0.6 重さ15.0	視見		
202	鉄製品	釘	長さ[9.2] 幅0.3 厚さ0.3 重さ3.9		27層	
203	鉄製品	釘	長さ[9.0] 幅0.3 厚さ0.3 重さ3.8		9層	
204	鉄製品	釘	長さ[8.8] 幅0.3 厚さ0.4 重さ4.8		8層B	
205	鉄製品	釘	長さ7.6 幅0.3 厚さ0.5 重さ4.6		8層A	
206	鉄製品	釘	長さ7.3 幅0.3 厚さ0.3 重さ3.5		9層	
207	鉄製品	釘	長さ[6.8] 幅0.3 厚さ0.4 重さ4.8		8層A	
208	鉄製品	釘	長さ[5.9] 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.6		未掲載器製人形(死)に貫通 8層A	
209	鉄製品	釘	長さ3.2 幅0.3 厚さ0.4 重さ2.7		8層A	
210	鉄製品	釘	長さ3.1 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.4		8層B	
211	鉄製品	釘	長さ[3.0] 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.9		9層	
212	鉄製品	釘	長さ2.6 幅0.2 厚さ0.3 重さ3.8		9層	
213	鉄製品	釘	長さ[2.1] 幅0.3 厚さ0.3 重さ2.6		9層	

そらく他の色は溶け落ちたものと思われる。

この絵柄の絵馬は一般的に「拝み絵馬」と呼ばれ、老若男女の別なく、また複数人が描かれるものもある。どのような神仏でも、どのような祈願内容でも奉納できる、普遍的な絵馬とされている。

祈願内容や社寺名、奉納者名などは記されていないものの、牛頭天王社（八坂神社）境内から出土しているので、同社、乃至は境内社に奉納されたものと見て大過なからう。

#### 金属製品（第79～86図）

金属製品には銅製品と鉄製品がある。主体は鉄製の釘で、銅製の針金にこれに次ぐ。簪の多いのも注意されよう。他に喫煙具、厨房具、建具、裁縫具、農具、工具等、器種は多岐にわたっている。

なお、第80図73の銅鏡かと思われる破片は、明らかに明治時代後期以降の第1号土壙（SK1）から出土している。土壙は浅い皿状で、堆積した

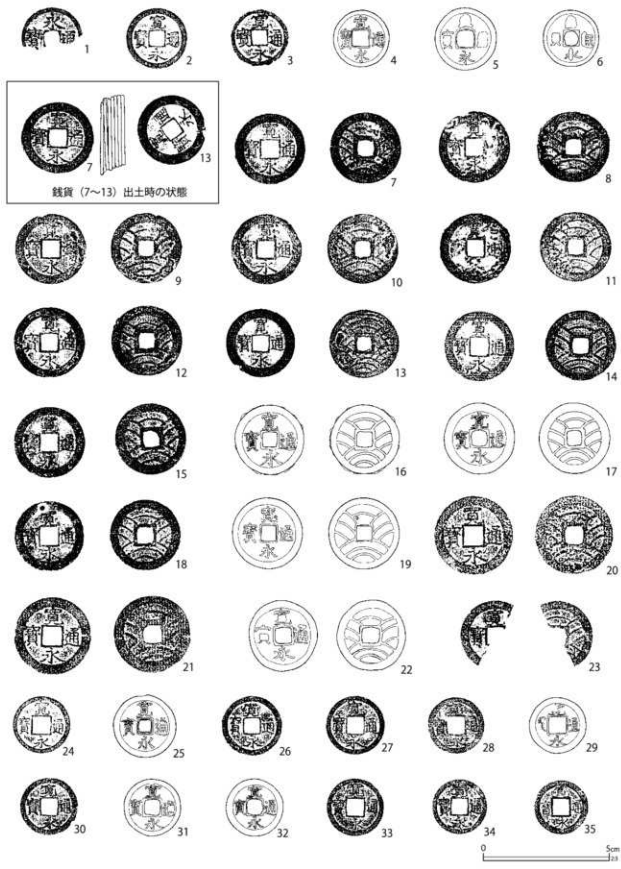
灰の中にはレンガや板ガラス片が多く含まれていた。おそらくは火を焚いた跡であろう。製作時期は明らかとし得ないものの、これも神鏡など牛頭天王社（八坂神社）の神具である可能性を否定できないため、併せて掲載することとした。

#### 石製品（第87～90図）

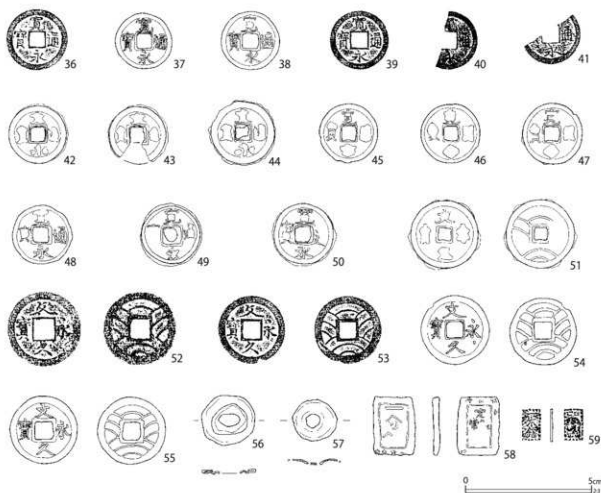
第87図25～第88図45は火打石である。石材の大半は玉髄で、チャートは3点に過ぎない。30は主要剥離面が遺存し、打面縁辺部に使用による潰れ痕跡が観察できる。また、右側面を打面として剥離を行っており、その打面縁辺部を使用している。火打石の耗損が進んだことによる、使用面の打ち割り再生の可能性が考えられる。39は剥片剥離後にさらに打ち割りを行っている資料である。打面縁辺には使用痕が見られない。利用できる部分を剥ぎ取ったのであろうか。

第88図48～第89図は、多孔質の角閃石安山岩





第85図 遺物包含層出土銭貨(1)



第86図 遺物包含層出土銭貨（2）

第11表 遺物包含層出土銭貨観察表（第85・86図）

種別	器種	法量	遺構	備考	図版
1	銅製品 銭貨	径24.6 厚さ1.2 重さ[1.5]		永(実)通寶 8層A	
2	銅製品 銭貨	径24.3 厚さ1.2 重さ3.2		寛永通寶(古)	
3	銅製品 銭貨	径23.0 厚さ0.8 重さ1.7		寛永通寶(古) 8層B	
4	銅製品 銭貨	径22.0 厚さ1.0 重さ2.1		寛永通寶(古) 8層B	
5	銅製品 銭貨	径24.0 厚さ1.3 重さ1.5		寛永通寶(古) 8層B	
6	銅製品 銭貨	径22.0 厚さ1.5 重さ2.9		寛永通寶(古) 8層B	
7	銅製品 銭貨	径28.4 厚さ1.2 重さ5.4		すべて寛永通寶(新)	
8	銅製品 銭貨	径28.5 厚さ1.2 重さ4.7		7～12 11波	
9	銅製品 銭貨	径28.2 厚さ1.2 重さ5.2		13 21波	
10	銅製品 銭貨	径28.2 厚さ1.3 重さ5.4		7～13の期で錯着して出土	
11	銅製品 銭貨	径28.2 厚さ1.3 重さ5.4			
12	銅製品 銭貨	径28.1 厚さ1.3 重さ4.7			
13	銅製品 銭貨	径27.5 厚さ1.4 重さ5.2			
14	銅製品 銭貨	径28.2 厚さ1.2 重さ4.3	複乱	寛永通寶(新)11波	
15	銅製品 銭貨	径28.5 厚さ1.3 重さ4.6		寛永通寶(新)11波	
16	銅製品 銭貨	径28.2 厚さ1.3 重さ4.4		寛永通寶(新)11波 8層A	
17	銅製品 銭貨	径28.3 厚さ1.3 重さ4.2		寛永通寶(新)11波 8層A	
18	銅製品 銭貨	径28.1 厚さ1.2 重さ4.1		寛永通寶(新)11波 8層A	

種別	器種	法量	遺構	備考	図版
19	銅製品	銭貨	径28.0 厚さ1.3 重さ3.0	SGI 視乱	寛永通寶(新)11波 8層B
20	銅製品	銭貨	径28.1 厚さ1.3 重さ4.3		寛永通寶(新)11波 9層
21	銅製品	銭貨	径28.1 厚さ1.2 重さ4.6		寛永通寶(新)11波 10層
22	銅製品	銭貨	径27.4 厚さ0.7 重さ3.2		寛永通寶(新)11波 表土
23	銅製品	銭貨	径28.0 厚さ1.1 重さ[1.9]		寛永通寶(新)11波 8層A
24	銅製品	銭貨	径22.8 厚さ1.3 重さ2.9		寛永通寶(新)
25	銅製品	銭貨	径24.2 厚さ1.2 重さ2.6		寛永通寶(新)
26	銅製品	銭貨	径24.1 厚さ1.2 重さ2.8		寛永通寶(新)
27	銅製品	銭貨	径23.4 厚さ1.0 重さ2.1		寛永通寶(新)
28	銅製品	銭貨	径22.5 厚さ1.1 重さ2.7		寛永通寶(新)
29	銅製品	銭貨	径22.3 厚さ1.1 重さ2.0		寛永通寶(新)
30	銅製品	銭貨	径22.8 厚さ0.8 重さ1.9		寛永通寶(新) 8層A
31	銅製品	銭貨	径22.6 厚さ1.0 重さ2.2		寛永通寶(新) 8層A
32	銅製品	銭貨	径22.6 厚さ0.8 重さ1.6		寛永通寶(新) 8層A
33	銅製品	銭貨	径22.8 厚さ1.0 重さ2.5		寛永通寶(新) 8層A
34	銅製品	銭貨	径21.9 厚さ0.8 重さ2.0		寛永通寶(新) 8層B
35	銅製品	銭貨	径21.6 厚さ0.9 重さ2.2		寛永通寶(新) 8層B
36	銅製品	銭貨	径24.4 厚さ1.1 重さ3.2		寛永通寶(新) 8層B
37	銅製品	銭貨	径22.4 厚さ0.7 重さ1.7		寛永通寶(新) 9層
38	銅製品	銭貨	径23.0 厚さ1.0 重さ2.3		寛永通寶(新) 2-3区
39	銅製品	銭貨	径23.5 厚さ1.2 重さ3.4		寛永通寶(新) 5区
40	銅製品	銭貨	径22.9 厚さ0.9 重さ[1.3]		寛永通寶(新)
41	銅製品	銭貨	径23.6 厚さ1.1 重さ[1.3]		寛永通寶(新) 31層
42	鉄製品	銭貨	径23.1 厚さ1.3 重さ2.5		視乱 寛永通寶(新)
43	鉄製品	銭貨	径23.1 厚さ1.4 重さ1.7		寛永通寶(新)
44	鉄製品	銭貨	径24.4 厚さ1.8 重さ2.7		寛永通寶(新) 8層A
45	鉄製品	銭貨	径23.0 厚さ1.5 重さ2.5		寛永通寶(新) 8層B
46	鉄製品	銭貨	径23.0 厚さ1.4 重さ3.0		寛永通寶(新) 8層B
47	鉄製品	銭貨	径24.0 厚さ1.3 重さ2.4		寛永通寶(新) 9層
48	鉄製品	銭貨	径23.0 厚さ1.3 重さ1.6		寛永通寶(新) 9層
49	鉄製品	銭貨	径24.6 厚さ1.0 重さ2.6		寛永通寶(新) 9層
50	鉄製品	銭貨	径24.0 厚さ1.2 重さ2.7	視乱 寛永通寶(新)	
51	銅製品	銭貨	径24.0 厚さ1.9 重さ3.5	文久永寶 8層B	
52	銅製品	銭貨	径26.8 厚さ0.9 重さ3.3	文久永寶 9層	
53	銅製品	銭貨	径26.8 厚さ1.0 重さ3.4	文久永寶 9層	
54	銅製品	銭貨	径26.7 厚さ1.0 重さ3.0	文久永寶 9層	
55	銅製品	銭貨	径26.4 厚さ0.8 重さ2.6	文久永寶 9層	
56	銅製品	雁首銭	径20.3×21.0 厚さ1.3 重さ2.2		
57	銅製品	雁首銭	径17.9×16.7 厚さ0.6 重さ1.0	鍍金あり 31層	
58	銅製品	模造銭	縦23.5 横16.6 厚さ3.0 重さ6.7	天保一分銀の模造銭 8層A	
59	銅製品	模造銭	縦12.6 横7.7 厚さ0.6 重さ0.4	一朱銀を模した玩具銭か 朱はノに本 銀は金銅に官?を当てる 9層	

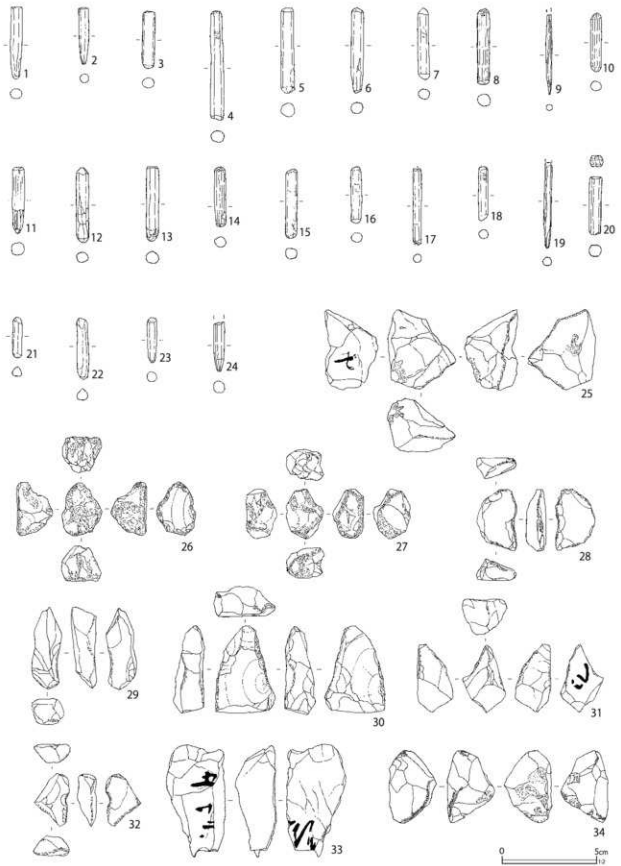
石と軽石を素材とした所謂磨石である。多くは片面に大きく自然面を残す。近年、利根川中流域の中・近世遺跡での出土事例が急増している。

使用痕は全てに観察されるが、細かな平行する線状の使用痕が明瞭なもの(49・53・54・58・62・78)と、溝状の使用痕が認められるもの(58・61・73・77)があり、異なる用途を想起させる。

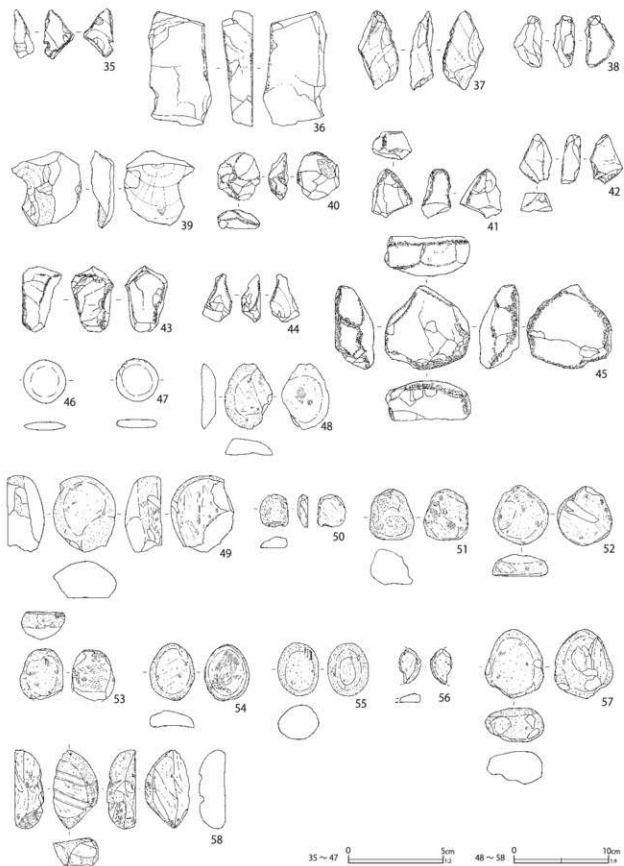
59・60はある程度使用した後に分割し、分割面を研磨している例である。再利用品であろう。

#### 硝子・骨製品(第91図)

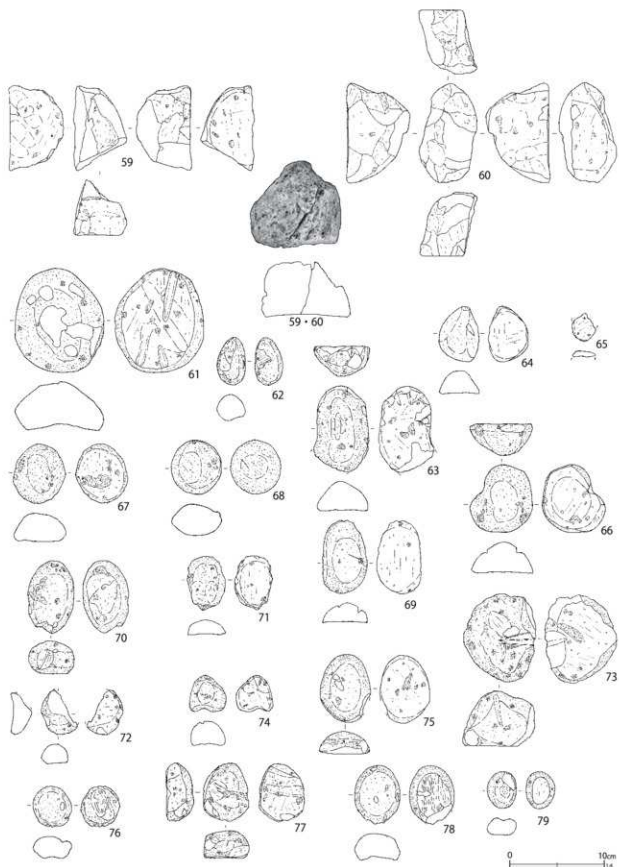
第91図1～5は硝子製品で、1～4は筭、5は簪の玉である。4は黄色に青色を練りこんでいる。6～8は骨製品で、7は筭の可能性もある。組み合わせ式であろうか。



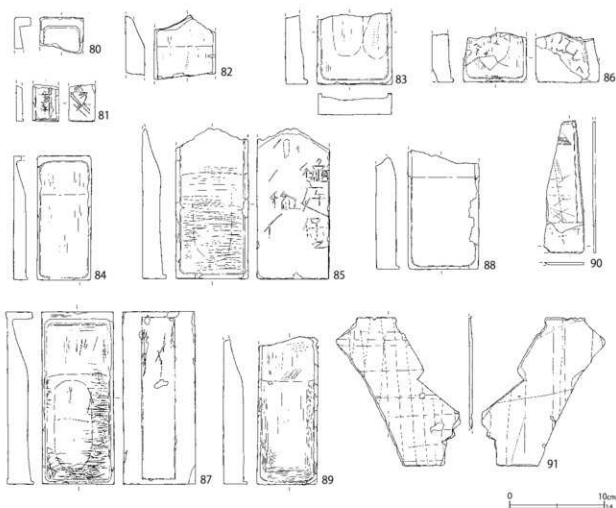
第87图 遺物包含層出土石製品(1)



第88図 遺物包含層出土石製品 (2)



第89図 遺物包含層出土石製品(3)



第90図 遺物包含層出土石製品（4）

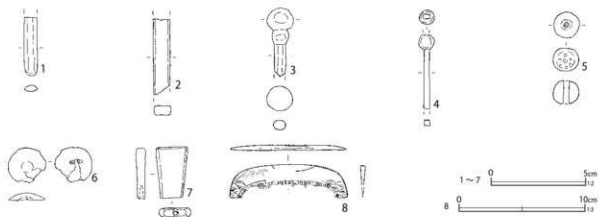
第12表 遺物包含層出土石製品観察表（第87～90図）

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
1	石製品	石筆	3.0	0.5	0.5	1.3	滑石	SK1		
2	石製品	石筆	3.8	0.6	0.5	2.4	滑石	SK1		
3	石製品	石筆	3.0	0.7	0.6	2.2	滑石	SG1	両端使用	
4	石製品	石筆	5.7	0.7	1.6	5.1	滑石(白)		両端使用 8層A	
5	石製品	石筆	4.5	0.7	0.7	4.6	滑石(白)		両端使用 8層A	
6	石製品	石筆	4.5	0.7	0.6	3.4	滑石(白)		両端使用 8層A	
7	石製品	石筆	3.8	0.6	0.5	3.1	滑石(灰)		両端使用 8層A	
8	石製品	石筆	[4.0]	0.7	0.6	3.7	滑石(灰)		8層B	
9	石製品	石筆	[4.3]	0.3	0.3	0.7	滑石(灰白)		両端使用 8層B	
10	石製品	石筆	3.1	0.6	0.5	2.0	滑石(白)		両端使用 9層	
11	石製品	石筆	3.5	0.7	0.6	2.5	滑石(白)		削痕 9層	
12	石製品	石筆	4.0	0.6	0.5	2.6	滑石(白)		被熱 黒色化 両端使用 削痕 9層	24-1
13	石製品	石筆	4.0	0.7	0.7	3.5	滑石(白)		刀物痕 9層	
14	石製品	石筆	4.2	0.6	0.5	2.0	滑石(白)		両端使用 9層	
15	石製品	石筆	3.7	0.6	0.6	2.7	滑石(白)		両端使用 9層	
16	石製品	石筆	3.0	0.6	0.5	1.7	滑石(灰白)		両端使用 9層	
17	石製品	石筆	[4.0]	0.5	0.5	1.9	粘板岩か		硬質 9層	
18	石製品	石筆	2.8	0.5	0.5	1.5	滑石(白)		両端使用 9層	

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
19	石製品	石筆	[4.5]	0.5	0.5	1.3	粘板岩か		硬質 削痕 9層	
20	石製品	石筆	3.1	0.6	0.6	2.4	滑石(白)		29層	
21	石製品	石筆	2.1	0.5	0.5	0.9	滑石(白)		両端使用 29層	
22	石製品	石筆	3.2	0.7	0.6	1.9	滑石(白)		両端使用 30層	
23	石製品	石筆	2.4	0.5	0.5	1.1	滑石(灰白)	SK1		
24	石製品	石筆	[2.7]	0.6	0.6	1.5	滑石(灰白)	SK1	先端削痕	
25	石製品	火打石	4.2	3.6	2.8	33.4	玉髓		使用痕あり 墨書「七」8層A	24-2
26	石製品	火打石	2.8	2.1	1.8	12.0	玉髓		使用痕(稜の潰れ激しい) 8層A	
27	石製品	火打石	2.6	2.0	1.5	9.3	玉髓		使用痕(稜の潰れ激しい) 8層A	
28	石製品	火打石	3.2	2.1	1.1	8.3	玉髓		使用痕あり 被熱(赤変) 8層A	
29	石製品	火打石	4.3	1.6	1.4	10.0	玉髓		使用痕あり 8層A	
30	石製品	火打石	4.7	3.2	1.6	25.4	玉髓		主要剥離面遺存 剥片石核素材 使用痕あり 8層A	
31	石製品	火打石	3.5	2.3	1.9	11.4	玉髓		使用痕あり 墨痕あり 8層A	24-3
32	石製品	火打石	2.8	1.9	1.0	4.4	玉髓		使用痕あり 8層A	
33	石製品	火打石	[6.0]	[3.2]	2.2	37.2	玉髓		未使用 墨書あり 8層A	24-4
34	石製品	火打石	3.8	2.5	2.5	21.6	玉髓		使用痕(稜の潰れあり) 8層A	
35	石製品	火打石	2.6	1.6	1.1	3.4	玉髓		使用痕あり 8層A	
36	石製品	火打石	6.1	3.4	1.7	51.0	チャート		使用痕あり 良質石材 8層A	24-5
37	石製品	火打石	4.2	2.1	1.2	8.5	玉髓		使用痕あり 8層B	
38	石製品	火打石	2.7	4.5	1.1	4.7	玉髓		使用痕あり 8層B	
39	石製品	火打石	3.9	3.7	1.2	14.4	玉髓		右側縁に連続微細剥離痕 剥片石核 8層B	
40	石製品	火打石	2.5	2.2	1.0	5.5	玉髓		使用痕(稜の潰れあり) 8層B	
41	石製品	火打石	2.6	2.3	1.5	7.7	玉髓		使用痕(稜の潰れあり) 8層B	
42	石製品	火打石	2.6	1.7	1.0	4.7	チャート		使用痕(稜の潰れ弱い) 8層B	
43	石製品	火打石	3.5	2.3	2.1	17.4	チャート		良質石材 使用痕(稜の潰れあり) 9層	
44	石製品	火打石	2.5	1.6	1.0	3.3	玉髓		使用痕(稜の潰れあり)	
45	石製品	火打石	4.4	4.5	2.1	49.2	玉髓		使用痕(稜の潰れあり) 表採	
46	石製品	碁石	2.0	2.0	0.4	3.1	粘板岩		8層B	24-6
47	石製品	碁石	2.2	2.2	0.4	3.1	粘板岩		8層B	24-6
48	石製品	磨石	3.5	3.0	1.1	4.3	角閃石安山岩		多孔質 自然面遺存 2面形成 8層A	
49	石製品	磨石	[8.0]	6.6	3.9	90.2	角閃石安山岩		多孔質 自然面遺存 3面形成 線状痕 8層A	
50	石製品	磨石	6.9	5.0	1.7	23.1	角閃石安山岩		多孔質 自然面遺存 2面形成 刃物状痕 8層A	
51	石製品	磨石	5.4	4.7	3.3	28.1	軽石		自然面遺存 8層A	
52	石製品	磨石	6.3	5.8	2.3	43.9	角閃石安山岩		多孔質 自然面遺存 1面形成 溝状使用痕 8層A	
53	石製品	磨石	5.4	4.6	2.8	35.1	角閃石安山岩		多孔質 自然面遺存 2面形成 ランダムな線状痕 8層A	
54	石製品	磨石	5.7	4.8	1.7	15.0	角閃石安山岩		多孔質 自然面遺存 1面形成 ランダムな線状痕 8層A	24-7
55	石製品	磨石	5.6	4.3	3.6	36.6	角閃石安山岩		多孔質 自然面遺存 8層B	
56	石製品	磨石	[3.7]	[2.3]	1.0	3.1	角閃石安山岩		多孔質 自然面遺存 2面形成 8層B	
57	石製品	磨石	7.3	6.2	3.4	67.1	角閃石安山岩		多孔質 自然面遺存 溝状使用痕 8層B	
58	石製品	磨石	8.3	4.7	2.7	47.6	角閃石安山岩		多孔質 灰色 自然面遺存 側面線条痕 多面形成 8層B	24-8
59	石製品	磨石	9.0	5.7	5.8	70.1	軽石		60と接合 工具痕(2面) 使用面3 使用後分割 分割面摩耗 8層A	24-9
60	石製品	磨石	10.5	6.1	6.7	104.8	軽石		59と接合 使用後分割 分割面摩耗 8層A	24-9
61	石製品	磨石	11.0	9.5	4.4	190.9	角閃石安山岩		多孔質気味 灰色 自然面遺存 2面形成 溝状使用痕 9層	24-10
62	石製品	磨石	5.0	3.0	2.8	12.4	角閃石安山岩		多孔質 自然面遺存 2面形成 線条痕 9層	
63	石製品	磨石	9.1	6.0	3.0	74.7	角閃石安山岩		多孔質 灰色 自然面遺存・使用 1面形成 刃物状痕 9層	
64	石製品	磨石	5.9	4.2	2.4	26.2	角閃石安山岩		多孔質 自然面不明瞭 1面形成 一部被熱 9層	
65	石製品	磨石	[3.0]	[2.5]	[0.7]	1.8	角閃石安山岩		多孔質 1面形成 9層	
66	石製品	磨石	7.2	6.7	3.3	55.1	角閃石安山岩		多孔質 自然面遺存 2面形成 9層	
67	石製品	磨石	6.3	5.6	3.0	29.8	軽石		自然面遺存 1面形成 9層	



番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	遺構	備考	図版
68	石製品	磨石	5.8	5.3	3.3	48.8	角閃石安山岩		多孔質 自然面遺存 9層	
69	石製品	磨石	7.8	4.7	2.0	25.2	角閃石安山岩		多孔質 自然面遺存 2面形成 刃物状痕 9層	
70	石製品	磨石	7.8	4.8	3.5	43.8	軽石		工具痕 自然面遺存・使用 9層	
71	石製品	磨石	5.8	4.0	1.5	12.3	軽石		自然面遺存・使用 1面形成 9層	
72	石製品	磨石	4.7	3.8	1.9	7.2	軽石		自然面遺存 1面形成 9層	
73	石製品	磨石	9.3	7.7	5.8	137.4	軽石		自然面遺存・使用 1面形成 刃物状痕 28層	
74	石製品	磨石	3.8	3.9	2.7	11.4	角閃石安山岩		多孔質 自然面遺存か(不明瞭) 2面形成 35層	
75	石製品	磨石	7.1	5.3	2.4	40.7	角閃石安山岩	視乱	多孔質 自然面遺存・使用 1面形成	
76	石製品	磨石	4.3	4.1	2.2	12.1	軽石		自然面遺存 溝状使用痕	
77	石製品	磨石	6.1	4.8	2.9	41.1	角閃石安山岩		多孔質 自然面遺存・使用 溝状使用痕 1面形成	
78	石製品	磨石	6.2	4.8	2.8	33.0	角閃石安山岩		多孔質 自然面遺存 1面形成	
79	石製品	磨石	3.8	3.0	1.7	12.8	角閃石安山岩		多孔質 自然面遺存 凹み状使用痕 1面形成	
80	石製品	硯	[3.8]	4.6	1.7	28.6	凝灰岩		全面黒色付着物あり 8層B	
81	石製品	硯	[3.9]	2.8	0.8	15.0	粘板岩		両面刻書か 8層B	
82	石製品	硯	[6.8]	6.5	[2.0]	116.1	頁岩		灰白色 良質石材 8層B	
83	石製品	硯	[7.5]	8.0	2.6	192.4	凝灰岩		8層B	
84	石製品	硯	13.1	5.7	1.5	236.5	粘板岩		8層B	
85	石製品	硯	[15.9]	7.6	2.5	408.6	凝灰岩		表面刻書「権庭保之」被熱 煤付着 9層	
86	石製品	硯	[5.3]	6.7	2.3	101.2	凝灰岩		灰・灰白色の縞状 裏面刻書 9層	
87	石製品	硯	18.2	7.6	2.8	764.5	粘板岩		内面刃物痕	
88	石製品	硯	[12.5]	7.5	2.4	349.4	凝灰岩		9層	
89	石製品	硯	[15.6]	6.5	2.5	359.0	凝灰岩		黒色付着物全面 内面跡に無数の線条痕 9層	
90	石製品	石板	[13.9]	[4.3]	0.3	28.8	粘板岩		罫線あり 8層A	
91	石製品	石板	[15.7]	[13.1]	0.3	76.6	粘板岩		8層Bと接合 罫線あり 9層	



第91図 遺物包含層出土硝子・骨製品

第13表 遺物包含層出土硝子・骨製品観察表(第91図)

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	遺構	備考	図版
1	硝子製品	筭	[3.1]	0.7	0.3	2.0	-	中実 黄色 被熱(一部黄白色化) 8層A	24-11
2	硝子製品	筭	[4.0]	0.9	0.5	5.5	-	中実 黄色 9層	24-11
3	硝子製品	筭	[3.6]	1.4	0.5	6.0	-	中実 被熱(紫色・白色) 8層B	24-11
4	硝子製品	筭	[3.9]	0.8	0.3	2.5	-	中実 黄色 頭部青色縮み 被熱(黒化) 9層	24-11
5	硝子製品	簪の玉	1.2	1.4	-	4.4	-	上絵付(青・赤) 被熱(黄白色化) 8層B	24-11
6	骨製品	ボタン	-	2.0	0.4	0.8	-	下面穿孔2あり 両面黒色塗布物 8層A	24-12
7	骨製品	筭か	2.7	1.7	0.5	3.7	-	下面穿孔あり 組合式か 9層	24-12
8	骨製品	櫛	9.3	2.6	0.4	8.2	-	絵入り 8層B	24-12

## 2 第二面の遺構と遺物

第二面での検出は流路跡1条のみであった。第一面から第二面の間は、粘性の強いシルト層が主体である。人為的な整地層や焼土層などは観察できず、いずれも自然堆積を示していることから、滞水や流水に伴って形成された土層と思われる。その下は砂層(41層)、乃至は砂粒を多量に含むシルト層となっており、上層との境界は明瞭である。よって、この境界面をもって第二面とした。第一面からの深さはおよそ0.6mである。

しかし、流路跡を掘り進めたところ、第二面とした砂層の直下から黒色の粘土層が現れた。砂層の厚さは0.25m程である。激しい出水のため、それ以上の掘り下げは叶わなかったが、流路跡はさらに深く、また幅も広くなる可能性が高い。検出した以上に規模が大きいとすれば、あるいは流路跡としたものは、洪水の際に激流が地表を削り取った痕跡、即ち「押堀」の一部なのかもしれない。

第一面と第二面の間の土層は軟弱であるうえ、湧水と崩落のため、安全対策上、第二面の検出範囲は調査区中央部のみに限らざるを得なかった。

数点の遺物を除けば、出土があったのは流路跡内に限られるため、挿図には一括して掲載した。

### (1) 流路跡 (第92~94図)

B5-B3・C-3を中心に検出された。検出長15m、上幅約3.6m、下幅約1.4m、深さ約0.9mの直線的な溝である。流軸方向はN-9°-Eを指す。底面はほぼ平坦で、北から南へ傾斜している。断面形は逆台形を呈し、東側は幅1.4~2.2m、深さ約0.2mのテラス状となっている。

覆土は最下部が厚めの砂層、上位から中位がシルト層中心である。中央部の第35層は軽石を多量に含み、その純層も広範に分布する。この軽石の自然科学分析を行ったところ、浅間Aテフラ(A<sub>s</sub>-A)であり、これが流路内に降下した後、埋没保存されたものとの結果を得ている(「V自然科学分析」参照)。他所から流入した二次堆積

ではなく、降灰状態を保っている。浅間Aテフラは天明三年(1783)、浅間火山より噴出したものである。したがって、流路跡が同年以前に形成されていたことは確実である。

最下部に堆積する砂層は、洪水によるものではないかと上記した。浅間山が噴出した天明三年以前の当地における洪水記録を調べると、直近では宝暦七年(1757)五月と寛保二年(1742)八月に発生している。前者の時は宿全体が1丈9尺(約5.8m)もの水に浸かり、後者の時には関所や牛頭天王社をはじめ、宿内の家屋全てを流失する未曾有の大洪水に見舞われている。

寛保二年の洪水では、関所番士の屋敷裏の堤防が決壊している。番士屋敷の位置は調査区の西隣にあたっていることから、この決壊に伴う激流が流路跡のさらに下部に想定される「押堀」を形成し、次第に埋没した後、宝暦七年に至り検出した流路跡底部の砂層が堆積したのではなかろうか。

第一面の遺物包含層に比し、流路跡からの陶磁器や土器の出土は少ないものの、最新期の陶磁器として、肥前系磁器の小広東碗、瀬戸美濃系陶器の石皿などが出土している。いずれも18世紀後葉、西暦1770~1780年代の時期が与えられる。他に仏飯器、灯明皿、瓦燈、摺鉢などの出土がある。

これらの出土は浅間Aテフラ層と砂層の中間層であり、しかも同層からは寛保二年の大洪水直後、西暦1740~1760年代の遺物は見出されていない。このことから推して、砂層は宝暦七年の洪水に伴う堆積物ではないかと推測される。

流路跡からは漆桶、同蓋、下駄などの木製品も出土している。とりわけ、大山詣りの際に奉納された、所謂「納め太刀」の発見は重要である。

この他、軒平瓦や銭貨の出土があった。

出土した遺物は第95~102図に図示した。なお、陶磁器と土器については遺存状態が良好であるうえ、浅間Aテフラ降下以前の組成を示す貴重一

括資料であるため全点を掲載した。

#### 磁器 (第95図)

磁器の生産年代については『九州陶磁編年』(九州近世陶磁学会2000)を、特徴的な陶磁器の消費地における出現時期とピークとなる時期については、東京大学構内遺跡群における編年を参照した(東京大学埋蔵文化財調査室1999・2011)。

図示した磁器は全て肥前系である。1～4は所謂波佐見系のくらわんか手碗である。外面には染付で雪輪草花文、高台内には銘が絵付けられる。1は他3点に比し一回り大きな法量である。

5～7は筒形碗である。内外面染付で、内底面の五弁花は粗雑な5と丁寧な6・7がある。

8は口縁部破片の小丸碗である。内外面染付で、内面には18世紀中頃以降に流行する四方禪文が見られる。生産年代は西暦1740～1780年代である。

9は外面青磁釉の丸碗で、内面上位に四方禪文が染付される。年代は西暦1760～1780年代である。

10は染付小碗、11は小広東碗で、磁器製品の中では最新である。いずれも生産年代は西暦1770～1780年代である。

12は波佐見系の丸碗形環である。外面に笹文の染付が見られる。

13は波佐見系の皿で、内面に五弁花と雪輪草花文の染付が見られる。

14は蓋物の身で、底部は二次穿孔される。植木鉢への転用と思われるが、かなり孔径が大きい。

15は鶴首形御神酒徳利、16は油壺である。

10の小碗、11の小広東碗が最新期陶磁器であり、18世紀後葉～19世紀初頭に多く出土する広東碗が認められない。しかし、群馬県東宮遺跡の天明泥流下の遺構からは広東碗が出土している(中沢2017)、地域あるいは遺跡の性格によって流通状況が異なっていたのかもしれない。

#### 陶器 (第96図)

1は瀬戸美濃系のせんじ碗である。2～4は瀬戸美濃系の灰釉の杯である。2・3は黄色系の灰

釉で、削り出し高台である。4は緻密で硬い胎土で、ナデ高台である。3・4の底部にはタール状の黒色塗布物が付着している。

5～7は瀬戸美濃系柿釉灯明皿である。いずれも底部から外面下位にかけて釉の拭き取り、および輪状の重ね焼き痕が見られる。

8・9は瀬戸美濃系石皿で、陶器製品の中では最新である。両者ともほぼ同口径で、内面に呉須・鉄絵が絵付けられる。

10は瀬戸美濃系の五合半灰釉徳利である。底部には胎土が付着し、釉の拭き取りが認められる。

11は生産地不明の柿釉両手鍋で、把手は紐状である。胎質は瀬戸美濃系に近似し、微粒な黒色粒子がわずかに見られる。

12は堺明石系播鉢である。口縁部外縁帯は大きく張り、内面の凸帯は段になる。内面の播目は密である。白神典之氏の分類におけるII型式(白神1990)に相当し、18世紀後半の所産である。

13は瀬戸美濃系で灰釉の仏飯器である。

14は瀬戸美濃系の柿釉半胴甕で、底部は二次穿孔される。植木鉢への転用であろう。

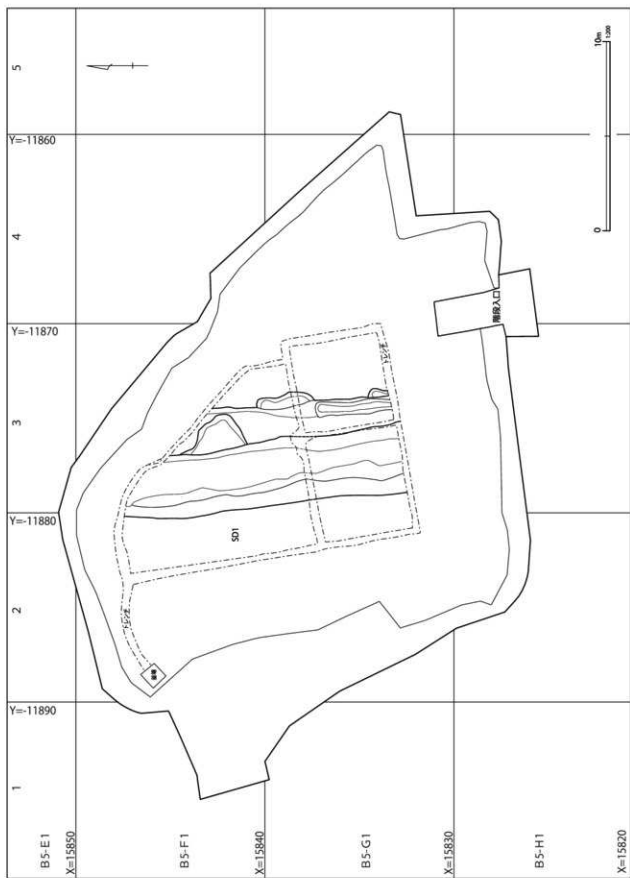
#### 土器 (第97図)

1は土師質土器の丸底焙烙である。底部砂目で、体部下端部にはケズリが施される。

2は瓦質土器の甕で、外面全面に明瞭なミガキ痕が認められる。外面に単位が明瞭なミガキ調整を施す瓦質土器は、栗橋宿本陣跡などに見られ(埼玉県埋蔵文化財調査事業団2019d)、栗橋宿では18世紀後半に流行する調整である。

3は瓦質土器の瓦燈(身)である。底部砂目で、へら書きがなされるが、判読できなかった。底部中央内部はケズリ、体部外面は明瞭なミガキの調整である。蓋の出土はなかったが、ドーム状で小皿状の握みが付くものと思われる。

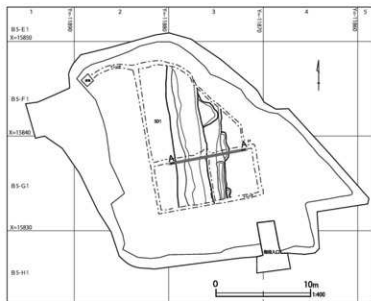
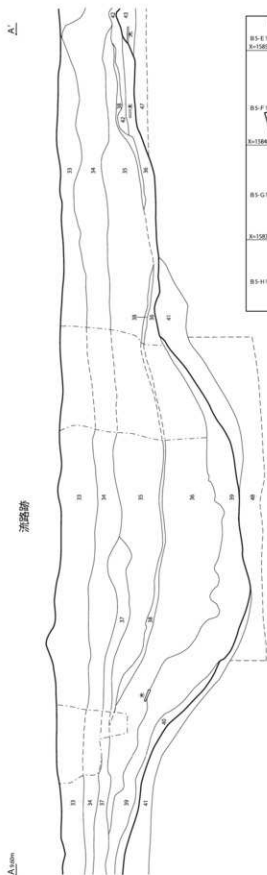
1～3の胎土はいずれも角閃石やバミス状の白色粒、赤色粒が多く含まれており、粗雑である。利根川流域周辺で生産されたと推定される。



第92図 第二面全体図

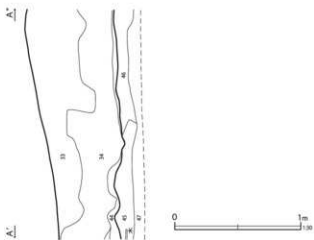
A'10m

流路跡

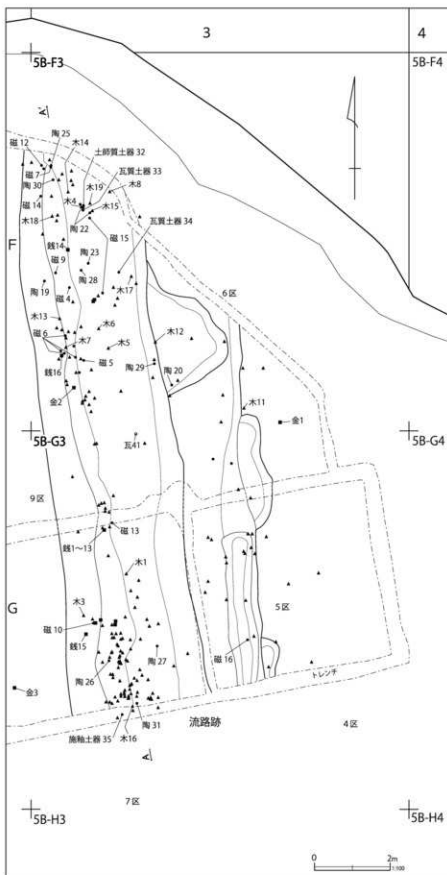


土層序

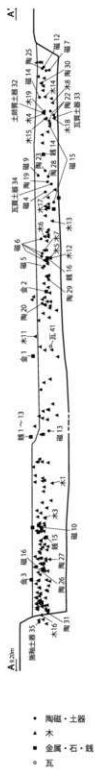
- |           |  |
|-----------|--|
| 33 青灰色粘質  | 所謂「青ネバ」9層との境界は明確 無遺物層                            |
| 34 灰褐色土   | シルト質 白色土・茶褐色土粒を含む 粘性強い                           |
| 35 灰色軽石   | 灰褐色粘質土ブロックを多く含む 本層下位より36層上位に木材・自然木を含む (Aq-Az+Pz) |
| 36 暗灰色粘質土 | 灰色砂粒の他、炭化物を多く含む                                  |
| 37 暗灰色粘質土 | 灰色土ブロックの他、軽石粒を多く含む                               |
| 38 植物層    | イネ科と思われる植物の茎が折り重なる                               |
| 39 灰色砂    | 粒状の灰色砂を主体として、大型の灰白色・褐色の粘質土ブロックを含む                |
| 40 茶褐色粘質土 | 41層の砂を若干含む 部分的に軽石粒が混じる                           |
| 41 白色砂    | 細砂粒を主体とする 洪水等を起源とするものか                           |
| 42 灰色粘質土  | やや砂質 若干の炭化物粒を含む                                  |
| 43 暗褐色粘質土 | 若干の砂粒や植物片を含む 粘性強い                                |
| 44 茶褐色粘土  | 灰色土ブロック 砂粒を含む                                    |
| 45 灰褐色粘質土 | シルト質 板材などを含有する                                   |
| 46 灰褐色砂   | 塊状に黒色土の薄層を挟む                                     |
| 47 黒褐色粘質土 | 多量の砂粒の他、上位に植物片を含む                                |
| 48 黒褐色粘土  | 植物片を含む 41層との境界は明確                                |



第93図 第二面土層図

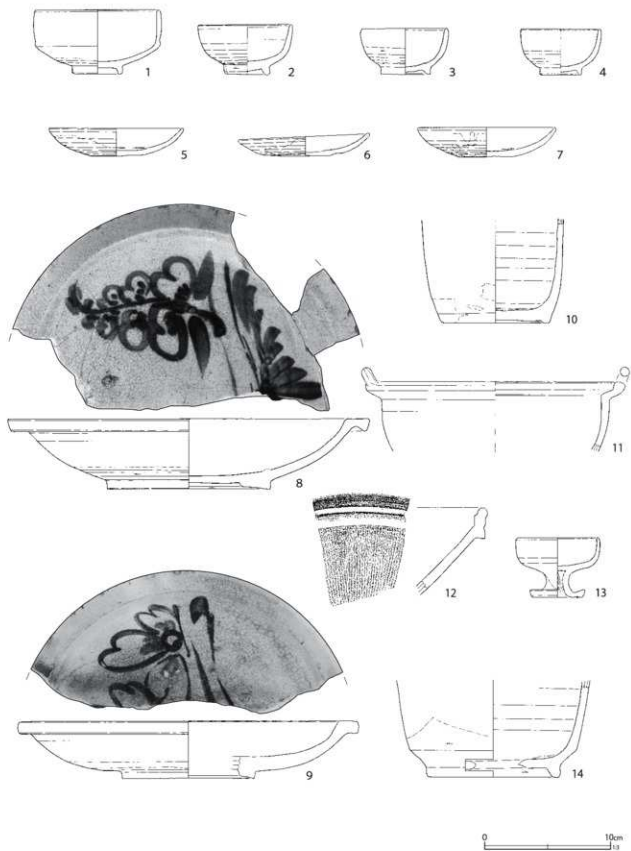


第94図 流路跡遺物分布図



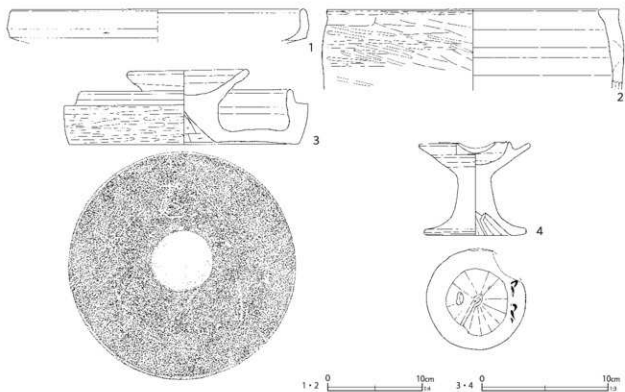


第95图 流路跡出土磁器



第96图 流路跡出土陶器





第97図 流路跡出土土器

4は施釉土器の脚台付灯火具である。粉質な胎土で、雲母細粒を含むことから江戸在地系土器と考えられる。内外面に透明釉が施され、脚台内部はケズリ込まれている。底部には墨書が残る。

#### 瓦（第65図41）

図示し得たのは第65図41の軒平瓦のみで、「○」の刻印が押捺されている。

#### 木製品（第98～100図）

第98図1～4は漆椀、5・6は同蓋である。2には外面3箇所に「丸に木瓜」紋が描かれ、高台内には黒漆で「金」と記される。2と器形は異なるが、3の高台内にも黒漆で「金」とある。4の平椀は高台内に「福」とある。同じ製品が1点出土しているが、歪みが大きく非掲載とした。

5は漆椀蓋で、内外面に赤と金で紅葉の文様が描かれる。8は箱状の製品である。6枚の板が鉄釘で固定されている。長さ2.4～2.8cm、幅0.4cmの穴が4か所作られており、台としての機能が考えられる。10は刃物の柄である。金属が長さ7.5

cmほど残存し、刃部は欠損している。全面に赤漆と黒漆が塗られている。これまでに栗橋宿跡で報告した刃物柄は白木が多いため、特異である。

第99図12は太刀形の新ノキ製品（『V 自然科学分析』参照）で、墨書で「奉獻大山石尊大権現

大天狗  
小天狗 御宝前」（原文は旧字体で縦書き）とある。

13・14と第100図15は下駄である。15の無眼下駄には、表面外周に鉄釘が残存する。表（おもて）を固定した痕跡と考えられる。前穴はあるが、後穴は造られていない。19は建具の一部と考えられる。側面には柄穴が5箇所穿たれ、間隔は32.4cmである。柄穴に横棧の部材が残っている。

#### 金属製品（第101・102図）

第101図4は2本の釘を銅の針金で緊縛しているが、用途は不明である。

第102図1～13は寛永通宝で、13枚が錆着した状態で出土した。全て波銭（四文銭）で、遺存状態は良好である。

第14表 流路跡出土磁器観察表 (第95区)

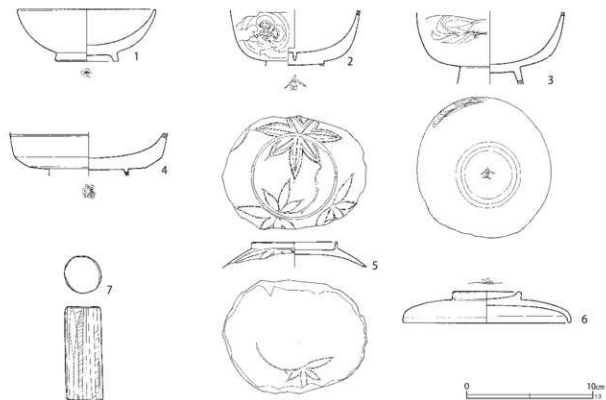
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	磁器	碗	12.1	7.0	4.5	—	85	良好	灰白	SD1	肥前系 内外面施軸 外面染付 内面煤付着	25-2
2	磁器	碗	9.6	5.4	3.9	—	95	良好	灰白	SD1	肥前系 内外面施軸 外面染付 内面煤付着	
3	磁器	碗 (9.3)	5.1	3.4	—	90	良好	灰白	SD1	肥前系 内外面施軸 外面染付	25-3	
4	磁器	碗	9.6	5.2	4.0	—	80	良好	灰白	SD1		肥前系 内外面施軸 外面染付
5	磁器	碗	7.4	6.1	3.3	—	80	良好	白	SD1		肥前系 内外面施軸・染付
6	磁器	碗	7.6	6.2	3.6	—	90	良好	白	SD1		肥前系 内外面施軸・染付
7	磁器	碗 (8.1)	6.2	(4.2)	—	35	良好	白	SD1	肥前系 内外面施軸・染付		
8	磁器	碗 (8.6)	[3.4]	—	K	5	良好	白	SD1	肥前系 内外面施軸 染付		
9	磁器	碗 (10.6)	[6.2]	—	IK	20	良好	灰白	SD1	肥前系 外面青磁軸 内面施軸・染付		
10	磁器	碗 (8.7)	4.6	3.5	—	60	良好	白	SD1	肥前系 内外面施軸・染付		
11	磁器	碗	—	[2.1]	2.8	—	50	良好	白	SD1		肥前系 内外面施軸 染付
12	磁器	皿 (7.5)	3.8	(3.0)	K	25	良好	灰白	SD1	肥前系 内外面施軸 外面染付		
13	磁器	皿 (13.2)	—	(7.2)	K	45	良好	灰白	SD1	肥前系 内外面施軸・染付 煤付着		
14	磁器	蓋物	12.3	7.6	7.0	—	85	良好	白	SD1	肥前系 内外面施軸 外面染付 底部二次穿孔(植木鉢転用)	
15	磁器	德利	1.6	15.1	(4.4)	—	75	良好	白	SD1	肥前系 外面施軸・染付	
16	磁器	油壺	—	[4.6]	4.7	—	10	不良	灰白	SD1	肥前系 外面施軸	
17	磁器	蓋	最大径 5.2	1.6	4.2	—	95	良好	白	SD1	肥前系 内外面施軸 上面染付	

第15表 流路跡出土陶器観察表 (第96区)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	陶器	碗	(9.7)	5.0	4.0	EIK	45	良好	灰白	SD1	瀬戸美濃系 内外面灰軸	25-4
2	陶器	坏	7.3	4.0	3.4	I	100	普通	灰黄褐	SD1	瀬戸美濃系 内外面灰軸 被熱(白化)	
3	陶器	坏	6.1	3.6	3.9	—	100	良好	にぶい・黄橙	SD1	瀬戸美濃系 内外面灰軸 底部タール状物質付着	
4	陶器	坏 (6.2)	3.6	3.1	IK	45	良好	灰白	SD1	瀬戸美濃系 内外面灰軸 底部タール状物質付着		
5	陶器	灯明皿	10.5	2.2	4.3	IK	100	良好	にぶい・黄橙	SD1	瀬戸美濃系 内外面施軸 外面・底部軸ふきとり 内面輪状重ね焼き痕 外面煤付着	
6	陶器	灯明皿	10.2	1.7	3.8	IKL 小磯	80	普通	灰白	SD1	瀬戸美濃系 内外面施軸・輪状重ね焼き痕 外面下位・底部軸ふきとり 内面黒色物質付着	
7	陶器	灯明皿 (10.8)	2.3	4.4	IK	50	良好	灰白	SD1	瀬戸美濃系 内外面施軸 輪状重ね焼き痕 底部・外面下位軸ふきとり		
8	陶器	皿 (28.3)	5.5	12.8	EIK	45	良好	灰白	SD1	瀬戸美濃系 内外面灰軸 内面鉄・呉須絵 目跡 3遺存	25-5	
9	陶器	皿 (26.7)	4.5	(10.4)	EIK	40	良好	灰白	SD1	瀬戸美濃系 内外面灰軸 内面鉄・内面目跡 疊付糸切軌遺存 内面目跡 1遺存 被熱(弱)		
10	陶器	德利	—	[8.2]	8.5	IK	20	普通	淡黄	SD1	瀬戸美濃系 外面灰軸 底部・外面下位軸ふきとり	25-6
11	陶器	鍋 (19.3)	[6.6]	—	K	20	良好	灰白	SD1	内外面施軸		
12	陶器	播鉢	—	[6.9]	—	DEIK	5	良好	赤	SD1	堺明石系 内面播目(9条1単位) 白色物質付着	
13	陶器	仏飯器	6.3	4.7	(4.0)	K	85	良好	灰白	SD1	瀬戸美濃系 内外面灰軸 底部煤付着	
14	陶器	平胴壺	—	[7.6]	10.4	EIK	30	普通	にぶい・黄橙	SD1	瀬戸美濃系 内外面灰軸 内面目跡 2遺存 底部二次穿孔(植木鉢転用) 外面下位煤付着	

第16表 流路跡出土土器観察表 (第97区)

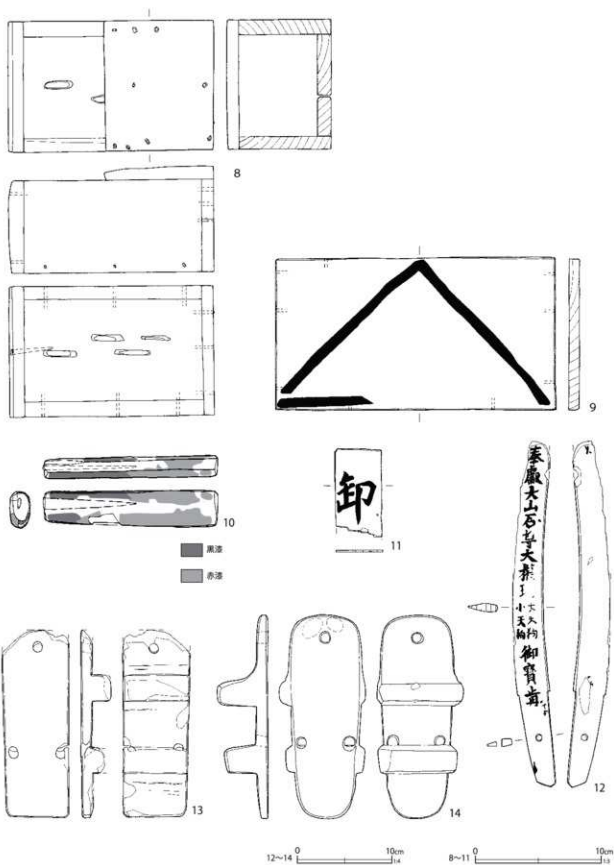
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	遺構	備考	図版
1	土師質土器	埴塔	(30.6)	[3.4]	(31.4)	CFHK	15	普通	にぶい・赤褐	SD1	砂目底か・外面下位ケズリ 底部・口縁煤付着	25-7
2	瓦質土器	壺	(30.8)	[18.5]	—	CFHK	10	普通	黄灰	SD1	外面ミガキ 燻す 口縁煤付着	
3	瓦質土器	瓦燈	9.2	5.9	17.8	CFHK	95	普通	にぶい・橙	SD1	砂目底・へら書き 外面ミガキ 底部内面ケズリ 燻す	
4	施軸土器	灯火具	8.6	7.4	8.0	AIKL	95	普通	橙	SD1	江戸在地系 胎土粉質 脚内面ケズリ 内外面施軸 底部黒書	25-8



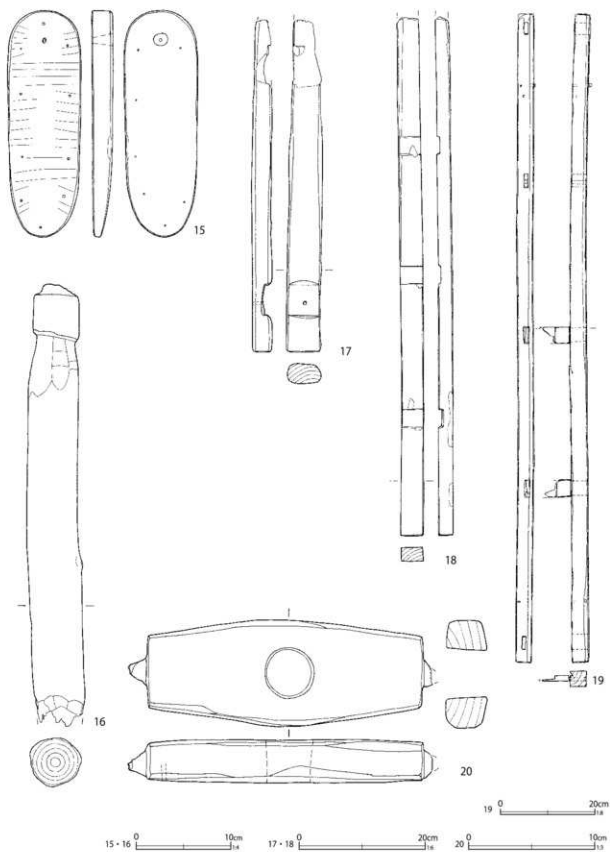
第98図 流路跡出土木製品（1）

第17表 流路跡出土木製品観察表（第98～100図）

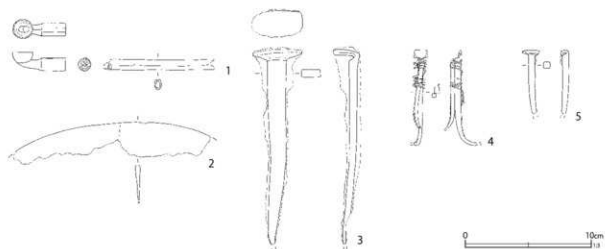
番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	口径/径	高さ	底径	木取り	遺構	備考	図版
1	木製品	漆碗	—	—	—	10.8	4.1	4.8	横木取り	SD1	内外面黒漆 高台内金で文様	
2	木製品	漆碗	—	—	—	—	[4.4]	—	横木取り	SD1	内外面赤漆 家紋「丸に木瓜」3カ所 高台内黒で文字 中央に深さ0.7cmの溝	
3	木製品	漆碗	—	—	—	—	[5.7]	—	横木取り	SD1	内外面赤漆 外面黒で文様 高台内黒で文字	
4	木製品	漆碗	—	—	—	—	[3.4]	—	横木取り	SD1	内外面赤漆 高台内黒で文字 玉み大	
5	木製品	漆碗蓋	つまみ径6.6			—	[2.0]	—	横木取り	SD1	内外面黒漆 赤と金で文様	
6	木製品	漆碗蓋	つまみ径5.4			(13.0)	2.5	—	横木取り	SD1	内外面赤漆 つまみ縁・口縁黒漆 つまみ内金で文様	
7	木製品	不明品	7.4	2.9	2.9	—	—	—	芯持材	SD1	加工痕明瞭	
8	木製品	箱	10.2	16.3	—	—	8.4	—	板目	SD1	鉄釘28の内1貫通せず 底部孔4 箱上部平分に蓋 鉄釘固定	
9	木製品	板	12.0	22.2	0.8	—	—	—	板目	SD1	墨書 釘孔	
10	木製品	刃物柄	2.9	13.8	1.6	—	—	—	板目	SD1	赤漆 黒漆 金属残存	
11	木製品	木札	[6.9]	3.6	0.2	—	—	—	板目	SD1	墨書「御」か文字15 孔1	
12	木製品	木太刀	[36.5]	3.5	0.9	—	—	—	板目	SD1	裏表面墨書 文字16 孔1	25-9
13	木製品	下駄	19.7	7.1	—	—	3.2	—	板目	SD1	連歯下駄	
14	木製品	下駄	21.4	7.3	—	—	5.4	—	板目	SD1	連歯下駄	
15	木製品	下駄	23.8	7.5	—	—	2.2	—	板目	SD1	無歯下駄 鉄釘残存 表面加工痕	
16	木製品	不明品	[46.7]	5.6	5.2	—	—	—	芯持材	SD1	下部削り	
17	木製品	建部材	[53.1]	5.6	3.2	—	—	—	板目	SD1	大部分炭化 仕口部に釘固定の痕跡	
18	木製品	建具	[83.0]	3.6	2.2	—	—	—	板目	SD1		
19	木製品	扉か	136.6	[9.4]	3.3	—	—	—	板目	SD1	金具2 木釘3	
20	木製品	桶	8.4	[24.7]	3.4	—	—	—	板目	—	45層	



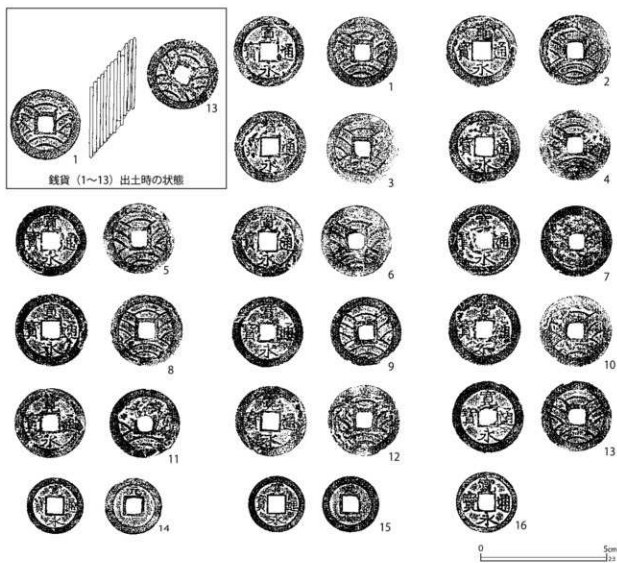
第99図 流路跡出土木製品(2)



第100图 流路跡出土木製品(3)



第101図 流路跡出土金属製品



第102図 流路跡出土銭貨

第18表 流路跡出土金属製品観察表 (第101図)

番号	種別	器種	法量	備考	図版
1	銅製品	煙管	長さ4.2 火皿径1.5 小口径1.0 重さ7.6	煙首 羅字現存長8.8cm	
2	鉄製品	不明	長さ[15.7] 幅[2.7] 厚さ0.4 重さ39.8	鎌の刃の一部か	
3	鉄製品	釘	長さ[15.4] 幅1.5 厚さ0.6 重さ83.5		
4	鉄製品 鉄製品 銅製品	釘 釘 針金	長さ[7.6] 幅0.4 厚さ0.5 長さ[5.3] 幅0.3 厚さ0.3 重さ計21.4 厚さ0.1	2本の使用済みの鉄釘を銅の針金で束ねる	
5	鉄製品	釘	長さ[5.0] 幅0.5 厚さ0.5 重さ6.2		

第19表 流路跡出土銭貨観察表 (第102図)

番号	種別	器種	法量	備考	図版
1	銅製品	銭貨	径28.0 厚さ1.2 重さ4.5	すべて寛永通寶(新)11枚 1～13の順で順着して出土	
2	銅製品	銭貨	径28.2 厚さ1.2 重さ4.7		
3	銅製品	銭貨	径28.2 厚さ1.2 重さ4.9		
4	銅製品	銭貨	径28.3 厚さ1.2 重さ4.7		
5	銅製品	銭貨	径28.2 厚さ1.1 重さ4.4		
6	銅製品	銭貨	径28.4 厚さ1.3 重さ6.0		
7	銅製品	銭貨	径28.2 厚さ1.3 重さ4.7		
8	銅製品	銭貨	径28.5 厚さ1.2 重さ4.2		
9	銅製品	銭貨	径28.2 厚さ1.2 重さ5.0		
10	銅製品	銭貨	径28.5 厚さ1.2 重さ5.2		
11	銅製品	銭貨	径28.1 厚さ1.2 重さ5.3		
12	銅製品	銭貨	径28.7 厚さ1.1 重さ4.7		
13	銅製品	銭貨	径28.4 厚さ1.1 重さ4.8		
14	銅製品	銭貨	径22.8 厚さ1.0 重さ2.0	寛永通寶(新)背元	
15	銅製品	銭貨	径22.6 厚さ0.9 重さ2.0	寛永通寶(新)背元	
16	銅製品	銭貨	径24.5 厚さ1.0 重さ2.6	寛永通寶(古)	

第20表 文字資料釈文表

番号	遺構	器種	釈 文 (表)	釈 文 (裏)	挿図	図版
1	遺物包含層	蓋	笹三/笹三		73-108	26-1
2	遺物包含層	付横駒	馬(裏文字小)	角行か	74-128	26-2
3	遺物包含層	獅子頭	[ ]/入/口		74-129	26-3
4	遺物包含層	獅子頭	十/九		74-130	26-4
5	遺物包含層	木札	(表)判読不能(人名か) (右側面) 上野シヤツボ	(裏)判読不能 (左側面) 十九年三月五日□□	75-139	26-6
6	遺物包含層	木札	伏	る	75-140	26-5
7	遺物包含層	木札	文/□□/荷木馬	七七□□□□ □	75-141	26-7
8	遺物包含層	木札	山上/十三口	判読不能	75-142	26-8
9	遺物包含層	木札	栗橋/蘆田/立崎/上野/幸手	二 香油屋/栗橋/学校尋常四年生/百三十番北 明治廿六年/ヤマにト/板/岸/紙/一	75-143	26-9
10	遺物包含層	木札	(表)六月二日/老岡/老分也/亥三千〇拾老〇 しふや/善平/三百老十三文/二四式式 (左側面)判読不能	(裏)四月十六日/八/三分也/亥武千貳百廿老 (裏)老/可く/庄合/と代 (右側面)□□□□□□□□	75-145	26-10
11	遺物包含層	経木	よし		76-152	26-11
12	遺物包含層	経木	十五奴	判読不能	76-153	26-12
13	遺物包含層	経木	蘆田		76-154	26-13
14	遺物包含層	不明品	[ ]/元治元子年		76-157	26-14
15	SD1	木札	卸(御の可能性)		99-11	26-15
16	SD1	木太刀	奉獻大山石尊大権現 大天狗/小天狗 御寶(前)	判読不能	99-12	26-16

## V 自然科学分析

北2丁目陣屋跡の自然環境、遺物の性格について検討するため、各種の自然科学分析を行った。流路跡については、その年代を窺知するための火山灰の同定、これとの整合性を確認するための大

型植物遺体を対象とした放射性炭素年代測定、周辺の植生を推定するための微細物分析を行った。

また、樹種選択の状況を明らかにするため、「納め太刀」の樹種同定を行った。

### 1 流路跡堆積物の自然科学分析

#### (1) はじめに

久喜市に所在する北2丁目陣屋跡は、現在の利根川中流域右岸の沖積低地上に立地する。地形区分でいえば、加須低地から中川低地へと移行する付近であり、利根川と渡良瀬川の合流点付近に相当する。この栗橋の市街地が位置する一帯は、国土地理院発行の2万5千分の1土地条件図「鴻巣」の記載に従えば、自然堤防とされた微高地上にある。

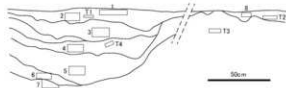
加須低地は、関東造盆地運動（すなわち地盤の沈降運動）の中心付近に位置するとされ（堀口, 1974）、沈降した台地が多数に分かれた島状の台地として自然堤防と同程度の標高で分布しており（江口・村田, 1999）、利根川が複雑な河道変遷をした低地とされている。利根川は、最終氷期極相期（約2万年前）には荒川と熊谷付近で合流し、荒川低地を流れていたと考えられている（貝塚ほか編, 2000）。その後、関東造盆地運動による加須低地の沈降を主な原因として、利根川は加須低地に流入したと考えられているが、その流入の時期については、約3,000年前以降（平井, 1983）、約1,500年前（江口・村田, 1999）、8世紀初頭（小暮, 2011）などの複数の見解が示されている。

本分析調査では、近世の溝跡および池跡とされる遺構が検出された断面において、火山灰（テフラ）の可能性があったとした堆積物を対象としてテフラの検出と同定を行い、溝および池跡の年代に関わる資料とする。また、溝および池跡の埋積

層とされた層位から採取した堆積物を試料として珪藻と花粉の各微化石分析および大型植物遺体の同定を主とした微細物分析を行い、当該期の周辺の植生を推定する。さらに、池跡から抽出した大型植物遺体を対象とした放射性炭素年代測定を行い、上記のテフラとともに遺構の年代資料とする。

#### (2) 試料

試料は、近世の溝跡とされる遺構が検出された断面より採取した。試料のうち、火山灰（テフラ）の可能性があったとした堆積物については、T1～T4までの試料名を付して4点を採取した。また、溝の埋積層とされた層位からは、試料番号1～8



第103図 試料採取断面略図

を付した8点の堆積物を採取した。各試料の採取位置の概略を第103図に示す。

本報告では、T1～T4までの4点を対象としてテフラの検出と同定を行い、試料番号6と8の2点を対象として珪藻と花粉の各微化石分析を行う。さらに、試料番号1と8の2点を対象として大型植物遺体の抽出を主目的とした微細物分析を行い、試料番号8から抽出した植物遺体と思われる繊維状物質1点を対象として放射性炭素年代測定を行う。

#### (3) 分析方法



## (1) テフラの検出同定

試料約 20 g を蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。火山ガラスについては、その形態によりバブル型と中間型、軽石型に分類する。各型の形態は、バブル型は薄手平板状あるいは泡のつぎ目をなす部分である Y 字状の高まりを持つもの、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは塊状のもの、軽石型は表面に小気泡を非常に多く持つ塊状および気泡の長く延びた繊維束状のものとする。

## (2) 珪藻分析

湿重約 5g をビーカーに計り取り、過酸化水素水と塩酸を加えて試料の泥化と有機物の分解・漂白を行う。次に、分散剤を加えた後、蒸留水を満たし放置する。その後、上澄み液中に浮遊した粘土分を除去し、珪藻殻の濃縮を行う。この操作を 4～5 回繰り返す。次に、自然沈降法による砂質分の除去を行い、検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下して乾燥させる。乾燥した試料上に封入剤のブリュウラックスを滴下し、スライドガラスに貼り付け永久プレパラートを作製する。

検鏡は、油浸 600 倍または 1000 倍で行い、メカニカルステージを用い任意に出現する珪藻化石が 200 個体以上になるまで同定・計数した。なお、原則として、珪藻殻が半分以上破損したものについては、誤同定を避けるため同定・計数は行わない。200 個体が産出した後は、示準種等の重要な種類の見落としがないように、全体を精査し、含まれる種群すべてが把握できるように努める。

珪藻の同定と種の生態性については、Horst Lange-Bertalot (2000)、Hustedt (1930-1966)、

Krammer and Lange-Bertalot (1985～1991)、Desikachary (1987) などを参考にする。群集解析にあたり個々の産出化石は、まず塩分濃度に対する適応性により、海水生、海水～汽水生、汽水生、淡水生に生態分類し、さらにその中の淡水生種は、塩分、pH、水の流動性の 3 適応性についても生態分類し表に示した。

塩分に対する適応性とは、淡水中の塩類濃度の違いにより区分したもので、ある程度の塩分が含まれた方がよく生育する種類は好塩性種とし、少量の塩分が含まれていても生育できるものを不定性種、塩分が存在する水中では生育できないものを嫌塩性種として区分している。これは、主に水域の化学的な特性を知る手がかりとなるが、単に塩類濃度が高いか低いかといったことが分かるだけでなく、塩類濃度が高い水域というのは概して閉鎖水域である場合が多いことから、景観を推定する上でも重要な要素である。

pH に対する適応性とは、アルカリ性の水域に特徴的に認められる種群を好アルカリ性種、逆に酸性水域に生育する種群を好酸性種、中性の水域に生育する種を不定性種としている。これも、単に水の酸性・アルカリ性のいずれかがわかるだけでなく、酸性の場合は湿地であることが多いなど、間接的には水域の状況を考察する上で必要不可欠である。

流水に対する適応性とは、流れのある水域の基物（岩石・大型の藻類・水生植物など）に付着生育する種群であり、特に常時、流れのあるような水域でなければ生育出来ない種群を好流水性種、逆に流れのない水域に生育する種群を好止水性種として区分している。流水不定は、どちらにでも生育できる可能性もあるが、それらの大半は止水域に多い種群である。なお、好流水性種と流水不定性種の多くは付着性種であるが、好止水性種には水塊中を浮遊生活する浮遊性種も存在する。浮遊性種は、池沼あるいは湖沼の環境を指標する。

なお、淡水生種の中には、水中から出て陸域の乾いた環境下でも生育する種群が存在し、これらを陸生珪藻と呼んで、水中で生育する種群と区分している。陸生珪藻は、陸域の乾いた環境を指標することから、古環境を推定する上で極めて重要な種群である。

### (3) 花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛、比重2.2）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリス（無水酢酸9：濃硫酸1の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。同定は、当社保有の現生標本や島倉（1973）、中村（1980）、藤木・小澤（2007）、三好ほか（2011）等を参考にする。

結果は同定・計数結果の一覧表、及び花粉化石群集の分布図として表示する。図表中で複数の種類をハイフオンで結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。

### (4) 微細物分析

試料100ccを水に浸し、粒径0.5mmの篩を通して水洗する。水洗後の篩内の試料を粒径別にシャーレに移す。粒径の大きな試料から順に双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、同定が可能な種実遺体を抽出する。

種実遺体の同定は、現生標本や石川（1994）、谷城（2007）、中山ほか（2010）、鈴木ほか（2018）等を参考に実施する。結果は、部位・形態別の個数を一覧表、および図で示し、各分類群の写真を添付する。状態は、完全な形状から一部

欠損、半分超の残存までは完形、半分以下は破片とする。また、一部の種実遺体の大きさをデジタルノギスで計測し、結果を一覧表に併記する。種実遺体以外は、一覧表の下部に定性的な量比をプラス「+」で示す。分析後は、種実遺体を分類群別に容器に入れ、約70%のエタノール溶液で液浸保存する。

### (5) 放射性炭素年代測定

試料は、塩酸（HCl）により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム（NaOH）により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、塩酸によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理 AAA:Acid Alkali Acid）。濃度は塩酸、水酸化ナトリウム共に1mol/Lであるが、今回の試料は脆弱で、かつ分析量が少ないため、十分な炭素を回収するためにアルカリの濃度を薄く（0.001mol/L）して試料の損耗を防ぐ（AaAと記載）。

試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化（鉄を触媒とし水素で還元する）はElementar社のvario ISOTOPE cubeとIonplus社のAge3を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料をNEC社製のハンドプレス機を用いて内径1mmの孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした<sup>14</sup>C-AMS専用装置（NEC社製）を用いて、<sup>14</sup>Cの計数、<sup>13</sup>C濃度（<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C）、<sup>14</sup>C濃度（<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C）を測定する。AMS測定時に、米国国立標準局（NIST）から提供される標準試料（HOX-II）、国際原子力機関から提供される標準試料（IAEA-C6等）、バックグラウンド試料（IAEA-C1）の測定も行う。

$\delta^{13}\text{C}$ は試料炭素の<sup>13</sup>C濃度（<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表したものである。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏

差 (One Sigma; 68%) に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う (Stuiver & Polach, 1977)。今回は、 $^{14}\text{C}$  濃度が 1950 年よりも高いため、 $^{14}\text{C}$  の値を記し、この値を用いて暦年校正を行う。暦年校正に用いるソフトウェアは、Oxcal 4.3 (Bronk, 2009) を用いる。校正曲線は北半球中緯度地域の 1950 年以降の  $^{14}\text{C}$  濃度を示すデータセット NH22 (Hua *et al.*, 2013) を用いる。

#### (4) 結果

##### (1) テフラの検出同定

結果を第 21 表に示す。試料 T1 からは、微量の軽石と極めて微量のスコリアが検出された。軽石は最大径約 1.7mm、白色で発泡良好、斜方輝石の斑晶を包有するものと灰褐色で発泡やや良好、斜方輝石の斑晶を包有するものおよび白色で発泡不良、角閃石の斑晶を包有するものの 3 種類が認

第21表 試料採取断面のテフラ分析結果

試料番号	スコリア		火山ガラス	軽石		
	量	色調・発泡度	最大径	量	色調・発泡度	最大径
T1 (+)	微量	Br+sb	1.0	-	+	1.7
						W・g (opx)
						GfR・sb (opx)
						W・b (ho)
T2 -				-	++	1.3
						GfR・sb (opx)
						W・b (ho), Gf・b (ho)
T3 -				-	+++	2.0
						GfR・sb (opx)
						W・b (ho), Gf・b (ho)
T4 -				-	++++	1.8
						W・g (opx), W・sg (opx)
						Gf・g (opx), Gf・sg (opx)

凡例 - : 含まれない; (+): きわめて微量; + : 微量; ++ : 少量; +++ : 中量; ++++ : 多量。

Br: 黒褐色, Br: 褐色, GfR: 灰褐色, W: 白色, Gf: 灰白色, g: 良好, sg: やや良好, sb: やや不良, b: 不良, 最大径は mm, cl: 無色透明, br: 褐色, bw: パプル型, md: 中間型, pm: 軽石型, (ho): 角閃石斑晶包有, (opx): 斜方輝石斑晶包有。

められた。スコリアは、最大径約 1.0mm、黒褐色を呈し、発泡はやや不良である。

試料 T2 からは、少量の軽石が検出された。軽石は上述した灰褐色の軽石と白色で発泡不良の軽石の 2 種類が認められた。後者の軽石には、色調が灰白色をおびたものも認められる。灰褐色の軽石の最大径は約 1.3mm であり、白色の軽石の最

大径は約 7.0mm である。

試料 T3 からは、中量の軽石が検出された。軽石は上述した灰褐色の軽石と白色で発泡不良の軽石の 2 種類が認められた。後者の軽石には、色調が灰白色をおびたものも認められる。灰褐色の軽石の最大径は約 2.0mm であり、白色の軽石の最大径は約 3.0mm である。

試料 T4 からは多量の軽石が検出された。軽石は、最大径約 1.8mm、試料 T1 で認められた白色で発泡良好の軽石であり、色調が灰白色を帯びたものや発泡度がやや良好なものなどが混在する。

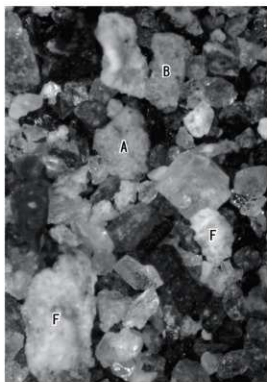
##### (2) 珪藻分析

分析結果を第 22 表に示す。2 点の試料から珪藻化石は産出したが、いずれも産出数は非常に少なかった。2 点の試料は、産出した種に多少の差異はあるものの群集の特徴は、ほぼ同様の傾向を示した。試料番号 6 および 8 からは、それぞれ 20 個体と 18 個体産出した。いずれの試料も、壊れた殻が多く、一部の殻に溶解の痕跡が認められるため、保存状態は不良～極不良である。産出した分類群は、淡水生種を主にして、淡水～汽水生種を伴う種群で構成される。産出した種は、淡水生種で流水性種の *Cymbella turgidula*、流水不定性種の *Gomphonema parvulum*、止水性種の *Stauroneis phoenicenteron*、陸生珪藻の *Pinnularia subcapitata* 等である。

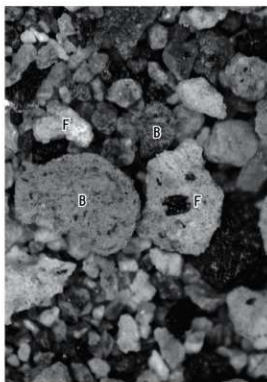
##### (3) 花粉分析

結果を第 23 表、第 107 図に示す。いずれの試料からも花粉化石が豊富に産出し、保存状態も比較的良好である。花粉化石群集は試料により異なる。

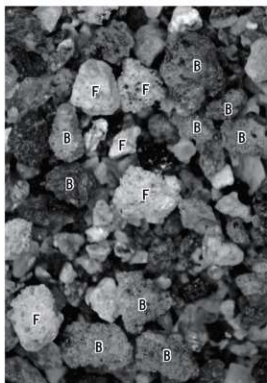
試料番号 6 は、木本花粉の割合が高く、シダ類孢子も多く認められる。木本花粉ではモミ属、ツガ属、マツ属、スギ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属などが多く産出し、ブナ属、ニレ属一ケヤキ属などを伴う。草本花粉はイネ科、カヤツリグサ科が多産し、サナエタ節節一ウナギ



1. 砂分の状況(試料採取断面:T1)



2. 砂分の状況(試料採取断面:T2)



3. 砂分の状況(試料採取断面:T3)



4. As-Aの軽石(試料採取断面:T4)

A: As-Aの軽石, B: As-Bの軽石, F: Hr-FPの軽石.



第104図 テフラ・砂分の状況

第22表 試料採取断面の珪藻分析結果

種 類	生態性				6	8
	塩分	pH	流水	環境指標種		
<i>Rhopalodia gibberula</i> (Ehr.) Mueller	Qgh-Meh	al-11	ind	U	2	1
<i>Achnanthes japonica</i> H.Kobayasi	Qgh-Ind	al-11	r-bi	J,T	-	1
<i>Achnanthes ambigua</i> (Grun.) Simonsen	Qgh-Ind	al-11	l-bi	N	1	-
<i>Caloneis zillieuxii</i> (Ehr.) Cleve	Qgh-Ind	al-11	ind	O	1	1
<i>Cymbella tangidula</i> Grunow	Qgh-Ind	al-11	r-ph	K,T	1	1
<i>Fragilaria ulna</i> (Nitzsch) Lange-Bertalot	Qgh-Ind	al-11	ind	O,U	1	-
<i>Gomphonema parvulum</i> (Kuetz.) Kuetzing	Qgh-Ind	ind	ind	U	2	2
<i>Grossisigma acuminatum</i> (Kuetz.) Rabenhorst	Qgh-Ind	al-11	ind	U	-	1
<i>Hantzschia amphioxys</i> (Ehr.) Grunow	Qgh-Ind	al-11	ind	RA,U	1	-
<i>Navicula contenta</i> Grunow	Qgh-Ind	al-11	ind	RA,T	1	-
<i>Pinnularia subcapitata</i> Gregory	Qgh-Ind	ac-11	ind	RB,S	4	3
<i>Pinnularia</i> spp.	Qgh-unk	unk	unk		3	4
<i>Planothidium lanceolatum</i> (Breb. ex Kuetz.) Lange-Bertalot	Qgh-Ind	ind	r-ph	K,T	1	1
<i>Stauroneis phoenicenteron</i> (Nitz.) Ehrenberg	Qgh-Ind	ind	l-ph	X,O,U	1	2
<i>Stauroneis construens</i> Ehrenberg	Qgh-Ind	al-11	l-ph	U	1	-
海水生種					0	0
海水～汽水生種					0	0
汽水生種					0	0
淡水～汽水生種					2	1
淡水生種					18	16
珪藻化石総数					20	17

## 凡例

塩分：塩分濃度に対する適応性

Euh：海水生種

Euh-Meh：海水生種～汽水生種

Meh：汽水生種

Qgh-Meh：淡水生種～汽水生種

Qgh-h11：貧塩好塩性種

Qgh-Ind：貧塩不定性種

Qgh-hob：貧塩嫌塩性種

Qgh-unk：貧塩不明種

pH：水素イオン濃度に対する適応性

al-bi：真アルカリ性種

al-11：好アルカリ性種

ind：pH不定性種

ac-11：好酸性種

ac-bi：真酸性種

unk：pH不明種

流水：流水に対する適応性

l-bi：真止水性種

l-ph：好止水性種

ind：流水不定性種

r-ph：好流水性種

r-bi：真流水性種

unk：流水不明種

## 環境指標種

A：外洋指標種 B：内湾指標種 C1：海水基壇指標種 C2：汽水基壇指標種

D1：海水砂質干潟指標種 D2：汽水砂質干潟指標種

E1：海水泥質干潟指標種 E2：汽水泥質干潟指標種 F：淡水底生種群（以上は小杉,1988）

G：淡水浮遊性種群 H：河口浮遊性種群 J：上流性河川指標種 K：中～下流性河川指標種

L：最下流性河川指標種群 M：湖沼浮遊性種群 N：湖沼沼沢湿地指標種 O：沼沢偏地付着生種

P：高層泥炭指標種群 Q：陸域指標種群（以上は安藤,1990）

S：好汚濁性種 U：広適応性種 T：好清水性種（以上はAnai and Watanabe,1995）

R：陸生珪藻（RA:A群, RB:B群, R1:未区分, 伊藤・堀内,1991）

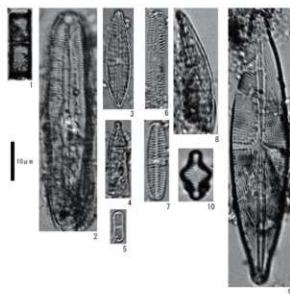
ツカミ節、ヨモギ属などを伴う。また、ガマ属、ヒルムシロ属、オモダカ属、ミズアオイ属、サンショウモなどの水湿地生植物に由来する花粉も認められる。

試料番号8は、試料番号6と比較してシダ類胞子の割合が低い。木本花粉ではマツ属が優占し、ツガ属、スギ属、ハンノキ属、コナラ亜属などを伴う。草本花粉ではイネ科、カヤツリグサ科が多産し、ガマ属も多く認められる。その他ではミズアオイ属、サナエタデ節—ウナギツカミ節、キク

亜科などを伴い、栽培の可能性のあるソバ属やベニバナ属、水生シダ類のサンショウモなども確認された。

## (4) 微細物分析

結果を第24表、第108図に示す。試料番号1,8の2試料を通じて、被子植物30分類群（木本のハンノキ亜属、ハンノキ属、草本のオモダカ属、ホッソモ、ミズアオイ近似種、イボクサ、イネ、オヒシバ、イネ科（イヌビエ属？、メヒシバ属？、シバ類？、他）、アゼスグ類、テンツク近



1. *Aucosira ambigua* (Grun.) Sisson (試料採取断面: ④)  
 2. *Caloneis setacea* (Ehr.) Cleve (試料採取断面: ④)  
 3. *Gomphonema parvulum* (Kuetz.) Kuetzing (試料採取断面: ④)  
 4. *Mantzschia amphioxys* (Ehr.) Grunau (試料採取断面: ④)  
 5. *Nitzschia contorta* Grunau (試料採取断面: ④)  
 6. *Pinnularia subcapitata* Grunau (試料採取断面: ④)  
 7. *Planothidium lanceolatum* (Grun. ex Kuetz.) Lange-Bertalot (試料採取断面: ④)  
 8. *Rhopalodia gibberula* (Ehr.) Hustler (試料採取断面: ④)  
 9. *Stauroneis phoenicenteron* (Ehr.) Ehrberg (試料採取断面: ④)  
 10. *Stauroneis construens* Ehrberg (試料採取断面: ④)

第105図 珪藻化石

似種、フトイ類、ホタルイ近似種、カヤツリグサ属、カヤツリグサ科A、ギシギシ属、ミゾソバ、ヤナギタデ近似種、サナエタデ近似種、タデ属、ナデシコ科、タガラシ、エノキグサ、メロン類、ゴマ、ヒシモドキ、オオバコ)263個の種実遺体が同定された。種実遺体の保存状態は概ね良好である。栽培種は、両試料からイネと、試料番号1からメロン類、ゴマが確認された。栽培種を除いた分類群は、圧倒的な草本主体の組成を示し、水湿地生植物を多く含む。以下、試料別状況を記す。

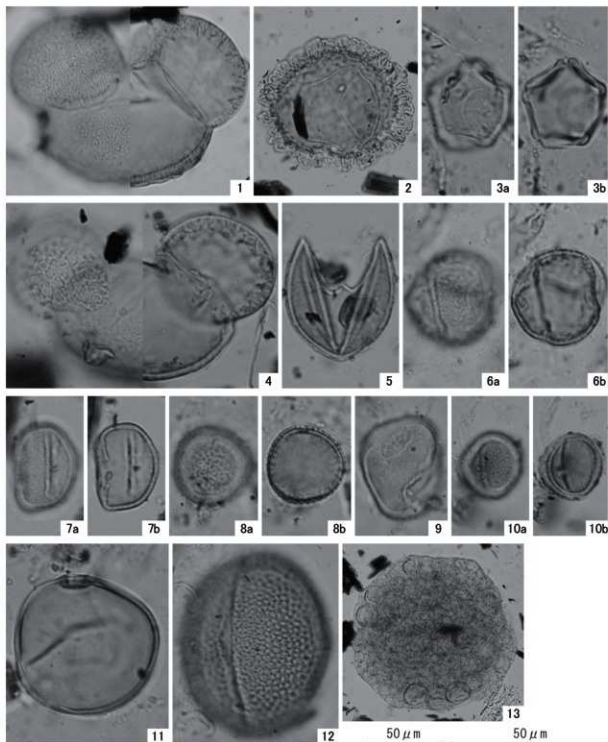
・試料番号1

木本2分類群5個、草本21分類群177個が同定された。栽培種は、イネの穂10個(うち1個基部)、メロン類の種子1個、ゴマの種子1個の、計12個が確認された。栽培種以外は、木本は高木になる落葉広葉樹で主に河畔林・湿地林要素のハンノキ亜属1個、ハンノキ属4個が確認された。

草本は、抽水植物のオモダカ属1個、ミズアオイ近似種2個、イボクサ11個、湿生植物のミゾソバ16個、ヤナギタデ近似種5個、タガラシ7個、

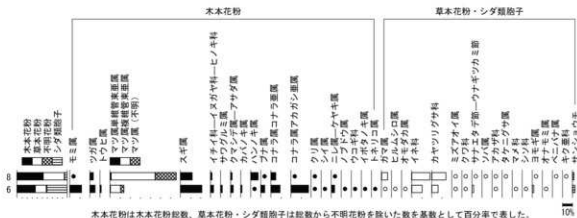
第23表 試料採取断面の花粉分析結果

種類	6	8
木本花粉		
モミ属	27	1
ツグ属	12	7
トウヒ属	3	-
マツ属単維管束亜属	1	2
マツ属複維管束亜属	23	89
マツ属(不明)	8	43
スギ属	49	24
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	7	3
サワグルミ属	4	-
クマシダ属-アサダ属	6	3
カバノキ属	3	-
ハンノキ属	2	15
ブナ属	9	1
コナラ属コナラ亜属	21	10
コナラ属アカガシ亜属	40	2
クリ属	1	1
シイ属	1	-
ニレ属-ケヤキ属	8	2
ノボドウ属	1	-
ウコギ科	1	-
イボタノキ属	1	-
トネリコ属	1	-
草本花粉		
ガマ属	2	24
ヒルムシロ属	2	-
オモダカ属	2	-
イネ科	66	71
カヤツリグサ科	40	55
ミズアオイ属	2	2
クワ科	2	1
サナエタデ属-ウナギツカミ属	11	2
ソバ属	-	1
アカザ科	1	1
タケノグサ属	-	1
マメ科	1	-
シソ科	1	-
ヨモギ属	10	1
オナモミ属	1	-
ベニバナ属	-	1
キタキ科	-	3
不明花粉		
不明花粉	5	1
シダ類孢子		
サンショウモ	15	6
他のシダ類孢子	243	16
合計		
木本花粉	229	203
草本花粉	141	163
不明花粉	5	1
シダ類孢子	258	22
合計(不明を除く)	628	388
その他		
肝吸虫	-	1



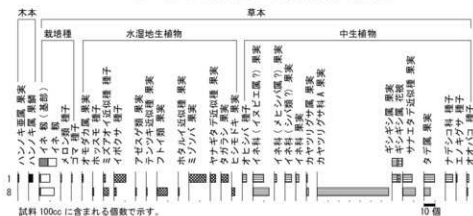
- |                           |                          |                             |
|---------------------------|--------------------------|-----------------------------|
| 1. モミ属 (試料採取断面: 6)        | 2. ツガ属 (試料採取断面: 6)       | 50 $\mu$ m<br>(1, 2) (3-12) |
| 3. ハンノキ属 (試料採取断面: 8)      | 4. マツ属 (試料採取断面: 6)       |                             |
| 5. スギ属 (試料採取断面: 6)        | 6. コナラ属コナラ亜属 (試料採取断面: 8) | 50 $\mu$ m<br>(13)          |
| 7. コナラ属アカガシ亜属 (試料採取断面: 6) | 8. ガマ属 (試料採取断面: 8)       |                             |
| 9. カヤツリグサ科 (試料採取断面: 8)    | 10. ヨモギ属 (試料採取断面: 6)     |                             |
| 11. イネ科 (試料採取断面: 8)       | 12. ソバ属 (試料採取断面: 8)      |                             |
| 13. サンショウモ (試料採取断面: 6)    |                          |                             |

第106図 花粉化石



本木花粉は本木花粉総数、草本花粉・シダ類孢子は総数から不明花粉を除いた数を基数として百分率で表した。丸印は15未満を示す。

第107図 試料採取断面の花粉化石群集の層位分布



試料100ccに含まれる個数で示す。

第108図 試料採取断面の種実遺体群集

中生植物（湿生植物と乾生植物の間の性質をもち、適潤な立地に生育する植物）のオヒシバ4個、イネ科（イヌビエ属?）10個、イネ科（メヒシバ属?）2個、イネ科（シバ類?）6個、イネ科3個、カヤツリグサ属1個、キシギシ属8個、サナエタデ近似種9個、タデ属（イシミカワ類似）10個、ナデシコ科（ウシハコベ類似）7個、エノキグサ1個、オオバコ2個が確認された。その他、5個は同定ができなかったが、同分類群・部位と考えられ、水生シダ植物のサンショウモの大胞子に似る。分析残渣は、植物片を主体とし、木材や少量の炭化材が確認された。

・試料番号8

草本15分類群141個が同定された。栽培種は、イネの籾14個（うち1個基部）が確認された。栽培種以外は、沈水植物のホッソモ1個、浮葉植物のヒシモドキ3個、抽水植物のミズアオイ近似

種5個、イボクサ2個、フトイ類10個、ホタルイネ近似種1個、湿生植物のアゼスゲ類1個、テンツキ近似種1個、中生植物のイネ科（イヌビエ属?）15個、カヤツリグサ属2個、カヤツリグサ科A（ミズガヤツリ類似）67個、サナエタデ近似種12個、タデ属（イシミカワ類似）6個、オオバコ1個が確認され、カヤツリグサ科Aの多産に特徴づけられる。分析残渣は、植物片や砂礫類を主体とする他、少量の昆虫類が確認された。

(5) 放射性炭素年代測定

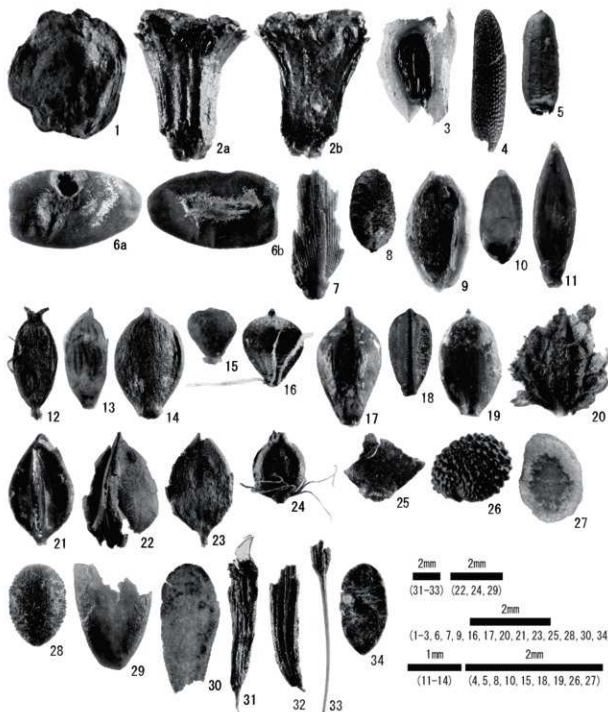
結果を第25表に示す。前処理は、試料の量が少なく、かつ脆弱であったため、アルカリ処理を定法の100分の1(0.01mol/L)で行っている。グラファイトは、年代測定を行うのに十分な量が回収されている。同位体補正を行った測定値は、 $215 \pm 20BP$ である。

暦年較正値を第25表および第110図に示す。



第24表 試料採取断面の微生物洗い出し・種実同定結果

分類群	部位	状態	1	8	備考
<b>木本種実</b>					
ハンノキ亜属	果実	完形	1	-	
ハンノキ属	果鱗	完形	3	-	
		破片	1	-	
<b>草本種実</b>					
オモダカ属	果実	完形	1	-	
ホッスモ	種子	破片	-	1	
ミズアオイ近似種	種子	完形	2	5	長さ1.3~1.5mm
イボクサ	種子	完形	10	2	
		破片	1	-	
イネ	穂(基部)	破片	1	1	
	穂	破片	9	13	
オヒシバ	種子	完形	2	-	
		破片	2	-	
イネ科(イヌビエ属?)	果実	完形	4	4	
		破片	6	11	
イネ科(メヒシバ属?)	果実	完形	1	-	
		破片	1	-	
イネ科(シバ類?)	果実	完形	6	-	
イネ科	果実	完形	3	-	複数種一括
アゼスグ属	果実	完形	-	1	
テンツクキ近似種	果実	完形	-	1	
フトイ類	果実	完形	-	4	
		破片	-	6	
ホタルイ近似種	果実	完形	-	1	花被片長>果実長
カヤツリグサ属	果実	完形	1	2	
カヤツリグサ科A	果実	完形	-	32	ミズガヤツリ類似
		破片	-	35	
ギンギシ属	果実	完形	3	-	
		破片	2	-	
	花被	破片	3	-	
ミゾソバ	果実	完形	2	-	
		破片	14	-	
ヤナギタダ近似種	果実	完形	4	-	
		破片	1	-	
サナエタダ近似種	果実	完形	3	4	
		破片	6	8	
タデ属	果実	破片	10	6	イシミカワ類似
ナゲシコ科	種子	完形	7	-	ウシハコバ類似
タガラシ	果実	完形	5	-	
		破片	2	-	
エノキグサ	種子	完形	1	-	
メロン類	種子	破片	1	-	基部, 残存長4.0mm
ゴマ	種子	破片	1	-	基部欠損, 残存長3.1mm
ヒシモドキ	果実	破片	-	3	
オオバコ	種子	完形	2	1	
不明		完形	5	-	サンショウモ大孢子?, 網目模様
<b>種実合計</b>					
木本種実			5	-	合計5個
草本種実			117	141	合計258個
不明			5	-	合計5個
種実合計(不明を除く)			122	141	合計263個
<b>その他</b>					
炭化材			+	-	
木材			++	-	
植物片			+++	++	
昆虫類			-	+	
砂織類			+	++	
<b>分析量</b>					
			100	100	容積(cc)
			130.5	140.6	重量(g)
注)「+」:少量,「++」:中量,「+++」:多量					

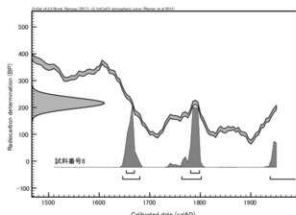


- |                                |                                  |                               |
|--------------------------------|----------------------------------|-------------------------------|
| 1. ハンノキ属 果実 (試料採取断面:1)         | 2. ハンノキ属 果鱗 (試料採取断面:1)           | 3. オモダカ属 果実 (試料採取断面:1)        |
| 4. ホッスモ 種子 (試料採取断面:8)          | 5. ミズアオイ近似種 種子 (試料採取断面:8)        | 6. イボクサ 種子 (試料採取断面:1)         |
| 7. イネ科 (基部) (試料採取断面:1)         | 8. オヒシバ 種子 (試料採取断面:1)            | 9. イネ科 (イヌビエ属?) 果実 (試料採取断面:8) |
| 10. イネ科 (シバ属?) 果実 (試料採取断面:1)   | 11. イネ科 (メヒシバ属?) 果実 (試料採取断面:1)   | 12. イネ科 果実 (試料採取断面:1)         |
| 13. イネ科 果実 (試料採取断面:1)          | 14. アゼスグ属 果実 (試料採取断面:8)          | 15. テンツク近似種 果実 (試料採取断面:8)     |
| 16. ホタルイ近似種 果実 (試料採取断面:8)      | 17. フトイ属 果実 (試料採取断面:8)           | 18. カヤツリグサ属 果実 (試料採取断面:8)     |
| 19. カヤツリグサ科A 果実 (試料採取断面:8)     | 20. ギンギシ属 花被 (試料採取断面:1)          | 21. ギンギシ属 果実 (試料採取断面:1)       |
| 22. ミソバ 果実 (試料採取断面:1)          | 23. ヤナギタデ近似種 果実 (試料採取断面:1)       | 24. サナエタデ近似種 果実 (試料採取断面:1)    |
| 25. タデ属 (イシミカワ?) 果実 (試料採取断面:1) | 26. ナデシコ科 (ウシハコベ?) 種子 (試料採取断面:1) | 27. タガラシ 果実 (試料採取断面:1)        |
| 28. エノキグサ 種子 (試料採取断面:1)        | 29. メロン類 種子 (試料採取断面:1)           | 30. ゴマ 種子 (試料採取断面:1)          |
| 31. ヒシモドキ 果実 (試料採取断面:8)        | 32. ヒシモドキ 果実 (試料採取断面:8)          | 33. ヒシモドキ 果実 (試料採取断面:8)       |
| 34. オオバコ 種子 (試料採取断面:1)         |                                  |                               |

第25表 放射性炭素年代測定結果

試料 番号	種別/ 性状	方法	補正年代 (暦年較正用) 脚)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正年代						Code No.				
					年代値						標準差				
					$\sigma$	cal AD 1653	-	cal AD 1669	297	-				281	cal BP
8	植物遺体	0.01M (AsA)	215 ± 20 (216 ± 20)	-18.59 ± 0.41	$\sigma$	cal AD 1781	-	cal AD 1798	170	-	152	cal BP	38.9	YU- 10961	pal- 12479
					$2\sigma$	cal AD 1646	-	cal AD 1660	304	-	270	cal BP	36.7		
					cal AD 1763	-	cal AD 1802	187	-	149	cal BP	45.3			
					cal AD 1938	-	cal AD -	12	-	-	cal BP	13.3			

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5668年を使用。  
 2) 1950年以降になるため、F<sup>14</sup>Cの値を記載する。  
 3) 付記した誤差は、測定誤差 $\sigma$  (測定値の68.2%が入る範囲) を年代値に換算した値。  
 4) AAAは酸・アルカリ・酸処理、AsAは、アルカリの濃度を薄くした処理を示す。  
 5) 暦年の計算には、Oxcal v4.3.2を使用  
 6) 統計的に真の値が入る確率は、 $\sigma$ が68.2%、 $2\sigma$ が95.4%である



第110図 暦年較正結果

暦年較正は、大気中の<sup>14</sup>C濃度が一定で半減期が5668年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の<sup>14</sup>C濃度の変動、その後訂正された半減期(<sup>14</sup>Cの半減期5730 ± 40年)を較正することによって、暦年代に近づける手法である。測定誤差 $2\sigma$ の暦年代は、17世紀中頃に降である。

## (5) まとめ

### (1) 層序

テフラ分析を行った4点の試料のうち、軽石の多量に検出された試料T4は、テフラが溝内に降下堆積後に若干の攪乱を受けながらも降灰層位を保ったまま埋積土中に保存された堆積物であると考えられる。試料T4を構成するテフラは、軽石の色調や発泡度と斑晶鉱物の種類、そして溝の年代観が近世であることなどから、AD1783年(天明3年)に浅間火山より噴出した浅間Aテフラ

(As-A: 新井, 1979) であると考えられる。したがって、溝の構築年代は、新しくとも1783年より以前であることが推定される。

試料T1～T3より検出された軽石は、色調や発泡度および斑晶鉱物の種類も異なることから、複数のテフラに由来する軽石が混在していると考えられる。それらのうち、白色または灰白色で発泡不良、角閃石の斑晶を包有する軽石は、榛名火山から噴出したテフラである榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA)または榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP)(新井, 1979; 早田, 1989)のいずれかに由来すると考えられる。Hr-FAは火砕流の噴出を主体とする活動であり、分布域は給源から東方に広がり、遠隔地では細粒の火山ガラスを含むことを特徴とする。Hr-FPは軽石噴火を主体とする活動であり、その分布軸は北東方向に向いており、遠隔地においても軽石として認められている(早田, 1989)。今回検出された軽石は、Hr-FAに伴う細粒の火山ガラスがほとんど認められないことや最大径7mmにも達する比較的粗粒の軽石も認められることおよびHr-FPの分布主軸から外れた位置にあることなどから、噴火時に降下堆積した軽石ではなく、利根川上流域に降下堆積したHr-FPに由来する軽石が利根川水系の河川により流下して堆積したものである可能性がある。なお、テフラの噴出年代は、Hr-FAが5世紀末から6世紀第1四半期ぐらいまで(坂口, 1993; 中村

ほか、2008)、Hr-FP が 6 世紀第二四半期頃 (坂口、1993) にそれぞれ噴出したとされている。一方、灰褐色で発泡やや不良、斜方輝石の斑晶を包有する軽石は、その特徴から、平安時代の天仁元年 (1108 年) に浅間火山から噴出した浅間 B テフラ (As-B: 新井、1979) に由来すると考えられる。

試料 T3 は、近世の溝が掘り込まれている堆積層中より採取されているが、その試料から上記 2 種類のテフラに由来する軽石が検出されていることに層位的な矛盾はない。また、試料 T1 は、As-A の降灰層準である試料 T4 より上位であることから、白色で発泡良好な As-A に由来する軽石も含まれている。

試料 T2 からは、As-A に由来する軽石は認められなかった。ただし試料 T1 でも As-A に由来する軽石は極めて微量であったことから、この結果のみによって、試料 T2 の堆積が As-A の降灰よりも以前であると判断することはできない。一方で、試料 T2 と同層準の試料番号 8 から得られた植物遺体の放射性炭素年代による暦年代では、As-A の降灰よりも 100 年以上前の 17 世紀半ばから現代まで含む幅の年代が示された。これらのことから、現時点では、試料番号 8 の採取された堆積層の堆積年代と As-A の降灰年代との新旧関係を確定することは難しいと言わざるを得ない。

## (2) 古環境

### 1) 溝内の水域環境

試料番号 6 および 8 から産出した種は、淡水生種で流水性種の *Cymbella turgidula*、流水不定性種の *Gomphonema parvulum*、止水性種の *Stauroneis phoenicenteron*、陸生珪藻の *Pinnularia subcapitata* 等である。産出した種の生態性について述べると、淡水生種で流水性種の *Cymbella turgidula* は中～下流性河川指標種群 (安藤、1990) と呼ばれ、河川沿いの河成段丘、扇状地および自然堤防、後背湿地といった地

形がみられる部分に集中して出現するとされる。流水不定性種の *Gomphonema parvulum* は、流水に対して不定だけでなく、塩分濃度や pH に対しても不定であり、極めて高い適応能力を持つ種であり、さまざまな水域に認められる。そのため、Asai and Watanabe (1995) は、広域適応種としている。ただし、経験的には、流水域に多産することが多いことから、以前は流水性種に含まれていた種である。止水性種の *Stauroneis phoenicenteron* は、比較的、広範に止水域に認められる種であるが、Cholnoky (1968) は最適 pH を 6.8 に持つ種類であるとしている。本種も湿地や池沼・湖沼の縁辺等の止水域に生育する種である。*Pinnularia subcapitata* 等の陸生珪藻は水中や水底の環境以外のたとえばコケを含めた陸上植物の表面や岩石の表面、土壌の表層部など大気に接触した環境に生活する一群 (小杉、1986) である。

以上のように、2 試料からは、流水不定性種が多く検出されたが、止水性種と流水不明種および陸生珪藻を伴うほか、低率ながら流水性種も認められ、分類群の生態性にはばらつきがある。これは、明らかに混合群集である。淡水生種群の混合群集とは、基本的に生育環境を異にする種群で構成され、また、検出種数が多い群集とされ (堆積物中からの産出率は低い割に構成種数は多い)、流れ込み等による二次化種群を多く含む群集とされる (堀内ほか、1996)。混合群集は、一般には低地部の氾濫堆積物などの一過性堆積物で認められる場合が多いが、その場合は検出率が低い傾向 (堆積物中の絶対量が少ない) にある。他方、一過性ではなく定期的に堆積物が供給されるような場所、例えば河口付近や低地部の湿地等において同様な環境が長期間続いた場合も混合群集が認められるが、その場合は長い間に徐々に堆積して行く中で珪藻の生産が繰り返し行われることと堆積物の表層部付近での自然の攪乱が行われること

および多少の流れ込みもあることなどから検出率はやや高い傾向にある。いずれにしても、混合群集の場合は珪藻の群集のみならず堆積層の観察も含めた慎重な解析が必要となる。

今回の試料の場合は、堆積物中の絶対量自体が少ないことから、低地部における氾濫堆積物などの一過性の堆積物で認められるタイプである。低地の氾濫堆積物等は、水域に定着するとは限らず、むしろ水域外が多い。これは、陸生が産出したことから、裏づけられる。その場合、好気的な環境であるために、珪藻殻の分解が促進され、堆積物に残る個体も珪酸沈着の厚いものに限られるため、絶対量は下がる。溝遺構内の堆積環境も、一過性の氾濫堆積物に覆われながらも、定期的には好気的な状況下にあった可能性があると考えられる。

## 2) 植生

試料番号6は溝遺構の底部より採取されている。周辺の森林植生についてみると、木本類では針葉樹のモミ属、ツガ属、マツ属、スギ属、落葉広葉樹のコナラ属コナラ亜属、ブナ属、ニレ属一ケヤキ属、常緑広葉樹のコナラ属アカガシ亜属などが認められる。このうち、モミ属、ツガ属、スギ属などは周辺山地や丘陵に、マツ属やコナラ亜属、アカガシ亜属などは丘陵下部や比較的安定した微高地などに生育していたと考えられる。また、コナラ亜属、ニレ属一ケヤキ属などは、サワグルミ属、クマシデ属一アサダ属、ハンノキ属、トネリコ属などとともに河畔林や湿地林を形成する種類であることから、流路の集水域や利根川などの河畔に生育していた可能性がある。なお、比較的多く認められるブナ属やトウヒ属などは周辺に自生しない種類であることから、比較的標高のある山地部の植生に由来する可能性がある。

草本類についてみると、イネ科やカヤツリグサ科、ヨモギ属など、開けた明るい草地に生育する「人里植物」を含む分類群が多く認められてお

り、その他に認められる種類も同様の生育環境を示す。よって、これらは流路周辺の草地植生に由来すると思われる。また、ガマ属、ヒルムシロ属、オモダカ属、ミズアオイ属などの水湿地生草本、サンショウモなどの水生シダ類は、流路内やその周囲に生育していた可能性がある。

試料番号8になると、木本類ではマツ属（主にマツ属複雑管束亜属）が優占し、ツガ属、スギ属、ハンノキ属、コナラ亜属なども多く認められる。マツ属複雑管束亜属の多産は、関東地方の近世以降の植生変化として明らかにされており、その原因としては植生干渉による二次林と拡大や、有用資源としての植林などが指摘されている。また、マツ属は、古くから防風林・防砂林など用いられており、街道沿いなどにも植えられてきた。さらに、マツ属複雑管束亜属の増加にはスギ属が伴うことも指摘されており、有用材となるスギの植林の増加も推定されている（辻，1997）。今回の分析結果でも、マツ属とともにスギ属が多く認められている。落葉広葉樹のハンノキ属は、前述のように河畔林や湿地林を形成する種類であり、クマシデ属一アサダ属、コナラ亜属、ニレ属一ケヤキ属なども同様である。これらも利根川などの周辺河川沿いに生育していた可能性がある。

マツ属が多産する花粉群集組成は、以前分析を実施した栗橋宿第9地点の道路遺構や埋桶などからも確認されており、二次林や宿場町の街道沿いの並木などの植生に由来すると想定されている。草本類についてみると、イネ科、カヤツリグサ科が多産する。これらは開けた明るい場所に生育し、他にもサナエタデ節一ウナギツカミ節、キク亜科など同様の生育環境を示すものが認められることから、当時の調査地内やその周囲の草地に生育していたと考えられる。また、比較的多く認められるガマ属をはじめミズアオイ属、サンショウモなどの水湿地生草本・シダ類も認められることから、調査地周辺の水湿地にこれらが生育していたと推

測される。

なお、多産するイネ科には栽培種のイネ属に類似する個体も含まれており、それ以外にもソバ属、ペニバナ属など栽培に由来する可能性がある種類が認められた。この傾向は前述の栗橋宿などの調査でも認められることから、当時の栽培利用の可能性が窺える。

試料番号1および試料番号8の種実遺体群集は、木本が極めて少なく、圧倒的な草本主体の組成を示した。当時の調査区周辺域にはまとまった林分は存在せず、開発が進んだ明るく開けた草地環境であったと推測される。

栽培種は、両試料から穀類のイネの籾と、試料番号1から果菜類のメロン類、油料植物のゴマが確認された。当時利用された植物質食料と示唆される。同試料からはイネ属に類似する花粉も検出されることから、近辺におけるイネ栽培が推測される。イネ、メロン類（仲間）、ゴマは、以前当社が分析調査を実施した栗橋宿跡第7地点においても確認されている。

栽培種を除いた分類群は、木本は、試料番号1から高木になる落葉広葉樹のハンノキ属ハンノキ亜属が確認されるのみであった。周辺の河畔林・湿地林に生育していたと考えられる。ハンノキ属ハンノキ亜属は、栗橋宿跡第7地点でも確認されている。

## 引用文献

- 安藤一男, 1990, 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 東北地理, 42, 73-88.
- 新井房夫, 1979, 関東地方北西部の縄文時代以降の指標ケララ層. 考古学ジャーナル, 157, 41-52.
- Asai Kazumi & Watanabe Toshiharu, 1995, Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophilous and saproxenous taxa. Diatom, 10, 35 - 47.
- Bronk RC., 2009, Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon, 51, 337-360.
- Cholnoky, B. J., 1968, Die Oekologie der Diatomeen in Binnengewässern. p. 699. Lehre (Cramer).
- Desikachary, T. V., 1987, Atlas of Diatoms. Marine Diatoms of the Indian Ocean. Madras science foundation, 1-13, Plates, 401-621.
- 江口誠一・村田泰輔, 1999, 関東平野中央部加須低地における完新世の環境変遷史. 地理学評論, 72, 253-266.
- 藤木利之・小澤智生, 2007, 琉球列島産植物花粉図鑑. アクアコーラル企画, 155p.

草本は、試料番号1では抽水植物のオモダカ属、ミズアオイ近似種、イボクサ、湿生植物のミソソバ、ヤナギタデ近似種、タガラシ、中生植物のオヒシバ、イネ科、カヤツリグサ属、ギシギシ属、サナエタデ近似種、タデ属、ナデシコ科、エノキグサ、オオバコが確認され、試料番号8では沈水植物のホッソモ、浮葉植物のヒシモドキ、抽水植物のミズアオイ近似種、イボクサ、フトイ類、ホタルイ近似種、湿生植物のアゼスゲ類、テンツキ近似種、中生植物のイネ科、カヤツリグサ属、カヤツリグサ科、サナエタデ近似種、タデ属、オオバコが確認された。いずれも水湿地生植物を多く含む。イネの供伴を考慮すると、水湿地生植物は水田雑草に由来する可能性が考えられる。

なお、試料番号1と試料番号8とでは、水湿地生植物の組成がやや異なる。試料番号8は沈水・浮葉植物が確認されることから、試料番号8堆積時には水深の深い場所であった可能性がある。特に、試料番号8で確認されたヒシモドキは、現在極めて稀で絶滅が危惧されている一年生浮葉植物である（角野, 1994）。埼玉県内におけるヒシモドキの遺跡出土事例は、伊奈氏屋敷跡の縄文時代後期（南木, 1984）程度で極めて少ない。今回、北2丁目陣屋跡からの出土は、当時ヒシモドキが生育していたことを示す貴重な考古資料と言える。

- 平井幸弘, 1983, 関東平野中央部における沖積低地の地形発達. 地理学評論, 56, 679-694.
- 堀口萬吉, 1974, 関東平野西部の地形区分と段丘面の変動. 垣見俊弘・鈴木附元編 関東地方の地震と地殻変動, 119-127, ラテイス.
- 堀内誠示・高橋 敦・橋本真紀夫, 1996, 珪藻化石群集による低地堆積物の古環境推定について—混合群集の認定と堆積環境の解釈—. 日本文化財科学会, 第13回大会研究発表要旨集, 62.
- Hua Quan, Barbeti Mike, Rakowski Z Andrzej, 2013, Atmospheric Radiocarbon for the Period 1950-2010, Radiocarbon, 55, 2059-2072.
- Hustedt, F., 1930, Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz. unter Berücksichtigung der übrigen Länder Europas sowie der angrenzenden Meeresgebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs und der Schweiz, 7, Leipzig, Part 1, 920p.
- Hustedt, F., 1937-1938, Systematische und ökologische Untersuchungen mit die Diatomeen-Flora von Java, Bali und Sumatra. I ~ III. Arch. Hydrobiol. Suppl., 15, 131-809p, 1-155p, 274-349p.
- Hustedt, F., 1959, Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz. unter Berücksichtigung der übrigen Länder Europas sowie der angrenzenden Meeresgebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs und der Schweiz, 7, Leipzig, Part 2, 845p.
- Hustedt, F., 1961-1966, Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz. unter Berücksichtigung der übrigen Länder Europas sowie der angrenzenden Meeres-gebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs und der Schweiz, 7, Leipzig, Part 3, 816p.
- 石川茂雄, 1994, 原色日本植物種子写真図鑑. 石川茂雄図鑑刊行委員会, 328p.
- 伊藤良水・堀内誠示, 1989, 古環境解析からみた陸生珪藻の検討—陸生珪藻の細分—. 日本珪藻学会第10回大会講演要旨集, 17.
- 伊藤良水・堀内誠示, 1991, 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用. 日本珪藻学誌, 6, 23-44.
- 角野康郎, 1994, 日本水草図鑑. 文一総合出版, 178p.
- 貝塚爽平・小池一之・遠藤邦彦・山崎晴雄・鈴木毅彦編, 2000, 日本の地形4 関東・伊豆小笠原. 東京大学出版会, 349p.
- 小暮岳美, 2011, 荒川低地へ向かった後期完新世の利根川旧流路 —妻沼低地における旧流路の復元—. 地学雑誌, 120, 585-598.
- 小杉正人, 1986, 陸生珪藻による古環境の解析とその意義—わが国への導入とその展望—. 植生史研究, 1, 9-44.
- 小杉正人, 1988, 珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 第四紀研究, 27, 1-20.
- Kramer, K. & Lange-Bertalot H., 1985, Naviculaceae. Bibliotheca Diatomologica, vol. 9, p.250.
- Kramer, K. & Lange-Bertalot H., 1986, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa, 2(1) : 876p.
- Kramer, K. & Lange-Bertalot H., 1988, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa 2(2) : 596p.
- Kramer, K. & Lange-Bertalot H., 1990, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa 2(3) : 576p.
- Kramer, K. & Lange-Bertalot H., 1991a, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa 2(4) : 437p.
- Lange-Bertalot, H., Witowski, A., Metzeltin, D., 2000, ICONOGRAPHIA DIATOMOLOGICA Annotated diatom micrographs. Diatom Flora of Marine Coasts, 1, 925p.
- 南木睦彦, 1984, 伊奈氏屋敷跡出土の大型植物遺体. 公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団編, 赤羽・伊奈氏屋敷跡—東北新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告Ⅱ—埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第31集, p. 203 - 212., 附表1.
- 三好敦夫・藤木利之・木村裕子, 2011, 日本産花粉図鑑. 北海道大学出版会, 824p.
- 中村 純, 1980, 日本産花粉の標本 I II (図版). 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 第12, 13集, 91p.
- 中村賢太郎・早川由紀夫・藤根 久・伊藤 茂・廣田正史・小林結一, 2008, ウィグルマッピング法による榛名洗川噴火の年代決定(再検討). 日本第四紀学会講演要旨集, 38, 18-19.
- 中山至大・井之口希秀・南谷志志, 2010, 日本植物種子図鑑(2010年改訂版). 東北大学出版会, 678p.
- 坂口 一, 1993, 火山噴火の年代と季節の推定法. 新井房夫編 火山灰考古学. 古今書院, 151-172.

島倉巳三郎, 1973, 日本植物の花粉形態. 大阪市立自然科学博物館収蔵目録 第5集, 60p.

早田 勉, 1989, 六世紀における樺木火山の二回の噴火とその災害, 第四紀研究, 27, 297-312.

Stuiver M., & Polach AH, 1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of  $^{14}\text{C}$  Data. Radiocarbon, 19, 355-363.

鈴木庸夫・高橋 冬・安延尚文, 2018, 草木の種子と果実—形態や大きさが一目でわかる734種 増補改訂—. ネイチャーウォッチングガイドブック, 誠文堂新光社, 303p.

辻 誠一郎, 1997, 関東平野における弥生時代以降の植生史と人間活動. 国立歴史民俗博物館研究報告, 第72集, 国立歴史民俗博物館, 103-141.

谷城勝弘, 2007, カヤツリグサ科入門図鑑. 全国農村教育協会, 247p.

## 2 流路跡出土木製品(納め太刀)の樹種同定

### (1) はじめに

久喜市栗橋北2丁目の北2丁目陣屋跡において、第2次調査で出土した木製品1点について樹種同定を行った。

### (2) 試料と方法

試料は、木製の納め太刀である。遺構の時期は、近世と推測されている。

試料から、剃刀を用いて2断面(接線断面・放射断面)の切片を採取し、ガムクロラールで封入してプレパラートを作製した。これを光学顕微鏡で観察および同定、写真撮影を行った。なお、横断面の採取は試料の形状を損ねるため、今回は行わなかった。

### (3) 結果

樹種同定の結果、針葉樹のヒノキであった。以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、光学顕微鏡写真を第111図に示す。

(1) ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.) Endl. ヒノキ科 第111図 1a・1b

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹であるが、試料の形状保護のため、横断面の切片採取が行えなかった。分野壁孔はトウヒ型~ヒノキ型で、1分野に2個存在する。以上の形質より、

### 引用・参考文献

平井信二(1996)木の大本科, 394p, 朝倉書店.

伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和穂(2011)日本有用樹木誌, 238p, 海青社.

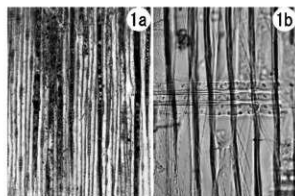
伊東隆夫・山田昌久編(2012)木の考古学—出土木製品用材データベース—, 449p, 海青社.

試料はヒノキであると判断した。

ヒノキは福島県以南の温帯から暖帯に分布する常緑高木である。材は加工容易で割裂性は大きく、耐朽性および耐湿性は著しく高く、狂いが少ない。

### (4) 考察

祭祀具には、全国的にスギやヒノキなどのヒノキ科の樹種が多用される傾向がある(伊東・山田編, 2012)。近世の納め太刀の分析事例は見られないが、今回分析を行った納め太刀もヒノキであった。加工性が良く、耐久性のあるヒノキが選択的に利用された可能性がある。



1a・1b, ヒノキ  
スケール: —  
a: 接線断面 (スケール=200  $\mu\text{m}$ )、b: 放射断面 (スケール=50  $\mu\text{m}$ )

第111図 木材の光学顕微鏡写真



## VI 調査のまとめ

### 1 土地の利用状況

北2丁目陣屋跡第2次調査では、第一面で遺物包含層、第二面で流路跡の検出があった。それより出土した遺物は陶磁器、土器、瓦、木製品、金属製品、石製品など多岐にわたっている。

器種や品種ごとの出土量に多寡があるとはいえ、遺物の種類や組成については、隣接する栗橋宿本陣跡、並びに栗橋宿跡との通有性が高い。反面、遺構に関しては、両遺跡に顕著な密集かつ重複する建物跡や土壌、埋設桶や杭列等々の検出は全くなかった。即ち、本調査区最大の特徴は、江戸時代の遺物に伴うべき、人工的な構築物が全く認められない点にある。

本調査区と南隣する栗橋宿西本陣跡とは、幅4m程の小路によって隔てられるに過ぎないが、遺跡の状況は驚くほど異なっている。それは、多くの古絵図にも描かれたこの小路が、往昔から牛頭天王社（現八坂神社）と町屋を分かつ境界であったからに他ならない。

第一面からは、同じ絵柄の「拝み絵馬」が4枚出土している。本陣跡や栗橋宿跡など、町屋（居住域）部分の調査では未見である。本調査区においてのみ、しかも近接して発見されたという事実は、社寺との強い関連性に起因するものと見てよい。したがって、北2丁目陣屋跡第2次調査区は、少なくとも遺物包含層の形成時期、19世紀後葉には牛頭天王社の境内であったと推断できる。

第二面は調査範囲が狭小なこともあり、土地利用の状況は明らかでない。ただ、建物跡など構築物の検出がなく、自然流路の跡のみであったことから、第二面においても、ここに居住域を想定することは難しい。加えて、遺跡名にある陣屋の存在を示すような所見も何ら得られなかった。

調査では明治時代後半以降の建物跡2棟、井戸跡2基、土壌1基、池跡1面、杭囲1基の検出が

あった。これらも2棟の建物跡が小祠と考えられるなど、八坂神社に関わる遺構としてよく、やはり住宅地の様相を窺わせるものではない。

遺物の出土状態を見ると、第一面の遺物包含層、第二面の流路跡ともに、不用となった生活道具を廃棄した跡のように思われる。町屋（居住域）ではなく、清浄たるべき神社の境内であるならば、なにゆえ雑多な生活道具類がそこに、しかも多量に廃棄されていたのであろうか。流路跡出土の納め太刀は牛頭天王社に奉納されたものとは言い切れないので、神社に関わる信仰系の遺物は4点の絵馬に限られる。他は、栗橋宿関連の調査でごく普通に見出される遺物ばかりである。

既に述べた通り、第一面の遺物包含層は、湿地や池沼の底に堆積した腐植土とシルト質土が主体である。同様な池沼状の落ち込みは、南側の西本陣跡第一面でも検出されている。北2丁目陣屋跡との境をなす小路部分が未調査のため確言できないが、おそらく両者は連続する一つの湿地、乃至は池沼であろう（第112図参照）。

この池沼が牛頭天王社境内に及んでいるとしても、町屋から延びるものであれば、清浄たる場合は池畔よりも社殿側と認識され、池沼への不用品投棄も忌避されなかったのではなかろうか。

後に触れるように、遺物包含層からは、近隣の店屋の屋号や店印（標章）を記した陶磁器なども出土している。それは、こうした廃棄の実態を物語るのであろう。廃棄された品々は、神事や祭礼時の祝宴に用いられた物品と考えられなくもない。しかし、神具類の出土は微少であり、日常雑器類が圧倒しているので疑わしい。

### 2 陶磁器類の様相

冒頭で触れたように、出土遺物の種類や組成に関しては、本陣跡や栗橋宿跡と同様である。ここでは、主に陶磁器と土器の様相について押さえて

おきたい。

遺物の出土は第一面を覆う腐植土層（9層）と、その上に乗る北東方向から流入したシルト質土層（主に8層A・B）、および第二面流路跡内のシルト層（第36層）に集中しており、これ以外の層位には余り含まれていない。

遺物包含層をなす8A・B層からは、少量の銅版転写染付磁器と型紙摺絵染付磁器が出土しているが、これらは上位層からの混入と考えられる。主体は瀬戸美濃系の江戸絵付卵殻手坏と小型の湯呑形碗である。皿類は径20～30cmの中～大皿類が目立ち、肥前系の八角鉢も多い。他に木型打ち込み成形のそり皿や坏が見られる。同文の組物も多く、その組成は、本陣跡や宿跡の調査で旅籠屋と想定された部分からの出土品に酷似している。紅坏や紅皿は比較的数量が多い反面、御神酒徳利など神具類は少ない。舶載磁器では、ヨーロッパ系フロウ・ブルー軟質磁器皿の小破片、清朝景徳鎮窯系の端反碗の出土があった。

腐植土層の9層では、銅版転写染付磁器と型紙摺絵染付磁器の出土は極めて少ない。酸化コバルト染付が若干認められるが、上位層からの混入か否かは判断が困難である。本層でも主体をなすのは瀬戸美濃系の江戸絵付卵殻手坏、湯呑形碗、端反碗である。全体の組成は8層と大差ないものの、本層の方が1段階古い様相に見受けられる。

繰り返しになるが、8・9層の主体は瀬戸美濃系の江戸絵付卵殻手坏、小型の湯呑形碗である。一定量の型押寿文皿や坏を伴うことから、酸化コバルト染付製品が出現する前後段階の組成である。

灯火具は京都信楽系が中心で、次いで瀬戸美濃系が多い。明らかな地方窯系灯明皿は見られない。また、産地不明の土瓶、トビガンナ行平鍋は認められるが、明確に地方窯系といえる製品は少ない。

陶器では爛徳利、土瓶が主で、鍋類がこれに次いでいる。

土器では硬質な瓦質の丸火鉢・台付火鉢、地方

で生産されたと思われる扁平な丸底焙烙が主体的である。北武蔵・上野系瓦質焙烙は極めて少なく、内耳付丸底焙烙は2点のみであった。

第一面を覆う8A・同B・9層の出土遺物は、層位間での接合が顕著である。したがって、両層に時期的な差異はないものと考えられる。陶磁器と土器にも時期的な齟齬は無く、概ね西暦1860～1870年代の遺物群である。『栗橋宿本陣跡Ⅰ』で提示された編年案では、栗橋9期に相当する（埼玉県埋蔵文化財調査事業団2019d）。

第二面流路跡からは肥前系磁器の小広東碗、瀬戸美濃系陶器の石皿のほか、仏飯器、灯明皿、瓦質土器の瓦盤、堺明石系播鉢などが出土している。いずれも18世紀後葉、西暦1770～1783年の間の時期が与えられる。『栗橋宿本陣跡Ⅰ』編年案の栗橋4期に相当する遺物群である。

### 3 屋号と店印

出土した陶磁器、土器、木製品、石製品には文字の書かれたものも少なくない。その大半は墨書で、他に釘書き、染付、刻印、焼継印、焼印などがある。多くは字義を捉え難いものながら、屋号や店印（標章）の記されたものが若干認められる。ここでは、栗橋宿内の店屋を指し示すと考えられる屋号、および店印を挙げておきたい。

いずれも第一面遺物包含層からの出土で、時期は栗橋9期、19世紀後葉のものである。

第47図60の陶器爛徳利は、呉須文字で「山形に三 原木屋」、同図64の爛徳利底面には墨書で「山形に三」とある。本陣跡でも同じ屋号と店印が記された陶器の徳利（埼玉県埋蔵文化財調査事業団2020b）、栗橋宿跡第7地点では底面に「上町 原木や」と墨書された磁器の皿（埼玉県埋蔵文化財調査事業団2019c）が出土している。

原木屋は明治三十五年（1902）、全国営業便覧社から刊行された『埼玉県営業便覧』に載る米穀酒類商で、経営者は小林豊三郎である。店屋の場所は上町本陣の北西隅、日光道中（街道）の曲が

り角にあたる(第112図42)。原木屋の名は江戸時代の絵図や史料には見えず、爛徳利の時期も西暦1860～1870年代が与えられることからすれば、開業は明治を迎えてからかもしれない。

第53図184に示した陶器の急須蓋は、内面に「あきたや」と墨書されている。「あきたや」は「秋田屋」であろうが、店屋の場所は絵図では確かめられない。ただし、足立家文書『御用留』文久三年(1863)十二月の項には、「横町仙台屋次郎兵衛・秋田屋と左衛門・佐野屋八兵衛」とある(埼玉県立文書館2012)。同じく『御閑所御社参書抜』天保十四年(1843)の記録では、「横町茶屋仙台屋次郎兵衛・葛屋重平次・壬生屋甚兵衛・佐野屋専助」となっている(埼玉県立文書館2010)。

また、天保十四年(1843)～弘化二年(1845)頃の様子を描いたと思われる久喜市所蔵『栗橋宿往還絵図』では、上記原木屋から東へ4軒目(第112図38)に「与左衛門」とある。職種は春米屋で、この店屋が『御用留』にいう秋田屋に該当すると思われる。この数年の間に、茶屋の壬生屋から秋田屋に店代わりしたのだろうか。

第28図229に掲げた磁器の皿は、高台内に「丸に八 さのや」と墨書されている。「さのや」は、上に触れた足立家文書に見える「佐野屋専助」「佐野屋八兵衛」のそれと推察される。原木屋から東へ3軒目(第112図39)、上横町の南側で秋田屋(壬生屋)と軒を並べる煮売茶屋であろう。

第37図283と第38図295は「山形に田」の店印が釘書きされた磁器の鉢で、本陣跡(前掲2020b)や栗橋宿跡第7地点(前掲2019c)でも出土している。北2丁目陣屋跡の2点を含め、これまでに7点の検出があることから、栗橋宿内の店屋であると考えたい。絵図や史料には見当たらないため、店名(屋号)や所在地は不明である。記された遺物が磁器の皿と鉢、陶器の徳利、木製桶であるので、旅籠屋、煮売屋、茶屋、鱈桶屋など、飲食に関わる店屋ではないかと思われる。

第73図108の木製鍋蓋は、上面2箇所に「笹三」の焼印が捺されている。「笹三」を「笹屋三郎左衛門」の略記と解せば、『栗橋宿往還絵図』に載る上町の茶屋(第112図55)となろう。『怪談牡丹灯籠』の作者三遊亭円朝は明治九年(1876)、栗橋を訪れた際の旅日記で笹屋に触れている(久喜市教育委員会2013b)。ところが、『埼玉県営業便覧』を見ると、そこには異なる人(店)名が記されており、別の場所、上町の北西端部に「笹屋號 凍水貯蔵営業 池田宗三郎」とある(第112図1B・2)。三郎左衛門は明治になって池田を苗字としており、宗三郎と同姓である。笹屋は明治九年以降、同三十五年までの間に移転したのかもしれない。

「笹三」の鍋蓋は、円朝の記した料理茶屋の什器と判じたいが、共伴する陶磁器は西暦1860～1870年代の製品なので、凍水貯蔵営業の所有品である可能性も否定できない。二人は近視で、三郎左衛門は世襲名の可能性もあろう。

第75図143の木札には「油屋」「根岸祇一」とある。また、第55図208の小型甕の底面には墨書があり、「あふらや(油屋)」と読める。一方、八坂神社の鳥居前(第112図1A)には、『営業便覧』の「根岸紋蔵」を指定できる。同書に職業は記されていないものの、明治30年代と思われる写真(久喜市郷土資料館 2014)では、何やら商っている小店がそこに写っている。両者を結びつける積極的な材料は得ていないが、写真の小店を明治期の「油屋 根岸」と考えてもよいのではなかろうか。

#### 4 御陣屋跡

北2丁目陣屋跡という遺跡名は、久喜市栗橋北2丁目に所在することから、その地名を冠して命名されている。「陣屋跡」については、代々栗橋宿本陣を勤めた池田家所蔵の絵図に掲げている。

『栗橋町史 資料編一』(栗橋町教育委員会2008)に掲載された同絵図では、街道の北端、上横町の曲がり角からやや北へ入った位置に、「御陣屋跡」と記された一画が存在する。北2丁目陣

屋跡の範囲等は、この絵図と現在の地図を照合したうえで設定されたものである。久喜市教育委員会によれば、絵図の描かれた年代は注記された関所番士4人の名前から推して、元禄十二年(1699)から寛政十年(1798)の間になるという。

絵図では「御陣屋」ではなく、「御陣屋跡」となっている。つまり、絵図の描かれた時点では、既に「御陣屋」は存在していなかったことになる。では、絵図にいう「御陣屋跡」とは一体何を指すのであろうか。

試みに『國史大辭典』で「陣屋」の項を引くと、「江戸時代には一、二万石の無城の小大名」等の屋敷の他、「一般には旗本や代官の支配地における役宅や屋敷」なども陣屋と称したとある。さらに、「代官陣屋は代官所の別称で」、「普通は長屋門、白壁の高扉、溝または空堀に囲まれ境界を作っている」という(吉川弘文館1986)。

栗橋町史に掲載された絵図には、「御陣屋跡」と注記された西側にやや太い線が引かれている。ただ、それが土塁なのか堀なのか、何を表現しているのかよく分からない。街道の位置からすれば、線の外側は牛頭天王社となるはずだが、同社はかなり離れた場所に描かれている。関所番士屋敷や道なども含め、何故かこの付近の表現は現在とかなり異なっている。

栗橋宿は成立以来、江戸時代を通じて幕府の直轄領であり、慶安年間(1648～1651)から寛保二年(1742)まで、および宝暦九年(1759)から寛政四年(1792)までの間は、関東代官頭伊奈氏に支配された。伊奈氏代官所は江戸馬喰町屋敷に置かれ、在地支配のための出張所として赤山陣屋(川口市)が設けられた。しかるに、寛政四年に関東郡代である伊奈忠尊が失脚すると、馬喰町屋敷や赤山陣屋などは全て幕府に没収されてしまう。

史料上、栗橋に陣屋が置かれていたことは確かめられない。あるいは、忠尊の失脚するまで、利根川東遷事業や関所業務遂行のため、伊奈氏に係

る役宅や屋敷などが存在したのであろうか。

先に触れた通り、今次の調査では陣屋を思わせるような遺構や遺物の検出がなかった。池田家所蔵絵図に照らし合わせると、調査地点は「御陣屋跡」の範囲に収まっていなかったようである。「御陣屋跡」そのものが想定される位置は、北2丁目陣屋跡第1次(栗橋宿跡第5次)調査で一部を対象とした。しかしながら、この時も区画溝や土壇など町屋に特徴的な遺構のみで、陣屋らしき建物や長屋門、高扉、空堀の跡などは発見されていない(埼玉県埋蔵文化財調査事業団2020a)。

栗橋宿は利根川の氾濫により、度々甚大な被害を受けている。特に、寛保二年の洪水は堤防を450m以上も破壊し、関所、牛頭天王社以下の神祠、町屋も全て流失させるという未曾有の大災害を引き起こした。洪水のもたらした土砂が厚く堆積したり、復興の際に町並が変化したりして、陣屋跡は本来の位置を失ったのであろうか。池田家所蔵絵図と現況の大きな相違は、そうした可能性のあることを暗示しているのかもしれない。

## 5 納め太刀

検出後、調査区の水没により浮遊してしまったため位置を明示できないが、第二面流路跡の東側肩部(中央の深まる部分の落ち際)から太刀形木製品(第99図12)が出土した。材はヒノキで(V自然科学分析)参照)、両面には文字が墨書されている。片面(佩表)はほぼ消失して判読できないものの、もう片面(佩裏)には縦書きで、

奉獻大山石尊大権現 大天狗 小天狗 御寶舟

とある(旧字体のまま)。

記された内容から、この太刀形木製品は「納め太刀」、または「奉納木太刀」と称される大山詣り(石尊参りとも)の奉納品であることが分かる。

大山は標高1,246m、神奈川県丹沢山塊の東端に聳える雄峰で、中腹には、『延喜式』神名帳にその名に見える大山阿夫利(あふり)神社が鎮座

している。天平勝宝七年(755)に神宮寺である雨降(あふり)山大山寺が建立されたと伝えられ、神仏習合の時代には山頂の巨岩(霊石)祭祀に由来して、大山石尊大権現と号した。俗に、奥社は納め太刀に見える大天狗、前社は同じく小天狗と呼ばれた。明治以降は政府のとった神仏分離政策により、石尊大権現や大山寺の号は廃され、旧号の阿夫利神社に復された。

江戸時代には、御師たちが祈禱札を村々に配布して回るなど、大山寺は積極的な布教活動を行った。江戸時代中期には経済力の高まりと相俟って、江戸を中心とした関東地方をはじめ、地元の相模から東海地方の民衆間に講社(大山講)が成立し、大山詣りは盛況を呈するようになる。

大山講中の参詣は例祭日の旧暦6月28日から、盂蘭盆期間中の7月17日の山開きの間に集中した。白衣姿の講員は、講社あるいは各人ごとに大願成就、または大願叶と記された納め太刀(木太刀)を携え、先達に導かれて登拝した。納め太刀は奥の院本尊の前に奉納した後、既に納められているものと交換して持ち帰り、家の神棚などに安置して一年間護符とした。

納め太刀の多くは1尺(約30cm)程の長さで、小さいものは7~8寸(21.2~24.2cm)、大きいものは1丈(約3m)を超えた。北2丁目陣屋跡出土の納め太刀は先端を僅かに欠き、現存する長さは36.5cm(1尺2寸強)である。

大山から持ち帰られ、鎮守社などへ安置された大型の納め太刀は、現在も各地に少なからず遺されているようである。埼玉県内では、さいたま市のように市指定文化財となっている例もある(さいたま市2002)。しかし、大山のお膝下である神奈川県伊勢原市教育委員会の御教示では、発掘調査での出土はまだ確認できていないという。

北2丁目陣屋跡の納め太刀は、天明三年(1783)噴出の浅間A軽石層より下位で検出されており、それ以前に埋没していたことは確実である。共伴

する陶磁器よりすれば、納め太刀の作製~廃棄は西暦1770年~1783年の間に取まろう。

発掘調査での出土が知られていないことに加え、奉納された時期もある程度限定できるという点は重要である。何故なら、近世栗橋宿に暮らした人々の信仰生活を知るうえで、発見された納め太刀の資料的価値は極めて高いからである。

『久喜市栗橋町史 民俗編Ⅲ』によれば、旧栗橋町内での大山講は、群馬県高崎市の榛名神社に参詣する榛名講とともに、代表的な代参講であった。一年に一度、くじ引きなどで選ばれた代表者数人が参詣していた。大山講の代参は、新暦7月27日~8月17日の山開き期間中に行なわれるのが原則であったが、旧栗橋町など4月上旬に参詣する講社も多かった(久喜市教育委員会2011)。

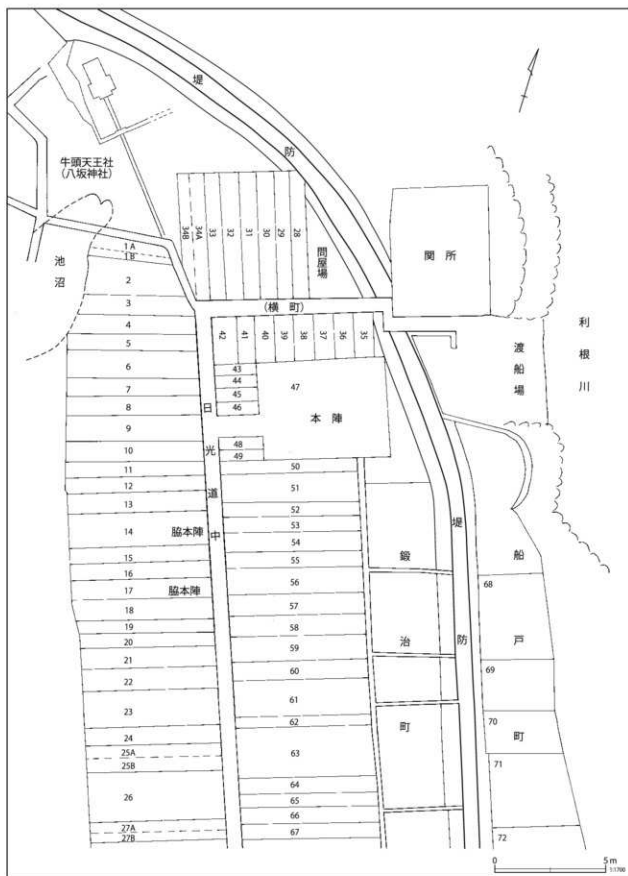
納め太刀の出土は、既に18世紀後葉の栗橋宿内に大山講社が組織され、大山詣りが行われていた確かな証となる。廃棄に至った経緯は不明ながらも、発見された納め太刀が大山から持ち帰られたものであるならば、護符として、一年間の効験を全うし終えたに違いない。

## 6 町並の復元

第112図は栗橋宿町並(部分)の復元を試みたものである。『栗橋宿往還絵図』の家屋配置を基に、天保三年(1832)の池田家所蔵『取調絵図面控』、明治六年(1873)の『深廣寺所蔵絵図』、『埼玉県営業便覧』のそれと比較照合したうえで、発掘調査前の現況図に重ね合わせた。

復元した町屋の区画は、発掘調査で検出された土地を画する遺構(溝跡や杭列など)と位置や幅が合致する。一部の区画では、そこに想定した住人の名前、屋号や店印が記された遺物、あるいは、想定した職種(旅籠屋など)を類推させる遺物が多量に出土した例もある。

復元した町並は、見出された遺物と絵図の年代から、概ね19世紀前葉から20世紀初頭頃のものとなる(ただし船戸町部分は除く)。



第112図 栗桶宿町並(部分)復元図

第26表 栗橋宿町並(部分)復元一覧

	取調絵図面控	栗橋宿往還絵図			深廣寺所蔵絵図	埼玉県営業便覧	
		天保三年(1832)	天保十四年(1843) ~弘化二年(1845)			明治六年(1873)	明治三十五年(1902)
			職 種	名 前	屋 号		
1A	五郎平	煮売茶屋	三七郎			根岸紋藏	
1B		鯛屋	金藏			凍水貯蔵営業 飯屋号 池田宗二郎	
2	半兵衛	煮売茶屋	平兵衛			荒物商 高橋忠二郎	
3	五郎平	百姓	藤八				
4	三右衛門	旅籠屋	三右衛門	会津屋	小林三平	会津屋 小林運送本店	
5	久兵衛	青物屋	宇兵衛		古川新五郎	青物糶商 菊田屋号 古川新五郎	
6	五郎平	旅籠屋	五郎平	万屋?	並木しも	並木松藏	
7	吉兵衛	鯛屋	吉藏		渡邊吉藏	菓子商 野原兵藏	
8	喜兵衛	春米屋	喜兵衛		並木喜兵衛	五十集商 並木惣二郎	
9	平兵衛	鯛屋	源七		鈴木平八?	米穀薪炭商 早乙女弥惣治	
10	文吉	染師屋	文吉		染谷卯兵衛?	鶴岡辰藏	
11	林八	豆腐屋	彦四郎		坂庭彦四郎	醤油油商 新中屋 関幸次郎	
12	権藏	煮売茶屋	権藏		坂本権八	茶煙草木炭商 菊田屋 坂本駒吉	
13	[ ]	糸屋	文右衛門	千幡屋?	坂井文右衛門	製糖草小間物荒物商 小間物屋 松本清次郎	
14	久右衛門	脇本陣	久右衛門	虎屋	小林五郎治	砂糖質商 小林元三郎	
15	清八	湯屋	林兵衛		江森林兵衛	湯屋 江森茂三郎	
16	源七	百姓	源兵衛		吉田源兵衛	吉田ツネ	
17	甚左衛門	脇本陣	甚左衛門	蝶屋	池田甚左衛門	兵服太物洋和糸商 紀州屋 板橋梅吉	
18	庄七	小売酒屋	庄七		熊倉庄七	鈴木多吉	
19	安右衛門	青物屋	安右衛門			荒物陶磁器商 花屋 平井勝右衛門	
20	善兵衛	百姓	善左衛門		須永善兵衛	砂糖石油商 須永清三郎	
21	源次郎	旅籠屋	源次郎		橋本源二郎	橋本栄	
22	助七				橋本栄吉		
23	作兵衛	百姓	作兵衛持		小林勘兵衛?	下駄商 東屋 青鹿忠吉 肥料炭商 小林茂助	
24	庄助	小間物屋	吉兵衛		柿沼岩吉?	柿沼勝五郎	
25A	弥兵衛		長二郎持		村田新次郎?	書籍和洋小間物筆墨硯紙卸小売 塚本元次郎	
25B		船屋	留五郎		野村りね?	玩物商 藤見栄次 木村梅吉	
26	庄兵衛	年寄	庄兵衛	板屋	熊倉庄兵衛	菓子店 渡邊綱治	
27A	重五郎	茶屋	伊助	肴屋?	久保重兵衛	米雑穀商 板屋商店 熊倉栄吉	
27B		髪結	和吉			久保龍太郎	
28	幸右衛門	百姓	代次郎			旅舍兼時計商 遠藤幸三郎	
29	次兵衛	按摩	遊悦			吉岡梅吉	
30	重平	煮売茶屋	重平次	葛屋		荒井虎之助	
31	次郎兵衛	煮売茶屋	次郎兵衛	仙台屋		旅舍 坪井作二郎	
32	長次郎	飯売旅籠屋	庄右衛門			米穀糸商 原勢屋 小林佐助	
33	佐七	茶屋	佐七			酒類醤油商 堺屋号 植守宇吉	

	取調絵図面控	栗橋宿往還絵図			深廣寺所藏絵図	埼玉県営業便覧			
		天保十四年(1843)～弘化二年(1845)					明治六年(1873)	明治三十五年(1902)	
		職種	名前	屋号					
	天保三年(1832)								
34A	仁平次	荒物屋	仁平次	中村屋?	小澤仁平次	株式会社 栗橋商業銀行			
34B		馬指	久五郎						
35		權立会所	基左衛門		池田鴨平	早川林藏 小間物商 菊本藤二郎 高塚駒吉 秋葉周吉 長 島 久松善二郎 島屋勝三郎 箱 音 坂巻浅三郎 岡安清左衛門			
36		定使	七藏						
37		粥籠屋	庄次郎						
38		春米屋	与左衛門	秋田屋?					
39		煮売茶屋	十平次	佐野屋?					
40		百姓	象吉						
41		本陣 与四右衛門	飯衣孫龍屋	初五郎					
42		(37-49)は本陣	百姓	重兵衛					
43		池田家の店子)	塩物屋	十次郎					
44			煙草屋	徳兵衛					
45			足袋屋	金次郎					
46			煮売茶屋	藤五郎					
47			本陣	与四右衛門					
48			髪結	七兵衛					
49			芋屋	宇八					
50		長次郎	質屋・年寄	長次郎			伊勢屋	村田長次郎	村田市三
51		清八	旅籠屋	清八				池田清八	池田物商 小熊清八
52	重太郎						池田重太郎	池田健助	
53	庄助	荒物屋	利兵衛	伊勢屋			村田利兵衛		
54	権之丞	医師	宗芸		人見松五郎	婦人科産科医師 橋本補橋			
55	三郎左衛門	茶屋	七郎左衛門	飯屋	池田三郎左衛門	か・七伝			
56	忠左衛門	饅頭屋	音吉		猪山忠右衛門	万染物所 継長 諸田長藏			
57	友八	旅籠屋	友八			吉田淳			
58	長八	荒物屋	半兵衛		元橋半兵衛	味噌小売商 植竹万吉			
59	運平	煮売茶屋	運平	とらや	小林新兵衛?	五十集商 田沼由藏			
60	弥吉	餅菓子屋	弥吉	住吉屋	島海弥吉	菓子商 住吉屋 島海赤市			
61	平兵衛	舟問屋	平兵衛	菊田屋	古川平兵衛	栗橋学校			
62	忠兵衛	旅籠屋	忠兵衛	富倉屋?	吉田安右衛門	吉田安右衛門			
63	長九郎	古立道具屋	長次郎	豊屋	吉田長二郎	銅鉄製表度量衡販売 吉田房吉			
64	藤藏	賣物屋	藤藏		斎藤藤藏	西村仙松			
65	伝藏		長次郎持		森泉伝藏	沼田安太郎			
66	喜兵衛	餅菓子屋	喜兵衛		村井喜兵衛	傘職 石田茂吉			
67	右左衛門	明家	平兵衛持		藤山源二郎	製茶・陶器洋燈商 足利屋 藤山龍太郎			
68						酒類醬油食塩肥料商 原勢屋 小林儀三郎			
69						回清業 菊田屋 古川平兵衛			
70						米商 松坂屋 松田白米店			
71						海陸産肥料食塩醬油商 伊勢屋 村田新次郎			
72						料理店旅館 稲荷屋 菅沼友吉			



## 引用参考文献

- 蓮田伊人 1963『新編武蔵風土記稿(再版)』第二巻 大日本地誌大系(二) 雄山閣
- 大橋康二・扇浦正義 2020『清朝磁器の文様と銘の変遷』『江戸時代における年代の判る羅漢資料』近世陶磁研究会
- 九州近世陶磁学会 2000『九州陶磁の編年』九州近世陶磁学会
- 久喜市教育委員会 2015『久喜市栗橋町史 第一巻 通史編上』久喜市教育委員会
- 久喜市教育委員会 2008『久喜市栗橋町史 第三巻 資料編一 原始・古代・中世』久喜市教育委員会
- 久喜市教育委員会 2013a『久喜市栗橋町史 第四巻 資料編二 近世』久喜市教育委員会
- 久喜市教育委員会 2013b『久喜市栗橋町史 第五巻 資料編三 近代』久喜市教育委員会
- 久喜市教育委員会 2011『久喜市栗橋町史 民俗編Ⅲ』久喜市教育委員会
- 久喜市郷土資料館 2014『第4回特別展 懐かしいふるさとの風景』展示図録 久喜市郷土資料館
- 栗橋町教育委員会 2007『栗橋町史資料1』栗橋町教育委員会
- 國學院大學日本文化研究所 1994『神道事典』弘文堂
- 國史大辭典編纂委員会 1980・1985『國史大辭典』2・7 吉川弘文館
- 埼玉県 1955『武蔵國郡村誌』第十四巻 埼玉県立図書館
- 埼玉県 1993『中川水系I 総論・II 自然・III 人文』埼玉県
- 埼玉県教育委員会 2002『埼玉県史料叢書13(上) 栗橋閨所資料一 御閨所御用諸記I』埼玉県
- 埼玉県教育委員会 2003『埼玉県史料叢書13(下) 栗橋閨所資料二 御閨所御用諸記II』埼玉県
- 埼玉県教育委員会 2010『埼玉県史料叢書14 栗橋閨所資料三』埼玉県
- 埼玉県教育委員会 2012『埼玉県史料叢書15 栗橋閨所資料四』埼玉県
- 埼玉県神社庁 1992『埼玉の神社 大里・北葛飾・比企』第一法規出版
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2018a『栗橋閨所番士屋敷跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団 第436集
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2018b『栗橋宿跡I』公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第448集
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2019a『栗橋宿跡II』公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 第452集
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2019b『栗橋宿跡III』公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 第456集
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2019c『栗橋宿跡IV』公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 第458集
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2019d『栗橋宿本陣跡I』公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 第451集
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2020a『栗橋宿跡V』公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 第463集
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2020b『栗橋宿本陣跡II』公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 第460集
- 埼玉県立民俗文化センター 1986『埼玉のかわら』埼玉県民俗工芸調査報告書第4集 埼玉県立民俗文化センター
- さいたま市教育委員会 2002『技と巧 さいたま市の指定文化財』さいたま市教育委員会
- 三田市教育委員会 2000『三田焼の研究—三輪明神窯跡出土土器①—』『ふるさと三田』第21集
- 白神典之 1990『摺摺鉢と明石摺鉢』『江戸遺跡研究会第3回大会 江戸の陶磁器』江戸遺跡研究会
- 東京大学埋蔵文化財調査室 1999『東京大学構内遺跡調査研究年報』2 東京大学埋蔵文化財調査室
- 東京大学埋蔵文化財調査室 2011『東京大学構内遺跡調査研究年報』7 東京大学埋蔵文化財調査室
- 富元久美子 2006『飯能の遺跡(34) 飯能焼原窯跡第3～5次調査』飯能市教育委員会
- 中沢悟 2017『東宮(3)』公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団報告書 第628集
- 飯能市教育委員会 1999『飯能の遺跡(27) 飯能焼原窯跡第1・2次調査』飯能市教育委員会
- 堀内秀樹 1996『東京大学構内の遺跡出土同時期の編年の考察』『シンポジウム江戸出土陶磁器・土器の諸問題II』江戸陶磁土器研究グループ
- 堀内秀樹 1997『東京大学本郷構内の遺跡における年代的考察』『東京大学構内遺跡調査研究年報』1 東京大学埋蔵文化財調査室
- 堀口萬吉 1992『利根川中流低地における行田市高山古墳埋設の予察的研究』『埼玉大学紀要』27 埼玉大学
- 矢口孝悦・龍瀬芳之 1996『羽生市小松古墳群1号墳の調査』『埼玉考古』32 埼玉考古学会
- 渡辺一 2004『熊井焼の成立と展開』『江戸遺跡研究会会報No.97』江戸遺跡研究会
- 渡辺一ほか 2003『町内遺跡V』鳩山町埋蔵文化財調査報告書第25集 鳩山町教育委員会